

大阪公立大学 全学（共通）

審査意見への対応を記載した書類（6月）添付資料

ページ

資料1 学部等・研究科 カリキュラムマップ

<学部等>

現代システム科学域	3
文学部	16
法学部	42
経済学部	43
商学部	50
理学部	52
工学部	58
農学部	71
獣医学部	74
医学部	76
看護学部	79
生活科学部	81

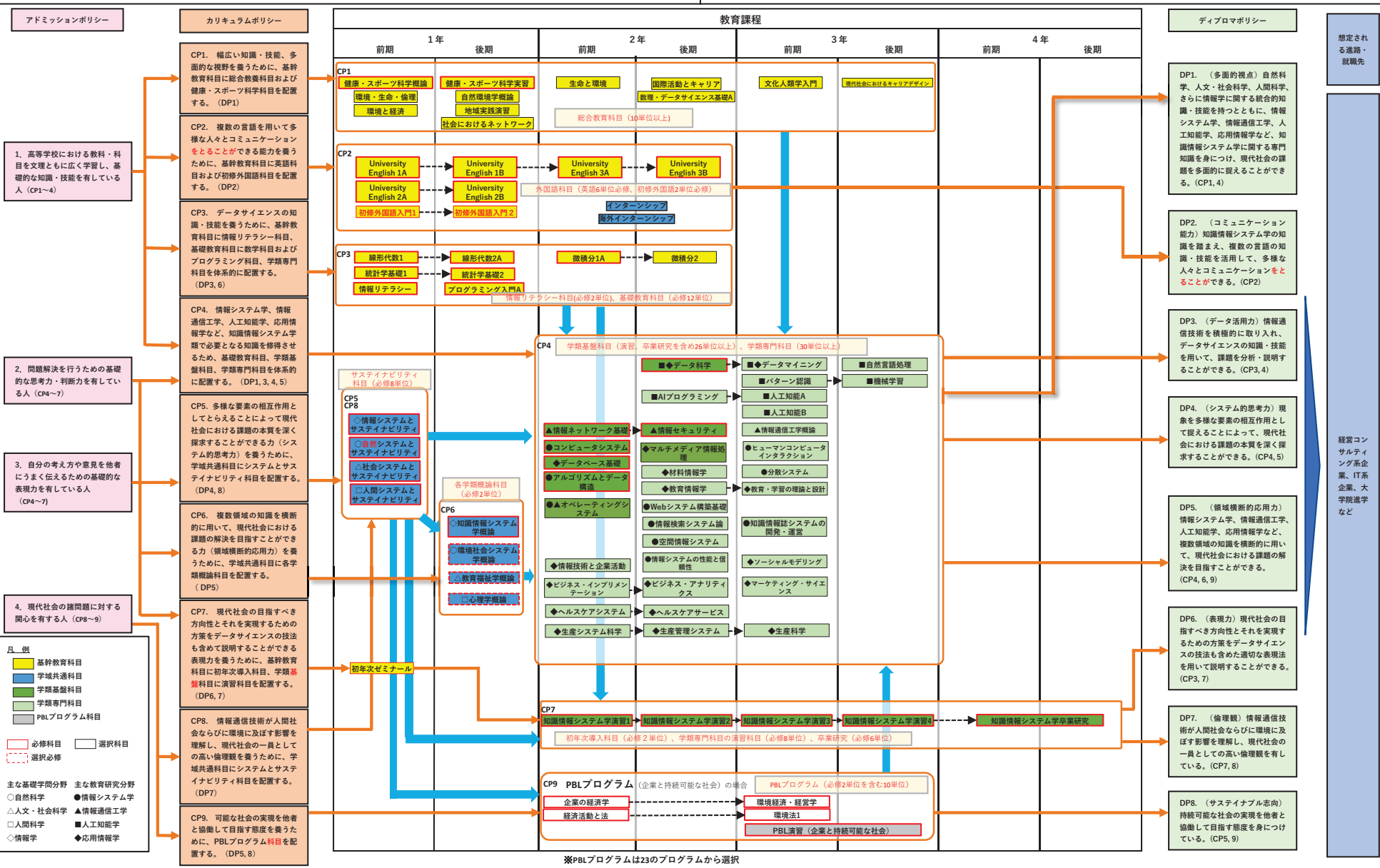
<研究科>

現代システム科学研究科	92
文学研究科	103
法学研究科	113
経済学研究科	116
経営学研究科	118
都市経営研究科	123
情報学研究科	125
理学研究科	129
工学研究科	141
農学研究科	165
獣医学研究科	171
医学研究科	174
リハビリテーション学研究科	177
看護学研究科	179
生活科学研究科	183

現代システム科学域 知識情報システム学類カリキュラムマップ

【設置の趣旨及び必要性】
 ○持続可能な社会を実現するためには、領域横断的応用力とシステムの思考力を兼ね備え、かつ持続可能な社会を実現するという高い志と強い意志を持った人材の育成が不可欠である。
 ○現代の複雑な社会をシステムとして俯瞰し、持続可能な社会の実現を担う人材を育てるには複数の学問領域を融合して現実の問題の解決に挑むような学びこそが重要である。

【養成する人材像】
 ○知識情報システム学類では、現代社会の維持・発展に不可欠となっている情報システムについて理解するとともに、持続可能な社会を実現するための課題解決の手段として活用することができるような情報システムを主体的にデザインする能力、また急速に進歩し続ける情報通信技術を積極的に取り入れる態度を身に付けることで、社会の要否にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材



※科目区分同士の関係は水色、AP, CP, DPとの関係はオレンジ色の矢印で示す。

現代システム科学域 知識情報システム学類 未来デザインコースカリキュラムマップ

【設置の趣旨及び必要性】

- 持続可能な社会を実現するためには、領域横断的な応用力とシステムの思考力とを兼ね備え、かつ**持続可能な社会**を実現するという高い志と強い意志を持った人材の育成が不可欠である。
- 現代の複雑な社会をシステムとして俯瞰し、持続可能な社会の実現を担う人材を育てるには複数の学問領域を融合して現実の問題の解決に挑むような学びが重要である。
- 持続可能な社会を担うための即戦力を育てるためには、大学での専門的な学びと社会での実践課題への挑戦的な学びを並行して行うことが重要である

【養成する人材像】

- 本学域では、現代社会のさまざまな問題に対して、領域横断的な応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材
- 目指すべき未来の社会を創造すべく自分でその道筋をデザインし、領域横断的な応用力とシステムの思考力を用いて、現代社会の課題解決に取り組むことによって、持続可能な社会の実現を実行できる人材

アドミッションポリシー

1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、基礎的な知識・技能を有している人 (CP1~4)

2. 問題解決を行うための基礎的な思考力・判断力を有している人 (CP4~7)

3. 自分の考え方や意見を他者にうまく伝えるための基礎的な表現力を有している人 (CP4~7)

4. 現代社会の諸問題に対する関心を有する人 (CP8~10)

凡 例
 ■ 基礎教育科目
 ■ 学域共通科目
 ■ 学類基礎科目
 ■ 学類専門科目
 ■ PBLプログラム科目
 □ 必修科目 □ 選択科目
 □ 選択必修
 主な基礎学問分野 主な教育研究分野
 ○自然科学 ●情報システム学
 △人文・社会科学 ●情報通信工学
 □人間科学 ■人工知能学
 ◇情報学 ◆応用情報学

カリキュラムポリシー

CP1. 幅広い知識・技能、多面的な視野を養うために、基礎教育科目に総合教養科目および健康・スポーツ科学科目を配置する。(DP1)

CP2. 複数の言語を用いて多様な人々とコミュニケーションをとることができる能力を養うために、基礎教育科目に英語科目および初級外国語科目を配置する。(DP2)

CP3. データサイエンスの知識・技能を養うために、基礎教育科目に情報リテラシー科目、基礎教育科目に数学科目およびプログラミング科目、学類専門科目を体系的に配置する。(DP3, 6)

CP4. 情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学など、知識情報システム学類で必要となる知識を修得させるため、基礎教育科目、学類基礎科目、学類専門科目を体系的に配置する。(DP1, 3, 4, 5)

CP5. 多様な要素の相互作用としてとらえることによって現代社会における課題の本質を深く探究することができる力(システムの思考力)を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。(DP4, 8)

CP6. 複数の領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる力(領域横断的な応用力)を養うために、学域共通科目に各学類概論科目を配置する。(DP5)

CP7. 現代社会の目指すべき方向性とそれを実現するための方策をデータサイエンスの技法も含めて説明することができる表現力を養うために、基礎教育科目に初年次導入科目、学類基礎科目に演習科目を配置する。(DP6, 7)

CP8. 現代社会の課題を自ら発見し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる実行力を養うために、未来デザインPBLプログラム科目を配置する。(DP6)

CP9. 情報通信技術が人間社会ならびに環境に及ぼす影響を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。(DP7)

CP10. 可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を養うために、PBLプログラム科目を配置する。(DP5, 8)

教育課程

1 年		2 年		3 年		4 年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
CP1 健康・スポーツ科学概論 健康・スポーツ科学実習 環境・生命・倫理 環境と経済 環境と社会	健康・スポーツ科学実習 自然環境学概論 地域実習演習 社会におけるネットワーク	生命と環境 国際活動とキャリア 教養・データサイエンス基礎A 総合教育科目 (10単位以上)	生命と環境 国際活動とキャリア 教養・データサイエンス基礎A 総合教育科目 (10単位以上)	文化人類学入門 現代社会におけるキャリアデザイン	文化人類学入門 現代社会におけるキャリアデザイン		
CP2 University English 1A University English 2A 初級外国語入門1	University English 1B University English 2B 初級外国語入門2	University English 3A 外国語科目 (英語6単位必修、初級外国語2単位必修) インターンシップ 海外インターンシップ	University English 3B 外国語科目 (英語6単位必修、初級外国語2単位必修) インターンシップ 海外インターンシップ				
CP3 線形代数1 統計学基礎1 情報リテラシー	線形代数2A 統計学基礎2 プログラミング入門A 情報リテラシー	微積分1A 微積分2 情報リテラシー科目(必修2単位)、基礎教育科目 (必修12単位)	微積分2 情報リテラシー科目(必修2単位)、基礎教育科目 (必修12単位)				
サステイナビリティ科目 (必修8単位)		各学類概論科目 (必修2単位)		初年次ゼミナール		未来デザインプログラム	
CP5 情報システムとサステイナビリティ 自然システムとサステイナビリティ 社会システムとサステイナビリティ 人間システムとサステイナビリティ		CP6 知識情報システム学概論 環境社会システム学概論 教育福祉システム学概論 心理システム学概論		CP7 知識情報システム学演習1 知識情報システム学演習2 知識情報システム学演習3 知識情報システム学演習4 初年次導入科目 (必修2単位)、学類専門科目の演習科目 (必修8単位)		CP8 未来デザインプログラム 未来デザイン 未来デザインPBL演習 未来デザイン卒業研究	
CP9 情報通信技術が人間社会ならびに環境に及ぼす影響を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を養うために、学域共通科目にシステムとサステイナビリティ科目を配置する。(DP7)		CP10 PBLプログラム (環境学) の場合 環境・生命・倫理 自然環境学概論 技術と環境 環境政策学 PBLプログラム (必修2単位を含む10単位) PBL演習 (環境学)		CP10 PBLプログラム (必修2単位を含む10単位) PBL演習 (環境学)		CP10 PBLプログラム (必修2単位を含む10単位) PBL演習 (環境学)	

※PBLプログラムは23のプログラムから選択

ディプロマポリシー

DP1. (多面的視点) 自然科学、人文・社会科学、人間科学、さらに情報学に関する統合的知識・技能を持つとともに、情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学など、知識情報システム学に関する専門知識を身につけ、現代社会の課題を多面的に捉えることができる。(CP1, 4)

DP2. (コミュニケーション能力) 知識情報システム学の知識を踏まえ、複数の言語の知識・技能を活用して、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。(CP2)

DP3. (データ活用能力) 情報通信技術を積極的に取り入れ、データサイエンスの知識・技能を用いて、課題を分析・説明することができる。(CP3, 4)

DP4. (システムの思考力) 現象を多様な要素の相互作用として捉えることによって、現代社会における課題の本質を深く探究することができる。(CP4, 5)

DP5. (領域横断的な応用力) 情報システム学、情報通信工学、人工知能学、応用情報学など、複数の領域の知識を横断的に用いて、現代社会における課題の解決を目指すことができる。(CP4, 6, 10)

DP6 (実行力) 現代社会の課題を自ら発見し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。(CP3, 7, 8)

DP7. (倫理観) 情報通信技術が人間社会ならびに環境に及ぼす影響を理解し、現代社会の一員としての高い倫理観を有している。(CP7, 9)

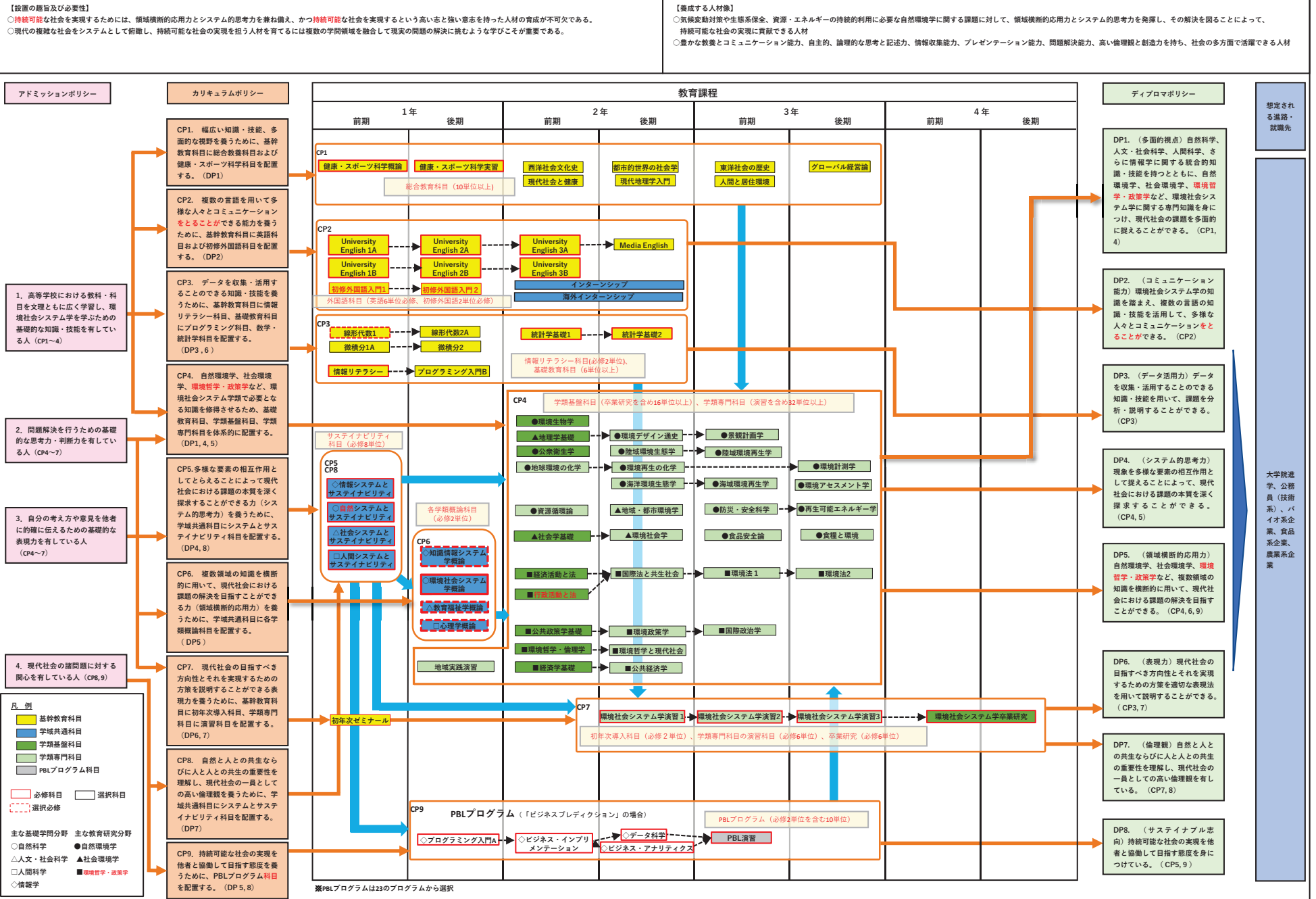
DP8. (サステイナブル志向) 持続可能な社会の実現を他者と協働して目指す態度を身につけている。(CP5, 10)

想定される
進路・
就職先

エネルギー系
インフラ企業への就職：環境を考慮したエネルギー分配を行うインフラ設計ができる人材

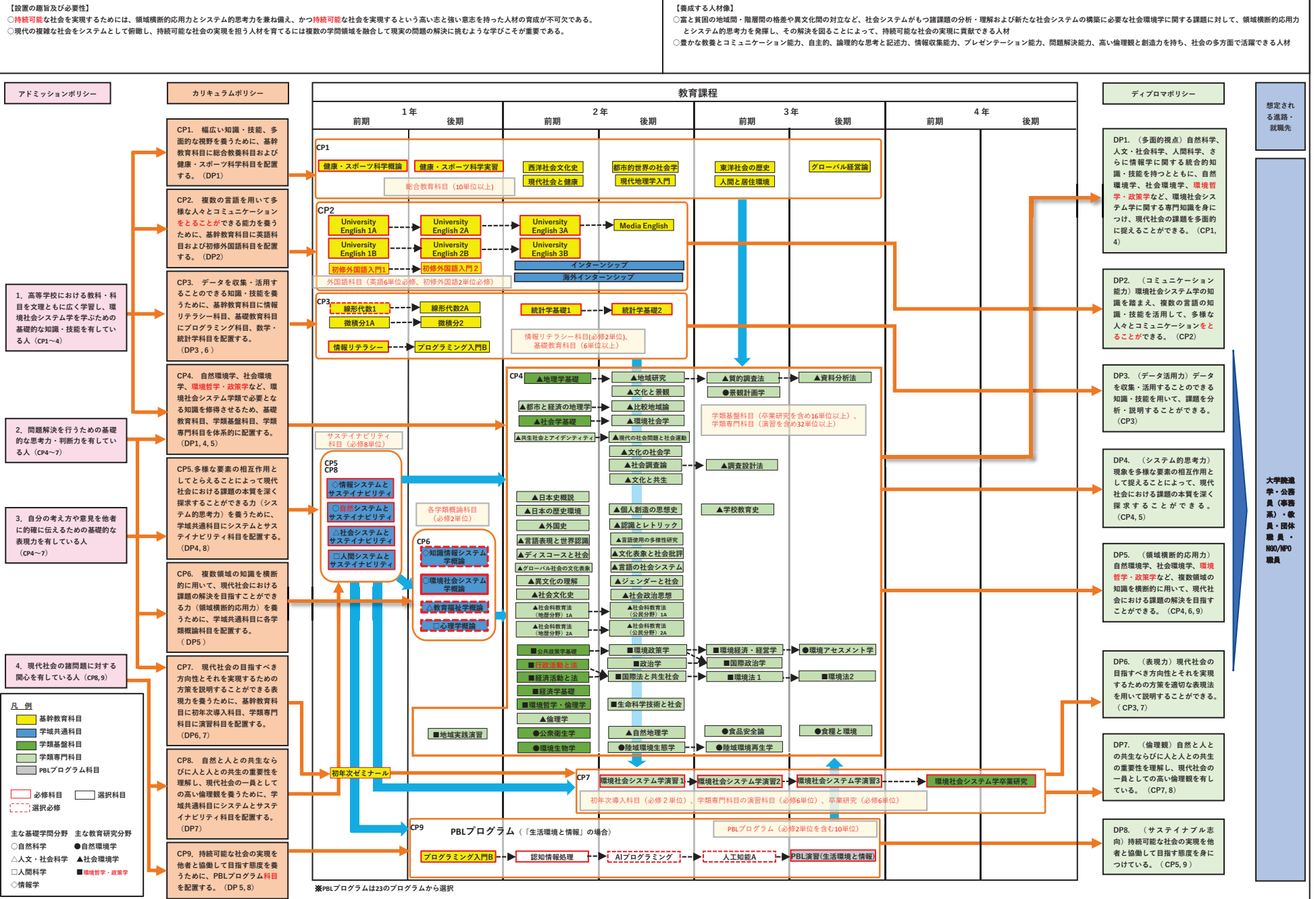
※科目区分同士の関係を水色、AP, CP, DPとの関係をオレンジ色の矢印で示す。

現代システム科学域 環境社会システム学類 カリキュラムマップ (自然環境学)

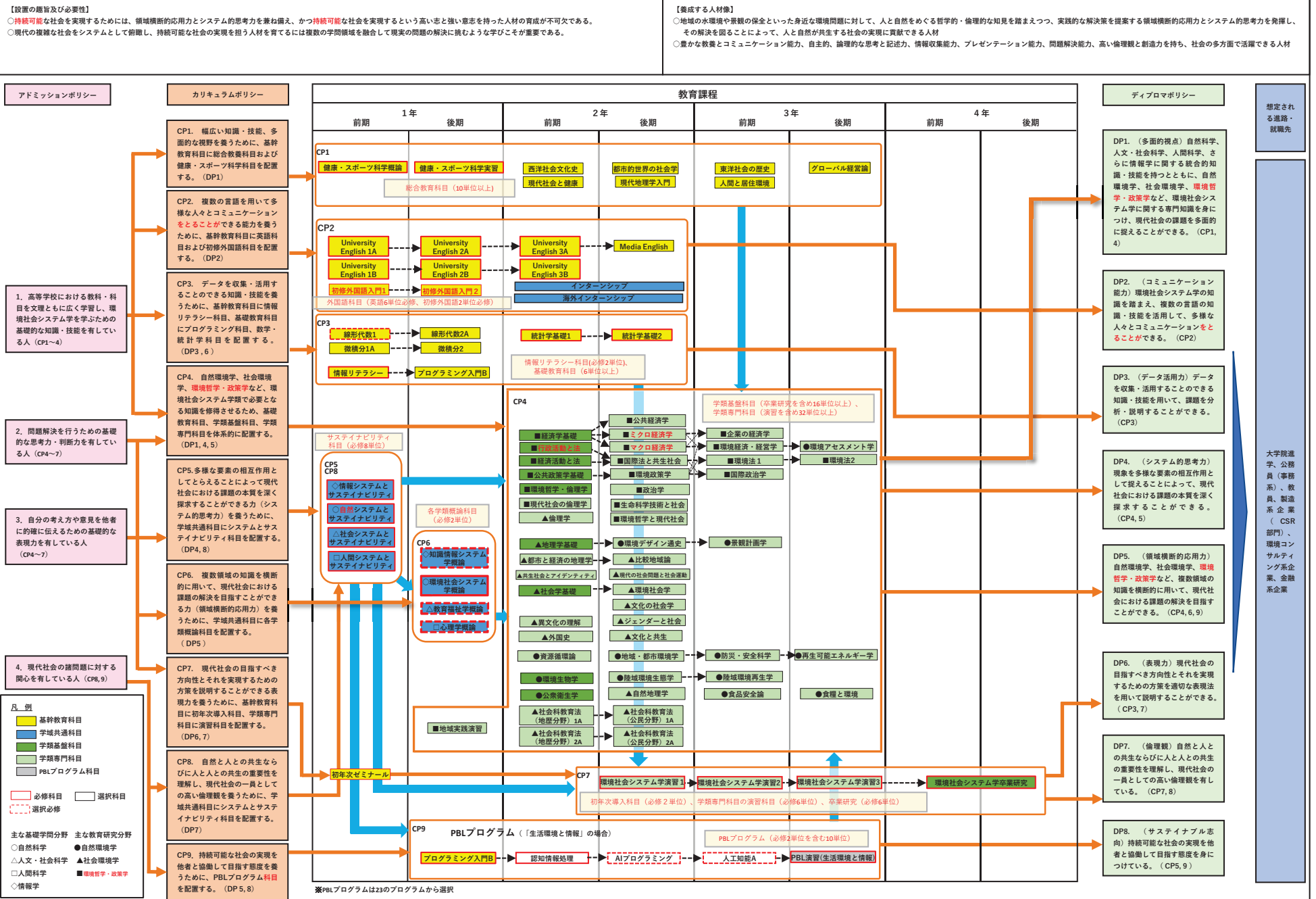


※科目区分同士の関係は水色、AP, CP, DPとの関係はオレンジ色の矢印で示す。

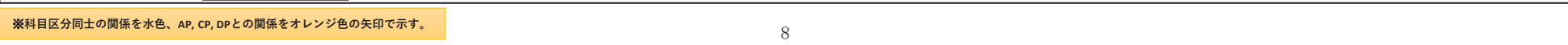
現代システム科学域 環境社会システム学類 カリキュラムマップ (社会環境学)



現代システム科学域 環境社会システム学類 カリキュラムマップ (環境哲学・政策学)



【設置の趣旨及び必要性】 ○持続可能な社会を実現するためには、領域横断的応用力とシステムの思考力を兼ね備え、かつ持続可能な社会を実現するという高い志と強い意志を持った人材の育成が不可欠である。 ○現代の複雑な社会をシステムとして俯瞰し、持続可能な社会の実現を担う人材を育てるには複数の学際領域を融合して現実の問題の解決に挑むような学びがこそ重要である。 ○持続可能な社会を担うための即戦力を育てるためには、大学の専門的な学びと社会での現実課題への挑戦的な学びを並行して行うことが重要である。	【養成する人材像】 ○本学域では、現代社会のさまざまな問題に対して、領域横断的応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材 ○目指すべき未来の社会を創造すべく自分でその道筋をデザインし、領域横断的応用力とシステムの思考力を用いて、現代社会の課題解決に取り組むことによって、持続可能な社会の実現を実行できる人材。
---	--



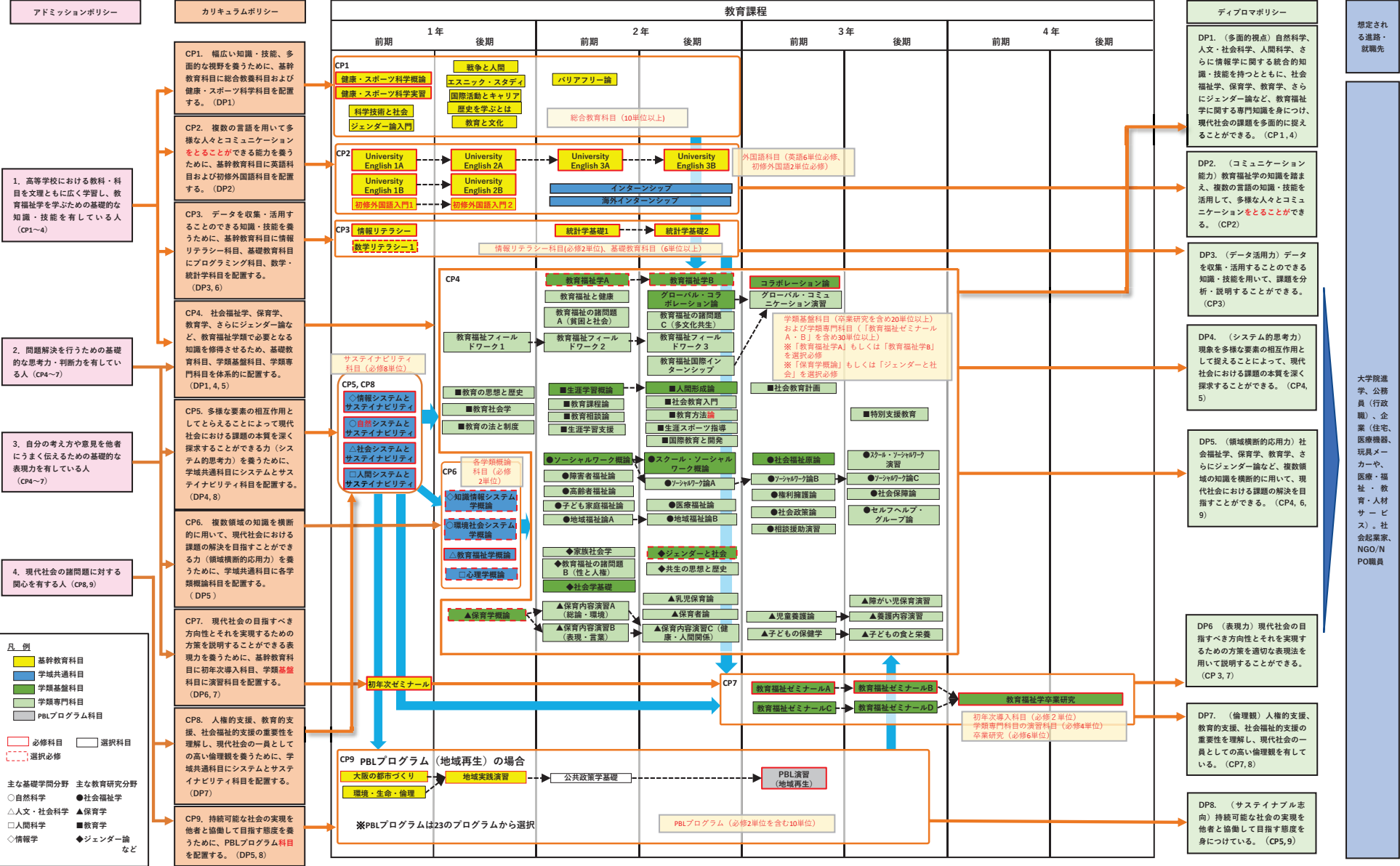
現代システム科学域 教育福祉学類 カリキュラムマップ（教育福祉総合志向：教育福祉学全体を学び、多面的視点から持続可能な社会の実現に寄与する）

【設置の趣旨及び必要性】

- 持続可能な社会を実現するためには、領域横断の応用力とシステムの思考力を兼ね備え、かつ持続可能な社会を実現するという高い志と強い意志を持った人材の育成が不可欠である。
- 現代の複雑な社会をシステムとして俯瞰し、持続可能な社会の実現を担う人材を育てるには複数の学問領域を融合して現実の問題の解決に挑むような学びこそが重要である。

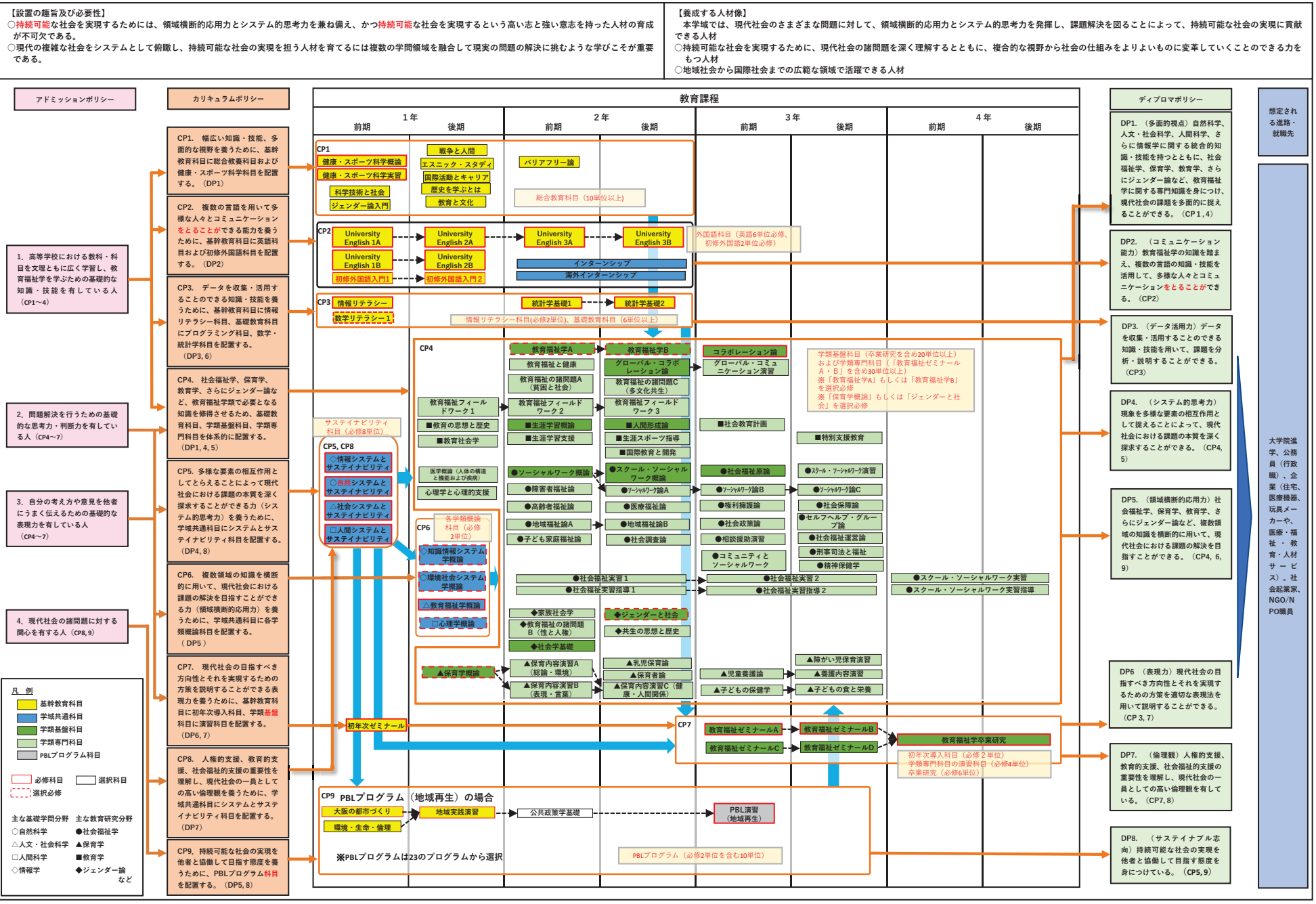
【養成する人材像】

- 本学域では、現代社会のさまざまな問題に対して、領域横断の応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材
- 持続可能な社会を実現するために、現代社会の諸問題を深く理解するとともに、複合的な視野から社会の仕組みをよりよいものに革新していくことのできる力をもつ人材
- 地域社会から国際社会までの広範な領域で活躍できる人材



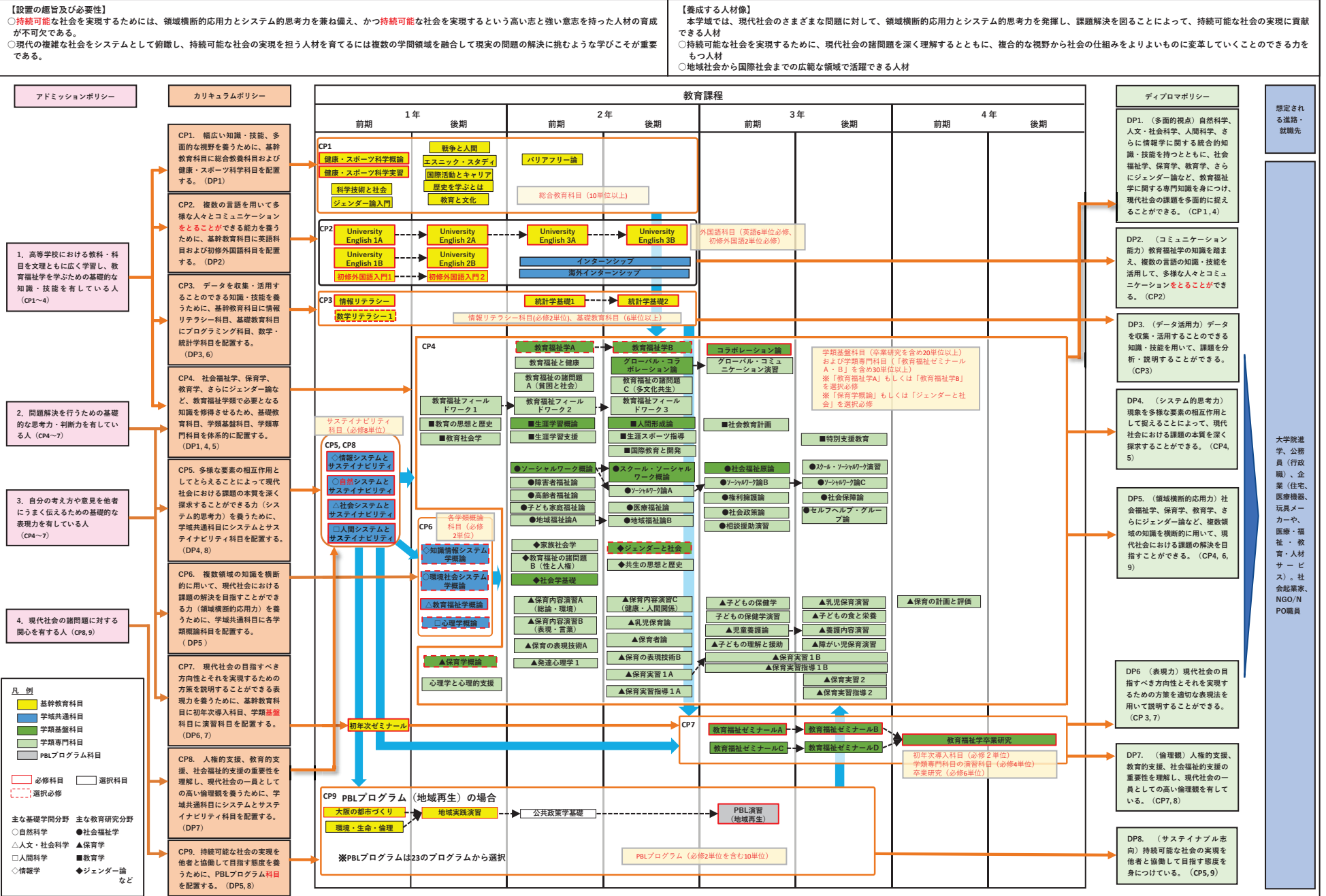
※科目区分同士の関係を水色、AP、CP、DPとの関係をオレンジ色の矢印で示す。

現代システム科学域 教育福祉学類 カリキュラムマップ（教育福祉の福祉志向モデル：教育福祉学を学びながら社会福祉士やSSWの資格取得を目指す）

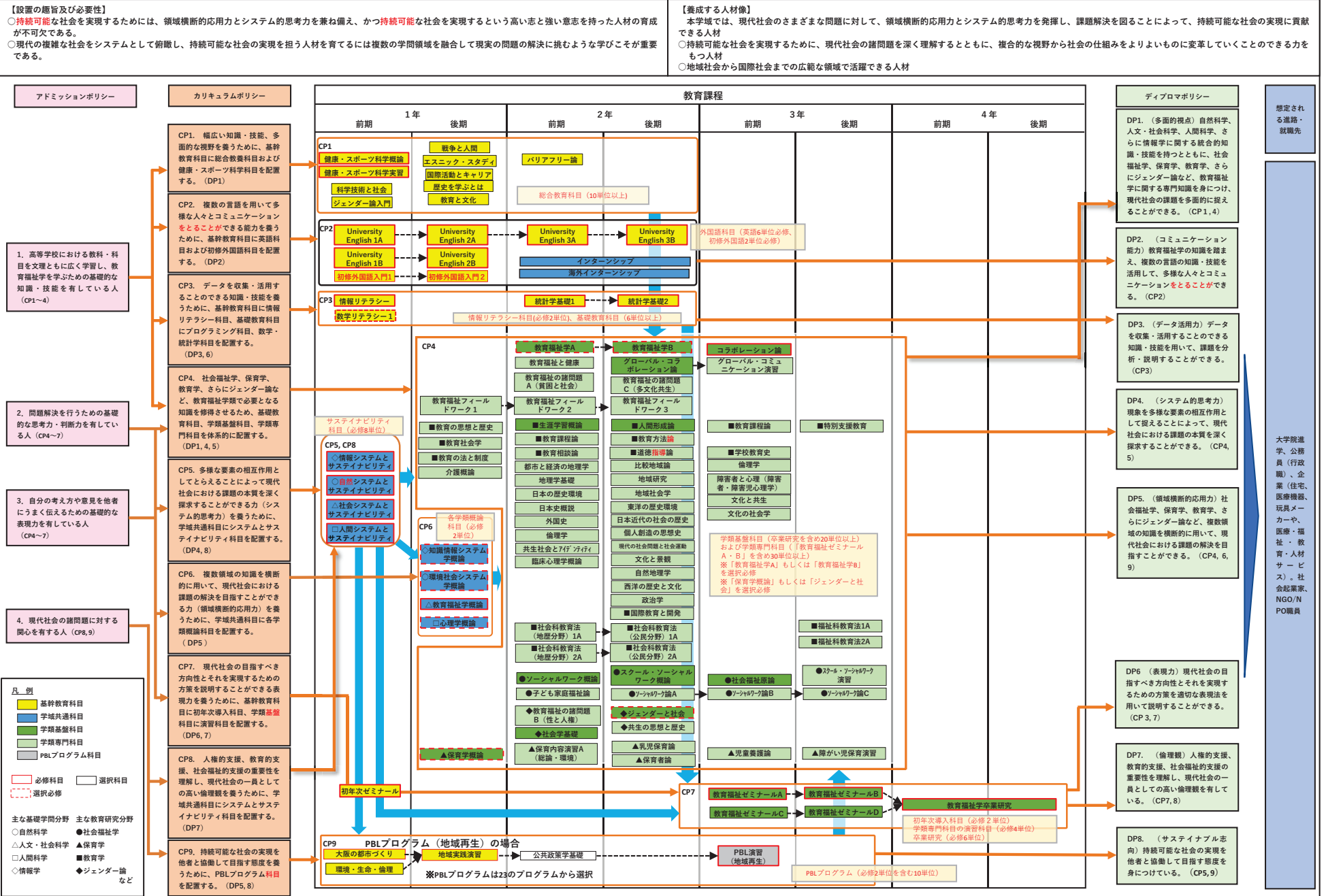


※科目区分同士の関係は水色、AP、CP、DPとの関係をオレンジ色の矢印で示す。

現代システム科学域 教育福祉学類 カリキュラムマップ（教育福祉の保育志向モデル：教育福祉学を学びながら保育士資格取得を目指す）



現代システム科学域 教育福祉学類 カリキュラムマップ（教育福祉教育志向：教育福祉学を学びながら教員免許の取得を目指す）



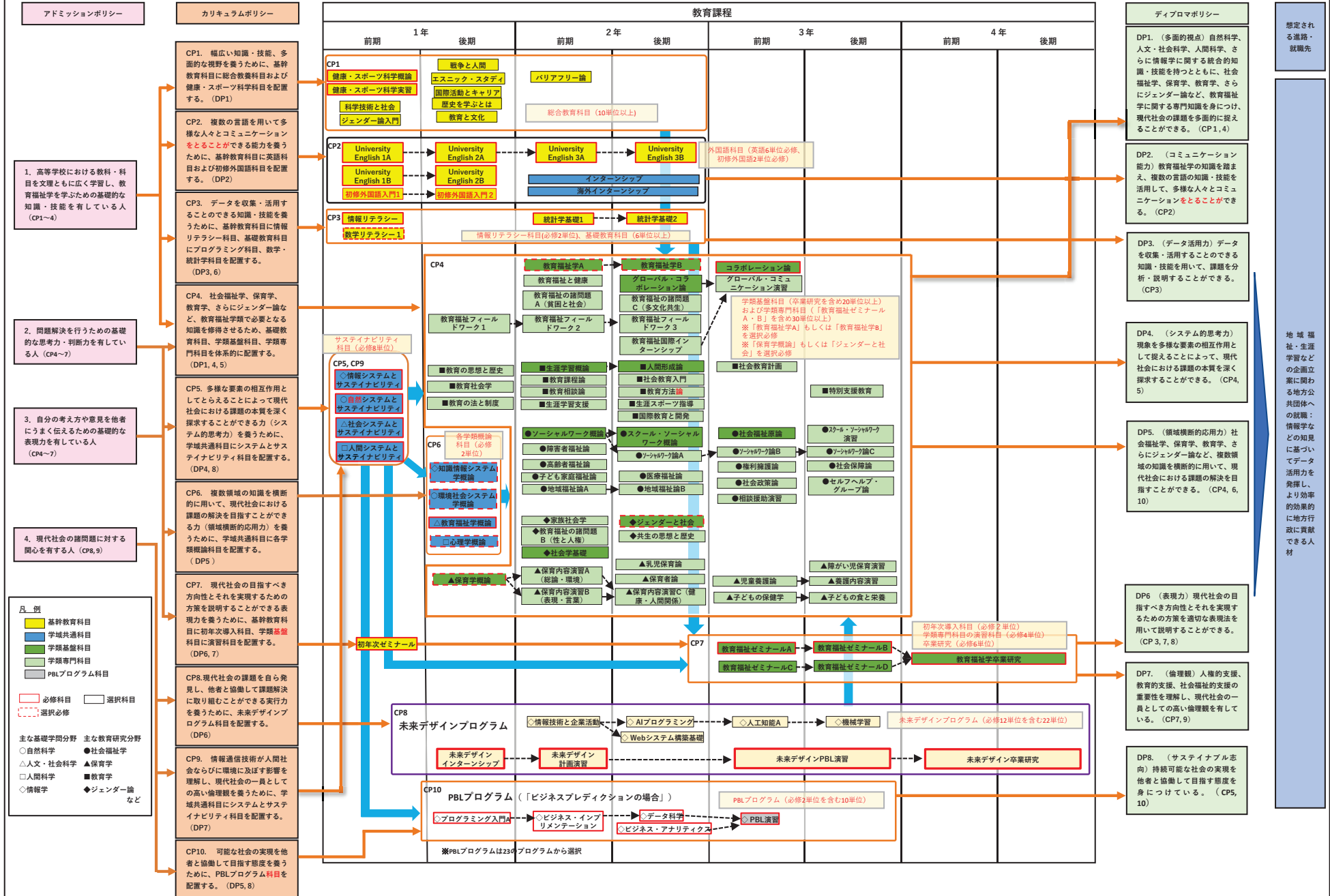
現代システム科学域 教育福祉学類 未来デザインコースカリキュラムマップ

【設置の趣旨及び必要性】

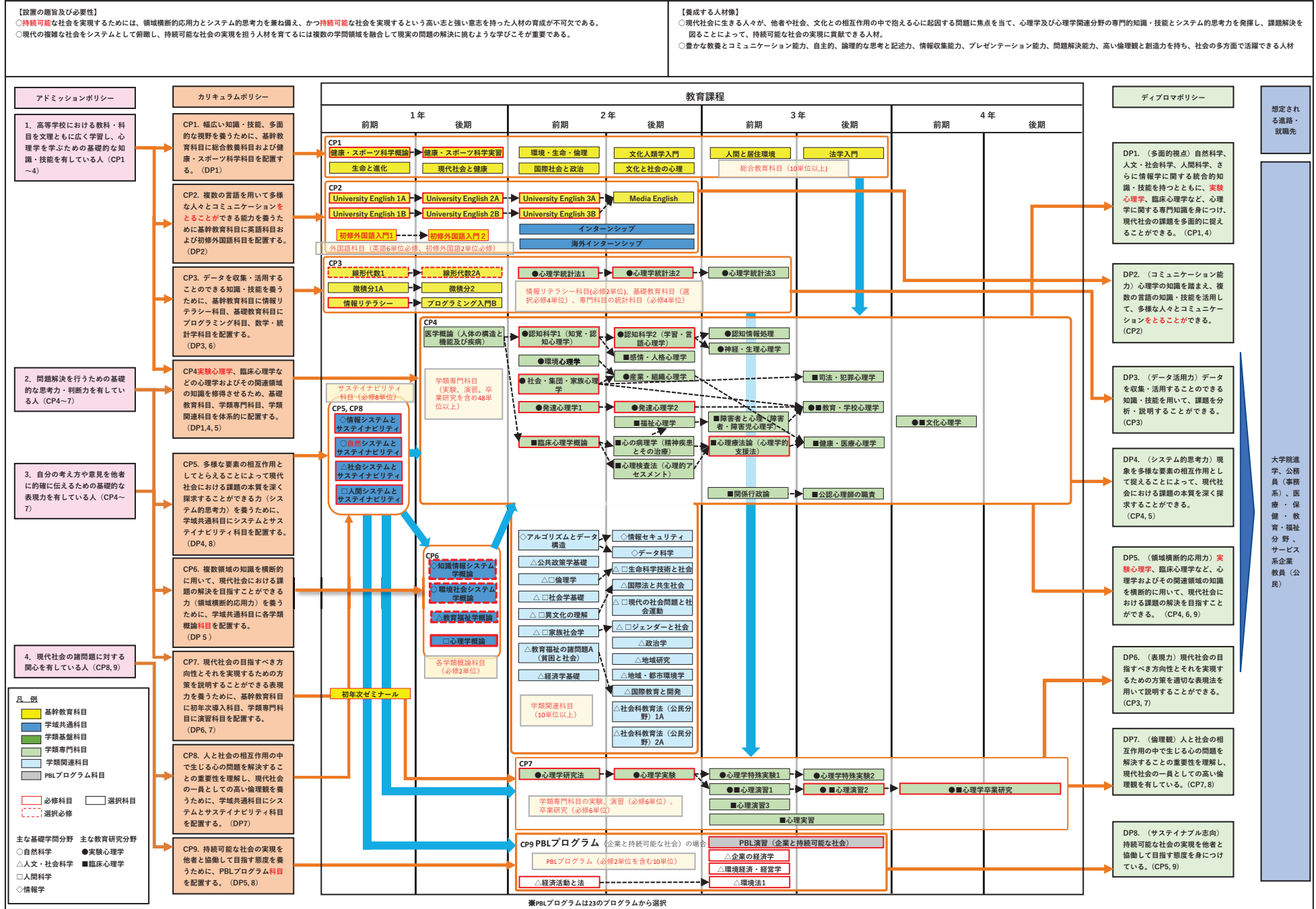
- 持続可能な社会を実現するためには、領域横断の応用力とシステムの思考力を兼ね備え、かつ持続可能な社会を実現するという高い志と強い意志を持った人材の育成が不可欠である。
- 現代の複雑な社会をシステムとして俯瞰し、持続可能な社会の実現を担う人材を育てるには複数の学問領域を融合して現実の問題の解決に挑むような学びが重要である。
- 持続可能な社会を担うための即戦力を育てるためには、大学での専門的な学びと社会での現実課題への挑戦的な学びを並行して行うことが重要である。

【養成する人材像】

- 本学域では、現代社会のさまざまな問題に対して、領域横断の応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材
- 自らデザインした将来ビジョンを実現するにあたって障壁となる様々な問題に対して、領域横断の応用力とシステムの思考力を発揮し、課題解決を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献できる人材

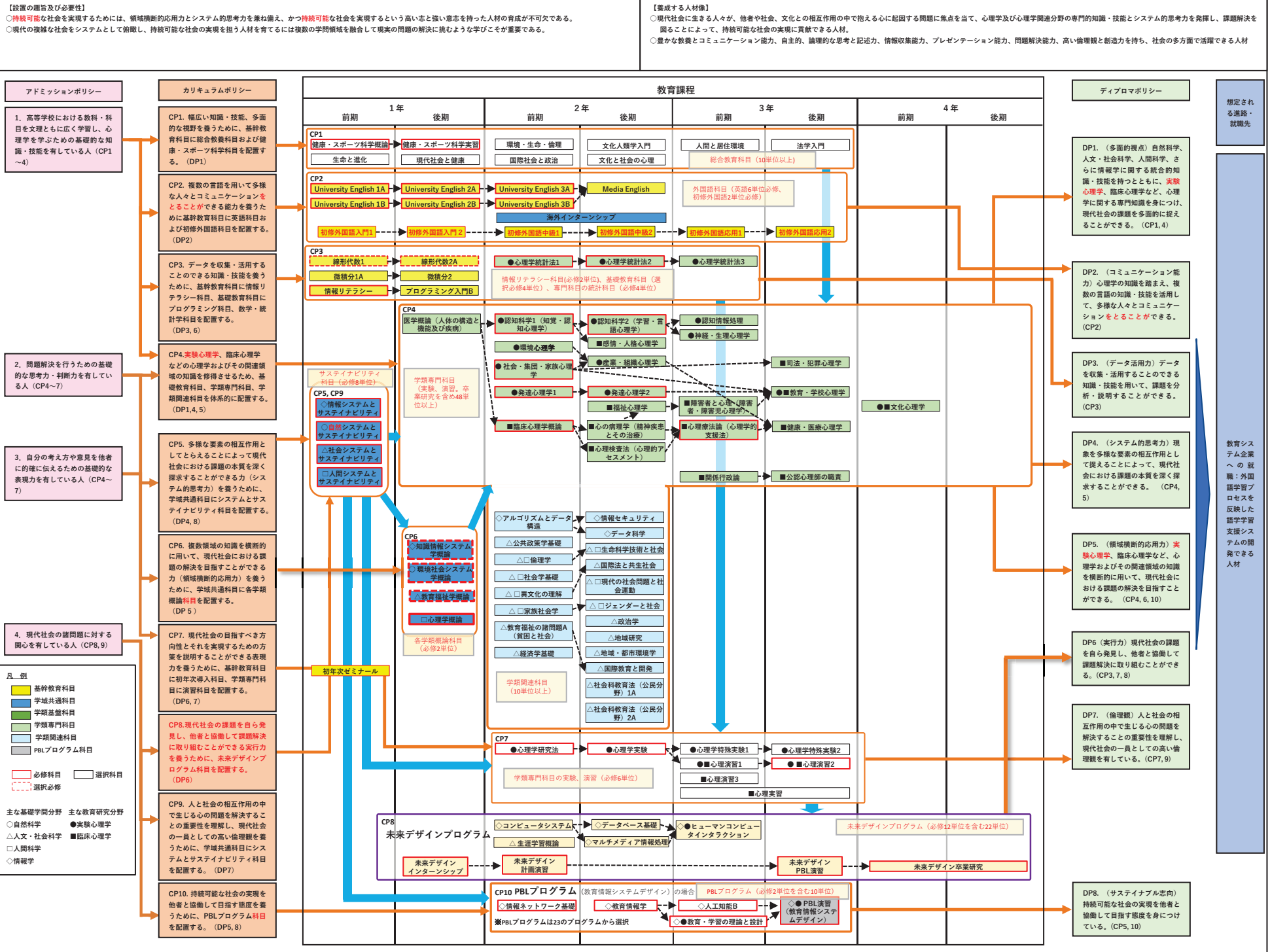


現代システム科学域 心理学類 カリキュラムマップ



※科目区分同士の関係は水色、AP, CP, DPとの関係はオレンジ色の矢印で示す。

現代システム科学域 心理学類 カリキュラムマップ 未来デザインコースカリキュラムマップ：認知科学と情報科学を融合してシステム開発に貢献できる人材



※科目区分同士の関係を水色、AP, CP, DPとの関係をオレンジ色の矢印で示す。

文学部 哲学歴史学科 哲学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

下瀬不可能な戦代、高度知識階級社会「グローバル社会」は、これまで類類とされていかに危機に直面しそれとどう向きあうべきかを折し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していることが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たな見方の見方と対応する原理的反省である。価値観として日本・世界史からなる歴史学は哲学の基礎としての役割を併せ持つ。哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と見えて、動く。変動する時代意識のなかで、人間文化の特質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められて、哲学と歴史学の学際的迫力を基礎とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、平瀬不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。

具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を養成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を養成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報産業や産業界の第一線に活躍できる専門職業人を育成する。

とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程	ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	人間の歩みと思考の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目 □印：基礎教育科目 ・印：自由科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目 1年次 2年次 3年次 4年次	人間の歩みと思考の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる。	
学修のための基礎的能力をつつ	C P ① [知識・理解] - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 - 哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。D P ①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【哲学コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化概論A ※人間文化概論B ○人間行動学概論A 【教職科目】 ○教職概論	D P ① [知識・理解] - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P ①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P ② [技能] - 日本語とひとつまたは複数外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 - 情報通信技術 (ICT) などを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集、選択・分析して適切に判断し、モラルに照って倫理的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 - 情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通して批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集、分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。D P ②、D P ④	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【哲学コースモデル群】 ◎哲学演習・講義1 ◎哲学演習・講義2 ◎哲学史演習・講義1 ◎哲学史演習・講義2 ○博物館展示論 【英語による授業】 ○比較文化交流論 【教職科目】 ・教育実習 (2単位) ・教育実習事前事後指導 (中・高) ・教職実践演習 (中・高)	D P ② [技能] - 日本語とひとつまたは複数外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 - 情報通信技術 (ICT) などを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・選択・分析して適切に判断し、モラルに照って効果的に活用することができる。 - 情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通して批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P ②	哲学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化行政、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 中学・高等学校教員 大学院進学、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、雑貨販売等)
論理的思考を鍛え新しいものを見方を探求しようとする人	C P ③ [態度・志向性] - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に依り、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目および1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動できる。また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少数人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。D P ③、D P ④	【基礎教育】 □初年次教育科目 【哲学コースモデル群】 ◎哲学史通論1 ◎哲学史通論2 ○国文学史B ○国際法 【教職科目】 ○教育基礎論 ○発達・学習論 ○教育制度論 ・特別活動論 ・生徒・進路指導論 ・教育概論論 ・教育概論論 ・特別支援教育論 ・総合的な探究の指導論 ・教育方法論 ・社会科・公民科教育法1 A ・社会科・公民科教育法2 A 【再掲】 【哲学コースモデル群】 ◎哲学概論2 ◎哲学演習・講義1 ◎哲学演習・講義2 ◎哲学史演習・講義1 ◎哲学史演習・講義2 ○哲学特選I ○哲学特選II ○哲学特選III	D P ③ [態度・志向性] - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に依り、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動できる。また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P ③	情報通信系 (ウェブ、システムエンジニアリング等) 金融業 (銀行等) 公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等) サービス業 (人材派遣等)
創造的に学べる発展可能性を持つ人	C P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践等を統合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。D P ④	【再掲】 【基礎教育】 □初年次教育科目 【哲学コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化概論A ※人間文化概論B 【再掲】 【哲学コースモデル群】 ◎哲学概論1 ◎哲学概論2 ◎哲学演習・講義1 ◎哲学演習・講義2 ◎哲学史演習・講義1 ◎哲学史演習・講義2 ○哲学特選I ○哲学特選II ○哲学特選III	D P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践等を統合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 - 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能と十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P ④、C P ③、C P ②	

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

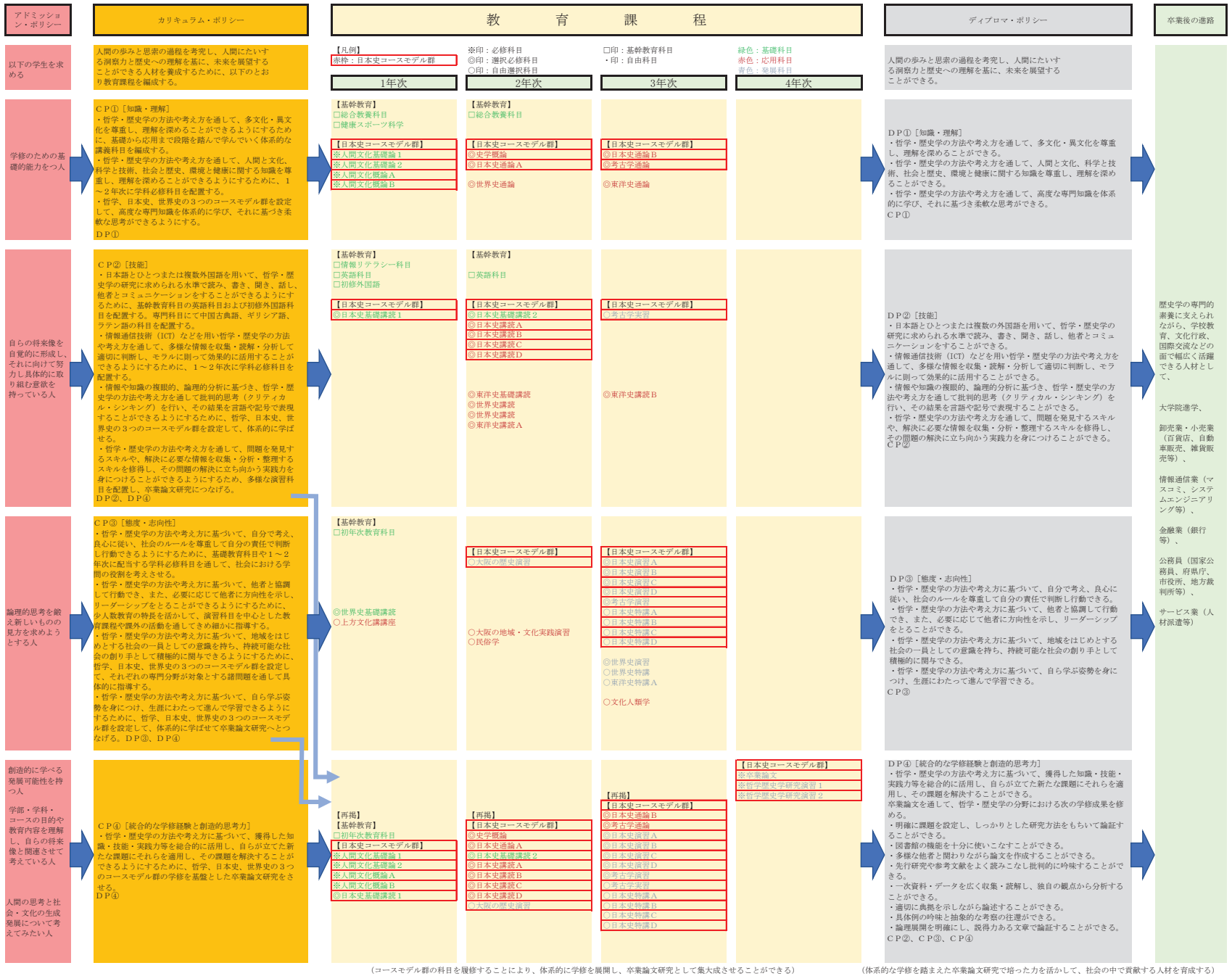
(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学、そして日本史・世界史からなる歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な能力と捉えられる。激しく変動する時代を生きる、人間文化の本質とその発展的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的探究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。



（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

文学部 哲学歴史学科 日本史コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学、そして日本史・世界史からなる歴史学は諸学の基礎としての役割を有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的追究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。

アドミッシン・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：日本史コースモデル群 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目 1年次 【基礎教育】 ○総合教養科目 ○健康スポーツ科学 【日本史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化概論A ※人間文化概論B	2年次 【基礎教育】 ○総合教養科目 【日本史コースモデル群】 ◎史学概論 ◎日本史通論A ◎日本史通論B ◎世界史通論 【学芸員科目】 ○博物館概論	3年次 【日本史コースモデル群】 ◎日本史通論B ◎考古学通論	4年次 ◎世界史通論 ◎世界史概論 ◎世界史講義 【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論	人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる。	
学修のための基礎的能力をつつ	C P①【知識・理解】 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 - 哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P①	【基礎教育】 ○総合教養科目 ○健康スポーツ科学 【日本史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化概論A ※人間文化概論B	【基礎教育】 ○総合教養科目 【日本史コースモデル群】 ◎史学概論 ◎日本史通論A ◎日本史通論B ◎世界史通論 【学芸員科目】 ○博物館概論	【日本史コースモデル群】 ◎日本史通論B ◎考古学通論	◎世界史通論 ◎世界史概論 ◎世界史講義 【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論	D P①【知識・理解】 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P②【技能】 - 日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および必修外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 - 情報通信技術（ICT）などを用いて哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 - 情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカルシンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P②、D P④	【基礎教育】 ○情報リテラシー科目 ○英語科目 ○必修外国語 【日本史コースモデル群】 ◎日本史基礎講義1	【基礎教育】 ○情報リテラシー科目 ○英語科目 【日本史コースモデル群】 ◎日本史基礎講義2 ◎日本史講義A ◎日本史講義B ◎日本史講義C ◎日本史講義D ◎世界史基礎講義 ◎世界史講義 【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論	【日本史コースモデル群】 ◎考古学実習 ◎世界史演習	【学芸員科目】 ・博物館実習1 ・博物館実習2	D P②【技能】 - 日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 - 情報通信技術（ICT）などを用いて哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 - 情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカルシンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P②	歴史学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化行政、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 学芸員（公務員、博物館、研究所等） 大学院進学、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）、
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	【態度・志向性】 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。D P③、D P④	【基礎教育】 ○初年次教育科目 【日本史コースモデル群】 ◎大塚の歴史演習 ◎大塚の地域・文化実践演習 ○民俗学 ○上方文化講座 【学芸員科目】 ○生涯学習概論	【日本史コースモデル群】 ◎大塚の歴史演習 ◎大塚の地域・文化実践演習 ○民俗学 ○上方文化講座 【学芸員科目】 ○生涯学習概論	【日本史コースモデル群】 ◎日本史通論A ◎日本史通論B ◎日本史通論C ◎日本史通論D ◎考古学演習 ◎日本史特講A ◎日本史特講B ◎日本史特講C ◎日本史特講D ○文化人類学 【学芸員科目】 ○博物館経営論 ○博物館資料論 ○博物館教育 ○博物館情報・メディア論	【日本史コースモデル群】 ◎日本史通論A ◎日本史通論B ◎日本史通論C ◎日本史通論D ◎考古学実習 ◎日本史特講A ◎日本史特講B ◎日本史特講C ◎日本史特講D	D P③【態度・志向性】 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P③	情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 金融業（銀行等）、 公務員（国家公務員、府県、市役所、地方裁判所等）、 サービス業（人材派遣等）
創造的に学べる発展可能性を持つ人	C P④【統合的な学修経験と創造的思考力】 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P④	【再掲】 【基礎教育】 ○初年次教育科目 【日本史コースモデル群】 ◎大塚の歴史演習 ◎大塚の地域・文化実践演習 ○民俗学 ○上方文化講座 【学芸員科目】 ○生涯学習概論	【再掲】 【基礎教育】 ○初年次教育科目 【日本史コースモデル群】 ◎大塚の歴史演習 ◎大塚の地域・文化実践演習 ○民俗学 ○上方文化講座 【学芸員科目】 ○生涯学習概論	【再掲】 【日本史コースモデル群】 ◎日本史通論A ◎日本史通論B ◎日本史通論C ◎日本史通論D ◎考古学実習 ◎日本史特講A ◎日本史特講B ◎日本史特講C ◎日本史特講D	【日本史コースモデル群】 ◎日本史通論A ◎日本史通論B ◎日本史通論C ◎日本史通論D ◎考古学実習 ◎日本史特講A ◎日本史特講B ◎日本史特講C ◎日本史特講D	D P④【統合的な学修経験と創造的思考力】 - 哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 - 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P②、C P③、C P④	

（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして社会の中で貢献する人材を育成する）

文学部 哲学歴史学科 世界史コース（学芸員資格取得）カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

予測不可能時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類はどのようにして危機に直面しそれをどう乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるのが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的探究である。哲学、そして日本史、世界史からなる歴史学は諸論の基盤として役割を果しており、哲学的観点と歴史学的視点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を洞察する能力が切実に求められており、哲学と歴史学の学問的探究を基盤とした人材育成が強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学生課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決に貢献できる人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに哲学歴史学科では、人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー		教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー		卒業後の進路	
以下の学生を求める		人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。		【凡例】 赤枠：世界史コースモデル群 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目		○印：基幹教育科目 ・印：自由科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目		人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる。	
学修のための基礎的能力をつつ		C P ①【知識・理解】 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P ①		【基幹教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【世界史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化基礎論A ※人間文化基礎論B		【基幹教育】 □総合教養科目 【世界史コースモデル群】 ◎史学総論 ◎世界史通論 ◎東洋史通論 ◎哲学史通論1 ◎美術史通論A ◎文化構想学概論A ◎文化構想学概論B ◎社会学概論A 【学芸員科目】 ◎博物館概論		D P ①【知識・理解】 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P ①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人		C P ②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を編成する。専攻科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などをを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、問題を見出すスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P ②、D P ④		【基幹教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【世界史コースモデル群】 ◎世界史基礎講義 ○西洋古典学		【基幹教育】 □英語科目 【世界史コースモデル群】 ◎東洋史基礎講義 ◎東洋史講義A ◎東洋史講義B ◎東洋史講義C ◎東洋史講義D ○ギリシャ語1 ○ギリシャ語2 【学芸員科目】 ◎博物館資料保存論 ◎博物館展示論		D P ②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、哲学・歴史学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などをを用い哲学・歴史学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、哲学・歴史学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方を通して、問題を見出すスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P ②	
論理的思考を鍛え新しいものの見方をもとめようとする人		C P ③【態度・志向性】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目および1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少数人教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P ③、D P ④		【基幹教育】 □初級教育科目 【世界史コースモデル群】 ◎東洋史基礎講義 ◎東洋史講義A ◎東洋史講義B ◎東洋史講義C ◎東洋史講義D ○民俗学 ○ドイツ語圏文学史 ○社会学史B 【学芸員科目】 ○生産学概論		【世界史コースモデル群】 ◎世界史概論 ◎西洋史概論A ◎西洋史概論B ◎西洋史概論C ◎西洋史概論D ◎西洋史特論A ◎東洋史概論A ○ドイツ語圏文化論 ○ドイツ語圏言語文化特別演習 ○社会学史A ○マス・コミュニケーション論A 【学芸員科目】 ◎博物館経営論 ◎博物館資料論 ◎博物館教育論 ◎博物館情報・メディア論		D P ③【態度・志向性】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P ③	
創造的に学べる発展可能性を持つ人		C P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P ④		【西暦】 【基幹教育】 □初級教育科目 【世界史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化基礎論A ※人間文化基礎論B ◎世界史基礎講義		【西暦】 【世界史コースモデル群】 ◎東洋史基礎講義 ◎東洋史通論 ◎東洋史講義A ◎東洋史講義B ◎東洋史基礎講義 ◎世界史講義 ◎西洋史特論A ◎東洋史特論A		D P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P ②、C P ③、C P ④	
人間の思考と社会・文化の生成発展について考えてみたい人		C P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、哲学、日本史、世界史の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P ④		【西暦】 【基幹教育】 □初級教育科目 【世界史コースモデル群】 ※人間文化基礎論1 ※人間文化基礎論2 ※人間文化基礎論A ※人間文化基礎論B ◎世界史基礎講義		【西暦】 【世界史コースモデル群】 ◎東洋史基礎講義 ◎東洋史通論 ◎東洋史講義A ◎東洋史講義B ◎東洋史基礎講義 ◎世界史講義 ◎西洋史特論A ◎東洋史特論A		D P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・哲学・歴史学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P ②、C P ③、C P ④	

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして社会の中で貢献する人材を育成する)

（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】
あくまでも人間を中心として、一人一人が他者と関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。その一翼に込めるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基礎とする学際的な人間行動学科である。社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを変える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する科学的働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的技法に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする共通しており、このような学問的追究を基礎とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かか人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部では、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤印：社会学コースモデル群	赤印：必修科目 ◎印：選択必修科目 □印：自由選択科目	□印：基礎教育科目 ・印：自由科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	人間の歩みと思索の過程を探究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる。	
学修のための基礎的能力をつつ人	CP①【知識・理解】 ・人間行動学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【社会学コースモデル群】 ※人間行動学概論A ※人間行動学概論B	【基礎教育】 □総合教養科目 【社会学コースモデル群】 ※社会学概論A ◎心理学概論1 ◎地理学概論A ◎教育学概論A			DP①【知識・理解】 ・人間行動学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。	
	DP①					CP①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的にに取り組む意欲を持っている人	CP②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人間行動学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い人間行動学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに即って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、人間行動学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【社会学コースモデル群】 ※人間行動学データ解析法1 ※人間行動学データ解析法2 ※社会学研究方法 ※社会学論文B	【基礎教育】 □英語科目 【社会学コースモデル群】 ※社会学実習1 ※社会学実習2 ※社会学論文1 ※社会学論文2 ※社会学論文3 ※社会学論文4			DP②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人間行動学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い人間行動学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに即って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、人間行動学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。	大学院進学、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務員（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、 製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）
	DP②、DP④					CP②	
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	CP③【態度・志向性】 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、学人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通じてきめ細かに指導する。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野を対象とする専門知識を通して具体的に指導する。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。DP③、DP④	【基礎教育】 □初年次教育科目 【社会学コースモデル群】 ※社会学基礎演習 ※社会学史A ※社会学論文1 ※社会学論文2 ※社会学論文3 ※社会学論文4 ◎言語文化基礎論A ◎哲学史通論1 ◎民俗学 ◎フランス語圏文化論 ◎表象文化論 ◎ポピュラー文化論	【社会学コースモデル群】 ※社会学演習2 ※社会学演習3 ※社会学演習4 ※社会学論文5 ※社会学論文6 ※社会学論文7 ※社会学論文8 ◎比較・国際教育学 ◎地誌学 ◎マス・コミュニケーション論A ◎文化人類学 ◎広報情報論B ◎社会・集団・家族心理学特論			DP③【態度・志向性】 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与することができる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。	
						CP③	
創造的に学べる発展可能性を持つ人	CP④【総合的な学修経験と創造的思考力】 人間行動学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。	【再掲】 【基礎教育】 □初年次教育科目 【社会学コースモデル群】 ※人間行動学データ解析法1 ※人間行動学データ解析法2 ※社会学論文A ※社会学論文B ※社会学論文C	【再掲】 【社会学コースモデル群】 ※社会学実習1 ※社会学実習2 ※社会学論文1 ※社会学論文2 ※社会学論文3 ※社会学論文4 ※社会学論文5 ※社会学論文6 ※社会学論文7 ※社会学論文8 ※社会学論文9 ※社会学論文10 ※社会学論文11 ※社会学論文12 ※社会学論文13 ※社会学論文14 ※社会学論文15 ※社会学論文16 ※社会学論文17 ※社会学論文18 ※社会学論文19 ※社会学論文20 ※社会学論文21 ※社会学論文22 ※社会学論文23 ※社会学論文24 ※社会学論文25 ※社会学論文26 ※社会学論文27 ※社会学論文28 ※社会学論文29 ※社会学論文30 ※社会学論文31 ※社会学論文32 ※社会学論文33 ※社会学論文34 ※社会学論文35 ※社会学論文36 ※社会学論文37 ※社会学論文38 ※社会学論文39 ※社会学論文40 ※社会学論文41 ※社会学論文42 ※社会学論文43 ※社会学論文44 ※社会学論文45 ※社会学論文46 ※社会学論文47 ※社会学論文48 ※社会学論文49 ※社会学論文50 ※社会学論文51 ※社会学論文52 ※社会学論文53 ※社会学論文54 ※社会学論文55 ※社会学論文56 ※社会学論文57 ※社会学論文58 ※社会学論文59 ※社会学論文60 ※社会学論文61 ※社会学論文62 ※社会学論文63 ※社会学論文64 ※社会学論文65 ※社会学論文66 ※社会学論文67 ※社会学論文68 ※社会学論文69 ※社会学論文70 ※社会学論文71 ※社会学論文72 ※社会学論文73 ※社会学論文74 ※社会学論文75 ※社会学論文76 ※社会学論文77 ※社会学論文78 ※社会学論文79 ※社会学論文80 ※社会学論文81 ※社会学論文82 ※社会学論文83 ※社会学論文84 ※社会学論文85 ※社会学論文86 ※社会学論文87 ※社会学論文88 ※社会学論文89 ※社会学論文90 ※社会学論文91 ※社会学論文92 ※社会学論文93 ※社会学論文94 ※社会学論文95 ※社会学論文96 ※社会学論文97 ※社会学論文98 ※社会学論文99 ※社会学論文100 ※社会学論文101 ※社会学論文102 ※社会学論文103 ※社会学論文104 ※社会学論文105 ※社会学論文106 ※社会学論文107 ※社会学論文108 ※社会学論文109 ※社会学論文110 ※社会学論文111 ※社会学論文112 ※社会学論文113 ※社会学論文114 ※社会学論文115 ※社会学論文116 ※社会学論文117 ※社会学論文118 ※社会学論文119 ※社会学論文120 ※社会学論文121 ※社会学論文122 ※社会学論文123 ※社会学論文124 ※社会学論文125 ※社会学論文126 ※社会学論文127 ※社会学論文128 ※社会学論文129 ※社会学論文130 ※社会学論文131 ※社会学論文132 ※社会学論文133 ※社会学論文134 ※社会学論文135 ※社会学論文136 ※社会学論文137 ※社会学論文138 ※社会学論文139 ※社会学論文140 ※社会学論文141 ※社会学論文142 ※社会学論文143 ※社会学論文144 ※社会学論文145 ※社会学論文146 ※社会学論文147 ※社会学論文148 ※社会学論文149 ※社会学論文150 ※社会学論文151 ※社会学論文152 ※社会学論文153 ※社会学論文154 ※社会学論文155 ※社会学論文156 ※社会学論文157 ※社会学論文158 ※社会学論文159 ※社会学論文160 ※社会学論文161 ※社会学論文162 ※社会学論文163 ※社会学論文164 ※社会学論文165 ※社会学論文166 ※社会学論文167 ※社会学論文168 ※社会学論文169 ※社会学論文170 ※社会学論文171 ※社会学論文172 ※社会学論文173 ※社会学論文174 ※社会学論文175 ※社会学論文176 ※社会学論文177 ※社会学論文178 ※社会学論文179 ※社会学論文180 ※社会学論文181 ※社会学論文182 ※社会学論文183 ※社会学論文184 ※社会学論文185 ※社会学論文186 ※社会学論文187 ※社会学論文188 ※社会学論文189 ※社会学論文190 ※社会学論文191 ※社会学論文192 ※社会学論文193 ※社会学論文194 ※社会学論文195 ※社会学論文196 ※社会学論文197 ※社会学論文198 ※社会学論文199 ※社会学論文200 ※社会学論文201 ※社会学論文202 ※社会学論文203 ※社会学論文204 ※社会学論文205 ※社会学論文206 ※社会学論文207 ※社会学論文208 ※社会学論文209 ※社会学論文210 ※社会学論文211 ※社会学論文212 ※社会学論文213 ※社会学論文214 ※社会学論文215 ※社会学論文216 ※社会学論文217 ※社会学論文218 ※社会学論文219 ※社会学論文220 ※社会学論文221 ※社会学論文222 ※社会学論文223 ※社会学論文224 ※社会学論文225 ※社会学論文226 ※社会学論文227 ※社会学論文228 ※社会学論文229 ※社会学論文230 ※社会学論文231 ※社会学論文232 ※社会学論文233 ※社会学論文234 ※社会学論文235 ※社会学論文236 ※社会学論文237 ※社会学論文238 ※社会学論文239 ※社会学論文240 ※社会学論文241 ※社会学論文242 ※社会学論文243 ※社会学論文244 ※社会学論文245 ※社会学論文246 ※社会学論文247 ※社会学論文248 ※社会学論文249 ※社会学論文250 ※社会学論文251 ※社会学論文252 ※社会学論文253 ※社会学論文254 ※社会学論文255 ※社会学論文256 ※社会学論文257 ※社会学論文258 ※社会学論文259 ※社会学論文260 ※社会学論文261 ※社会学論文262 ※社会学論文263 ※社会学論文264 ※社会学論文265 ※社会学論文266 ※社会学論文267 ※社会学論文268 ※社会学論文269 ※社会学論文270 ※社会学論文271 ※社会学論文272 ※社会学論文273 ※社会学論文274 ※社会学論文275 ※社会学論文276 ※社会学論文277 ※社会学論文278 ※社会学論文279 ※社会学論文280 ※社会学論文281 ※社会学論文282 ※社会学論文283 ※社会学論文284 ※社会学論文285 ※社会学論文286 ※社会学論文287 ※社会学論文288 ※社会学論文289 ※社会学論文290 ※社会学論文291 ※社会学論文292 ※社会学論文293 ※社会学論文294 ※社会学論文295 ※社会学論文296 ※社会学論文297 ※社会学論文298 ※社会学論文299 ※社会学論文300 ※社会学論文301 ※社会学論文302 ※社会学論文303 ※社会学論文304 ※社会学論文305 ※社会学論文306 ※社会学論文307 ※社会学論文308 ※社会学論文309 ※社会学論文310 ※社会学論文311 ※社会学論文312 ※社会学論文313 ※社会学論文314 ※社会学論文315 ※社会学論文316 ※社会学論文317 ※社会学論文318 ※社会学論文319 ※社会学論文320 ※社会学論文321 ※社会学論文322 ※社会学論文323 ※社会学論文324 ※社会学論文325 ※社会学論文326 ※社会学論文327 ※社会学論文328 ※社会学論文329 ※社会学論文330 ※社会学論文331 ※社会学論文332 ※社会学論文333 ※社会学論文334 ※社会学論文335 ※社会学論文336 ※社会学論文337 ※社会学論文338 ※社会学論文339 ※社会学論文340 ※社会学論文341 ※社会学論文342 ※社会学論文343 ※社会学論文344 ※社会学論文345 ※社会学論文346 ※社会学論文347 ※社会学論文348 ※社会学論文349 ※社会学論文350 ※社会学論文351 ※社会学論文352 ※社会学論文353 ※社会学論文354 ※社会学論文355 ※社会学論文356 ※社会学論文357 ※社会学論文358 ※社会学論文359 ※社会学論文360 ※社会学論文361 ※社会学論文362 ※社会学論文363 ※社会学論文364 ※社会学論文365 ※社会学論文366 ※社会学論文367 ※社会学論文368 ※社会学論文369 ※社会学論文370 ※社会学論文371 ※社会学論文372 ※社会学論文373 ※社会学論文374 ※社会学論文375 ※社会学論文376 ※社会学論文377 ※社会学論文378 ※社会学論文379 ※社会学論文380 ※社会学論文381 ※社会学論文382 ※社会学論文383 ※社会学論文384 ※社会学論文385 ※社会学論文386 ※社会学論文387 ※社会学論文388 ※社会学論文389 ※社会学論文390 ※社会学論文391 ※社会学論文392 ※社会学論文393 ※社会学論文394 ※社会学論文395 ※社会学論文396 ※社会学論文397 ※社会学論文398 ※社会学論文399 ※社会学論文400 ※社会学論文401 ※社会学論文402 ※社会学論文403 ※社会学論文404 ※社会学論文405 ※社会学論文406 ※社会学論文407 ※社会学論文408 ※社会学論文409 ※社会学論文410 ※社会学論文411 ※社会学論文412 ※社会学論文413 ※社会学論文414 ※社会学論文415 ※社会学論文416 ※社会学論文417 ※社会学論文418 ※社会学論文419 ※社会学論文420 ※社会学論文421 ※社会学論文422 ※社会学論文423 ※社会学論文424 ※社会学論文425 ※社会学論文426 ※社会学論文427 ※社会学論文428 ※社会学論文429 ※社会学論文430 ※社会学論文431 ※社会学論文432 ※社会学論文433 ※社会学論文434 ※社会学論文435 ※社会学論文436 ※社会学論文437 ※社会学論文438 ※社会学論文439 ※社会学論文440 ※社会学論文441 ※社会学論文442 ※社会学論文443 ※社会学論文444 ※社会学論文445 ※社会学論文446 ※社会学論文447 ※社会学論文448 ※社会学論文449 ※社会学論文450 ※社会学論文451 ※社会学論文452 ※社会学論文453 ※社会学論文454 ※社会学論文455 ※社会学論文456 ※社会学論文457 ※社会学論文458 ※社会学論文459 ※社会学論文460 ※社会学論文461 ※社会学論文462 ※社会学論文463 ※社会学論文464 ※社会学論文465 ※社会学論文466 ※社会学論文467 ※社会学論文468 ※社会学論文469 ※社会学論文470 ※社会学論文471 ※社会学論文472 ※社会学論文473 ※社会学論文474 ※社会学論文475 ※社会学論文476 ※社会学論文477 ※社会学論文478 ※社会学論文479 ※社会学論文480 ※社会学論文481 ※社会学論文482 ※社会学論文483 ※社会学論文484 ※社会学論文485 ※社会学論文486 ※社会学論文487 ※社会学論文488 ※社会学論文489 ※社会学論文490 ※社会学論文491 ※社会学論文492 ※社会学論文493 ※社会学論文494 ※社会学論文495 ※社会学論文496 ※社会学論文497 ※社会学論文498 ※社会学論文499 ※社会学論文500 ※社会学論文501 ※社会学論文502 ※社会学論文503 ※社会学論文504 ※社会学論文505 ※社会学論文506 ※社会学論文507 ※社会学論文508 ※社会学論文509 ※社会学論文510 ※社会学論文511 ※社会学論文512 ※社会学論文513 ※社会学論文514 ※社会学論文515 ※社会学論文516 ※社会学論文517 ※社会学論文518 ※社会学論文519 ※社会学論文520 ※社会学論文521 ※社会学論文522 ※社会学論文523 ※社会学論文524 ※社会学論文525 ※社会学論文526 ※社会学論文527 ※社会学論文528 ※社会学論文529 ※社会学論文530 ※社会学論文531 ※社会学論文532 ※社会学論文533 ※社会学論文534 ※社会学論文535 ※社会学論文536 ※社会学論文537 ※社会学論文538 ※社会学論文539 ※社会学論文540 ※社会学論文541 ※社会学論文542 ※社会学論文543 ※社会学論文544 ※社会学論文545 ※社会学論文546 ※社会学論文547 ※社会学論文548 ※社会学論文549 ※社会学論文550 ※社会学論文551 ※社会学論文552 ※社会学論文553 ※社会学論文554 ※社会学論文555 ※社会学論文556 ※社会学論文557 ※社会学論文558 ※社会学論文559 ※社会学論文560 ※社会学論文561 ※社会学論文562 ※社会学論文563 ※社会学論文564 ※社会学論文565 ※社会学論文566 ※社会学論文567 ※社会学論文568 ※社会学論文569 ※社会学論文570 ※社会学論文571 ※社会学論文572 ※社会学論文573 ※社会学論文574 ※社会学論文575 ※社会学論文576 ※社会学論文577 ※社会学論文578 ※社会学論文579 ※社会学論文580 ※社会学論文581 ※社会学論文582 ※社会学論文583 ※社会学論文584 ※社会学論文585 ※社会学論文586 ※社会学論文587 ※社会学論文588 ※社会学論文589 ※社会学論文590 ※社会学論文591 ※社会学論文592 ※社会学論文593 ※社会学論文594 ※社会学論文595 ※社会学論文596 ※社会学論文597 ※社会学論文598 ※社会学論文599 ※社会学論文600 ※社会学論文601 ※社会学論文602 ※社会学論文603 ※社会学論文604 ※社会学論文605 ※社会学論文606 ※社会学論文607 ※社会学論文608 ※社会学論文609 ※社会学論文610 ※社会学論文611 ※社会学論文612 ※社会学論文613 ※社会学論文614 ※社会学論文615 ※社会学論文616 ※社会学論文617 ※社会学論文618 ※社会学論文619 ※社会学論文620 ※社会学論文621 ※社会学論文622 ※社会学論文623 ※社会学論文624 ※社会学論文625 ※社会学論文626 ※社会学論文627 ※社会学論文628 ※社会学論文629 ※社会学論文630 ※社会学論文631 ※社会学論文632 ※社会学論文633 ※社会学論文634 ※社会学論文635 ※社会学論文636 ※社会学論文637 ※社会学論文638 ※社会学論文639 ※社会学論文640 ※社会学論文641 ※社会学論文642 ※社会学論文643 ※社会学論文644 ※社会学論文645 ※社会学論文646 ※社会学論文647 ※社会学論文648 ※社会学論文649 ※社会学論文650 ※社会学論文651 ※社会学論文652 ※社会学論文653 ※社会学論文654 ※社会学論文655 ※社会学論文656 ※社会学論文657 ※社会学論文658 ※社会学論文659 ※社会学論文660 ※社会学論文661 ※社会学論文662 ※社会学論文663 ※社会学論文664 ※社会学論文665 ※社会学論文666 ※社会学論文667 ※社会学論文668 ※社会学論文669 ※社会学論文670 ※社会学論文671 ※社会学論文672 ※社会学論文673 ※社会学論文674 ※社会学論文675 ※社会学論文676 ※社会学論文677 ※社会学論文678 ※社会学論文679 ※社会学論文680 ※社会学論文681 ※社会学論文682 ※社会学論文683 ※社会学論文684 ※社会学論文685 ※社会学論文686 ※社会学論文687 ※社会学論文688 ※社会学論文689 ※社会学論文690 ※社会学論文691 ※社会学論文692 ※社会学論文693 ※社会学論文694 ※社会学論文695 ※社会学論文696 ※社会学論文697 ※社会学論文698 ※社会学論文699 ※社会学論文700 ※社会学論文701 ※社会学論文702 ※社会学論文703 ※社会学論文704 ※社会学論文705 ※社会学論文706 ※社会学論文707 ※社会学論文708 ※社会学論文709 ※社会学論文710 ※社会学論文711 ※社会学論文712 ※社会学論文713 ※社会学論文714 ※社会学論文715 ※社会学論文716 ※社会学論文717 ※社会学論文718 ※社会学論文719 ※社会学論文720 ※社会学論文721 ※社会学論文722 ※社会学論文723 ※社会学論文724 ※社会学論文725 ※社会学論文726 ※社会学論文727 ※社会学論文728 ※社会学論文729 ※社会学論文730 ※社会学論文731 ※社会学論文732 ※社会学論文733 ※社会学論文734 ※社会学論文735 ※社会学論文736 ※社会学論文737 ※社会学論文738 ※社会学論文739 ※社会学論文740 ※社会学論文741 ※社会学論文742 ※社会学論文743 ※社会学論文744 ※社会学論文745 ※社会学論文746 ※社会学論文747 ※社会学論文748 ※社会学論文749 ※社会学論文750 ※社会学論文751 ※社会学論文752 ※社会学論文753 ※社会学論文754 ※社会学論文755 ※社会学論文756 ※社会学論文757 ※社会学論文758 ※社会学論文759 ※社会学論文760 ※社会学論文761 ※社会学論文762 ※社会学論文763 ※社会学論文764 ※社会学論文765 ※社会学論文766 ※社会学論文767 ※社会学論文768 ※社会学論文769 ※社会学論文770 ※社会学論文771 ※社会学論文772 ※社会学論文773 ※社会学論文774 ※社会学論文775 ※社会学論文776 ※社会学論文777 ※社会学論文778 ※社会学論文779 ※社会学論文780 ※社会学論文781 ※社会学論文782 ※社会学論文783 ※社会学論文784 ※社会学論文785 ※社会学論文786 ※社会学論文787 ※社会学論文788 ※社会学論文789 ※社会学論文790 ※社会学論文791 ※社会学論文792 ※社会学論文793 ※社会学論文794 ※社会学論文795 ※社会学論文796 ※社会学論文797 ※社会学論文798 ※社会学論文799 ※社会学論文800 ※社会学論文801 ※社会学論文802 ※社会学論文803 ※社会学論文804 ※社会学論文805 ※社会学論文806 ※社会学論文807 ※社会学論文808 ※社会学論文809 ※社会学論文810 ※社会学論文811 ※社会学論文812 ※社会学論文813 ※社会学論文814 ※社会学論文815 ※社会学論文816 ※社会学論文817 ※社会学論文818 ※社会学論文819 ※社会学論文820 ※社会学論文821 ※社会学論文822 ※社会学論文823 ※社会学論文824 ※社会学論文825 ※社会学論文826 ※社会学論文827 ※社会学論文828 ※社会学論文829 ※社会学論文830 ※社会学論文831 ※社会学論文832 ※社会学論文833 ※社会学論文834 ※社会学論文835 ※社会学論文836 ※社会学論文837 ※社会学論文838 ※社会学論文839 ※社会学論文840 ※社会学論文841 ※社会学論文842 ※社会学論文843 ※社会学論文844 ※社会学論文845 ※社会学論文846 ※社会学論文847 ※社会学論文848 ※社会学論文849 ※社会学論文850 ※社会学論文851 ※社会学論文852 ※社会学論文853 ※社会学論文854 ※社会学論文855 ※社会学論文856 ※社会学論文857 ※社会学論文858 ※社会学論文859 ※社会学論文860 ※社会学論文861 ※社会学論文862 ※社会学論文863 ※社会学論文864 ※社会学論文865 ※社会学論文866 ※社会学論文867 ※社会学論文868 ※社会学論文869 ※社会学論文870 ※社会学論文871 ※社会学論文872 ※社会学論文873 ※社会学論文874 ※社会学論文875 ※社会学論文876 ※社会学論文877 ※社会学論文878 ※社会学論文879 ※社会学論文880 ※社会学論文881 ※社会学論文882 ※社会学論文883 ※社会学論文884 ※社会学論文885 ※社会学論文886 ※社会学論文887 ※社会学論文888 ※社会学論文889 ※社会学論文890 ※社会学論文891 ※社会学論文892 ※社会学論文893 ※社会学論文894 ※社会学論文895 ※社会学論文896 ※社会学論文897 ※社会学論文898 ※社会学論文899 ※社会学論文900 ※社会学論文901 ※社会学論文902 ※社会学論文903 ※社会学論文904 ※社会学論文905 ※社会学論文906 ※社会学論文907 ※社会学論文908 ※社会学論文909 ※社会学論文910 ※社会学論文911 ※社会学論文912 ※社会学論文913 ※社会学論文914 ※社会学論文915 ※社会学論文916 ※社会学論文917 ※社会学論文918 ※社会学論文919 ※社会学論文920 ※社会学論文921 ※社会学論文922 ※社会学論文923 ※社会学論文924 ※社会学論文925 ※社会学論文926 ※社会学論文927 ※社会学論文928 ※社会学論文929 ※社会学論文930 ※社会学論文931 ※社会学論文932 ※社会学論文933 ※社会学論文934 ※社会学論文935 ※社会学論文936 ※社会学論文937 ※社会学論文938 ※社会学論文939 ※社会学論文940 ※社会学論文941 ※社会学論文942 ※社会学論文943 ※社会学論文944 ※社会学論文945 ※社会学論文946 ※社会学論文947 ※社会学論文948 ※社会学論文949 ※社会学論文950 ※社会学論文951 ※社会学論文952 ※社会学論文953 ※社会学論文954 ※社会学論文955 ※社会学論文956 ※社会学論文957 ※社会学論文958 ※社会学論文959 ※社会学論文960 ※社会学論文961 ※社会学論文962 ※社会学論文963 ※社会学論文964 ※社会学論文965 ※社会学論文966 ※社会学論文967 ※社会学論文968 ※社会学論文969 ※社会学論文970 ※社会学論文971 ※社会学論文972 ※社会学論文973 ※社会学論文974 ※社会学論文975 ※社会学論文976 ※社会学論文977 ※社会学論文978 ※社会学論文979 ※社会学論文980 ※社会学論文981 ※社会学論文982 ※社会学論文983 ※社会学論文984 ※社会学論文985 ※社会学論文986 ※社会学論文987 ※社会学論文988 ※社会学論文989 ※社会学論文990 ※社会学論文991 ※社会学論文992 ※社会学論文993 ※社会学論文994 ※社会学論文995 ※社会学論文996 ※社会学論文997 ※社会学論文998 ※社会学論文999 ※社会学論文1000				

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を期間し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

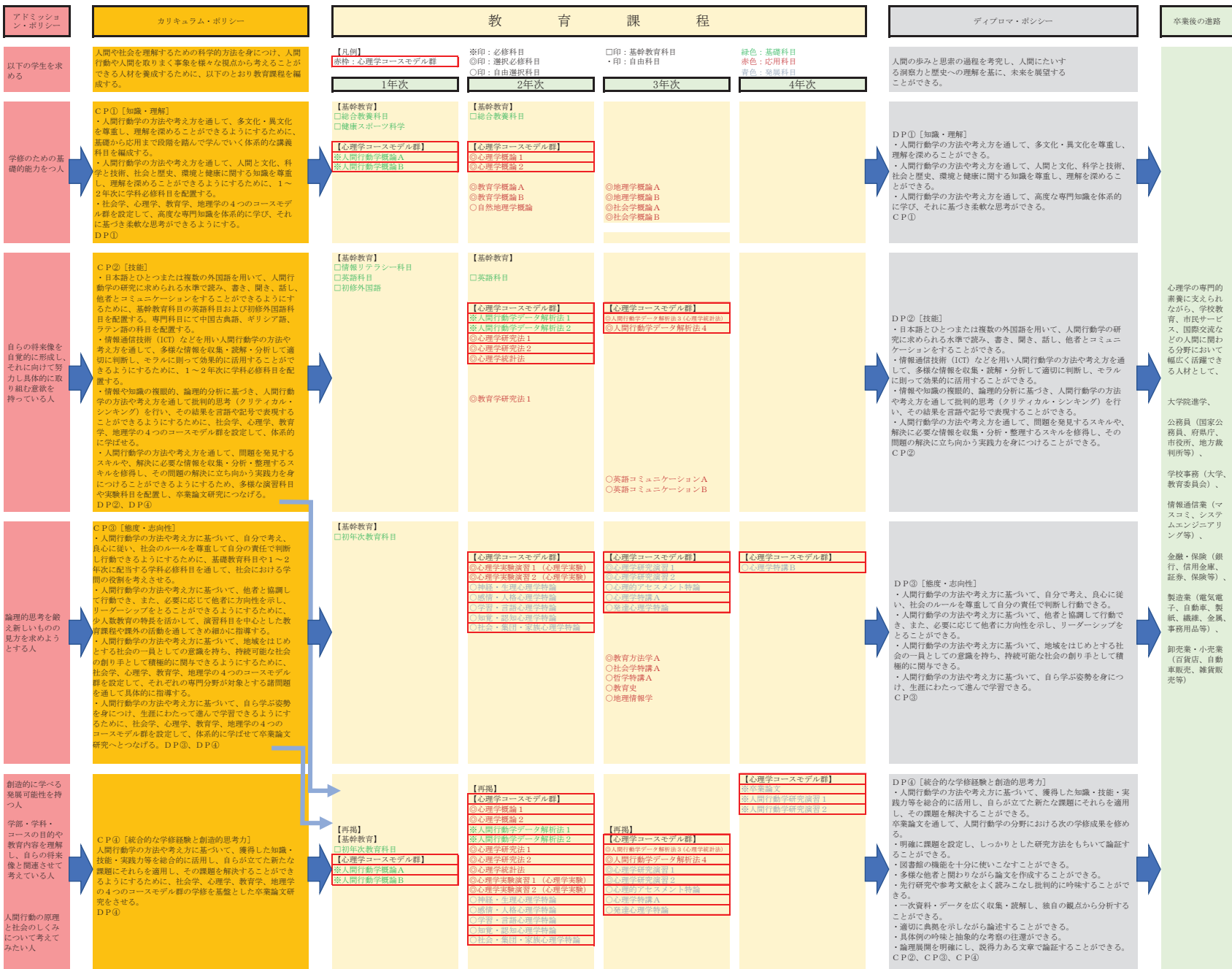
文学部 人間行動学科 心理学コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする学際的な人間行動学科である。社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性と発展の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする点で共通しており、このような学問的追究を基盤とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成する。



（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する）

文学部 人間行動学科 心理学コース（公認心理師資格取得）カリキュラムマップ

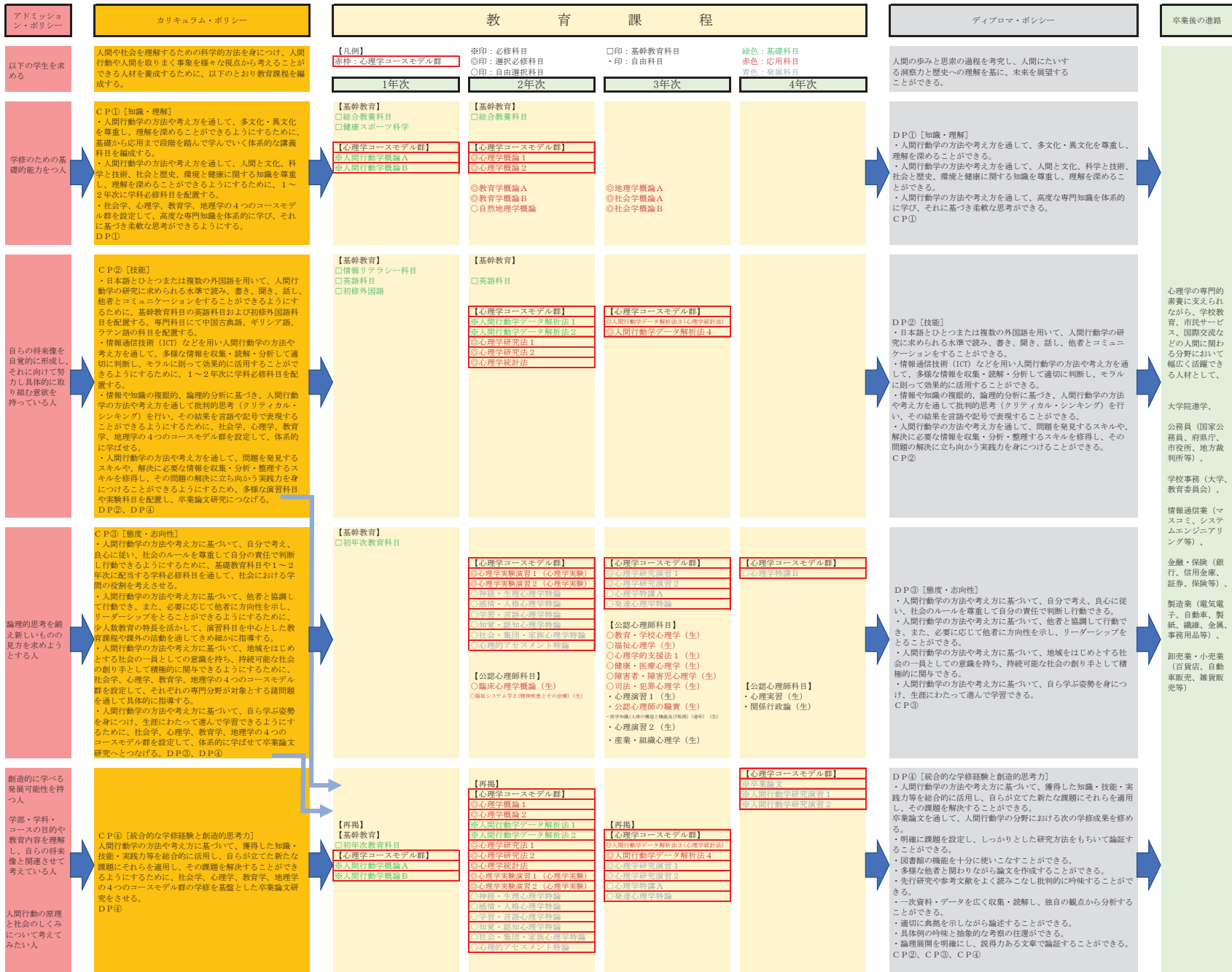
【設置の趣旨】

あくまでも人間を中心として、一人間が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基礎とする学際的な人間行動学科である。社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的・方法的に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする点で共通しており、このような学問的追究を基礎とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。

とくに人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成する。



（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

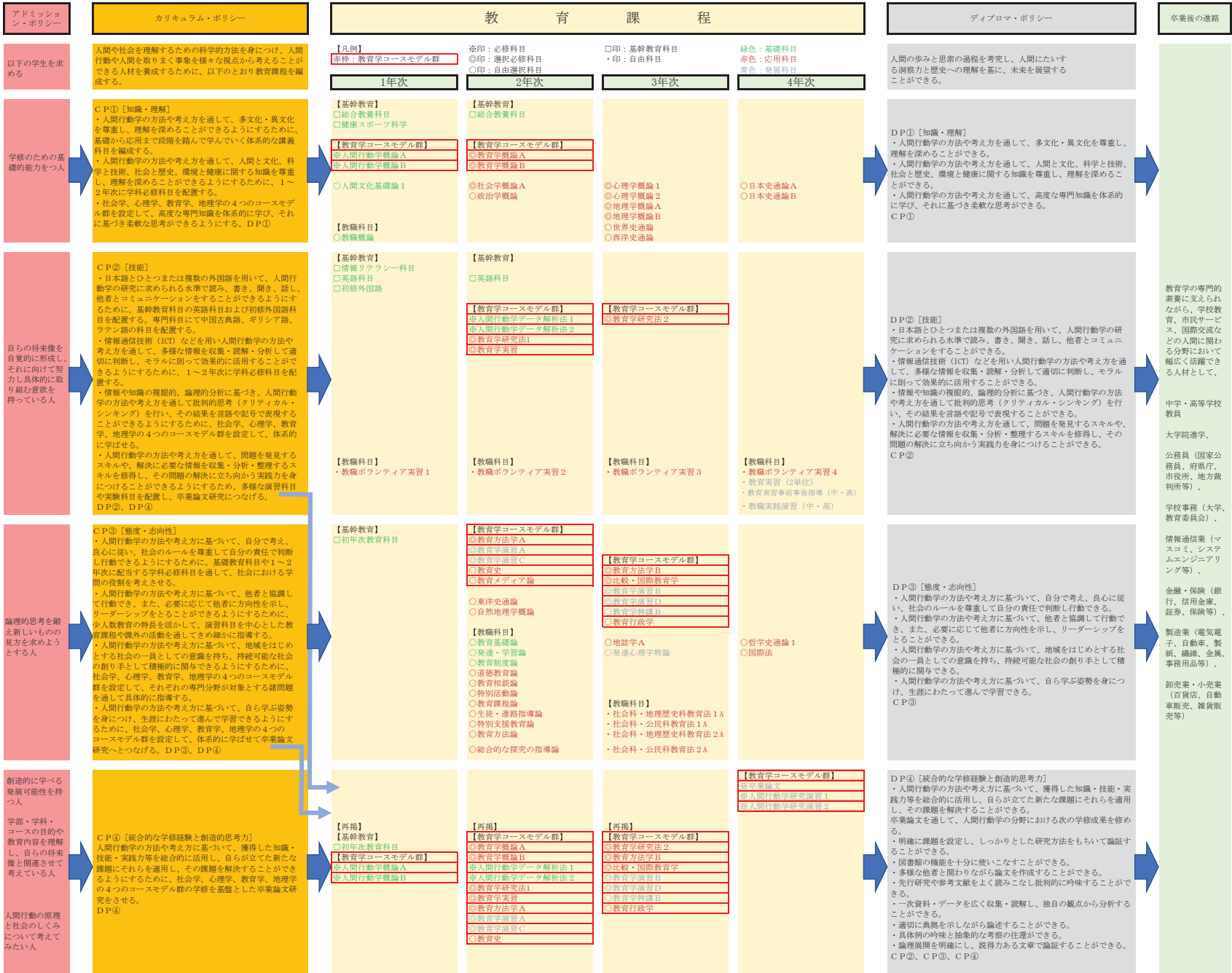
（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】

あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする人間行動学である。社会学は、人間の社会生活の諸様、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域社会と景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的・方法的に基づいて実証的に明らかにすることを旨とす点で共通しており、このような学問的追究を基盤とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあつて、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身に付け、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成する。



（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏えた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】

あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基礎とする学際的な人間行動学科である。社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものであるが、それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする点で共通しており、このような学間的追究を基礎とした人材育成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版、ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。人間行動学科では、人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー		卒業後の進路	
以下の学生を求める		人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。		【凡例】 赤枠：地理学コースモデル群 ○印：必修科目 ◎印：選択必修科目 □印：自由選択科目				緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目		人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することができる。	
		1年次		2年次		3年次		4年次			
学修のための基礎的能力をつつ		C P ①【知識・理解】 ・人間行動学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P ①		【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【地理学コースモデル群】 ※人間行動学概論A ※人間行動学概論B ○言語文化概論A ○言語文化概論B 【教職科目】 ◎教職概論		【基礎教育】 □総合教養科目 【地理学コースモデル群】 ◎地理学概論A ◎地理学概論B ◎心理学概論1 ◎心理学概論2 ◎哲学概論1 ◎哲学概論2 ◎フランス語学概論 ○言語文化基礎論A ○言語文化基礎論B				D P ①【知識・理解】 ・人間行動学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P ①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的にに取り組む意欲を持っている人		C P ②【技術】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人間行動学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようになるために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを人間行動学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・解釈・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的的分析に基づき、人間行動学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P ②、D P ③		【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語		【基礎教育】 □英語科目 【地理学コースモデル群】 ※人間行動学データ解析法1 ※人間行動学データ解析法2 ◎地理学実験実習1 ◎地理学実験実習2 ◎地理学野外調査実習1 ◎社会学研究法		【地理学コースモデル群】 ◎人間行動学データ解析法4 ◎地理学諸語演習A ◎地理学諸語演習B ◎地理学野外調査実習2 【教職科目】 ・教育実習（2単位） ・教育実習事前事後指導（中・高） ・教職実践演習（中・高）		D P ②【技術】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、人間行動学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようになる。 ・情報通信技術（ICT）などを人間行動学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・解釈・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的的分析に基づき、人間行動学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・人間行動学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P ②	
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人		C P ③【態度・志向性】 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に依り、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P ③、D P ④		【基礎教育】 □初年次教育科目		【地理学コースモデル群】 ◎地理情報学 ○観光文化論 ○日本史通論B 【教職科目】 ◎教育基礎論 ◎発達・学習論 ◎教育制度論 ◎特別活動論 ◎生徒・進路指導論 ◎教育相談論 ◎教育環境論 ◎特別支援教育論 ◎総合的な探究の指導論 ◎教育方法論 ◎社会科・地理歴史科教育法1A ◎社会科・地理歴史科教育法2A ◎社会科・公民科教育法1A ◎社会科・公民科教育法2A		【地理学コースモデル群】 ◎地理学演習A ◎地理学演習B ◎地誌学A ◎地誌学B ◎地図学 ◎地理学特論A ○ドイツ語文化論 ○英米文化演習 ○フランス語圏言語文化演習A ○心理学特講B ○心理学特講A ○公共経済学 ○産業経済論		D P ③【態度・志向性】 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P ③	
創造的に学べる発展可能性を持つ人								【地理学コースモデル群】 ※卒業論文 ※人間行動学研究実習1 ※人間行動学研究実習2		D P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・人間行動学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、人間行動学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論議することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論議することができる。 C P ②、C P ③、C P ④	
学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人		C P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 人間行動学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、社会学、心理学、教育学、地理学の4つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P ④		【再掲】 【基礎教育】 □初年次教育科目 【地理学コースモデル群】 ※人間行動学概論A ※人間行動学概論B		【再掲】 【地理学コースモデル群】 ◎地理学概論A ◎地理学概論B ◎人間行動学データ解析法1 ◎人間行動学データ解析法2 ◎地理学実験実習1 ◎地理学実験実習2 ◎地理学野外調査実習1 ◎地理情報学		【再掲】 【地理学コースモデル群】 ◎人間行動学データ解析法4 ◎地理学諸語演習A ◎地理学諸語演習B ◎地理学野外調査実習2 ◎地理学演習A ◎地理学演習B ◎地誌学A ◎地誌学B ◎地図学 ◎地理学特論A			
人間行動の原理と社会のしくみについて考えてみたい人											

（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

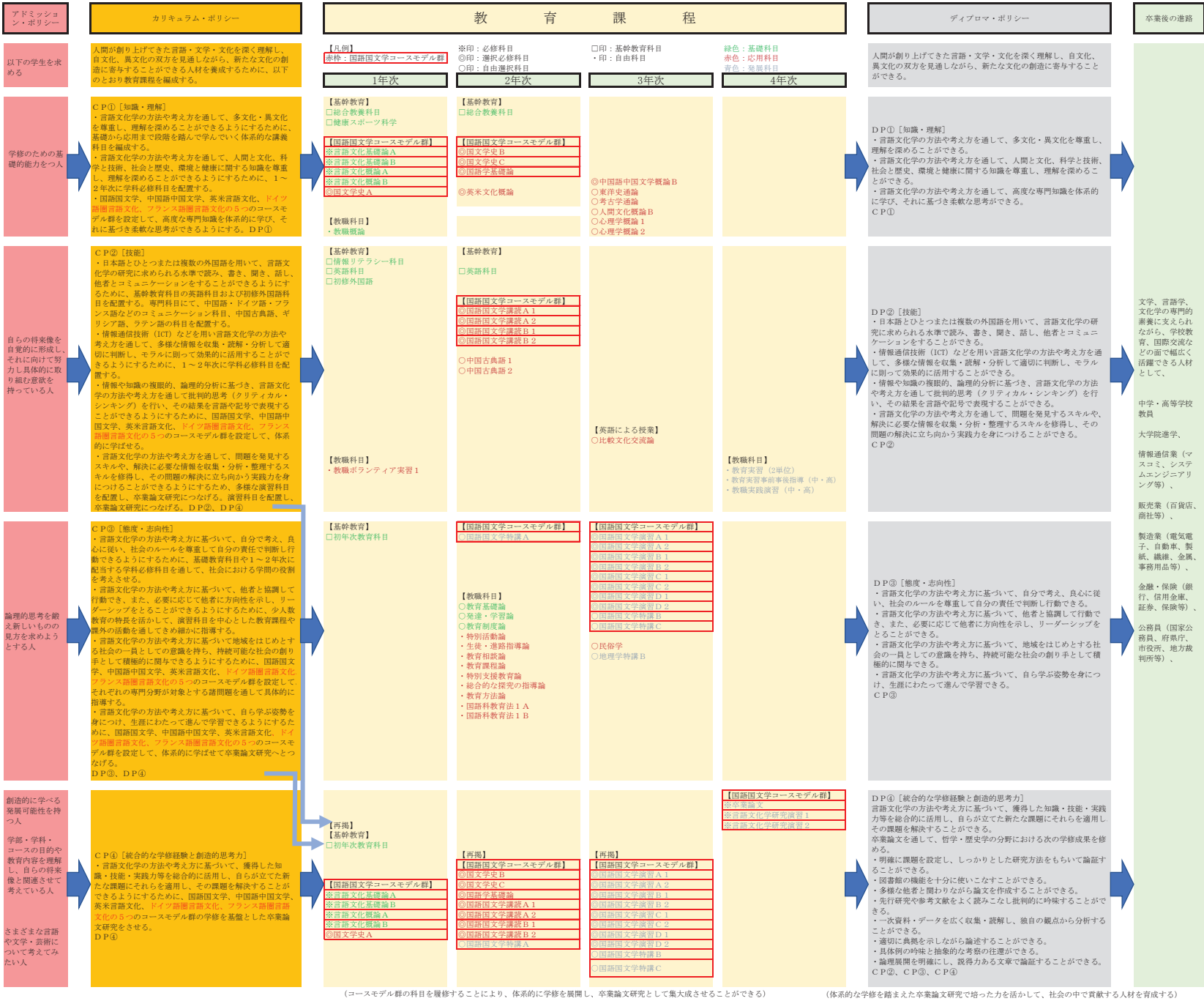
（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして 社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人間の歴史的営みの所産である文化を言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて、個人・社会・文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。



（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営みの所産である文化を言語を通じて根源的に理解することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それらの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育ていくことが強く求められている。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくをめざす。
具体的に、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：中国語中国文学コースモデル群 ○印：必修科目 ◎印：選択必修科目 □印：自由選択科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	1年次	2年次	3年次	4年次	人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる。
学修のための基礎的能力をつつ	C P①【知識・理解】 ・言語文化学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・言語文化学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。D P①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎言語文化基礎論A ◎言語文化概論A ◎言語文化概論B ◎東洋史通論 ◎世界史通論 ◎英語学概論A	【基礎教育】 □総合教養科目 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎言語文化基礎論B ◎中国語中国文学概論A ◎中国語中国文学概論B ◎中国語中国文学概論C ◎中国語中国文学概論D ◎東洋史通論 ◎世界史通論 ◎英語学概論A	【基礎教育】 □総合教養科目 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎言語文化基礎論C ◎中国語中国文学概論A ◎中国語中国文学概論B ◎中国語中国文学概論C ◎中国語中国文学概論D ◎東洋史通論 ◎世界史通論 ◎英語学概論A	【基礎教育】 □総合教養科目 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎言語文化基礎論D ◎中国語中国文学概論A ◎中国語中国文学概論B ◎中国語中国文学概論C ◎中国語中国文学概論D ◎東洋史通論 ◎世界史通論 ◎英語学概論A	D P①【知識・理解】 ・言語文化学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。C P①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。専門科目にて、中国語・ドイツ語・フランス語などのコミュニケーション科目、中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・言語文化学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。D P②、D P④	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初修外国語 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎中国語コミュニケーション3 ◎中国語コミュニケーション4 ◎東洋史講義A ◎東洋史講義B ・中国語海外語学研修 【英語による授業】 ○比較文化文論	【基礎教育】 □英語科目 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎中国語コミュニケーション3 ◎中国語コミュニケーション4 ◎東洋史基礎講義 ・中国語海外語学研修 【英語による授業】 ○比較文化文論	【基礎教育】 □英語科目 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎中国語コミュニケーション3 ◎中国語コミュニケーション4 ◎東洋史基礎講義 ・中国語海外語学研修 【英語による授業】 ○比較文化文論	【基礎教育】 □英語科目 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎中国語コミュニケーション3 ◎中国語コミュニケーション4 ◎東洋史基礎講義 ・中国語海外語学研修 【英語による授業】 ○比較文化文論	D P②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。C P②	文学、言語学、文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 販売業（百貨店、商社等）、 製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、
論理的思考を鍛え新しいものの見方を探めようとする人	C P③【態度・志向性】 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問的役割を考えさせる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。D P③、D P④	【基礎教育】 □初年次教育科目 【中国語中国文学コースモデル群】 ◎中国語基礎演習1 ◎中国語基礎演習2	【中国語中国文学コースモデル群】 ◎中国語基礎演習1 ◎中国語基礎演習2 ◎中国語基礎演習3 ◎中国語基礎演習4 ◎中国語基礎演習5 ◎中国語基礎演習6 ◎中国語基礎演習7 ◎中国語基礎演習8 ◎中国語基礎演習9 ◎中国語基礎演習10 ◎中国語基礎演習11 ◎中国語基礎演習12 ◎中国語基礎演習13 ◎中国語基礎演習14 ◎中国語基礎演習15 ◎中国語基礎演習16 ◎中国語基礎演習17 ◎中国語基礎演習18 ◎中国語基礎演習19 ◎中国語基礎演習20 ◎中国語基礎演習21 ◎中国語基礎演習22 ◎中国語基礎演習23 ◎中国語基礎演習24 ◎中国語基礎演習25 ◎中国語基礎演習26 ◎中国語基礎演習27 ◎中国語基礎演習28 ◎中国語基礎演習29 ◎中国語基礎演習30 ◎中国語基礎演習31 ◎中国語基礎演習32 ◎中国語基礎演習33 ◎中国語基礎演習34 ◎中国語基礎演習35 ◎中国語基礎演習36 ◎中国語基礎演習37 ◎中国語基礎演習38 ◎中国語基礎演習39 ◎中国語基礎演習40 ◎中国語基礎演習41 ◎中国語基礎演習42 ◎中国語基礎演習43 ◎中国語基礎演習44 ◎中国語基礎演習45 ◎中国語基礎演習46 ◎中国語基礎演習47 ◎中国語基礎演習48 ◎中国語基礎演習49 ◎中国語基礎演習50 ◎中国語基礎演習51 ◎中国語基礎演習52 ◎中国語基礎演習53 ◎中国語基礎演習54 ◎中国語基礎演習55 ◎中国語基礎演習56 ◎中国語基礎演習57 ◎中国語基礎演習58 ◎中国語基礎演習59 ◎中国語基礎演習60 ◎中国語基礎演習61 ◎中国語基礎演習62 ◎中国語基礎演習63 ◎中国語基礎演習64 ◎中国語基礎演習65 ◎中国語基礎演習66 ◎中国語基礎演習67 ◎中国語基礎演習68 ◎中国語基礎演習69 ◎中国語基礎演習70 ◎中国語基礎演習71 ◎中国語基礎演習72 ◎中国語基礎演習73 ◎中国語基礎演習74 ◎中国語基礎演習75 ◎中国語基礎演習76 ◎中国語基礎演習77 ◎中国語基礎演習78 ◎中国語基礎演習79 ◎中国語基礎演習80 ◎中国語基礎演習81 ◎中国語基礎演習82 ◎中国語基礎演習83 ◎中国語基礎演習84 ◎中国語基礎演習85 ◎中国語基礎演習86 ◎中国語基礎演習87 ◎中国語基礎演習88 ◎中国語基礎演習89 ◎中国語基礎演習90 ◎中国語基礎演習91 ◎中国語基礎演習92 ◎中国語基礎演習93 ◎中国語基礎演習94 ◎中国語基礎演習95 ◎中国語基礎演習96 ◎中国語基礎演習97 ◎中国語基礎演習98 ◎中国語基礎演習99 ◎中国語基礎演習100 ◎中国語基礎演習101 ◎中国語基礎演習102 ◎中国語基礎演習103 ◎中国語基礎演習104 ◎中国語基礎演習105 ◎中国語基礎演習106 ◎中国語基礎演習107 ◎中国語基礎演習108 ◎中国語基礎演習109 ◎中国語基礎演習110 ◎中国語基礎演習111 ◎中国語基礎演習112 ◎中国語基礎演習113 ◎中国語基礎演習114 ◎中国語基礎演習115 ◎中国語基礎演習116 ◎中国語基礎演習117 ◎中国語基礎演習118 ◎中国語基礎演習119 ◎中国語基礎演習120 ◎中国語基礎演習121 ◎中国語基礎演習122 ◎中国語基礎演習123 ◎中国語基礎演習124 ◎中国語基礎演習125 ◎中国語基礎演習126 ◎中国語基礎演習127 ◎中国語基礎演習128 ◎中国語基礎演習129 ◎中国語基礎演習130 ◎中国語基礎演習131 ◎中国語基礎演習132 ◎中国語基礎演習133 ◎中国語基礎演習134 ◎中国語基礎演習135 ◎中国語基礎演習136 ◎中国語基礎演習137 ◎中国語基礎演習138 ◎中国語基礎演習139 ◎中国語基礎演習140 ◎中国語基礎演習141 ◎中国語基礎演習142 ◎中国語基礎演習143 ◎中国語基礎演習144 ◎中国語基礎演習145 ◎中国語基礎演習146 ◎中国語基礎演習147 ◎中国語基礎演習148 ◎中国語基礎演習149 ◎中国語基礎演習150 ◎中国語基礎演習151 ◎中国語基礎演習152 ◎中国語基礎演習153 ◎中国語基礎演習154 ◎中国語基礎演習155 ◎中国語基礎演習156 ◎中国語基礎演習157 ◎中国語基礎演習158 ◎中国語基礎演習159 ◎中国語基礎演習160 ◎中国語基礎演習161 ◎中国語基礎演習162 ◎中国語基礎演習163 ◎中国語基礎演習164 ◎中国語基礎演習165 ◎中国語基礎演習166 ◎中国語基礎演習167 ◎中国語基礎演習168 ◎中国語基礎演習169 ◎中国語基礎演習170 ◎中国語基礎演習171 ◎中国語基礎演習172 ◎中国語基礎演習173 ◎中国語基礎演習174 ◎中国語基礎演習175 ◎中国語基礎演習176 ◎中国語基礎演習177 ◎中国語基礎演習178 ◎中国語基礎演習179 ◎中国語基礎演習180 ◎中国語基礎演習181 ◎中国語基礎演習182 ◎中国語基礎演習183 ◎中国語基礎演習184 ◎中国語基礎演習185 ◎中国語基礎演習186 ◎中国語基礎演習187 ◎中国語基礎演習188 ◎中国語基礎演習189 ◎中国語基礎演習190 ◎中国語基礎演習191 ◎中国語基礎演習192 ◎中国語基礎演習193 ◎中国語基礎演習194 ◎中国語基礎演習195 ◎中国語基礎演習196 ◎中国語基礎演習197 ◎中国語基礎演習198 ◎中国語基礎演習199 ◎中国語基礎演習200 ◎中国語基礎演習201 ◎中国語基礎演習202 ◎中国語基礎演習203 ◎中国語基礎演習204 ◎中国語基礎演習205 ◎中国語基礎演習206 ◎中国語基礎演習207 ◎中国語基礎演習208 ◎中国語基礎演習209 ◎中国語基礎演習210 ◎中国語基礎演習211 ◎中国語基礎演習212 ◎中国語基礎演習213 ◎中国語基礎演習214 ◎中国語基礎演習215 ◎中国語基礎演習216 ◎中国語基礎演習217 ◎中国語基礎演習218 ◎中国語基礎演習219 ◎中国語基礎演習220 ◎中国語基礎演習221 ◎中国語基礎演習222 ◎中国語基礎演習223 ◎中国語基礎演習224 ◎中国語基礎演習225 ◎中国語基礎演習226 ◎中国語基礎演習227 ◎中国語基礎演習228 ◎中国語基礎演習229 ◎中国語基礎演習230 ◎中国語基礎演習231 ◎中国語基礎演習232 ◎中国語基礎演習233 ◎中国語基礎演習234 ◎中国語基礎演習235 ◎中国語基礎演習236 ◎中国語基礎演習237 ◎中国語基礎演習238 ◎中国語基礎演習239 ◎中国語基礎演習240 ◎中国語基礎演習241 ◎中国語基礎演習242 ◎中国語基礎演習243 ◎中国語基礎演習244 ◎中国語基礎演習245 ◎中国語基礎演習246 ◎中国語基礎演習247 ◎中国語基礎演習248 ◎中国語基礎演習249 ◎中国語基礎演習250 ◎中国語基礎演習251 ◎中国語基礎演習252 ◎中国語基礎演習253 ◎中国語基礎演習254 ◎中国語基礎演習255 ◎中国語基礎演習256 ◎中国語基礎演習257 ◎中国語基礎演習258 ◎中国語基礎演習259 ◎中国語基礎演習260 ◎中国語基礎演習261 ◎中国語基礎演習262 ◎中国語基礎演習263 ◎中国語基礎演習264 ◎中国語基礎演習265 ◎中国語基礎演習266 ◎中国語基礎演習267 ◎中国語基礎演習268 ◎中国語基礎演習269 ◎中国語基礎演習270 ◎中国語基礎演習271 ◎中国語基礎演習272 ◎中国語基礎演習273 ◎中国語基礎演習274 ◎中国語基礎演習275 ◎中国語基礎演習276 ◎中国語基礎演習277 ◎中国語基礎演習278 ◎中国語基礎演習279 ◎中国語基礎演習280 ◎中国語基礎演習281 ◎中国語基礎演習282 ◎中国語基礎演習283 ◎中国語基礎演習284 ◎中国語基礎演習285 ◎中国語基礎演習286 ◎中国語基礎演習287 ◎中国語基礎演習288 ◎中国語基礎演習289 ◎中国語基礎演習290 ◎中国語基礎演習291 ◎中国語基礎演習292 ◎中国語基礎演習293 ◎中国語基礎演習294 ◎中国語基礎演習295 ◎中国語基礎演習296 ◎中国語基礎演習297 ◎中国語基礎演習298 ◎中国語基礎演習299 ◎中国語基礎演習300 ◎中国語基礎演習301 ◎中国語基礎演習302 ◎中国語基礎演習303 ◎中国語基礎演習304 ◎中国語基礎演習305 ◎中国語基礎演習306 ◎中国語基礎演習307 ◎中国語基礎演習308 ◎中国語基礎演習309 ◎中国語基礎演習310 ◎中国語基礎演習311 ◎中国語基礎演習312 ◎中国語基礎演習313 ◎中国語基礎演習314 ◎中国語基礎演習315 ◎中国語基礎演習316 ◎中国語基礎演習317 ◎中国語基礎演習318 ◎中国語基礎演習319 ◎中国語基礎演習320 ◎中国語基礎演習321 ◎中国語基礎演習322 ◎中国語基礎演習323 ◎中国語基礎演習324 ◎中国語基礎演習325 ◎中国語基礎演習326 ◎中国語基礎演習327 ◎中国語基礎演習328 ◎中国語基礎演習329 ◎中国語基礎演習330 ◎中国語基礎演習331 ◎中国語基礎演習332 ◎中国語基礎演習333 ◎中国語基礎演習334 ◎中国語基礎演習335 ◎中国語基礎演習336 ◎中国語基礎演習337 ◎中国語基礎演習338 ◎中国語基礎演習339 ◎中国語基礎演習340 ◎中国語基礎演習341 ◎中国語基礎演習342 ◎中国語基礎演習343 ◎中国語基礎演習344 ◎中国語基礎演習345 ◎中国語基礎演習346 ◎中国語基礎演習347 ◎中国語基礎演習348 ◎中国語基礎演習349 ◎中国語基礎演習350 ◎中国語基礎演習351 ◎中国語基礎演習352 ◎中国語基礎演習353 ◎中国語基礎演習354 ◎中国語基礎演習355 ◎中国語基礎演習356 ◎中国語基礎演習357 ◎中国語基礎演習358 ◎中国語基礎演習359 ◎中国語基礎演習360 ◎中国語基礎演習361 ◎中国語基礎演習362 ◎中国語基礎演習363 ◎中国語基礎演習364 ◎中国語基礎演習365 ◎中国語基礎演習366 ◎中国語基礎演習367 ◎中国語基礎演習368 ◎中国語基礎演習369 ◎中国語基礎演習370 ◎中国語基礎演習371 ◎中国語基礎演習372 ◎中国語基礎演習373 ◎中国語基礎演習374 ◎中国語基礎演習375 ◎中国語基礎演習376 ◎中国語基礎演習377 ◎中国語基礎演習378 ◎中国語基礎演習379 ◎中国語基礎演習380 ◎中国語基礎演習381 ◎中国語基礎演習382 ◎中国語基礎演習383 ◎中国語基礎演習384 ◎中国語基礎演習385 ◎中国語基礎演習386 ◎中国語基礎演習387 ◎中国語基礎演習388 ◎中国語基礎演習389 ◎中国語基礎演習390 ◎中国語基礎演習391 ◎中国語基礎演習392 ◎中国語基礎演習393 ◎中国語基礎演習394 ◎中国語基礎演習395 ◎中国語基礎演習396 ◎中国語基礎演習397 ◎中国語基礎演習398 ◎中国語基礎演習399 ◎中国語基礎演習400 ◎中国語基礎演習401 ◎中国語基礎演習402 ◎中国語基礎演習403 ◎中国語基礎演習404 ◎中国語基礎演習405 ◎中国語基礎演習406 ◎中国語基礎演習407 ◎中国語基礎演習408 ◎中国語基礎演習409 ◎中国語基礎演習410 ◎中国語基礎演習411 ◎中国語基礎演習412 ◎中国語基礎演習413 ◎中国語基礎演習414 ◎中国語基礎演習415 ◎中国語基礎演習416 ◎中国語基礎演習417 ◎中国語基礎演習418 ◎中国語基礎演習419 ◎中国語基礎演習420 ◎中国語基礎演習421 ◎中国語基礎演習422 ◎中国語基礎演習423 ◎中国語基礎演習424 ◎中国語基礎演習425 ◎中国語基礎演習426 ◎中国語基礎演習427 ◎中国語基礎演習428 ◎中国語基礎演習429 ◎中国語基礎演習430 ◎中国語基礎演習431 ◎中国語基礎演習432 ◎中国語基礎演習433 ◎中国語基礎演習434 ◎中国語基礎演習435 ◎中国語基礎演習436 ◎中国語基礎演習437 ◎中国語基礎演習438 ◎中国語基礎演習439 ◎中国語基礎演習440 ◎中国語基礎演習441 ◎中国語基礎演習442 ◎中国語基礎演習443 ◎中国語基礎演習444 ◎中国語基礎演習445 ◎中国語基礎演習446 ◎中国語基礎演習447 ◎中国語基礎演習448 ◎中国語基礎演習449 ◎中国語基礎演習450 ◎中国語基礎演習451 ◎中国語基礎演習452 ◎中国語基礎演習453 ◎中国語基礎演習454 ◎中国語基礎演習455 ◎中国語基礎演習456 ◎中国語基礎演習457 ◎中国語基礎演習458 ◎中国語基礎演習459 ◎中国語基礎演習460 ◎中国語基礎演習461 ◎中国語基礎演習462 ◎中国語基礎演習463 ◎中国語基礎演習464 ◎中国語基礎演習465 ◎中国語基礎演習466 ◎中国語基礎演習467 ◎中国語基礎演習468 ◎中国語基礎演習469 ◎中国語基礎演習470 ◎中国語基礎演習471 ◎中国語基礎演習472 ◎中国語基礎演習473 ◎中国語基礎演習474 ◎中国語基礎演習475 ◎中国語基礎演習476 ◎中国語基礎演習477 ◎中国語基礎演習478 ◎中国語基礎演習479 ◎中国語基礎演習480 ◎中国語基礎演習481 ◎中国語基礎演習482 ◎中国語基礎演習483 ◎中国語基礎演習484 ◎中国語基礎演習485 ◎中国語基礎演習486 ◎中国語基礎演習487 ◎中国語基礎演習488 ◎中国語基礎演習489 ◎中国語基礎演習490 ◎中国語基礎演習491 ◎中国語基礎演習492 ◎中国語基礎演習493 ◎中国語基礎演習494 ◎中国語基礎演習495 ◎中国語基礎演習496 ◎中国語基礎演習497 ◎中国語基礎演習498 ◎中国語基礎演習499 ◎中国語基礎演習500 ◎中国語基礎演習501 ◎中国語基礎演習502 ◎中国語基礎演習503 ◎中国語基礎演習504 ◎中国語基礎演習505 ◎中国語基礎演習506 ◎中国語基礎演習507 ◎中国語基礎演習508 ◎中国語基礎演習509 ◎中国語基礎演習510 ◎中国語基礎演習511 ◎中国語基礎演習512 ◎中国語基礎演習513 ◎中国語基礎演習514 ◎中国語基礎演習515 ◎中国語基礎演習516 ◎中国語基礎演習517 ◎中国語基礎演習518 ◎中国語基礎演習519 ◎中国語基礎演習520 ◎中国語基礎演習521 ◎中国語基礎演習522 ◎中国語基礎演習523 ◎中国語基礎演習524 ◎中国語基礎演習525 ◎中国語基礎演習526 ◎中国語基礎演習527 ◎中国語基礎演習528 ◎中国語基礎演習529 ◎中国語基礎演習530 ◎中国語基礎演習531 ◎中国語基礎演習532 ◎中国語基礎演習533 ◎中国語基礎演習534 ◎中国語基礎演習535 ◎中国語基礎演習536 ◎中国語基礎演習537 ◎中国語基礎演習538 ◎中国語基礎演習539 ◎中国語基礎演習540 ◎中国語基礎演習541 ◎中国語基礎演習542 ◎中国語基礎演習543 ◎中国語基礎演習544 ◎中国語基礎演習545 ◎中国語基礎演習546 ◎中国語基礎演習547 ◎中国語基礎演習548 ◎中国語基礎演習549 ◎中国語基礎演習550 ◎中国語基礎演習551 ◎中国語基礎演習552 ◎中国語基礎演習553 ◎中国語基礎演習554 ◎中国語基礎演習555 ◎中国語基礎演習556 ◎中国語基礎演習557 ◎中国語基礎演習558 ◎中国語基礎演習559 ◎中国語基礎演習560 ◎中国語基礎演習561 ◎中国語基礎演習562 ◎中国語基礎演習563 ◎中国語基礎演習564 ◎中国語基礎演習565 ◎中国語基礎演習566 ◎中国語基礎演習567 ◎中国語基礎演習568 ◎中国語基礎演習569 ◎中国語基礎演習570 ◎中国語基礎演習571 ◎中国語基礎演習572 ◎中国語基礎演習573 ◎中国語基礎演習574 ◎中国語基礎演習575 ◎中国語基礎演習576 ◎中国語基礎演習577 ◎中国語基礎演習578 ◎中国語基礎演習579 ◎中国語基礎演習580 ◎中国語基礎演習581 ◎中国語基礎演習582 ◎中国語基礎演習583 ◎中国語基礎演習584 ◎中国語基礎演習585 ◎中国語基礎演習586 ◎中国語基礎演習587 ◎中国語基礎演習588 ◎中国語基礎演習589 ◎中国語基礎演習590 ◎中国語基礎演習591 ◎中国語基礎演習592 ◎中国語基礎演習593 ◎中国語基礎演習594 ◎中国語基礎演習595 ◎中国語基礎演習596 ◎中国語基礎演習597 ◎中国語基礎演習598 ◎中国語基礎演習599 ◎中国語基礎演習600 ◎中国語基礎演習601 ◎中国語基礎演習602 ◎中国語基礎演習603 ◎中国語基礎演習604 ◎中国語基礎演習605 ◎中国語基礎演習606 ◎中国語基礎演習607 ◎中国語基礎演習608 ◎中国語基礎演習609 ◎中国語基礎演習610 ◎中国語基礎演習611 ◎中国語基礎演習612 ◎中国語基礎演習613 ◎中国語基礎演習614 ◎中国語基礎演習615 ◎中国語基礎演習616 ◎中国語基礎演習617 ◎中国語基礎演習618 ◎中国語基礎演習619 ◎中国語基礎演習620 ◎中国語基礎演習621 ◎中国語基礎演習622 ◎中国語基礎演習623 ◎中国語基礎演習624 ◎中国語基礎演習625 ◎中国語基礎演習626 ◎中国語基礎演習627 ◎中国語基礎演習628 ◎中国語基礎演習629 ◎中国語基礎演習630 ◎中国語基礎演習631 ◎中国語基礎演習632 ◎中国語基礎演習633 ◎中国語基礎演習634 ◎中国語基礎演習635 ◎中国語基礎演習636 ◎中国語基礎演習637 ◎中国語基礎演習638 ◎中国語基礎演習639 ◎中国語基礎演習640 ◎中国語基礎演習641 ◎中国語基礎演習642 ◎中国語基礎演習643 ◎中国語基礎演習644 ◎中国語基礎演習645 ◎中国語基礎演習646 ◎中国語基礎演習647 ◎中国語基礎演習648 ◎中国語基礎演習649 ◎中国語基礎演習650 ◎中国語基礎演習651 ◎中国語基礎演習652 ◎中国語基礎演習653 ◎中国語基礎演習654 ◎中国語基礎演習655 ◎中国語基礎演習656 ◎中国語基礎演習657 ◎中国語基礎演習658 ◎中国語基礎演習659 ◎中国語基礎演習660 ◎中国語基礎演習661 ◎中国語基礎演習662 ◎中国語基礎演習663 ◎中国語基礎演習664 ◎中国語基礎演習665 ◎中国語基礎演習666 ◎中国語基礎演習667 ◎中国語基礎演習668 ◎中国語基礎演習669 ◎中国語基礎演習670 ◎中国語基礎演習671 ◎中国語基礎演習672 ◎中国語基礎演習673 ◎中国語基礎演習674 ◎中国語基礎演習675 ◎中国語基礎演習676 ◎中国語基礎演習677 ◎中国語基礎演習678 ◎中国語基礎演習679 ◎中国語基礎演習680 ◎中国語基礎演習681 ◎中国語基礎演習682 ◎中国語基礎演習683 ◎中国語基礎演習684 ◎中国語基礎演習685 ◎中国語基礎演習686 ◎中国語基礎演習687 ◎中国語基礎演習688 ◎中国語基礎演習689 ◎中国語基礎演習690 ◎中国語基礎演習691 ◎中国語基礎演習692 ◎中国語基礎演習693 ◎中国語基礎演習694 ◎中国語基礎演習695 ◎中国語基礎演習696 ◎中国語基礎演習697 ◎中国語基礎演習698 ◎中国語基礎演習699 ◎中国語基礎演習700 ◎中国語基礎演習701 ◎中国語基礎演習702 ◎中国語基礎演習703 ◎中国語基礎演習704 ◎中国語基礎演習705 ◎中国語基礎演習706 ◎中国語基礎演習707 ◎中国語基礎演習708 ◎中国語基礎演習709 ◎中国語基礎演習710 ◎中国語基礎演習711 ◎中国語基礎演習712 ◎中国語基礎演習713 ◎中国語基礎演習714 ◎中国語基礎演習715 ◎中国語基礎演習716 ◎中国語基礎演習717 ◎中国語基礎演習718 ◎中国語基礎演習719 ◎中国語基礎演習720 ◎中国語基礎演習721 ◎中国語基礎演習722 ◎中国語基礎演習723 ◎中国語基礎演習724 ◎中国語基礎演習725 ◎中国語基礎演習726 ◎中国語基礎演習727 ◎中国語基礎演習728 ◎中国語基礎演習729 ◎中国語基礎演習730 ◎中国語基礎演習731 ◎中国語基礎演習732 ◎中国語基礎演習733 ◎中国語基礎演習734 ◎中国語基礎演習735 ◎中国語基礎演習736 ◎中国語基礎演習737 ◎中国語基礎演習738 ◎中国語基礎演習739 ◎中国語基礎演習740 ◎中国語基礎演習741 ◎中国語基礎演習742 ◎中国語基礎演習743 ◎中国語基礎演習744 ◎中国語基礎演習745 ◎中国語基礎演習746 ◎中国語基礎演習747 ◎中国語基礎演習748 ◎中国語基礎演習749 ◎中国語基礎演習750 ◎中国語基礎演習751 ◎中国語基礎演習752 ◎中国語基礎演習753 ◎中国語基礎演習754 ◎中国語基礎演習755 ◎中国語基礎演習756 ◎中国語基礎演習757 ◎中国語基礎演習758 ◎中国				

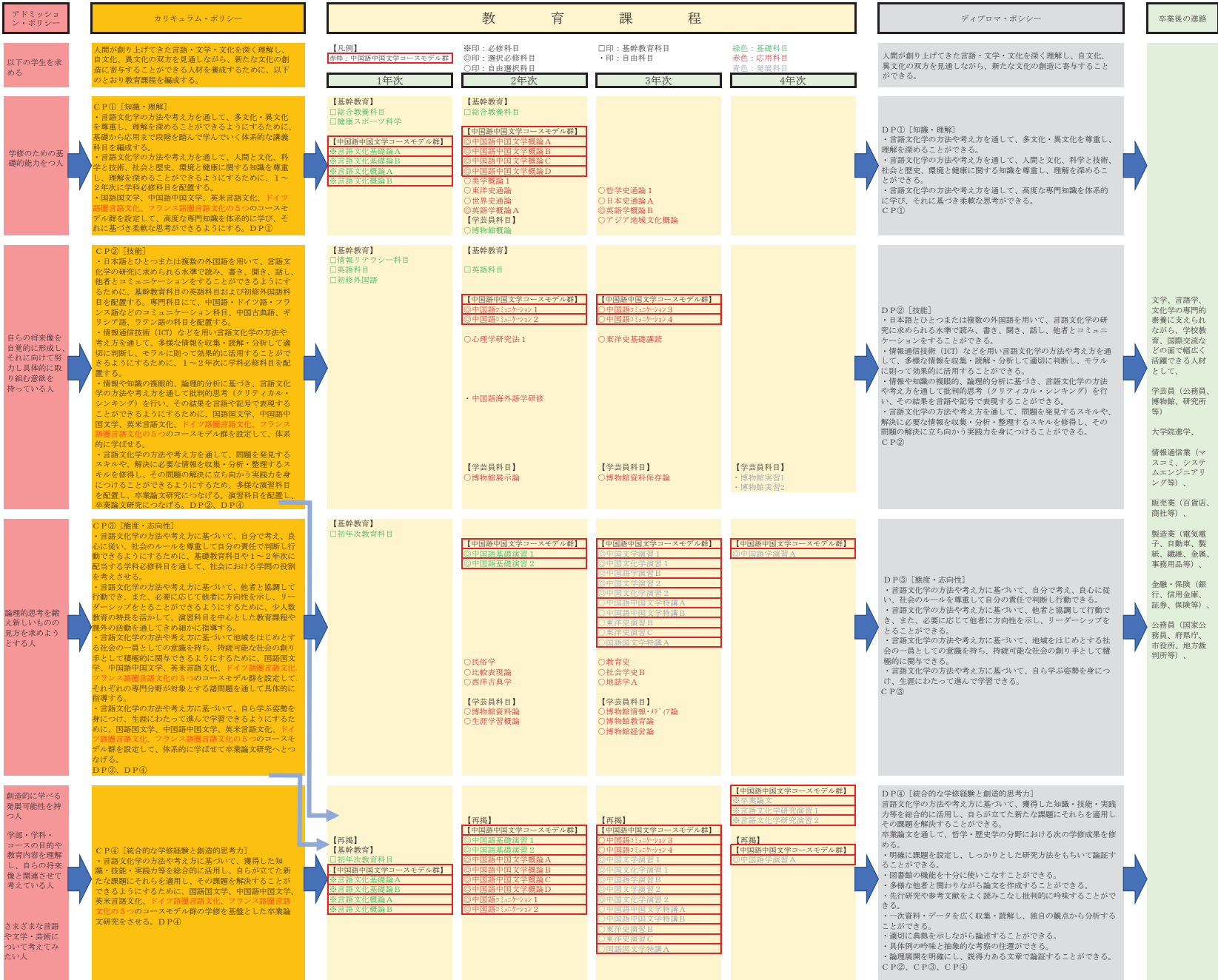
文学部 言語文化学科 中国語中国文学コース (学芸員資格取得) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営みの所産である文化と言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文芸部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。



(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

文学部 言語文化学科 英米言語文化コース カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人間の歴史的営みの所産である文化を言語を通じて根源的に理解することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生ととともに、国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー		教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー		卒業後の進路	
以下の学生を求める	カリキュラム・ポリシー	【凡例】 赤枠：英米言語文化コースモデル群 ※印：必修科目 ○印：選択必修科目 ◇印：自由選択科目 □印：基礎教育科目 ・印：自由科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目				人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる。			
	学修のための基礎的能力をつつ	C P①【知識・理解】 ・言語文化の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・言語文化の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配課する。 ・国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。D P①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【英米言語文化コースモデル群】 ※言語文化概論A ※言語文化概論B ○人間行動学概論A ○人間行動学概論B ・教職概論	【基礎教育】 □総合教養科目 【英米言語文化コースモデル群】 ※言語文化概論A ※言語文化概論B ※英語学概論A ※英語学概論B ※英米文化概論 ○フランス語学概論 ○国文学史B ○ドイツ語学概論	□フランス語学概論 ○社会学概論A ○心理学概論1 ○宗教学概論1 ○史学概論 ○自然地理学概論	D P①【知識・理解】 ・言語文化の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。C P①			
	自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取組み意欲を持っている人	C P②【技術】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配課する。専門科目にて、中国語・ドイツ語・フランス語などのコミュニケーション科目、中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配課する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配課する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・言語文化の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配課し、卒業論文研究につなげる。D P②、D P③	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【英米言語文化コースモデル群】 ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○ドイツ語圏文化論 ○フランス語圏文化論 ○博物館学概論 ○西洋史特講A ○表現文化特論 ○社会学特論B	【基礎教育】 □英語科目 【英米言語文化コースモデル群】 ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○ドイツ語圏文化論 ○フランス語圏文化論 ○博物館学概論 ○西洋史特講A ○表現文化特論 ○社会学特論B	【教科科目】 ・教育実習（2単位） ・教育実習事前事後指導（中・高） ・教職実践演習（中・高）	D P②【技術】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・言語文化の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。C P②	文学、言語学、文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 中学・高等学校教員 大学院進学、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 販売業（百貨店、商社等）、 製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、		
	論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	C P③【態度・志向性】 ・言語文化の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目と1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特質を活かし、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一端としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身に付け、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。D P③、D P④	【基礎教育】 □初級次教育科目 【英米言語文化コースモデル群】 ※英米文学概論B ※英米文化概論 ※英語学演習 ○国語学基礎論 ○フランス語圏文学史	【英米言語文化コースモデル群】 ※英米文学概論B ※英米文化概論 ※英語学演習 ○国語学基礎論 ○フランス語圏文学史	【教科科目】 ○発達・学習論 ○教育基礎論 ○教育制度論 ・外国語科教育法（英語）1 B ・外国語科教育法（英語）1 A ・特別活動論 ・教育知論 ・教育方法論 ・生徒・進路指導論 ・総合的な探究の指導論 ・特別支援教育論 ・教育課程論	D P③【態度・志向性】 ・言語文化の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一端としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身に付け、生涯にわたって進んで学習できる。C P③			
創造的に学べる発展可能性を持つ人 学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人 さまざまな言語や文学・芸術について賞讃してみたい人	C P④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・言語文化の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を統合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群の学修を基盤として卒業論文研究をさせる。D P④	【西地】 【基礎教育】 □初級次教育科目 【英米言語文化コースモデル群】 ※言語文化概論A ※言語文化概論B ※英語学概論A ※英語学概論B ※英米文化概論 ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○英米文化演習B ○英米文化演習C ○英語学演習D	【英米言語文化コースモデル群】 ※言語文化概論A ※言語文化概論B ※英語学概論A ※英語学概論B ※英米文化概論 ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○英米文化演習B ○英米文化演習C ○英語学演習D	【西地】 【英米言語文化コースモデル群】 ※言語文化概論A ※言語文化概論B ※英語学概論A ※英語学概論B ※英米文化演習B ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○英米文化演習B ○英米文化演習C ○英語学演習D	D P④【統合的な学修経験と創造的思考力】 言語文化の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を統合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みふみ批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往復ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。C P②、C P③、C P④				

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史の営みの所産である文化を言語を通じて根拠的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とともに、国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけて、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに言語文化学科では、人間が創り上げた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー		卒業後の進路			
以下の学生を求める		人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。		【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ◇印：自由選択科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目				人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる。					
学修のための基礎的能力をつつ	C P ① [知識・理解] ・言語文化の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・言語文化の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。D P ①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※言語文化基礎論A ※言語文化基礎論B ※言語文化概論A ※言語文化概論B ◎国文学史A ◎国文学史B		【基礎教育】 □総合教養科目 □ドイツ語圏特修A □ドイツ語圏特修B 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群1 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群2 ◎国文学史C ◎国文学史D ◎英米文化概論 ◎フランス語圏言語文化論		【基礎教育】 □ドイツ語圏特修E □ドイツ語圏特修F 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群1 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群2 ◎英米文学史A ◎フランス語学概論		D P ① [知識・理解] ・言語文化の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。C P ①					
		【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語		【基礎教育】 □英語科目 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群1 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群2 ◎ヨーロッパ言語文化概論 ◎ギリシア語1 ◎ギリシア語2									
		自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的にに取り組む意欲を持っている人		C P ② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目にて、中国語・ドイツ語・フランス語などのコミュニケーション科目、中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・解釈・分析して適切に判断し、モラルに即って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・言語文化の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。D P ②、D P ④		【基礎教育】 □初年次教育科目 ◎フランス語圏文学史 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏文学史 ※ドイツ語圏文学文化論 ※ドイツ語圏言語文化基礎論A ※ドイツ語圏言語文化基礎論B ※ドイツ語圏言語文化基礎論C ◎西洋古典学 ◎教育基礎論 ◎発達・学習論		【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群1 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群2 ◎フランス語圏文化論 ◎美術史通論A ◎美術史通論B ◎英米文学特講 ◎比較文化交流論 ◎博物館情報・メディア論		D P ② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・解釈・分析して適切に判断し、モラルに即って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・言語文化の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。C P ②		文学、言語学、文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 販売業（百貨店、商社等）、 製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、	
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	C P ③ [態度・志向性] ・言語文化の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に相当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考へさせる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。D P ③、D P ④	【基礎教育】 □初年次教育科目 ◎フランス語圏文学史 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群1 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群2 ◎フランス語圏文化論 ◎美術史通論A ◎美術史通論B ◎英米文学特講 ◎比較文化交流論 ◎博物館情報・メディア論		【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群1 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群2 ◎フランス語圏文化論 ◎美術史通論A ◎美術史通論B ◎英米文学特講 ◎比較文化交流論 ◎博物館情報・メディア論		D P ③ [態度・志向性] ・言語文化の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。C P ③		公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、					
		【基礎教育】 □初年次教育科目 ◎フランス語圏文学史 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群1 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群2 ◎フランス語圏文化論 ◎美術史通論A ◎美術史通論B ◎英米文学特講 ◎比較文化交流論 ◎博物館情報・メディア論		【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群1 ※ドイツ語圏言語文化コースモデル群2 ◎フランス語圏文化論 ◎美術史通論A ◎美術史通論B ◎英米文学特講 ◎比較文化交流論 ◎博物館情報・メディア論		D P ③ [態度・志向性] ・言語文化の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・言語文化の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。C P ③		公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、					
		創造的に学べる発展可能性を持つ人		C P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・言語文化の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。D P ④		【基礎教育】 □初年次教育科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ※言語文化基礎論A ※言語文化基礎論B ※言語文化概論A ※言語文化概論B ◎フランス語圏文学史		【基礎教育】 □総合教養科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ①ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ②ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ③ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ④ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑤ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑥ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑦ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑧ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑨ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑩ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑪ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑫ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑬ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑭ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑮ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑯ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑰ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉑ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉒ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉓ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉔ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉕ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉖ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉗ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉘ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉙ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉚ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉛ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉜ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉝ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉞ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉟ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊴ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊵ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊶ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊷ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊸ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊹ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊺ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊻ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊼ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊽ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊾ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊿ドイツ語圏言語文化コースモデル群		【基礎教育】 □総合教養科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ①ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ②ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ③ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ④ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑤ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑥ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑦ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑧ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑨ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑩ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑪ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑫ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑬ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑭ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑮ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑯ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑰ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉑ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉒ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉓ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉔ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉕ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉖ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉗ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉘ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉙ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉚ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉛ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉜ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉝ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉞ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉟ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊴ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊵ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊶ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊷ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊸ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊹ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊺ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊻ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊼ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊽ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊾ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊿ドイツ語圏言語文化コースモデル群		D P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] 言語文化の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論證することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論證することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考証の往復ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論證することができる。C P ②、C P ③、C P ④	
学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人		C P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・言語文化の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。D P ④		【基礎教育】 □初年次教育科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ※言語文化基礎論A ※言語文化基礎論B ※言語文化概論A ※言語文化概論B ◎フランス語圏文学史		【基礎教育】 □総合教養科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ①ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ②ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ③ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ④ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑤ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑥ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑦ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑧ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑨ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑩ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑪ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑫ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑬ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑭ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑮ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑯ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑰ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉑ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉒ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉓ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉔ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉕ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉖ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉗ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉘ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉙ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉚ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉛ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉜ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉝ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉞ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉟ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊴ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊵ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊶ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊷ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊸ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊹ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊺ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊻ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊼ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊽ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊾ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊿ドイツ語圏言語文化コースモデル群		【基礎教育】 □総合教養科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ①ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ②ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ③ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ④ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑤ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑥ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑦ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑧ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑨ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑩ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑪ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑫ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑬ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑭ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑮ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑯ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑰ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉑ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉒ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉓ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉔ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉕ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉖ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉗ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉘ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉙ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉚ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉛ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉜ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉝ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉞ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉟ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊴ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊵ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊶ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊷ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊸ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊹ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊺ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊻ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊼ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊽ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊾ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊿ドイツ語圏言語文化コースモデル群		D P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] 言語文化の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論證することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論證することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考証の往復ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論證することができる。C P ②、C P ③、C P ④		文学、言語学、文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 販売業（百貨店、商社等）、 製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、	
さまざまな言語や文学・芸術について考えてみたい人		C P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・言語文化の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化の5つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。D P ④		【基礎教育】 □初年次教育科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ※言語文化基礎論A ※言語文化基礎論B ※言語文化概論A ※言語文化概論B ◎フランス語圏文学史		【基礎教育】 □総合教養科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ①ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ②ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ③ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ④ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑤ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑥ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑦ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑧ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑨ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑩ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑪ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑫ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑬ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑭ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑮ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑯ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑰ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉑ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉒ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉓ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉔ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉕ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉖ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉗ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉘ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉙ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉚ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉛ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉜ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉝ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉞ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉟ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊴ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊵ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊶ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊷ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊸ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊹ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊺ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊻ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊼ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊽ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊾ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊿ドイツ語圏言語文化コースモデル群		【基礎教育】 □総合教養科目 □ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ①ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ②ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ③ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ④ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑤ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑥ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑦ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑧ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑨ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑩ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑪ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑫ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑬ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑭ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑮ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑯ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑰ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ⑳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉑ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉒ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉓ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉔ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉕ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉖ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉗ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉘ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉙ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉚ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉛ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉜ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉝ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉞ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㉟ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊱ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊲ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊳ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊴ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊵ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊶ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊷ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊸ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊹ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊺ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊻ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊼ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊽ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊾ドイツ語圏言語文化コースモデル群 ㊿ドイツ語圏言語文化コースモデル群		D P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] 言語文化の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論證することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論證することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考証の往復ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論證することができる。C P ②、C P ③、C P ④		文学、言語学、文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 販売業（百貨店、商社等）、 製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、	

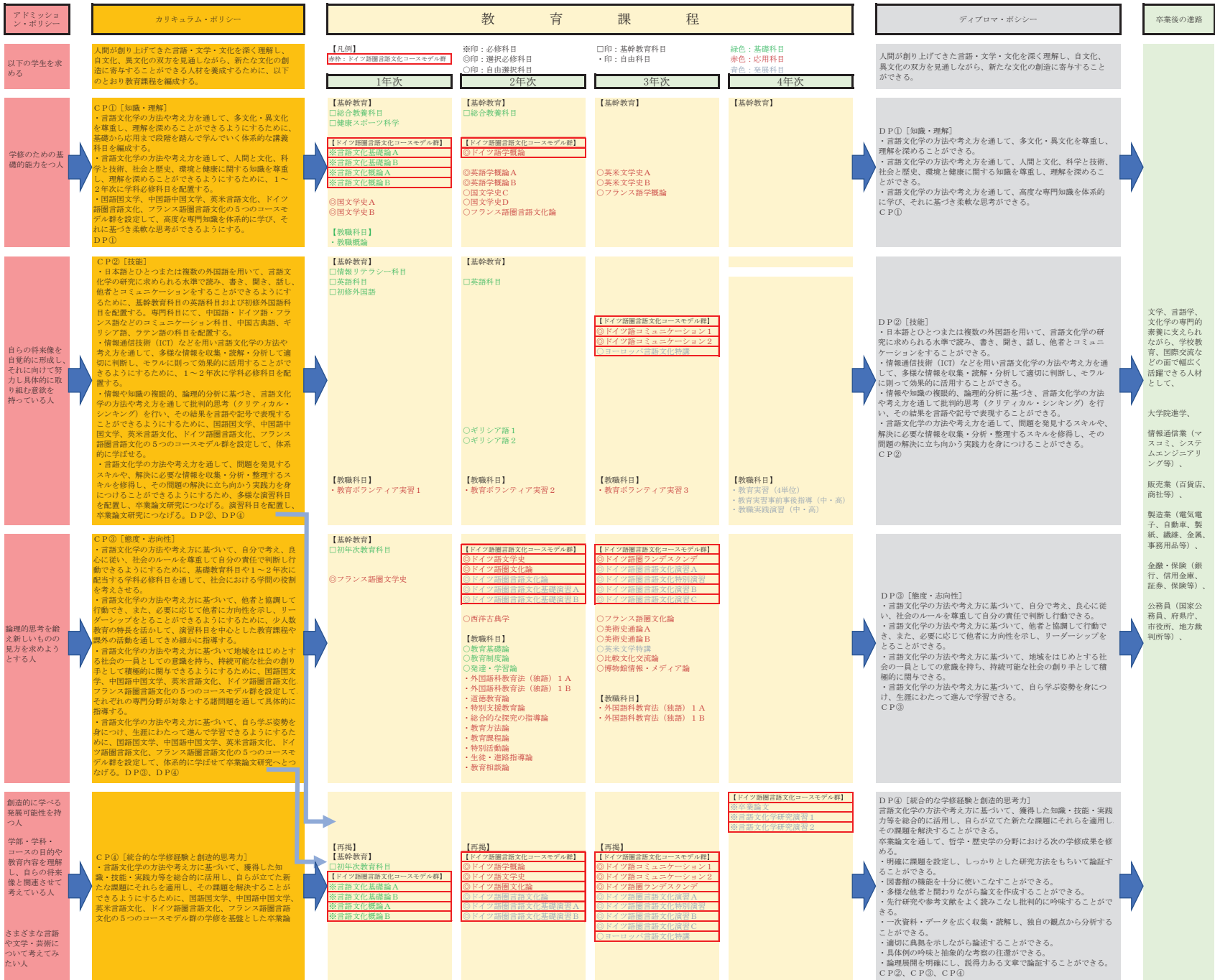
（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

文学部 言語文化学科 ドイツ語圏言語文化コース（教員免許取得）カリキュラムマップ

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよき可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人間の歴史的営みの所産である文化を言語を通じて根源的に理解することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とともに、国際国文学、中国語中国文学、英米言語文化、ドイツ語圏言語文化、フランス語圏言語文化、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよき可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。



（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史の営みの所産である文化を言語を通じて積極的に理解することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学科である。グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、**ドイツ語圏言語文化**、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくことが強く求められている。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。

具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸現象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。

とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 緑色 ：ドイツ語圏言語文化コースモデル群 赤色 ：総合教養科目 青色 ：健康スポーツ科学	※印 ：必修科目 ◎印 ：選択必修科目 ○印 ：自由選択科目	□印 ：基礎教育科目 ・印 ：自由科目	緑色 ：基礎科目 赤色 ：応用科目 青色 ：発展科目	人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することができる。	
学修のための基礎的能力をつつ	C P ① 【知識・理解】 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、 ドイツ語圏言語文化 、 フランス語圏言語文化 の5つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P ①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎言語文化基礎論A ◎言語文化基礎論B ◎言語文化概論A ◎言語文化概論B	【基礎教育】 □総合教養科目 □ドイツ語特修A □ドイツ語特修B 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎ドイツ語学概論	【基礎教育】 □基礎特修E □ドイツ語特修F	【基礎教育】	D P ① 【知識・理解】 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P ①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P ② 【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目にて、中国語・ドイツ語・フランス語などのコミュニケーション科目、中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化学の方法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、 ドイツ語圏言語文化 、 フランス語圏言語文化 の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。演習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P ② 、 D P ④	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語	【基礎教育】 □英語科目	【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎ドイツ語コミュニケーション1 ◎ドイツ語コミュニケーション2	【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論	D P ② 【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、言語文化学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い言語文化学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、言語文化学の方法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・言語文化学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P ②	文学、言語学、文化学の専門的領域に支えられながら、学校教育、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 学芸員（公務員、博物館、研究所等） 大学院進学、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 販売業（百貨店、商社等）、 製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 金融・保険（銀行、信用金庫、証券、保険等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、
論理的思考を鍛え新しいものを見方を求めようとする人	D P ③ 【態度・志向性】 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、 ドイツ語圏言語文化 、 フランス語圏言語文化 の5つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野を対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、 ドイツ語圏言語文化 、 フランス語圏言語文化 の5つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P ③ 、 D P ④	【基礎教育】 □初年次教育科目	【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎ドイツ語文学史 ◎ドイツ語文化論 ◎ドイツ語圏文化概論A ◎ドイツ語圏言語文化発展習1 ◎ドイツ語圏言語文化発展習2 ◎ドイツ語圏言語文化特別演習 ◎ヨーロッパ言語文化特論 ◎文化人類学	【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎ドイツ語圏ラングスタウン ◎ドイツ語コミュニケーション1 ◎ドイツ語コミュニケーション2 ◎ドイツ語圏言語文化発展習1 ◎ドイツ語圏言語文化発展習2 ◎ドイツ語圏言語文化特別演習 ◎文化人類学	【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語 【学芸員科目】 ○博物館経営論 ○博物館情報・メディア論 ○博物館資料論 ○博物館教育論	D P ③ 【態度・志向性】 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P ③	
創造的に学べる発展可能性を持つ人	C P ④ 【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・言語文化学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが生じた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、 ドイツ語圏言語文化 、 フランス語圏言語文化 の5つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P ④	【再掲】 【基礎教育】 □初年次教育科目 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎言語文化基礎論A ◎言語文化基礎論B ◎言語文化概論A ◎言語文化概論B	【再掲】 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎ドイツ語文学史 ◎ドイツ語文化論 ◎ドイツ語圏文化概論A ◎ドイツ語圏言語文化発展習1 ◎ドイツ語圏言語文化発展習2 ◎ドイツ語圏言語文化特別演習 ◎ヨーロッパ言語文化特論 ◎文化人類学	【再掲】 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎ドイツ語圏ラングスタウン ◎ドイツ語コミュニケーション1 ◎ドイツ語コミュニケーション2 ◎ドイツ語圏言語文化発展習1 ◎ドイツ語圏言語文化発展習2 ◎ドイツ語圏言語文化特別演習 ◎文化人類学	【再掲】 【ドイツ語圏言語文化コースモデル群】 ◎ドイツ語圏言語文化発展習1 ◎ドイツ語圏言語文化発展習2 ◎ヨーロッパ言語文化特論	D P ④ 【統合的な学修経験と創造的思考力】 言語文化学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが生じた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 C 発展型学習目標達成度 取得力がある文章で論証することができる。	

（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

予測不能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人と協働しながら様々な社会的変革を導き、豊かな人生を切り拓く、持続可能な社会の創り手となるためには、人間の歴史的営為の所産である文化や言語を通じて積極的に理解することを通じて重要であり、そのニーズに応えるが、言語文化資料である。グローバルな価値文化のあらこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とをともに、国語国文学、中国語中国文学、英米言語文化、**ドイツ語国語文化、フランス語国語文化**、それぞれの言語、文学、文化、社会の視点から学問的な探究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材として育っていくのが強く求められている。

【養成する人材像】
 文芸部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人と価値しながら新たな社会的変革を起し、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人材を育成することをめざす。
 具体的には、文芸・文学に関する知識を、①人文学・行動科学の力を活用して人と社会、人と文化、言語の諸現象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
 とくに言語文化学科では、人間が創り上げてきた言語・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通したうえで、新たな文化の創造に寄与することができる人材を育成する。



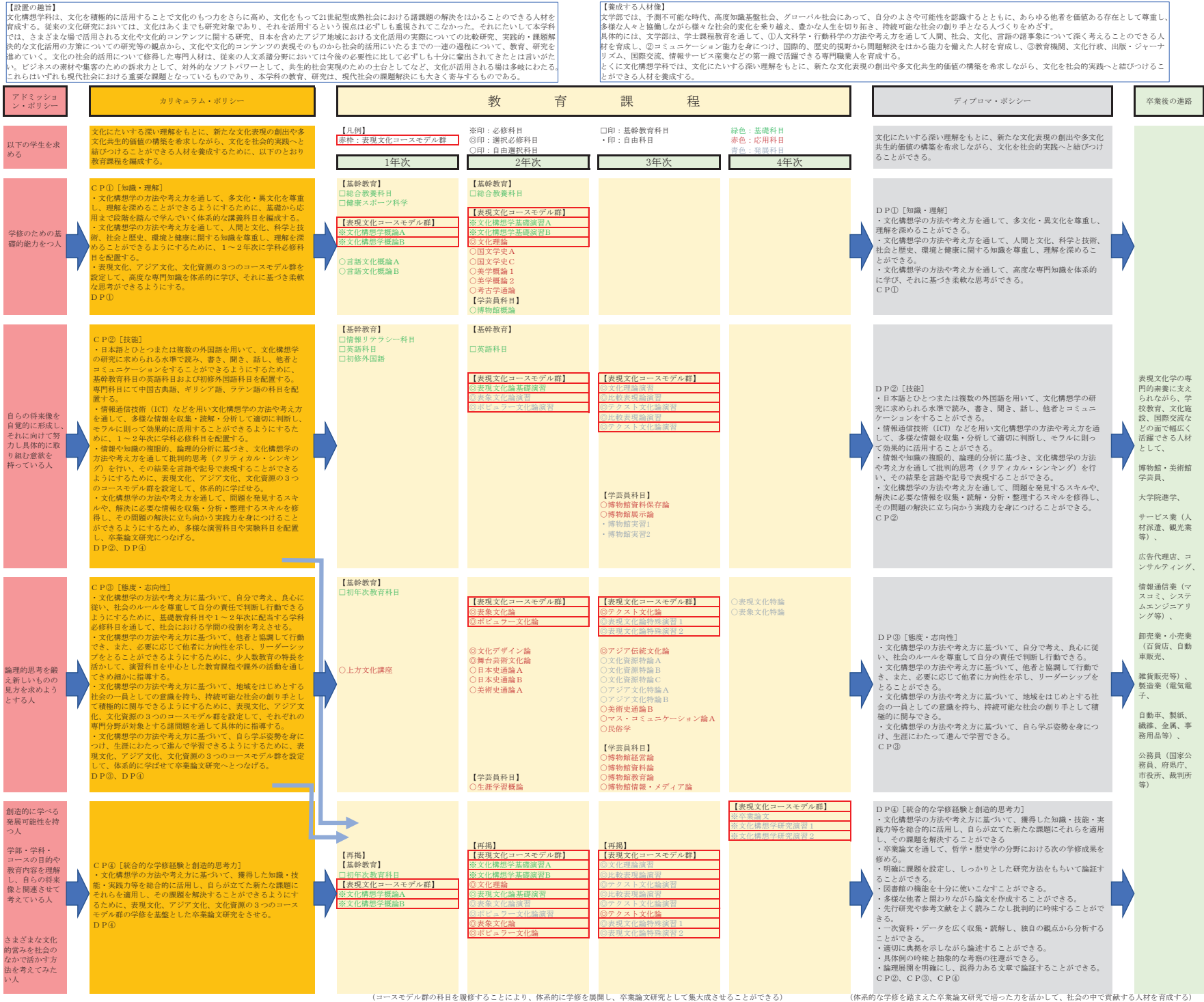
【設置の趣旨】
文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化の持つ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにより本学科では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実用についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育・研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育・研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに文化構想学科では、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：表現文化コースモデル群 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	1年次	2年次	3年次	4年次	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。
学修のための基礎的能力をつつ	C P ① [知識・理解] ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P ①	【基幹教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【表現文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学基礎演習B ※文化理論 ○言語文化概論A ○言語文化概論B	【基幹教育】 □総合教養科目 【表現文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化理論 ○社会学概論A ○社会学概論B ○国文学史A	【基幹教育】 □総合教養科目 ・印：自由科目 ○美学概論2	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	D P ① [知識・理解] ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P ①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P ② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目に中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用いた文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を見出すスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするために、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P ②、D P ③	【基幹教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【表現文化コースモデル群】 ※表現文化論基礎演習 ※表現文化論演習 ※ポピュラー文化論演習	【基幹教育】 □英語科目 【表現文化コースモデル群】 ※表現文化論基礎演習 ※表現文化論演習 ※ポピュラー文化論演習	【表現文化コースモデル群】 ※文化理論演習 ※比較表現論演習 ※テクニカル文化論演習		D P ② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用いた文化構想学の方法や考え方を通して効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を見出すスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P ②	表現文化学専攻の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 博物館・美術館学芸員、 サービス業（人材派遣、観光業等）、 広告代理店、コンサルティング、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、 雑貨販売等）、 製造業（電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	C P ③ [態度・志向性] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基幹教育科目や1～2年次に相当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P ③、D P ④	【基幹教育】 □初年次教育科目 ○上方文化講座	【表現文化コースモデル群】 ※表象文化論 ※テクニカル文化論 ※ポピュラー文化論 ※舞台芸術文化論 ※文化デザイン論 ○文化資源特論A ○アジア文化特論A ○文化資源特論B ○アジア文化特論B ○民俗学 ○美学概論1 ○マス・コミュニケーション論A ○美術史通論B 【英語による授業】 ○比較文化交流論	【表現文化コースモデル群】 ※表象文化論 ※テクニカル文化論 ※表現文化論特論演習1 ※表現文化論特論演習2 ※表象文化特論 ○文化資源特論A ○アジア文化特論A ○文化資源特論B ○アジア文化特論B ○民俗学 ○美学概論1 ○マス・コミュニケーション論A ○美術史通論B 【英語による授業】 ○比較文化交流論		D P ③ [態度・志向性] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P ③	卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、 雑貨販売等）、 製造業（電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
創造的に学べる発展可能性を持つ人 学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像と関連させて考えている人 さまざまな文化的営みを社会のなかで活かす方法を考えてみたい人	C P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P ④	【再掲】 【基幹教育】 □初年次教育科目 【表現文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学基礎演習B ※文化理論 ※表象文化論 ※ポピュラー文化論	【再掲】 【表現文化コースモデル群】 ※文化理論演習 ※文化理論演習B ※文化理論演習 ※表象文化論 ※ポピュラー文化論	【再掲】 【表現文化コースモデル群】 ※文化理論演習 ※文化理論演習 ※テクニカル文化論 ※表現文化論特論演習1 ※表現文化論特論演習2 ※表象文化特論	【表現文化コースモデル群】 ※卒業論文 ※文化構想学研究演習1 ※文化構想学研究演習2	D P ④ [統合的な学修経験と創造的思考力] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。 ・卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論述することができる。 C P ②、C P ③、C P ④	

（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）



（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】
文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもつて21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それに対して本学科では、さまざまな場で活用される文化や文脈のコンテクストに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実践についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方法についての研究等の観点から、文化や文脈のコンテクストを捉えるものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めている。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に活用されてきたとはいえない。ビジネスの素材や接客のための新スキルとして、公共的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学上課題教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに文化構想学科は、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生の価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生の価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：アジア文化コースモデル群 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	○印：基幹教育科目 ・印：自由科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生の価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	
		1年次	2年次	3年次	4年次		
学修のための基礎的能力をつつ	C P ①【知識・理解】 ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P ①	【基幹教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B	【基幹教育】 □総合教養科目 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎アジア地域文化概論 ◎アジア伝統文化概論 ◎アジア共生文化概論 ◎アジア比較文化概論 ○史学概論			D P ①【知識・理解】 ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P ①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的な取り組み意欲を持っている人	C P ②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基幹教育科目の英語科目および初修外国語科目を配置する。 専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を見えるスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P ②、D P ④	【基幹教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初修外国語 【基幹教育】 □英語科目 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会調査法	【基幹教育】 □英語科目 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会調査法	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論演習 ◎アジア伝統文化論演習 ◎文化理論演習 ◎地域文化資源論演習		D P ②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を見えるスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P ②	アジア文化学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 博物館・美術館学芸員、 サービス業（人材派遣、観光業等）、 広告代理店、コンサルティング、 情報通信業（マスコット、システムエンジニアリング等）、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、 雑貨販売等）、 製造業（電気電子、自動車、製鉄、繊維、金属、事務用品等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
論理的思考を鍛え新しいものの見方を探めようとする人	C P ③【態度・志向性】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸課題を通して具体的に指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自らが姿勢を身につけて、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P ③、D P ⑤	【基幹教育】 □初年次教育科目 【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア文化学基礎論 ◎文化理論 ◎観光文化論 ◎表象文化論 ◎ポピュラー文化論 ◎比較表現論 ◎文化資源基礎論 ◎舞台芸術文化論 ◎上方文化講座	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア文化学基礎論 ◎文化理論 ◎観光文化論 ◎表象文化論 ◎ポピュラー文化論 ◎比較表現論 ◎文化資源基礎論 ◎舞台芸術文化論 ◎上方文化講座	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論 ◎アジア共生文化論 ◎アジア伝統文化論 ◎アジア文化資源論 ◎アジア文化資源論 ◎文化人類学 ○民俗学 ○比較文化交流論 ○表象文化特論	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア共生文化論演習 ◎アジア比較文化論演習 【英語による授業】 ○国際都市社会論	D P ③【態度・志向性】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自らが姿勢を身につけて、生涯にわたって進んで学習できる。 C P ③	情報通信業（マスコット、システムエンジニアリング等）、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、 雑貨販売等）、 製造業（電気電子、自動車、製鉄、繊維、金属、事務用品等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
創造的に学べる発展可能性を持つ人					【アジア文化コースモデル群】 ※卒業論文 ※文化構想学研究演習1 ※文化構想学研究演習2	D P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる ・卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりとした研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の対比が可能である。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P ②、C P ③、C P ④	
学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像に関連させて考えている人	C P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P ④	【再掲】 【基幹教育】 □初年次教育科目 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B	【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎アジア地域文化概論 ◎アジア伝統文化概論 ◎アジア共生文化概論 ◎アジア比較文化概論 ◎アジア文化学基礎論	【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論演習 ◎アジア伝統文化論演習 ◎アジア地域文化論 ◎アジア共生文化論 ◎アジア伝統文化論 ◎アジア文化資源論 ◎文化人類学	【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア共生文化論演習 ◎アジア比較文化論演習		
さまざまな文化的営みを社会的なかで活かす方法を考えてみた人							

（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】
文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもつて21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それに対して本学科では、さまざまな場で活用される文化や文脈のコンテクストに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実態についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文脈のコンテクストを捉えるものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めている。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に活用されてきたとはいえない。ビジネスの素材や顧客のための新需求力として、対外的なソフトパワーとして、共創的社会実現のための土台としてなど、十分に活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】
文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあつて、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。
具体的には、文学部は、学生課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。
とくに文化構想学科は、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生の価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める		文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：アジア文化コースモデル群 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目				緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。
学修のための基礎的能力をつつ	CP①【知識・理解】 ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 DP①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学	【基礎教育】 □総合教養科目				DP①【知識・理解】 ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 CP①	
		【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B	【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎アジア地域文化概論 ◎アジア伝統文化概論 ◎アジア共生文化概論 ◎アジア比較文化概論 ○史学概論			○地理学概論A ○地理学概論B		
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し且具体的な取組む意欲を持っている人	CP②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・選択・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を見えるスキルや、解決に必要な情報を収集・選択・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実習科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 DP②、DP④	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語	【基礎教育】 □英語科目				DP②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・選択・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を見えるスキルや、解決に必要な情報を収集・選択・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 CP②	
		【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論演習 ◎アジア伝統文化論演習 ◎文化理論演習	【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論 ○博物館実習1 ・博物館実習2					
論理的思考を鍛え新しいものの見方を探めようとする人	CP③【態度・志向性】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸課題を通して具体的に指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自らが姿勢を身につけて、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 DP③、DP⑤	【基礎教育】 □初年次教育科目					DP③【態度・志向性】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自らが姿勢を身につけて、生涯にわたって進んで学習できる。 CP③	
		○上方文化講座	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア文化学基礎論 ◎文化理論 ◎観光文化論 ◎表象文化論 ◎ポピュラー文化論 ◎比較表現論 ◎文化資源基礎論 ◎舞台芸術文化論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会調査法 ○民俗学 ○美術史通論A ○美術史通論B	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論 ◎アジア共生文化論 ◎アジア比較文化論 ◎アジア伝統文化論 ◎文化人類学 ○広報情報論A ○広報情報論B 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア共生文化論演習 ◎アジア比較文化論演習 ◎アジア文化特論A ◎アジア文化特論B	【英語による授業】 ○国際都市社会論		
創造的に学べる発展可能性を持つ人	CP④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 DP④						DP④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる ・卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往還ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 CP②、CP③、CP④	
		【再掲】 【基礎教育】 □初年次教育科目	【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ◎アジア地域文化概論 ◎アジア伝統文化概論 ◎アジア共生文化論 ◎アジア比較文化概論 ◎アジア文化学基礎論	【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論演習 ◎アジア伝統文化論演習 ◎アジア共生文化論演習 ◎アジア比較文化論演習 ◎アジア文化特論A ◎アジア文化特論B ◎文化人類学	【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ◎アジア地域文化論演習 ◎アジア共生文化論演習 ◎アジア比較文化論演習 ◎アジア文化特論A ◎アジア文化特論B			
学部・学科・コースの目的や教育内容を理解し、自らの将来像に関連させて考えている人								
さまざまな文化的営みを社会的なかで活かす方法を学んでみたい人								

【設置の趣旨】

文化傳習学の文化を積極的に活用しようとする動きも、文壇でも文芸にもあらわれた。文化をもつて21世紀型成熟社会において諸課題の解決をはかることとされる人文を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、文化を活用するといった視点と必ずしも重疊してなかった。それによって史料やデータは、さまざまな場面で活用される文化のコンテンツに関する研究、日本全体のアジア地域における文化活用の実情についての実地研究、実践的・問題解決的な文化活用の方策についての研究等が盛んだった。文化や文化政策の現状とその社会的活用についてもその過程を通じて、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの創利や企業活動のための需要として、対外的なプラットフォームとして、公共的社会実現のための土壌としても、文化を活用できる立場は多岐にわたる。これらばかりでなく現代社会における重要な価値観となっているものであり、本学部の教育、研究は、現代社会の理解解題にもまた（条件とする）。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度な国際化社会、グローバル化において、自分自身の可能性を探るとともに、あらゆる者に価値ある存在として尊重し、多様な人と協働したい、豊かな社会の構築を求め、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となすことと、めざす。

具体的には、文学部は、文学課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方をを通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身に付け、国際的、複眼的の視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。

とくに文化情報学学科では、これらについて深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生の価値の構築を希求し、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を育成する。

アドミッション・ポリシー		教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー		卒業後の進路	
以下の学生を求める		文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生の価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。				文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生の価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。			
学修のための基礎的能力をつつ	C P ①【知識・理解】	【基礎教育】 ○総合教養科目 ○健康スポーツ科学		【基礎教育】 ○総合教養科目				D P ①【知識・理解】 ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。	
		【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎論A ※文化構想学基礎論B ※アジア地域文化概論 ※アジア伝統文化概論 ※アジア共生文化概論 ※アジア比較文化概論		【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎論演習A ※文化構想学基礎論演習B ※アジア地域文化概論 ※アジア伝統文化概論 ※アジア共生文化概論 ※アジア比較文化概論					
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的に取り組む意欲を持っている人	C P ②【技能】	【基礎教育】 ○情報リテラシー科目 ○英語科目 ○初級外国語		【基礎教育】 ○英語科目		【アジア文化コースモデル群】 ※アジア文化学基礎論 ※アジア地域文化論演習 ※アジア伝統文化論演習		D P ②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術（ICT）などを用いた文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。	
				○中国語基礎演習 1 ○中国語コミュニケーション 1 ○中国語コミュニケーション 2		○中国文学演習 1 ○中国文学演習 1 ○中国古典語 1 ○中国古典語 2		○中国語学演習 1 ○中国語学演習 1 ○中国古典語 1 ○中国古典語 2	
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	C P ③【態度・志向性】	【基礎教育】 ○初年度教育科目		【アジア文化コースモデル群】 ※アジア文化学基礎論 ※文化論 ※観光文化論 ※表象文化論 ※ポピュラー文化論 ※比較表現論 ※文化資源基礎論 ※舞台芸術文化論 ※東洋史通論 ※東洋史基礎講義 ※美術史通論		【アジア文化コースモデル群】 ※アジア地域文化論 ※アジア共生文化論 ※アジア比較文化論 ※アジア伝統文化論 ※アジア文化特論演習 ※文化人類学		D P ③【態度・志向性】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。	
				○上方文化講座		【英語による授業】 ○比較文化交際論		【英語による授業】 ○国際都市社会論	
創造的に学べる発展可能性を持つ人	C P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】	【基礎教育】 ○初年度教育科目		【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎論演習A ※文化構想学基礎論演習B ※アジア地域文化概論 ※アジア伝統文化概論 ※アジア共生文化概論 ※アジア比較文化概論 ※アジア文化学基礎論		【アジア文化コースモデル群】 ※卒業論文 ※文化構想学研究演習 1 ※文化構想学研究演習 2		D P ④【統合的な学修経験と創造的思考力】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを用いてその課題を解決することができる。 ・卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わりながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みふみ批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・具体的な吟味と論理的な考察の任意性である。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。	
		【再掲】 【基礎教育】 ○初年度教育科目		【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ※文化構想学基礎論演習A ※文化構想学基礎論演習B ※アジア地域文化概論 ※アジア伝統文化概論 ※アジア共生文化概論 ※アジア比較文化概論 ※アジア文化学基礎論		【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ※アジア地域文化論演習 ※アジア伝統文化論演習 ※アジア共生文化論 ※アジア比較文化論 ※アジア文化特論演習 ※文化人類学		【再掲】 【アジア文化コースモデル群】 ※アジア比較文化論演習	
さまざまな文化的営みを社会のなかで活かす方法を考えてみたい人									

【設置の趣旨】

文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来から文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにはいたして本学科では、さまざまな場で活用される文化や文芸的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実態についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文芸的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材には今後の必要性に比して必ずしも十分に蒙られてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものもあり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通じて人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的・歴史的視野から課題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職人を育成する。とくに文化構想学科では、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の道路
以下の学生を求める	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：文化資源コースモデル群 青枠：基礎教育科目 緑枠：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	1年次	2年次	3年次	4年次	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。
学修のための基礎的能力をつな	C P ①【知識・理解】 ・文化構想学の方法や考え方を通じて、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な基礎科目を編成する。 ・文化構想学の方法や考え方を通じて、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P ①	【基礎教育】 □総合教養科目 □健康スポーツ科学 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ○人間行動学概論A ○人間行動学概論B	【基礎教育】 □総合教養科目 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○世界史論	【基礎教育】 □総合教養科目 ・印：自由科目 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論	【基礎教育】 □総合教養科目 ・印：自由科目 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的な取り組み意欲を持っている人	C P ②【技能】 ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。専門科目にて中国古典語、ギリシア語、ラテン語の科目を配置する。 ・情報通信技術（ICT）などを用いた文化構想学の方法や考え方を通じて、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って倫理的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の複眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通じて批判的思考（クリティカル・シンキング）を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・文化構想学の方法や考え方を通じて、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P ②、D P ④	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○社会学調査法 ○博物館展示論	【基礎教育】 □英語科目 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	【基礎教育】 □情報リテラシー科目 □英語科目 □初級外国語 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	文化資源学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 博物館・美術館学芸員、 サービス業（人材派遣、観光業等）、 広告代理店、コンサルティング、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、 雑貨販売等）、 製造業（電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	C P ③【態度・志向性】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に相当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協調して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の長所を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自ら学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P ③、D P ④	【基礎教育】 □初年次教育科目 ○上方文化講座	【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	文化資源学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 博物館・美術館学芸員、 サービス業（人材派遣、観光業等）、 広告代理店、コンサルティング、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、 雑貨販売等）、 製造業（電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
創造的に学べる発展可能性を持つ人	C P ④【総合的な学修経験と創造的思考力】 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P ④	【基礎教育】 □初年次教育科目 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会学研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【英語による授業】 ○日本文化発信のための英語	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	文化資源学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 大学院進学、 博物館・美術館学芸員、 サービス業（人材派遣、観光業等）、 広告代理店、コンサルティング、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、 雑貨販売等）、 製造業（電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）

（コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる）

（体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する）

【設置の趣旨】

文化構想学科は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる人材を育成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにはたいして本学科では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本学科の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

【養成する人材像】

文学部では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。具体的には、文学部は、学士課程教育を通して、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成し、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成し、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門職業人を育成する。とくに文化構想学科では、文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることのできる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程				ディプロマ・ポリシー	卒業後の進路
以下の学生を求める	文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる人材を養成するために、以下のとおり教育課程を編成する。	【凡例】 赤枠：文化資源コースモデル群 赤印：必修科目 青印：選択必修科目 青印：自由選択科目 青印：基礎教育科目 青印：自由科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目				文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践へと結びつけることができる。	
学修のための基礎的能力をつな	C P ① [知識・理解] ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができるようにするために、基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができるようにする。 D P ①	【基礎教育】 ①総合教養科目 ②健康スポーツ科学 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B ※文化資源基礎論 ○地理学概論A ○世界史論	【基礎教育】 ①総合教養科目 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ○地理学概論A ○世界史論			D P ① [知識・理解] ・文化構想学の方法や考え方を通して、多文化・異文化を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、人間と文化、科学と技術、社会と歴史、環境と健康に関する知識を尊重し、理解を深めることができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、高度な専門知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。 C P ①	
自らの将来像を自覚的に形成し、それに向けて努力し具体的な取り組み意欲を持っている人	C P ② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができるようにするために、基礎教育科目の英語科目および初級外国語科目を配置する。 ・情報通信技術 (ICT) などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・読解・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができるようにするために、1～2年次に学科必修科目を配置する。 ・情報や知識の視眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができるようにするため、多様な演習科目や実験科目を配置し、卒業論文研究につなげる。 D P ②、D P ③	【基礎教育】 ①情報リテラシー科目 ②英語科目 ③初級外国語 【文化資源コースモデル群】 ※視覚文化資源論演習 ※聴覚文化資源論演習 ※舞臺文化資源論演習 ※音楽文化資源論演習 ※文化資源基礎論 ○大阪の地域・文化実践演習 ○社会調査法 ○大阪の歴史演習	【基礎教育】 ①英語科目 【文化資源コースモデル群】 ※視覚文化資源論演習 ※聴覚文化資源論演習 ※舞臺文化資源論演習 ※音楽文化資源論演習 ※文化資源基礎論 ○社会学質的研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論 ・博物館実習1 ・博物館実習2			D P ② [技能] ・日本語とひとつまたは複数の外国語を用いて、文化構想学の研究に求められる水準で読み、書き、聞き、話し、他者とコミュニケーションをすることができる。 ・情報通信技術 (ICT) などを用い文化構想学の方法や考え方を通して、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ・情報や知識の視眼的、論理的分析に基づき、文化構想学の方法や考え方を通して批判的思考 (クリティカル・シンキング) を行い、その結果を言語や記号で表現することができる。 ・文化構想学の方法や考え方を通して、問題を発見するスキルや、解決に必要な情報を収集・読解・分析・整理するスキルを修得し、その問題の解決に立ち向かう実践力を身につけることができる。 C P ②	文化資源学の専門的素養に支えられながら、学校教育、文化施設、国際交流などの面で幅広く活躍できる人材として、 博物館・美術館学芸員、 大学院進学、 サービス業 (人材派遣、観光業等)、 広告代理店、コンサルティング、 情報通信業 (マスコミ、システムエンジニアリング等)、 卸売業・小売業 (百貨店、自動車販売、 雑貨販売等)、 製造業 (電気電子、 自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等)、 公務員 (国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等)
論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人	C P ③ [態度・志向性] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できるようにするために、基礎教育科目や1～2年次に配当する学科必修科目を通して、社会における学問の役割を考えさせる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができるようにするために、少人数教育の特長を活かして、演習科目を中心とした教育課程や課外活動を通してきめ細かに指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、それぞれの専門分野が対象とする諸問題を通して具体的に指導する。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自らが学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群を設定して、体系的に学ばせて卒業論文研究へとつなげる。 D P ③、D P ④	【基礎教育】 ①初年次教育科目 【文化資源コースモデル群】 ※観光文化論 ※文化デザイン論 ※舞臺芸術文化論 ※視覚芸術文化論 ※文化資源特論A ○民俗学 【学芸員科目】 ○生涯学習概論	【文化資源コースモデル群】 ※観光文化論 ※文化デザイン論 ※舞臺芸術文化論 ※視覚芸術文化論 ※文化資源特論A ○文化人類学 【学芸員科目】 ○博物館経営論 ○博物館資料論 ○博物館展示論 ○博物館情報・メディア論			D P ③ [態度・志向性] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自分で考え、良心に従い、社会のルールを尊重して自分の責任で判断し行動できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、他者と協働して行動でき、また、必要に応じて他者に方向性を示し、リーダーシップをとることができる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、地域をはじめとする社会の一員としての意識を持ち、持続可能な社会の創り手として積極的に関与できる。 ・文化構想学の方法や考え方に基いて、自らが学ぶ姿勢を身につけ、生涯にわたって進んで学習できる。 C P ③	
創造的に学べる発展可能性を持つ人	C P ④ [総合的な学修経験と創造的思考力] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができるようにするために、表現文化、アジア文化、文化資源の3つのコースモデル群の学修を基盤とした卒業論文研究をさせる。 D P ④	【再掲】 【基礎教育】 ①初年次教育科目 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学概論A ※文化構想学概論B ※文化資源基礎論 ※視覚文化資源論演習 ※聴覚文化資源論演習 ※舞臺文化資源論演習 ※音楽文化資源論演習 ※文化資源基礎論 ○観光文化論 ○文化デザイン論 ○舞臺芸術文化論 ※視覚芸術文化論 ※文化資源特論A ○民俗学	【再掲】 【文化資源コースモデル群】 ※文化構想学基礎演習A ※文化構想学基礎演習B ※文化資源基礎論 ※視覚文化資源論演習 ※聴覚文化資源論演習 ※舞臺文化資源論演習 ※音楽文化資源論演習 ※文化資源基礎論 ○社会学質的研究法 ○大阪の歴史演習 ○総合文化実践演習 【学芸員科目】 ○博物館資料保存論 ○博物館展示論 ○博物館実習1 ○博物館実習2	【文化資源コースモデル群】 ※卒業論文 ※文化構想学研究演習1 ※文化構想学研究演習2		D P ④ [総合的な学修経験と創造的思考力] ・文化構想学の方法や考え方に基いて、獲得した知識・技能・実践力等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。 ・卒業論文を通して、哲学・歴史学の分野における次の学修成果を修める。 ・明確に課題を設定し、しっかりと研究方法をもちいて論証することができる。 ・図書館の機能を十分に使いこなすことができる。 ・多様な他者と関わらながら論文を作成することができる。 ・先行研究や参考文献をよく読みこなし批判的に吟味することができる。 ・一次資料・データを広く収集・読解し、独自の観点から分析することができる。 ・適切に典拠を示しながら論述することができる。 ・具体例の吟味と抽象的な考察の往復ができる。 ・論理展開を明確にし、説得力ある文章で論証することができる。 C P ②、C P ③、C P ④	

(コースモデル群の科目を履修することにより、体系的に学修を展開し、卒業論文研究として集大成させることができる)

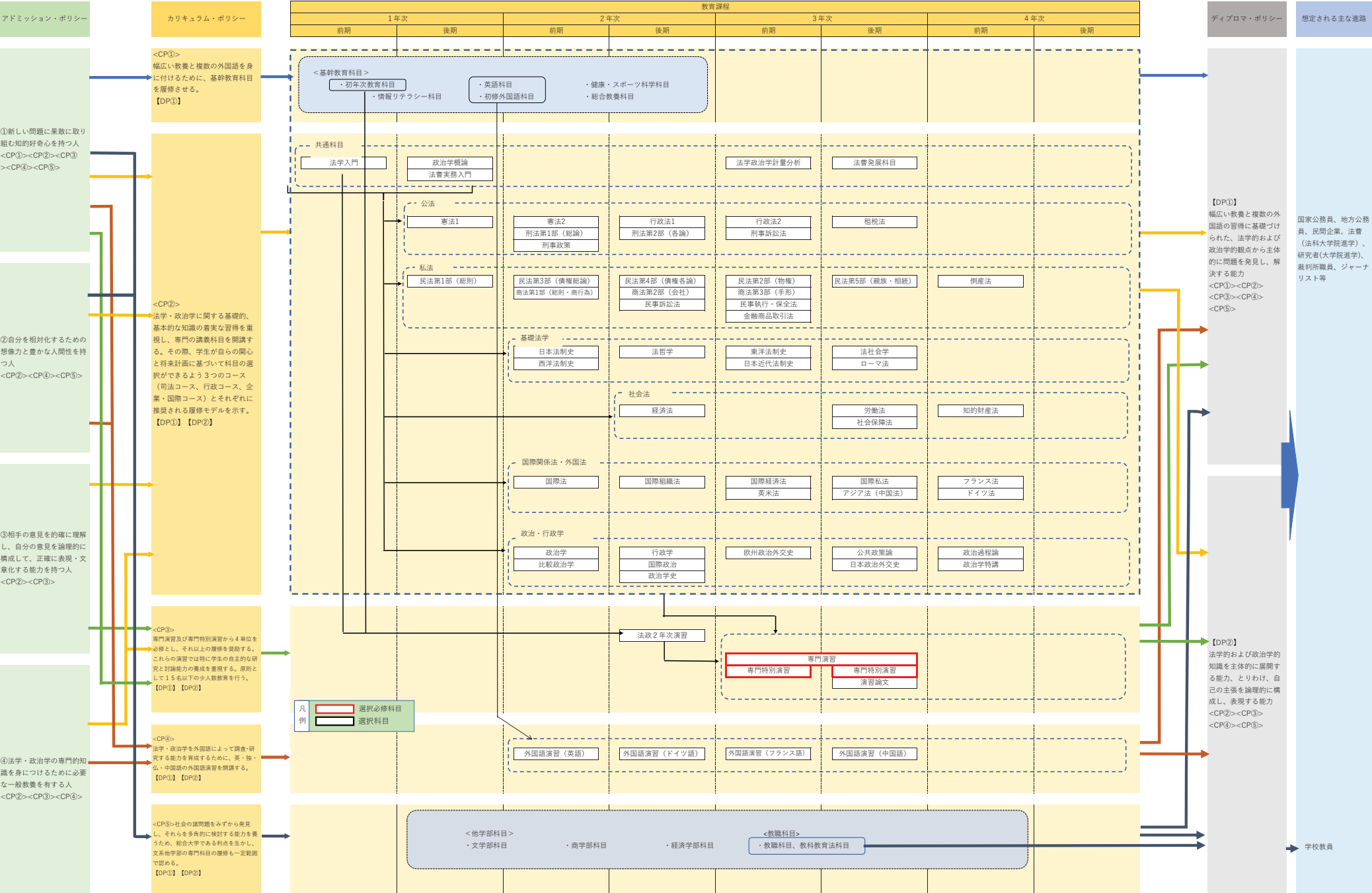
(体系的な学修を踏まえた卒業論文研究で培った力を活かして、社会の中で貢献する人材を育成する)

【設置の趣旨・必要性】

法学および政治学は、社会科学的な素養と法的思考力（リーガル・マインド）を涵養し、それらを基礎として合理的判断を行う能力を獲得するために不可欠な学問領域である。これらの素養や能力は、経済・社会のグローバル化や多文化化が進化する現代社会において、公務や企業活動などの領域を問わず、その重要性をますます増大させている。大阪公立大学においても、ますます複雑化するわが国および国際社会の安定化と健全な発展に寄与する法学部の設置が求められている。本学部は、長年にわたり都市大阪における研究教育機関として重要な役割を担ってきた大阪市立大学法学部の伝統と成果を基礎に、高度な法学・政治学の研究・教育を提供することにより、人権感覚豊かで有能な、民主主義社会の担い手となる人材を社会の多方面に輩出することをその理念・目的とする。

【養成する人材像】

豊かな発進力と法的思考力（リーガルマインド）を有し、人権感覚豊かで有能な民主主義社会の担い手となろうる者
複雑化する日本社会・国際社会が抱える様々な問題に向き合い、より専門的な法学・政治学の知見を基礎とした合理的判断に基づき、粘り強く解決の道を探ることのできる自立的な高度職業人



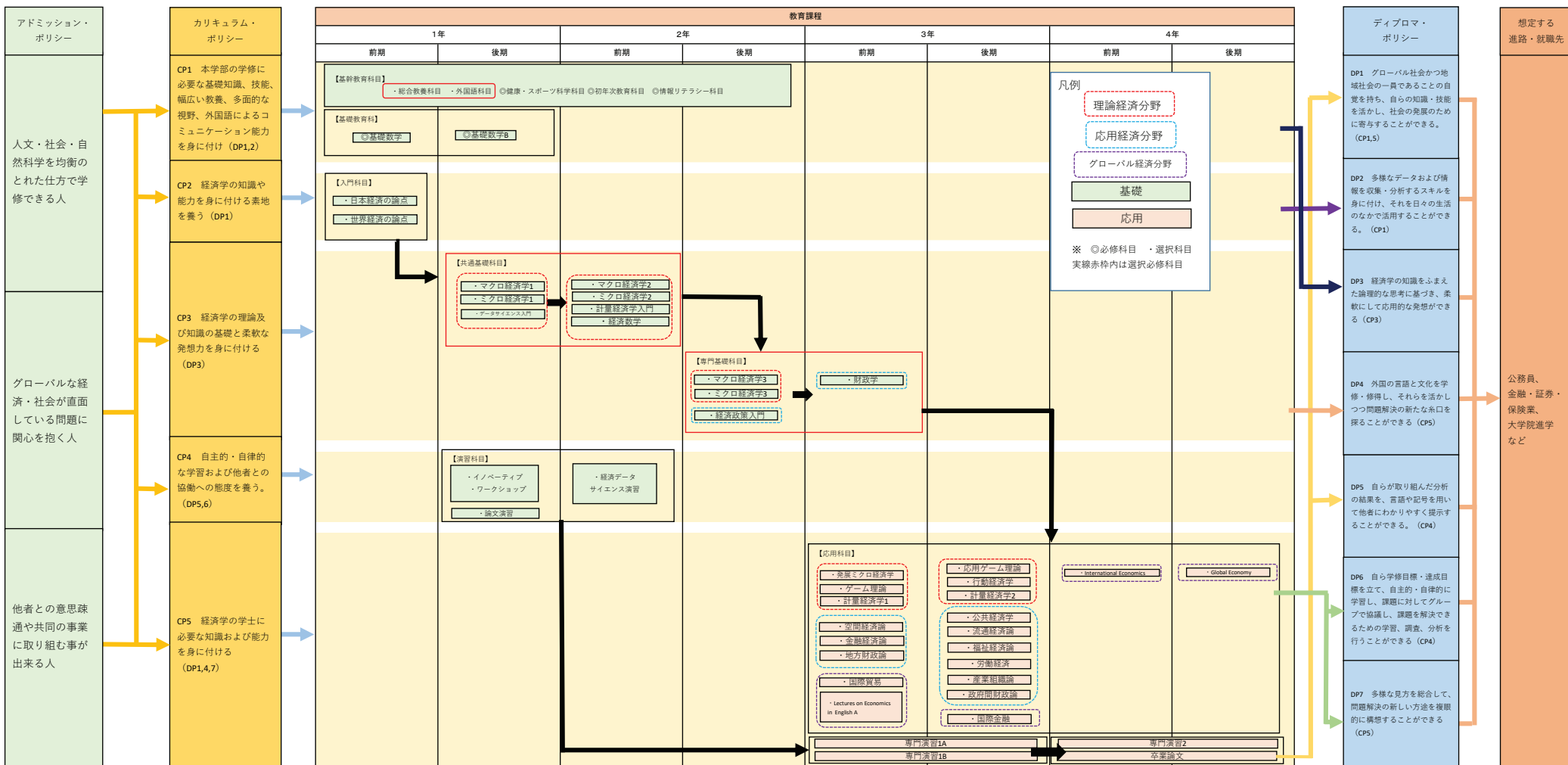
経済学部 経済学科 カリキュラムマップ (★ジェネラル・ブラティカル・エコノミスト)

【設置の趣旨：背景・必要性】

○「人工知能 (AI)」やInternet of Thingsの進歩に代表される情報通信技術の飛躍的な発展は、個人情報保護や情報へのアクセスの格差といった倫理上の重大な問題を提起している。
○少子高齢化は、日本に限らず先進国と新興国とに共通する課題であり、社会保障の財政基盤の大胆な見直しが必要と迫られている。
○地球温暖化に代表される気候危機は、「持続可能な成長」という既成の観念を超える革新的なエネルギー利用と経済・社会発展の構想を立てることを現在の世代に要求している。
上記の背景を踏まえ、社会に貢献していくためには
○グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取りして提案する能力を身に付けた卒業生を社会に送り出す必要がある。
○グローバルな視野と長期の視点から大阪の発展を展望し支える人を育成する必要がある。
○データ分析能力と異文化間コミュニケーション能力とを兼ね備えつつ問題の解決策を志向する能動的なエコノミストを育てる必要がある。
これらの必要性を満たすことのできる「Active Global Economist (AGE)：能動的なグローバル・エコノミスト」の養成を本学部の設置の趣旨とする。

【養成する人材像】

○本学部の教育目標を、「Active Global Economist (AGE)：能動的なグローバル・エコノミスト」の育成に置く。
AGEとは、経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・理解能力、他者との協働の能力、豊かな想像力を活かしながら、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取り的に提案することのできる人を指す。なお、ディプロマ・ポリシーに従い、以下の7種類のプログラムを設けている。
1) 「ジェネラル・ブラティカル・エコノミスト」向けプログラム
2) 「エコノミック・データ・サイエンティスト」向けプログラム
3) 「ポリシー・プランナー」向けプログラム
4) 「リジョナル・クリエーター」向けプログラム
5) 「グローバル・アナリスト」向けプログラム
6) 「ソーシャル・エコノミスト」向けプログラム
7) 「マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト」向けプログラム



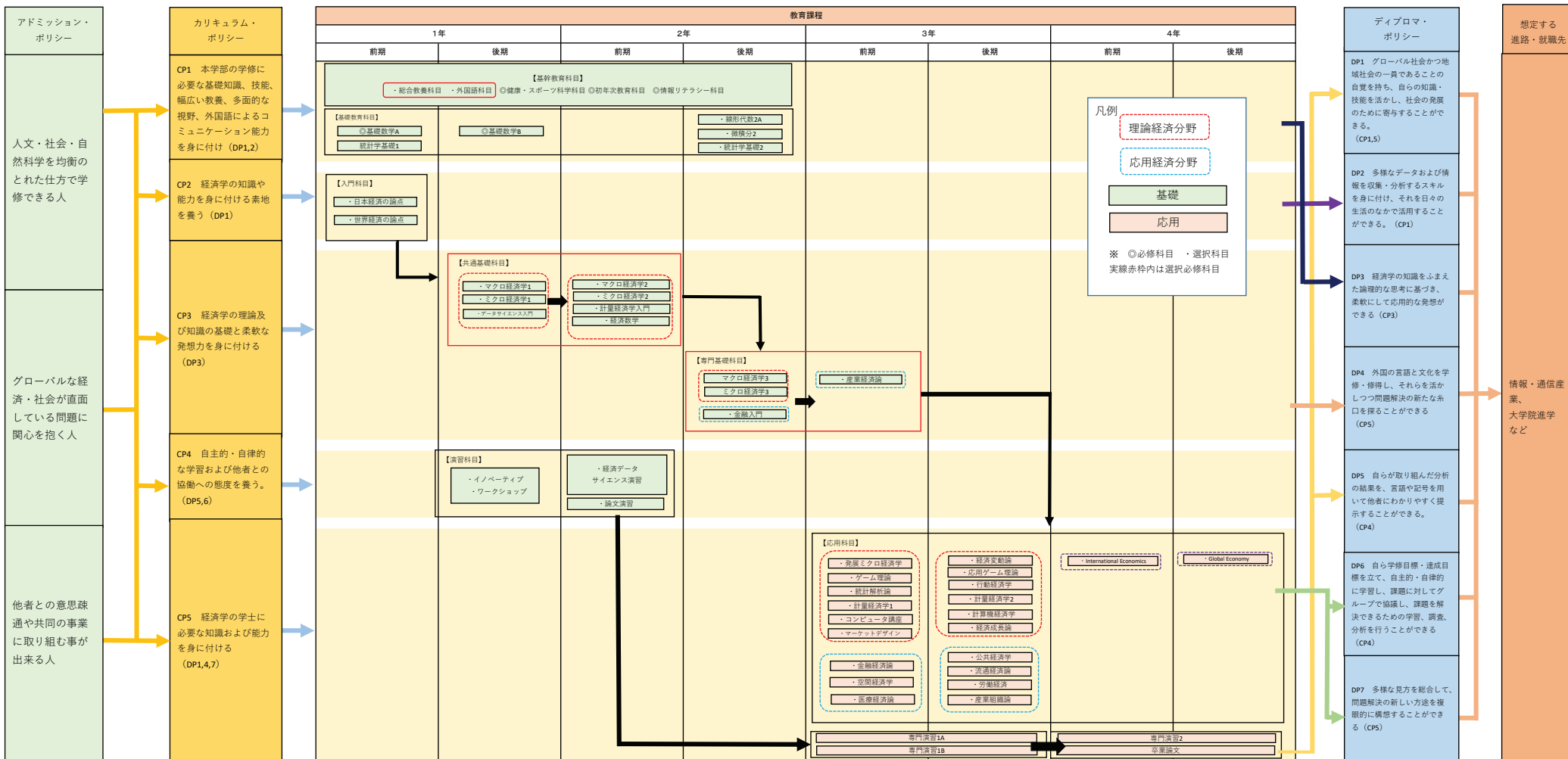
経済学部 経済学科 カリキュラムマップ (★エコノミック・データ・サイエンティスト)

【設置の趣旨：背景・必要性】

○「人工知能（AI）」やInternet of Thingsの進歩に代表される情報通信技術の飛躍的な発展は、個人情報保護や情報へのアクセスの格差といった倫理上の重大な問題を提起している。
 ○少子高齢化は、日本に限らず先進国と新興国とに共通する課題であり、社会保障の財政基盤の大胆な見直しが必要と迫られている。
 ○地球温暖化に代表される気候危機は、「持続可能な成長」という既成の観念を超える革新的なエネルギー利用と経済・社会発展の構想を立てることを現在の世代に要求している。
 上記の背景を踏まえ、社会に貢献していくためには
 ○グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取りして提案する能力を身に付けた卒業生を社会に送り出す必要がある。
 ○グローバルな視野と長期の視点から大阪の発展を展望し支える人を育成する必要がある。
 ○データ分析能力と異文化間コミュニケーション能力とを兼ね備えつつ問題の解決策を志向する能動なエコノミストを育てる必要がある。
 これらの必要性を満たすことのできる「Active Global Economist（AGE）：能動的なグローバル・エコノミスト」の養成を本学部の設置の趣旨とする。

【養成する人材像】

○本学部の教育目標を、「Active Global Economist（AGE）：能動的なグローバル・エコノミスト」の育成に置く。
 AGEとは、経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・咀嚼能力、他者との協働の能力、豊かな構想力を活かしながら、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取り的に提案することのできる人を指す。なお、ディプロマ・ポリシーに従い、以下の7種類のプログラムを設けている。
 1) 「ジェネラル・プラクティカル・エコノミスト」向けプログラム
 2) 「エコノミック・データ・サイエンティスト」向けプログラム
 3) 「ポリシー・プランナー」向けプログラム
 4) 「リジョナル・クリエーター」向けプログラム
 5) 「グローバル・アナリスト」向けプログラム
 6) 「ソーシャル・エコノミスト」向けプログラム
 7) 「マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト」向けプログラム



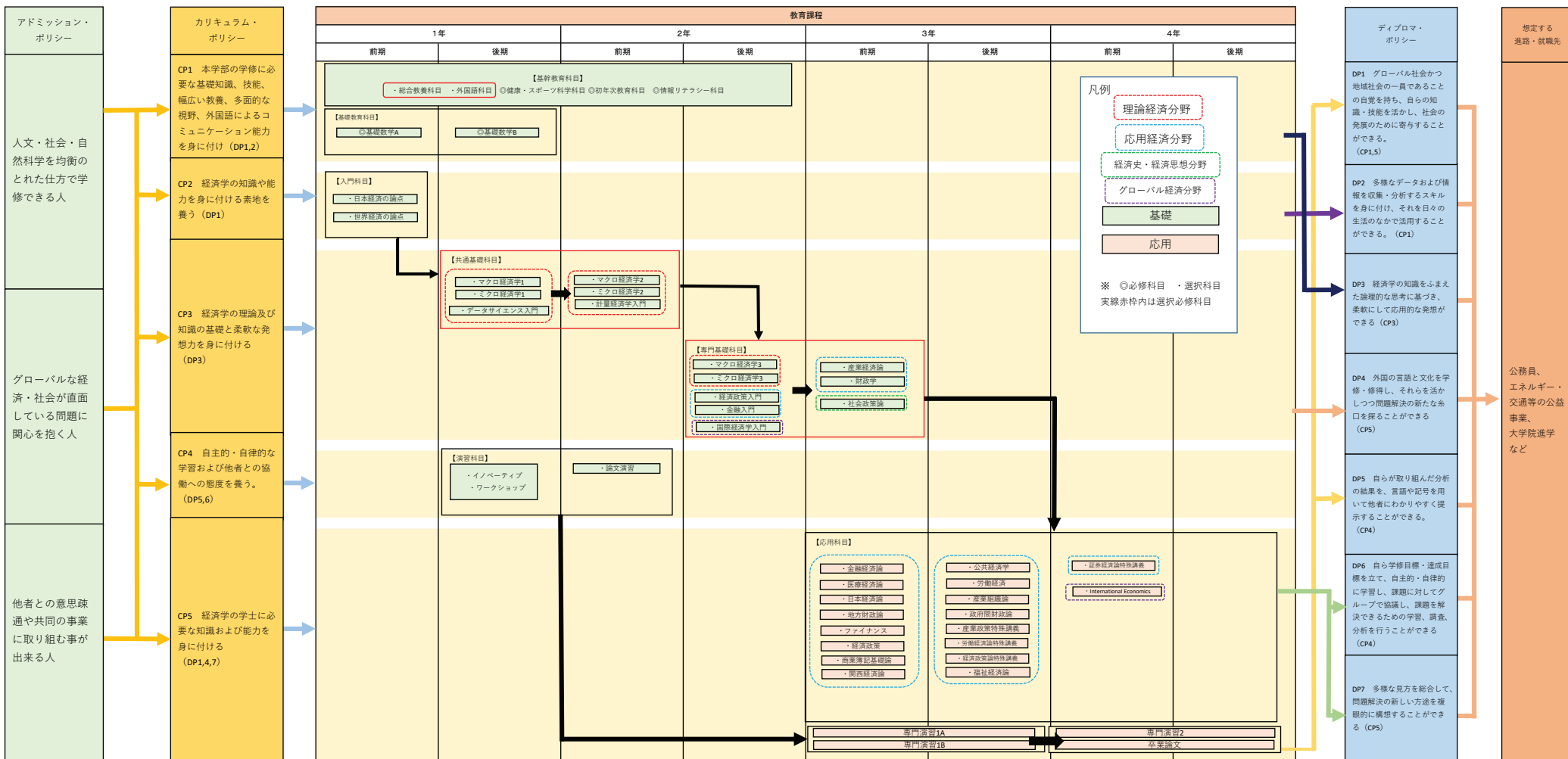
経済学部 経済学科 カリキュラムマップ (★ポリシー・プランナー)

【設置の趣旨：背景・必要性】

- 「人工知能（AI）」やInternet of Thingsの進歩に代表される情報通信技術の飛躍的な発展は、個人情報の保護や情報へのアクセスの格差といった倫理上の重大な問題を提起している。
 - 少子高齢化は、日本に限らず先進国と新興国に共通する課題であり、社会保障の財政基盤の大胆な見直しが必要とされている。
 - 地球温暖化に代表される気候危機は、「持続可能な成長」という既存の観念を超える革新的なエネルギー利用と経済・社会発展の構想を立てることを現在の世代に要求している。
 - 上記の背景を踏まえ、社会に貢献していくためには
 - グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取りして提案する能力を身に付けた卒業生を社会に送り出す必要がある。
 - グローバルな視野と長期的視点から大阪の発展を展望し支える人を育成する必要がある。
 - データ分析能力と異文化間コミュニケーション能力とを兼ね備えつつ問題の解決策を志向する能動的なエコノミストを育てる必要がある。
- これらの必要性を満たすことのできる「Active Global Economist（AGE）：能動的なグローバル・エコノミスト」の養成を本学部の設置の趣旨とする。

【養成する人材像】

- 本学部の教育目標を、「Active Global Economist（AGE）：能動的なグローバル・エコノミスト」の育成に置く。
- AGEとは、経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・理解能力、他者との協働の能力、豊かな構想力を活かしながら、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取り的に提案することのできる人を指す。なお、ディプロマ・ポリシーに従い、以下の7種類のプログラムを設けている。
- 1) 「ジェネラル・プラクティカル・エコノミスト」向けプログラム
 - 2) 「エコノミック・データ・サイエンティスト」向けプログラム
 - 3) 「ポリシー・プランナー」向けプログラム
 - 4) 「リージョナル・クリエーター」向けプログラム
 - 5) 「グローバル・アナリスト」向けプログラム
 - 6) 「ソーシャル・エコノミスト」向けプログラム
 - 7) 「マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト」向けプログラム



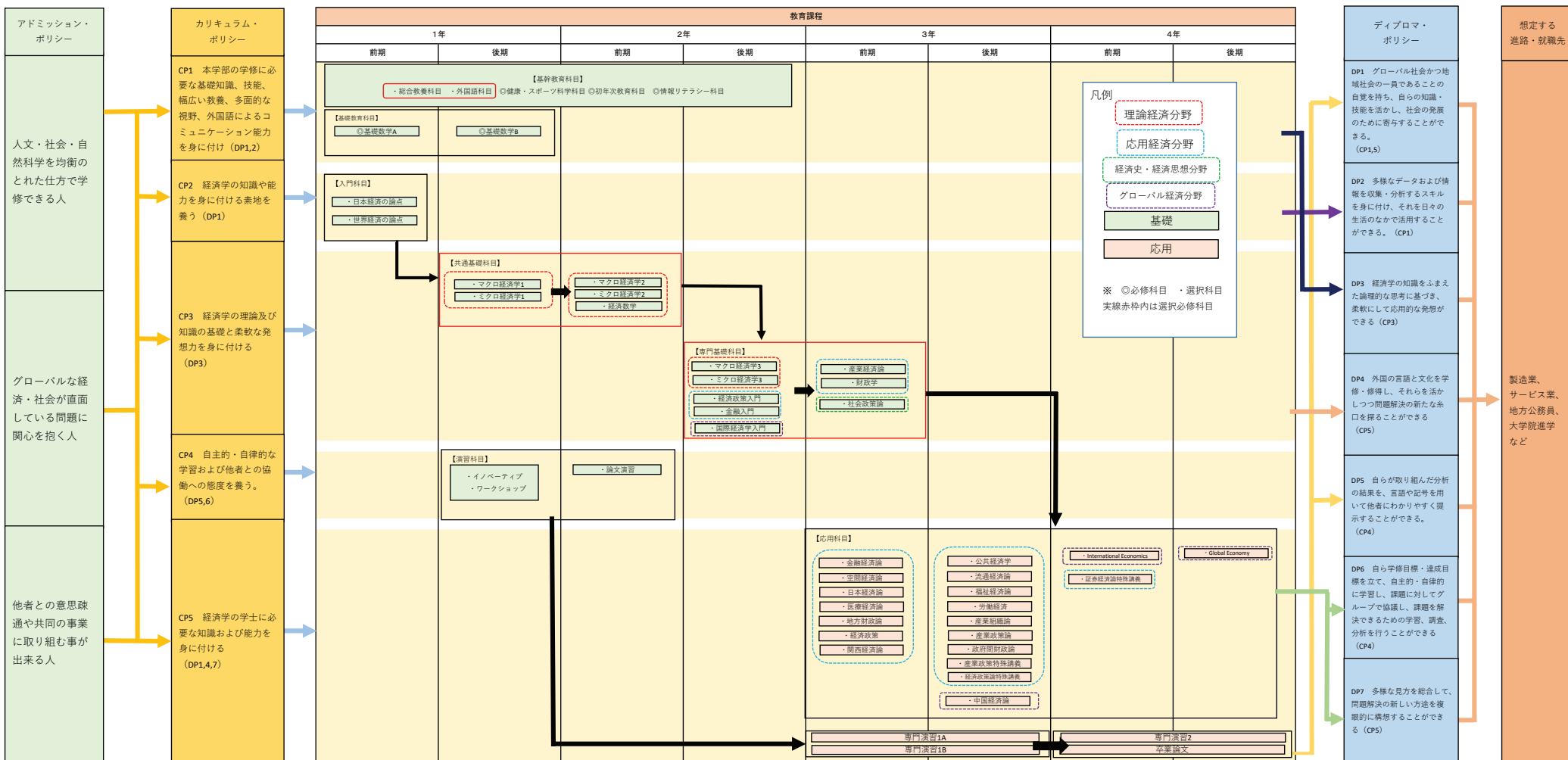
経済学部 経済学科 カリキュラムマップ（★リージョナル・クリエーター）

【設置の趣旨：背景・必要性】

○「人工知能（AI）」やInternet of Thingsの進歩に代表される情報通信技術の飛躍的な発展は、個人情報の保護や情報へのアクセスの格差といった倫理上の重大な問題を提起している。
○少子高齢化は、日本に限らず先進国と新興国に共通する課題であり、社会保障の財政基盤の大胆な見直しが必要と迫られている。
○地球温暖化に代表される気候危機は、「持続可能な成長」という既成の観念を超える革新的なエネルギー利用と経済・社会発展の構想を立てることを現在の世代に要求している。
上記の背景を踏まえ、社会に貢献していくためには
○グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取りして提案する能力を身に付けた卒業生を社会に送り出す必要がある。
○グローバルな視野と長期の視点から大阪の発展を展望し支える人を育成する必要がある。
○データ分析能力と異文化間コミュニケーション能力とを兼ね備えつつ問題の解決策を志向する能動的なエコノミストを育てる必要がある。
これらの必要性を満たすことのできる「Active Global Economist（AGE）：能動的なグローバル・エコノミスト」の養成を本学部の設置の趣旨とする。

【養成する人材像】

○本学部の教育目標を、「Active Global Economist（AGE）：能動的なグローバル・エコノミスト」の育成に置く。
AGEとは、経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・咀嚼能力、他者との協働の能力、豊かな構想力を活かしながら、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取り的に提案することのできる人を指す。なお、ディプロマ・ポリシーに従い、以下の7種類のプログラムを設けている。
1) 「ジェネラル・プラクティカル・エコノミスト」向けプログラム
2) 「エコノミック・データ・サイエンティスト」向けプログラム
3) 「ポリシー・プランナー」向けプログラム
4) 「リージョナル・クリエーター」向けプログラム
5) 「グローバル・アナリスト」向けプログラム
6) 「ソーシャル・エコノミスト」向けプログラム
7) 「マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト」向けプログラム



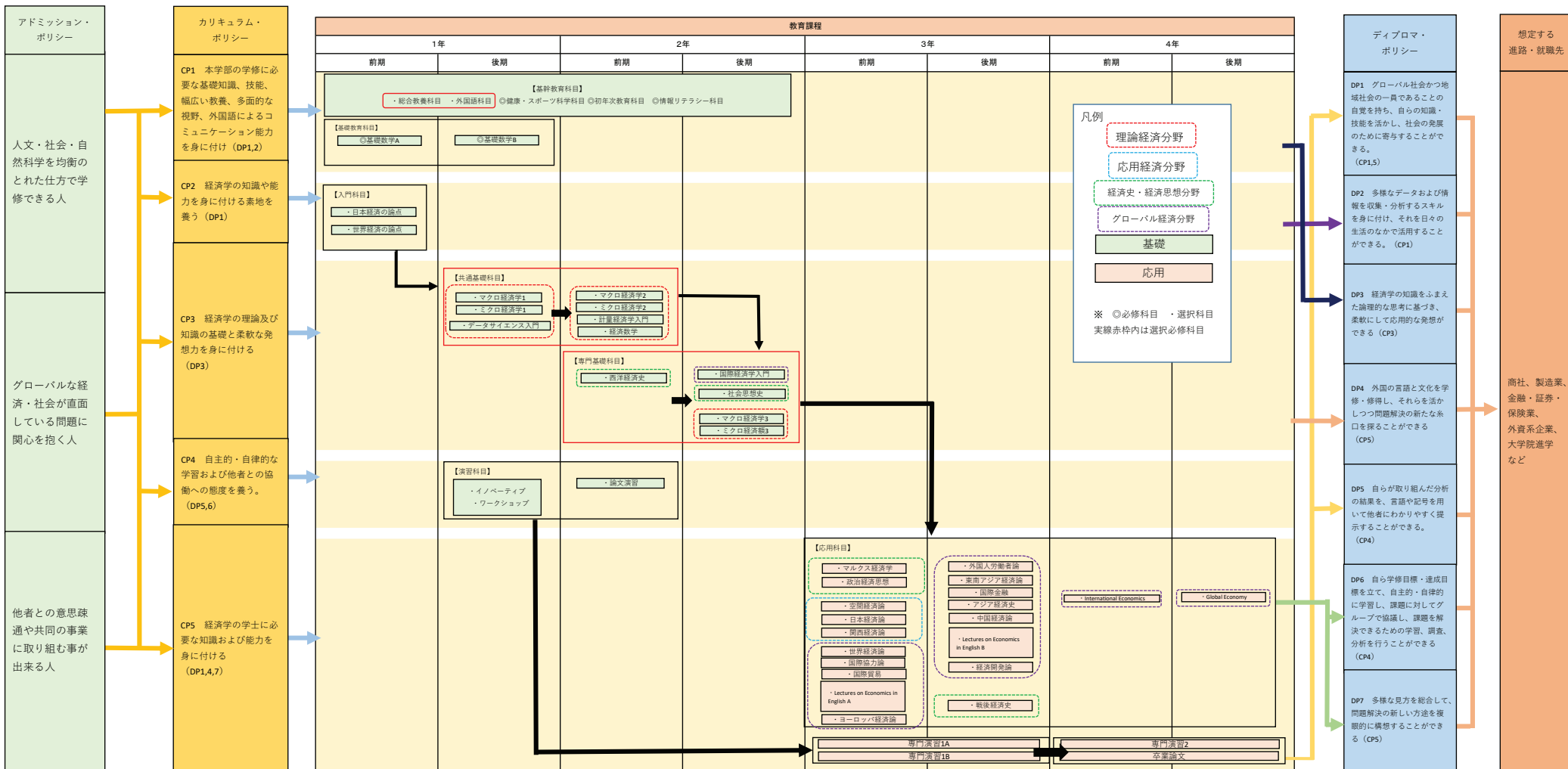
経済学部 経済学科 カリキュラムマップ (★グローバル・アナリスト)

【設置の趣旨：背景・必要性】

○「人工知能 (AI)」やInternet of Thingsの進歩に代表される情報通信技術の飛躍的な発展は、個人情報保護や情報へのアクセスの格差といった倫理上の重大な問題を提起している。
 ○少子高齢化は、日本に限らず先進国と新興国とに共通する課題であり、社会保障の財政基盤の大胆な見直しが必要と迫られている。
 ○地球温暖化に代表される気候危機は、「持続可能な成長」という既成の観念を超える革新的なエネルギー利用と経済・社会発展の構想を立てることを現在の世代に要求している。
 上記の背景を踏まえ、社会に貢献していくためには
 ○グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取りして提案する能力を身に付けた卒業生を社会に送り出す必要がある。
 ○グローバルな視野と長期の視点から大阪の発展を展望し支える人を育成する必要がある。
 ○データ分析能力と異文化間コミュニケーション能力とを兼ね備えつつ問題の解決策を志向する能動的なエコノミストを育てる必要がある。
 これらの必要性を満たすことのできる「Active Global Economist (AGE)：能動的なグローバル・エコノミスト」の養成を本学部の設置の趣旨とする。

【養成する人材像】

○本学部の教育目標を、「Active Global Economist (AGE)：能動的なグローバル・エコノミスト」の育成に置く。
 AGEとは、経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・理解能力、他者との協働の能力、豊かな構想力を活かしながら、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取り的に提案することのできる人を指す。なお、ディプロマ・ポリシーに従い、以下の7種類のプログラムを設けている。
 1) 「ジェネラル・プラクティカル・エコノミスト」向けプログラム
 2) 「エコノミック・データ・サイエンティスト」向けプログラム
 3) 「ポリシー・プランナー」向けプログラム
 4) 「リージョナル・クリエーター」向けプログラム
 5) 「グローバル・アナリスト」向けプログラム
 6) 「ソーシャル・エコノミスト」向けプログラム
 7) 「マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト」向けプログラム



経済学部 経済学科 カリキュラムマップ (★ソーシャル・エコノミスト)

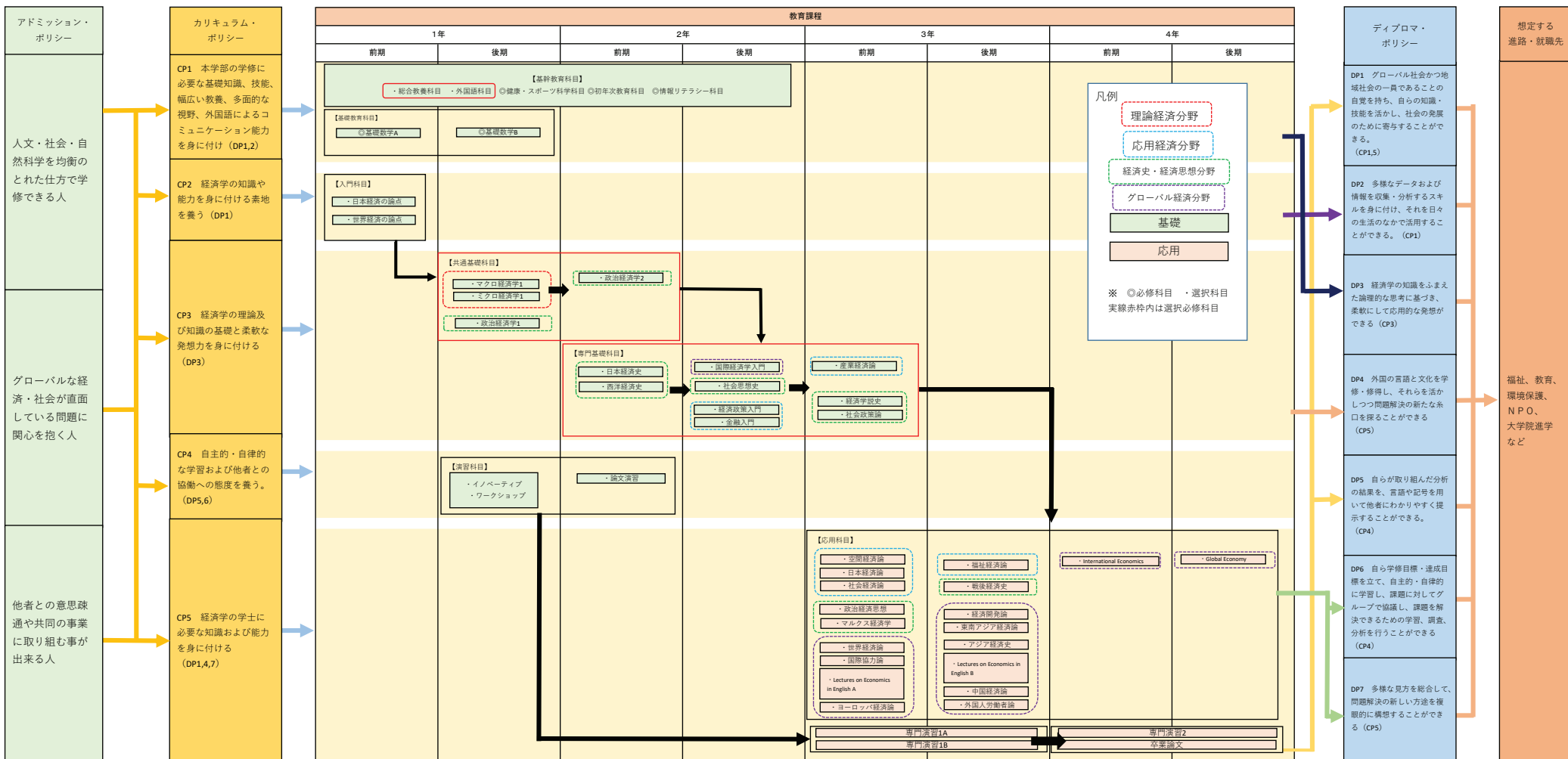
【設置の趣旨：背景・必要性】

- 「人工知能 (AI)」やInternet of Thingsの進歩に代表される情報通信技術の飛躍的な発展は、個人情報の保護や情報へのアクセスの格差といった倫理上の重大な問題を提起している。
 - 少子高齢化は、日本に限らず先進国と新興国に共通する課題であり、社会保障の財政基盤の大胆な見直しが必要とされている。
 - 地球温暖化に代表される気候危機は、「持続可能な成長」という既成の観念を超える革新的なエネルギー利用と経済・社会発展の構想を立てることを現在の世代に要求している。
- 上記の背景を踏まえ、社会に貢献していくためには
- グローバル社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取りして提案する能力を身に付けた卒業生を社会に送り出す必要がある。
 - グローバルな視野と長期の視点から大阪の発展を展望し支える人を育成する必要がある。
 - データ分析能力と異文化間コミュニケーション能力とを兼ね備えつつ問題の解決策を志向する能動的なエコノミストを育てる必要がある。
- これらの必要性を満たすことのできる「Active Global Economist (AGE)：能動的なグローバル・エコノミスト」の養成を本学部の設置の趣旨とする。

【養成する人材像】

○本学部の教育目標を、「Active Global Economist (AGE)：能動的なグローバル・エコノミスト」の育成に置く。
AGEとは、経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・理解能力、他者との協働の能力、豊かな構想力を活かしながら、グローバル社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取り的に提案することのできる人を指す。なお、ディプロマ・ポリシーに従い、以下の7種類のプログラムを設けている。

- 1) 「ジェネラル・ブラディカル・エコノミスト」向けプログラム
- 2) 「エコノミック・データ・サイエンティスト」向けプログラム
- 3) 「ポリシー・プランナー」向けプログラム
- 4) 「リージョナル・クリエーター」向けプログラム
- 5) 「グローバル・アナリスト」向けプログラム
- 6) 「ソーシャル・エコノミスト」向けプログラム
- 7) 「マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト」向けプログラム



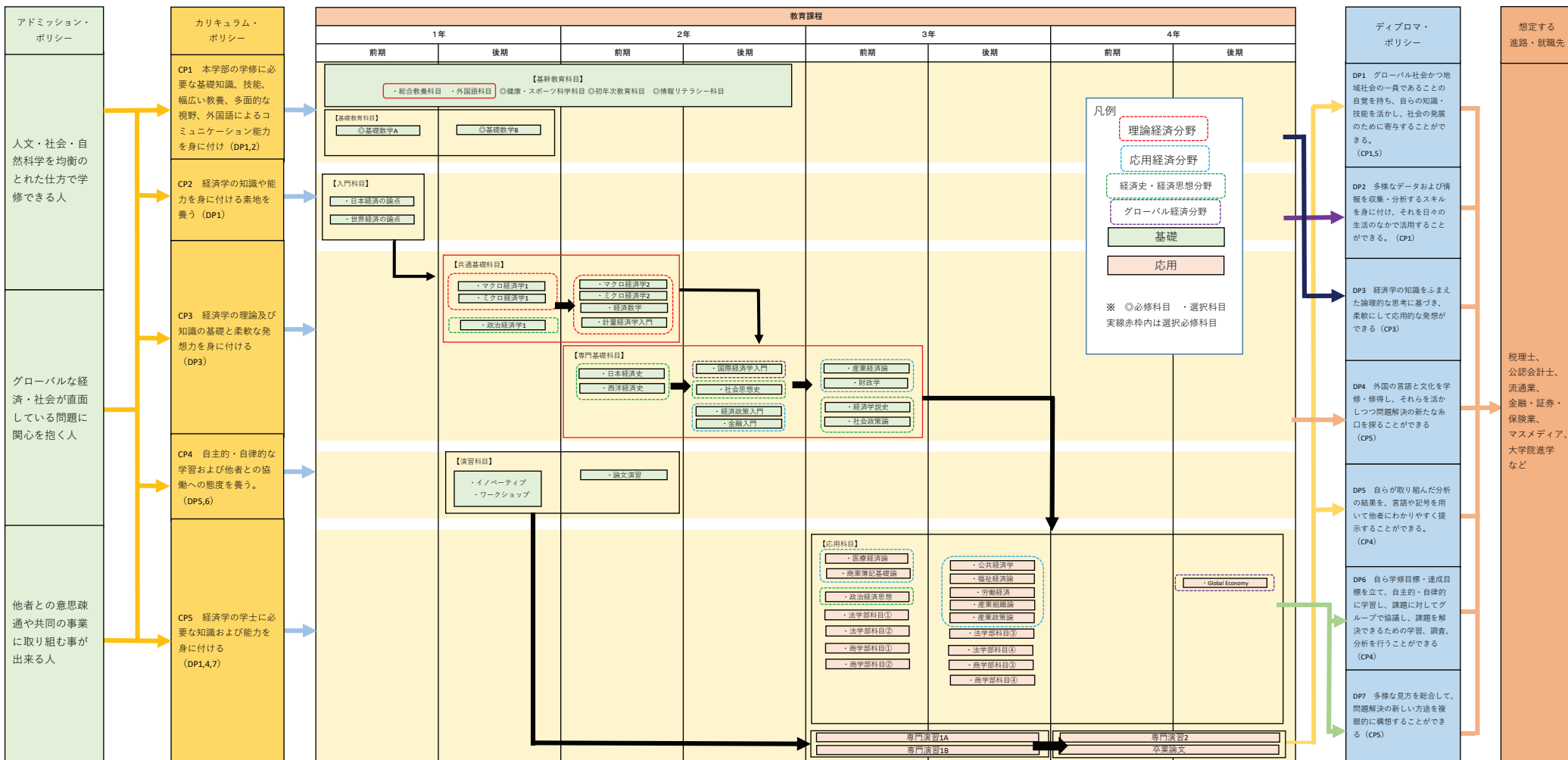
経済学部 経済学科 カリキュラムマップ（★マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト）

【設置の趣旨：背景・必要性】

○「人工知能（AI）」やInternet of Thingsの進歩に代表される情報通信技術の飛躍的な発展は、個人情報保護や情報へのアクセスの格差といった倫理上の重大な問題を提起している。
○少子高齢化は、日本に限らず先進国と新興国に共通する課題であり、社会保障の財政基盤の大胆な見直しが必要とされている。
○地球温暖化に代表される気候危機は、「持続可能な成長」という既成の観念を超える革新的なエネルギー利用と経済・社会発展の構想を立てることを現在の世代に要求している。
上記の背景を踏まえ、社会に貢献していくためには
○グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取りして提案する能力を身に付けた卒業生を社会に送り出す必要がある。
○グローバルな視野と長期の視点から大阪の発展を展望し支える人を育成する必要がある。
○データ分析能力と異文化間コミュニケーション能力とを兼ね備えつつ問題の解決策を志向する能動的なエコノミストを育てる必要がある。
これらの必要性を満たすことのできる「Active Global Economist（AGE）：能動的なグローバル・エコノミスト」の養成を本学部の設置の趣旨とする。

【養成する人材像】

○本学部の教育目標を、「Active Global Economist（AGE）：能動的なグローバル・エコノミスト」の育成に置く。
AGEとは、経済学の素養、データ処理能力、異文化の学習・咀嚼能力、他者との協働の能力、豊かな構想力を活かしながら、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を能動的かつ先取り的に提案することのできる人を指す。なお、ディプロマ・ポリシーに従い、以下の7種類のプログラムを設けている。
1) 「ジェネラル・プラクティカル・エコノミスト」向けプログラム
2) 「エコノミック・データ・サイエンティスト」向けプログラム
3) 「ポリシー・プランナー」向けプログラム
4) 「リージョナル・クリエーター」向けプログラム
5) 「グローバル・アナリスト」向けプログラム
6) 「ソーシャル・エコノミスト」向けプログラム
7) 「マルチ・ディシプリナリー・エコノミスト」向けプログラム



商学部 商学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】
○大阪市立大学商学部は1880(明治13)年に商都大阪に設立された大阪商業講習 所や、1928(昭和3)年創立の前身旧制大阪商科大学(大阪商大)の伝統的な伝統を継ぎながら、経済界(実業界)のみならず、経済界、学界、地域で活躍する有為な人材を数多く輩出してきた。
○大阪府立大学経済学部は1954(昭和29)年に大阪の産業振興を担う人材の育成を使命として設立され、経済、政治、教育、文化の分野で貢献する人材を輩出してきた。
○新たに誕生する大阪公立大学商学部は、「商学科」と「公共経営学科」の2学科体制を維持・継続し、経済分野や地域で活躍・貢献する人材を育成する。

【養成する人材像】
○経営学・商学・会計学の学問的知識を身に付け、倫理観と責任感を持ってそれらを活かすことのできる人材を養成する。
○企業のみならず、公的機関(自治体)、NPO/NGOなどのマネジメントの分野で活躍できる人材を養成する。
○課題発見能力と課題解決能力を身に付けた個性と社会性あふれる人材を養成する。
【経営系】商学科関連(とくに経営系)の学問的知識を身に付け、おもに企業が直面している諸問題の構造を分析し、その諸問題に対してどのような行動をとることが望ましいかを明らかにし、社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。
【国際ビジネス系】商学科関連(とくに国際ビジネス系)の学問的知識を身に付け、おもに国内外で活動を展開している企業が直面している諸問題の構造を分析し、その諸問題に対してどのような行動をとることが望ましいかを明らかにし、社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。
【産業系】商学科関連(とくに産業系)の学問的知識を身に付け、おもに企業の経営の立地や産業的基盤に関する実証的な見解を有し、企業が直面している諸問題の構造を分析し、その諸問題に対してどのような行動をとることが望ましいかを明らかにし、社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。
【金融・流通系】商学科関連(とくに金融・流通系)の学問的知識を身に付け、直接金融および間接金融の役割を理解し、また経済活動の中で流通組織がもつ機能と役割を理解し、企業が直面している諸問題の構造を分析し、その諸問題に対してどのような行動をとることが望ましいかを明らかにし、社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。
【会計系】商学科関連(とくに会計系)の学問的知識を身に付け、財務会計および管理会計の役割を理解し、企業が直面している諸問題の構造を分析し、その諸問題に対してどのような行動をとることが望ましいかを明らかにし、社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。

アドミッション・ポリシー

AP① 企業が抱える経営並びに国際経営上の諸問題の構造やその解決に関心を持っている人(CP①②③④⑤)

AP② 金融・流通の諸問題の構造やその解決に関心を持っている人(CP④)

AP③ 社会における会計の役割に関心を持っている人(CP④)

カリキュラム・ポリシー

CP① 商学部で学ぶための基礎的な知識と能力を身に付ける。(DP①②③④⑤)

CP② 商学部の専門分野である経営学・商学・会計学に関する基礎的な知識と能力、学問的関心を身に付ける。(DP②)

CP③ ビジネスや商学部の専門に関する外国語の能力と知識の習得を目指す。(DP②)

CP④ 1,2年次で形成した専門基礎知識を活かして、学科専門科目を履修する。商学科では主に企業のマネジメントで活躍し、社会の持続可能な発展に貢献できる能力を養った学生を育てる。(DP①②③④⑤)

CP⑤ 周辺領域において専門的知識向上の助けとなる知識や、関心を深め、さらに発展させる。(DP①②③④⑤)

教育課程							
1年		2年		3年		4年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
【基幹教育科目】・総合教養科目・初年次教育科目・情報リテラシー科目 【基礎教育科目】・基礎数学A・基礎数学B・統計学基礎I							
基礎							
経営学 会計基礎論		経営学概論、商学概論へ 財務会計概論、管理会計概論へ					
		経営学概論 財務会計概論		【経営系】【国際ビジネス系】【産業系】へ 【金融・流通系】【会計系】へ			
キャリアデザイン演習		プロジェクト・ゼミナール1 海外プロジェクト・ゼミナールA 海外プロジェクト・ゼミナールB		プロジェクト・ゼミナール2			
		外書講読(経営)		外書講読(会計)		外書講読(経営情報)	
		外書講読(商学)		外書講読(ファイナンス)		ビジネス英語 ビジネス・コミュニケーション ビジネス・トピックス	
				専門ゼミナール1 卒業論文		専門ゼミナール2 卒業論文	
		【経営系】 経営管理論 経営史 経営組織論 マーケティング管理論 経営統計論		経営戦略論 経営財務論 事業戦略論 現代生産システム論 企業戦略論		人的資源管理論 経営財務論 現代生産システム論 企業戦略論	
		【国際ビジネス系】 国際経営論 国際金融論		通商政策論 国際資本市場論 国際法論		比較企業論	
		【産業系】 産業史		技術論 日本産業論		環境論 産業統計論 比較産業論	
		【金融・流通系】 金融機関論		証券市場論 商業論		流通システム論 消費者行動論	
		【会計系】 原価計算論 管理会計システム論		経営分析論 財務会計論 企業評価論		国際会計論 会計監査論 管理会計論	
		【社会経営系】 公会計論 社会関連会計論 環境政策論		非営利組織会計論 公益事業論 文化政策論		政策形成論 組織文化論	
		【地域経営系】 地域経済論 中小企業論		地域経営論 税務会計論		自治体財政論 中小企業会計論	
		【地域産業・まちづくり系】 地域マーケティング論		地域商業論 地域金融論		ベンチャー・ビジネス論 ベンチャー・マーケティング論	
		【産業地理系】 産業集積論		産業立地論		地域再生論 大阪ビジネス論	
職業指導1 職業指導2 商業科教育法1A 商業科教育法2A							

凡例

学科共通基礎科目
学科共通専門科目
学科共通外国語科目
学科専門科目
履修科目
教職科目

必修科目:赤字太字下線
選択科目:黒字

赤枠:応用 緑枠:基礎

学科としては、他学科科目の履修を推奨するため他学科科目を記載する。

ディプロマ・ポリシー

DP① 経営学の観点から企業が直面している諸問題の構造を分析し、その諸問題に対してどのような行動をとることが望ましいかを明らかにし、社会の持続可能な発展に貢献する能力を身に付けている。(CP①④⑤)

DP② 国内外で活動を展開している企業が直面している諸問題の構造を分析し、その諸問題に対してどのような行動をとることが望ましいかを明らかにし、社会の持続可能な発展に貢献する能力を身に付けている。(CP①②③④)

DP③ 企業の産業的基盤に関する実証的な見解を身に付けている。(CP①④⑤)

DP④ 経済活動の中で流通組織がもつ機能と役割を理解する知識を身に付けている。(CP①④⑤)

DP⑤ 財務会計および管理会計の役割を理解する知識を身に付けている。(CP①④⑤)

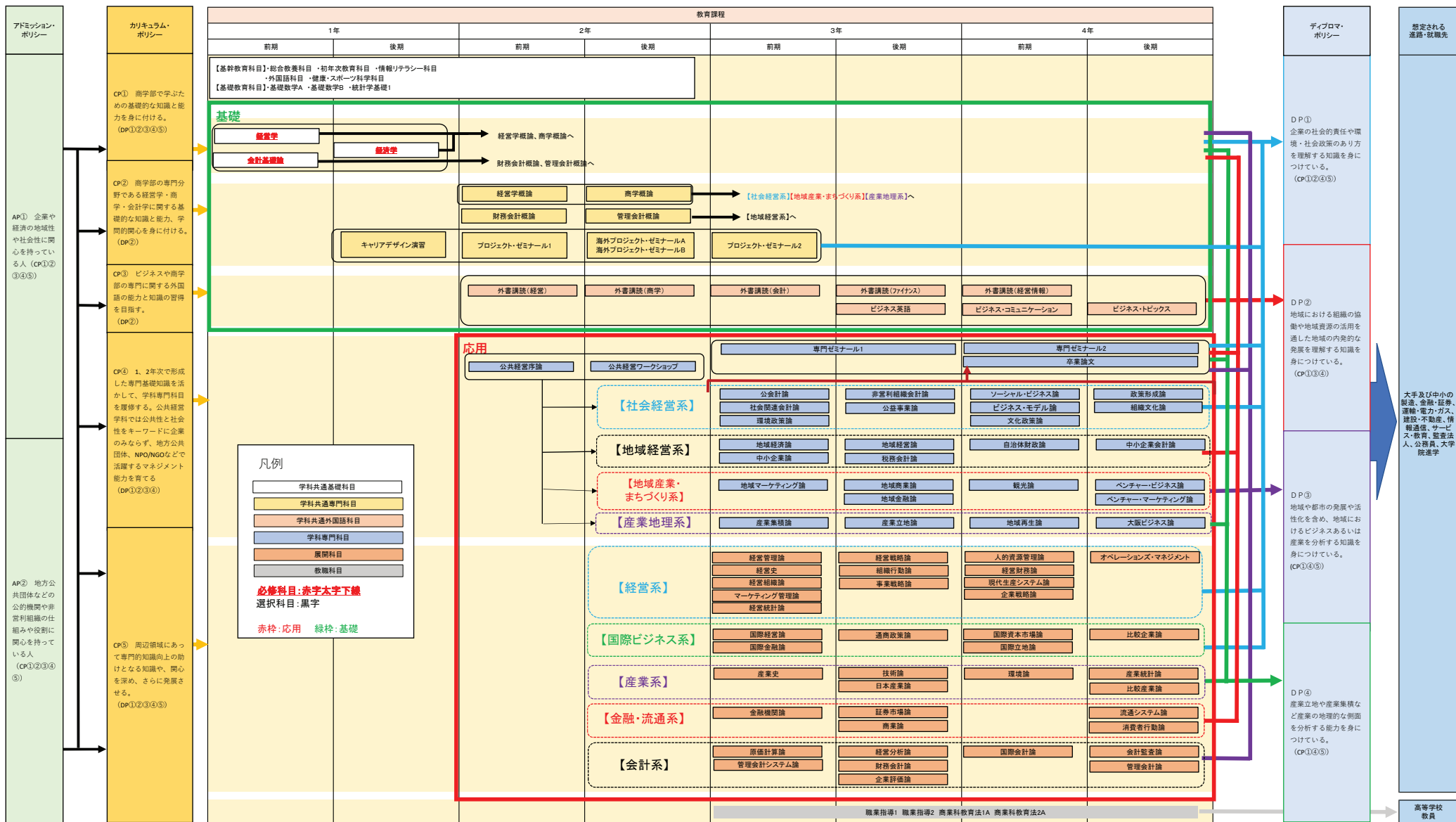
想定される
進路・就職先

大手及び中小の製造、金融・証券、運輸・電力・ガス、建設・不動産、情報通信、サービス・教育、監査法人、公務員、大学院進学

高等学校
教員

商学部 公共経営学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】 ○大阪市立大学商学部は1880(明治13)年に商部大阪に設立された大阪商業講習 所や、1928(昭和3)年創立の前身旧制大阪商科大学(大阪商大)の伝統的な伝統を継ぎながら、経済界(実業界)のみならず、経済学、法学、地域で活躍する有為な人材を数多く輩出してきた。 ○2018(平成30)年4月に新たに「公共経営学科」を設置し、公共・非営利分野 で活躍する人材の育成が求められる社会的要請に応えるために、公的機関や非営 利組織、地域企業(中小企業)、CSR(企業の社会的責任)等について重点的に 学ぶ機会を拡大した。 ○大阪府立大学経済学部は1954(昭和29)年に大阪の産業振興を担う人材の育成 を使命として設立され、経済、政治、教育、文化の分野で貢献する人材を輩出してきた。 ○新たに誕生する大阪公立大学商学部は、「商学」および「公共経営学科」の2学 科体制を維持・継続し、経済分野や地域で活躍 貢献する人材を育成する。	【養成する人材像】 ○経営学・商学・会計学の学問的知識を身につけ、倫理観と責任感を持ってそれらを活かすことのできる人材を養成する。 ○企業のみならず、公的機関(自治体)、NPO/NGOなどのマネジメントの分野で活躍できる人材を養成する。 ○課題発見能力と課題解決能力を身に付けた個性と社会性あふれる人材を養成する。 【社会経営系】経済の地域性や企業の社会性(とくに社会経営系の分野)に関心をもち、企業の社会的責任や環境・社会政策のあり方を理解し、企業のみならず、地域企業(中小企業)、公的機関、地方自治体、NPO/NGOなどのマネジメントで活躍できる人材を育成する。 【地域経営系】経済の地域性や企業の社会性(とくに地域経営系の分野)に関心をもち、地域における組織の協働や地域資源の活用を通じた地域の内発的な発展を理解し、企業のみならず、地域企業(中小企業)、公的機関、地方自治体、NPO/NGOなどのマネジメントで活躍できる人材を育成する。 【地域産業・まちづくり系】商学科関連(とくに産業系)の学問的知識を身に付け、おもに企業の経営の立地や産業的基盤に関する実証的な見解を有し、企業が直面している諸問題の解決を分析し、その問題に対してどのような行動をとることが望ましいかを明らかにし、社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。 【産業地理系】経済の地域性や企業の社会性(とくに産業地理系の分野)に関心をもち、産業集積などの地理的な側面を分析し、企業のみならず、地域企業(中小企業)、公的機関、地方自治体、NPO/NGOなどのマネジメントで活躍できる人材を育成する。
---	--



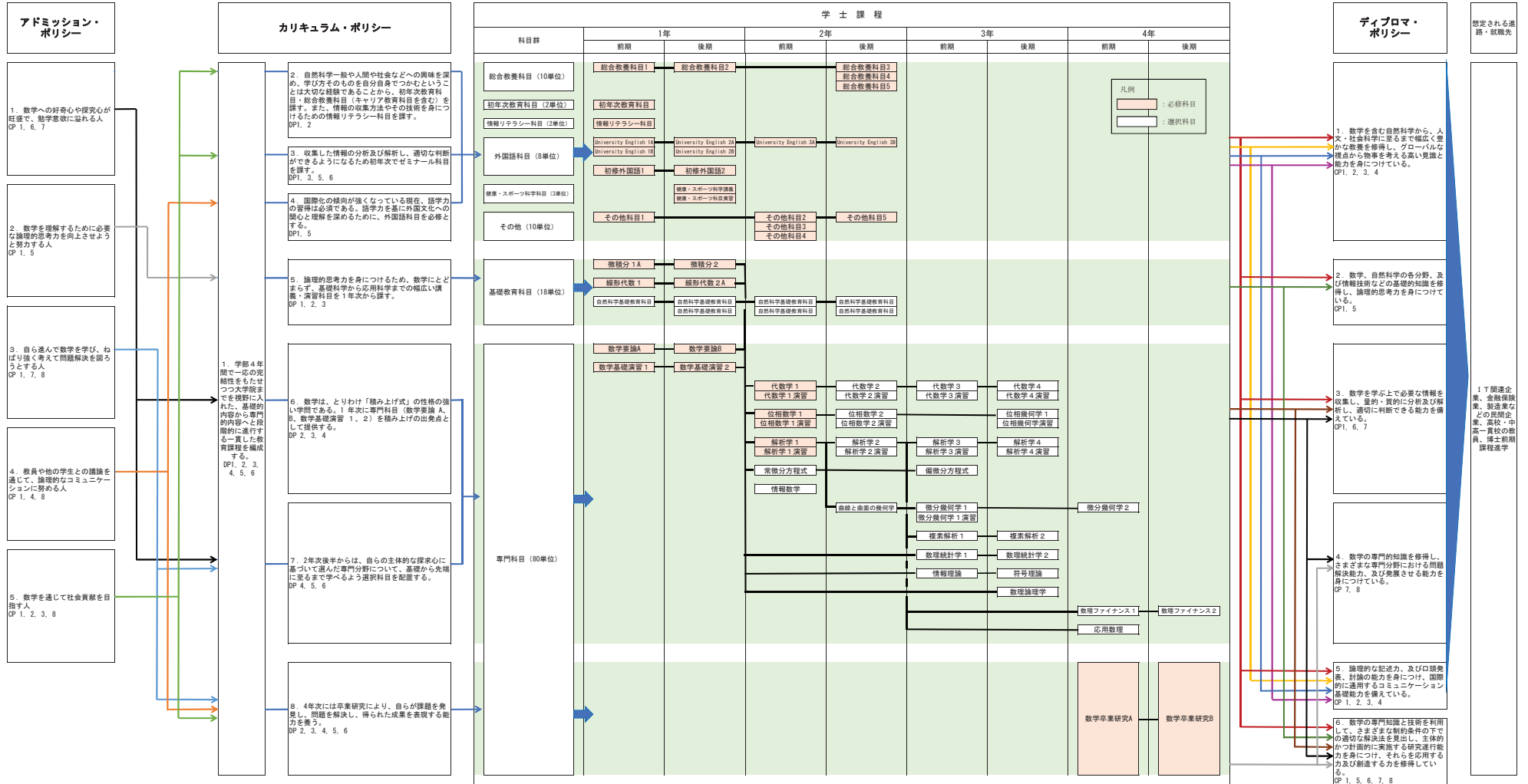
理学部 数学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

数学は、全ての科学の基礎であり共通の言葉である。また、なにものにも縛られず、純粋に人間の知的欲求、美意識から生まれた不朽の価値を有する文化である。このように基礎的かつ普遍的である数学は、科学技術の急速な発展や情報社会の高度化を支えながら、今後益がりと深みを増して進む事業にならなくてはならない。本学科はこの社会の発展に必要となる広がりや高度性を追求し、教育研究を行う。自由な学問的雰囲気の中、知ることへの憧れ、考えることの楽しさ、問題解決の喜びを大切にして、物事の本質を見極め、自由で独創的な発想ができ、自らが理解したことを正確にわかりやすく表現できる人材を育成する。

【養成する人物像】

自由な学問的雰囲気の中、知ることへの憧れ、考えることの楽しさ、問題解決の喜びを大切にして、物事の本質を見極め、自由で独創的な発想ができ、自らが理解したことを正確にわかりやすく表現できる人材。



【設置の趣旨・必要経】

物理学は、自然現象に対する系統的な観測、実験及び理論的考察を通じて、自然現象の背後に存在する普遍的な法則を追求する学問である。物理学の進展は、自然に対する我々の認識を深く意に引き下げると同時に、産業革命の原動力ともなっている。科学技術の急速な発展、高度化に伴い、基礎研究の重要性と新しい発想を求めめる社会的要請はますます高まっており、基礎的な知識を得ると、創造的な論理的思考力を持つ人材が求められている。本学科は、系統に組み込まれた力・エネルギーによる物理学の理論、実験の両面から教育、最先端の研究に、幅広い教養教育を加えて、未解決の問題に論理的思考と柔軟性を持って挑む、創造性豊かな人材を養成し、上記の社会的要請に応える。

【養成する人物像】
系統的に編まれたカリキュラムによる物理学の理論・実験の両面からの教育、最先端の研究に、幅広い教養教育を加えて、未解決の問題に論理的思考と柔軟性を持って挑む、創造性豊かな人材



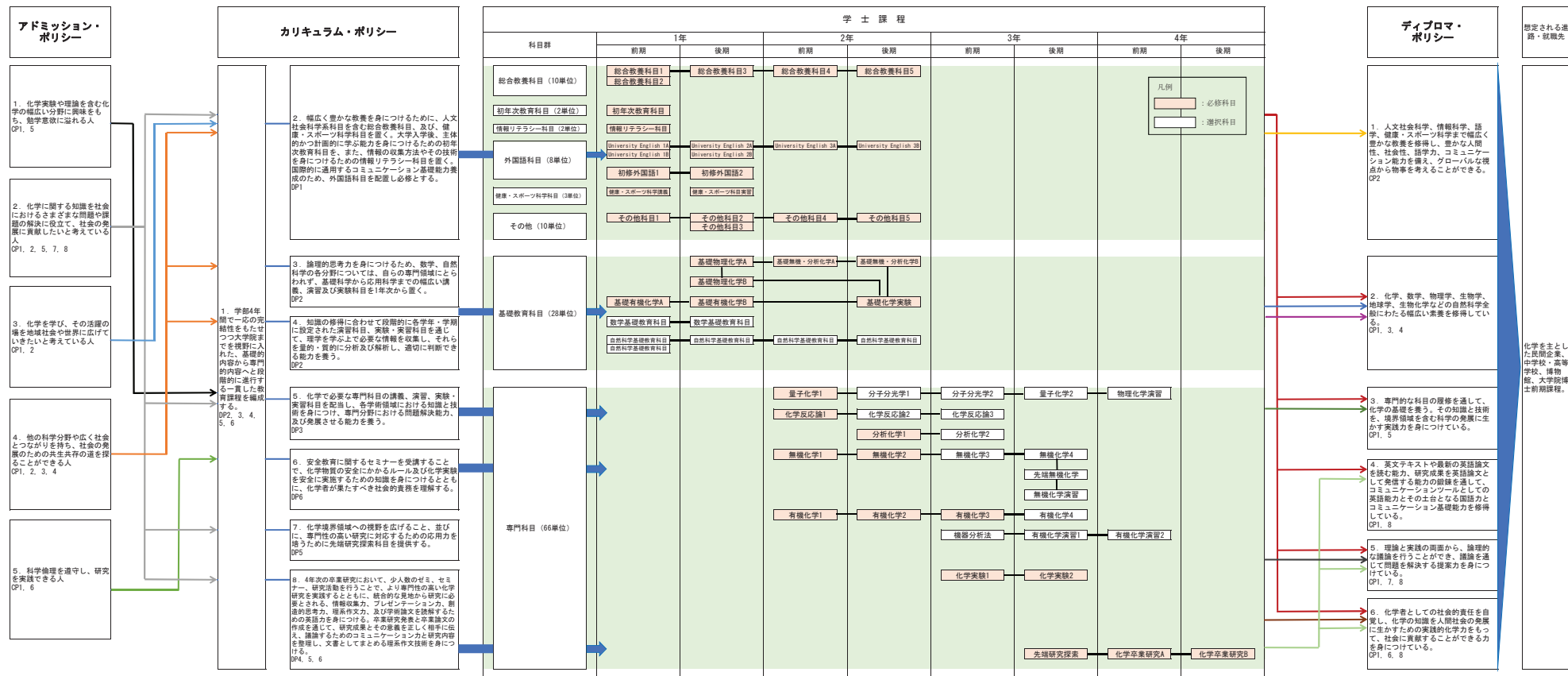
理学部 化学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

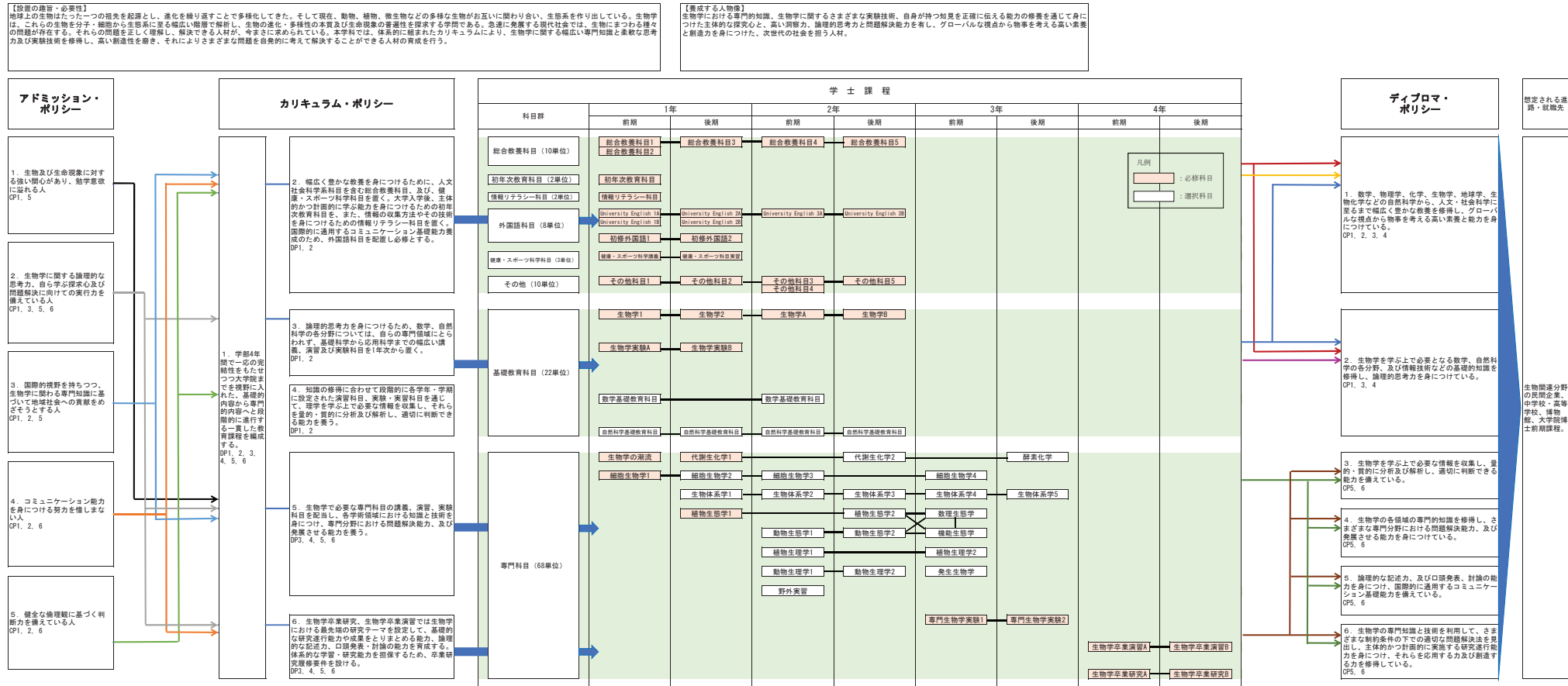
これは、原子・分子の観点から物質の化学を明らかにし、新しい物質・分子を創製する学問である。新しい物質を作出し、未知の現象を探知することで、分子の構造や可能性を拓く創造的探究により化学工学は進歩してきた。先人のたゆみない努力により蓄積されてきた化学の知識と技術は、現代社会でも多くの豊かさをもたらし、今や、私たちの生活に必要不可欠なものとなっている。化学の知識と技術を継承し、かつ、最先技術と切り結ぶ素養を備えた人材を供給が、本国のみならず世界に求められている。本学科では、高度な知識と素養に加え、社会の発展と社会問題の解決に立ち向かう創造力を兼ねた化学人材を育成する。体系的な化学教育を提供し、幅広い化学の専門知識を教授することによって、高度な化学知識の習得に対する社会からの要請に応える。

【養成する人物像】

化学の知識と技術を継承し、かつ、最先端を切り開く素質を備え、得た知見を正確に伝える能力の修養を通じて、さまざまな専門分野における問題解決能力を身につけ、広く社会に貢献できる人材、及び大学院進学により更なる研究を志す人材。



理学部 生物学科 カリキュラムマップ



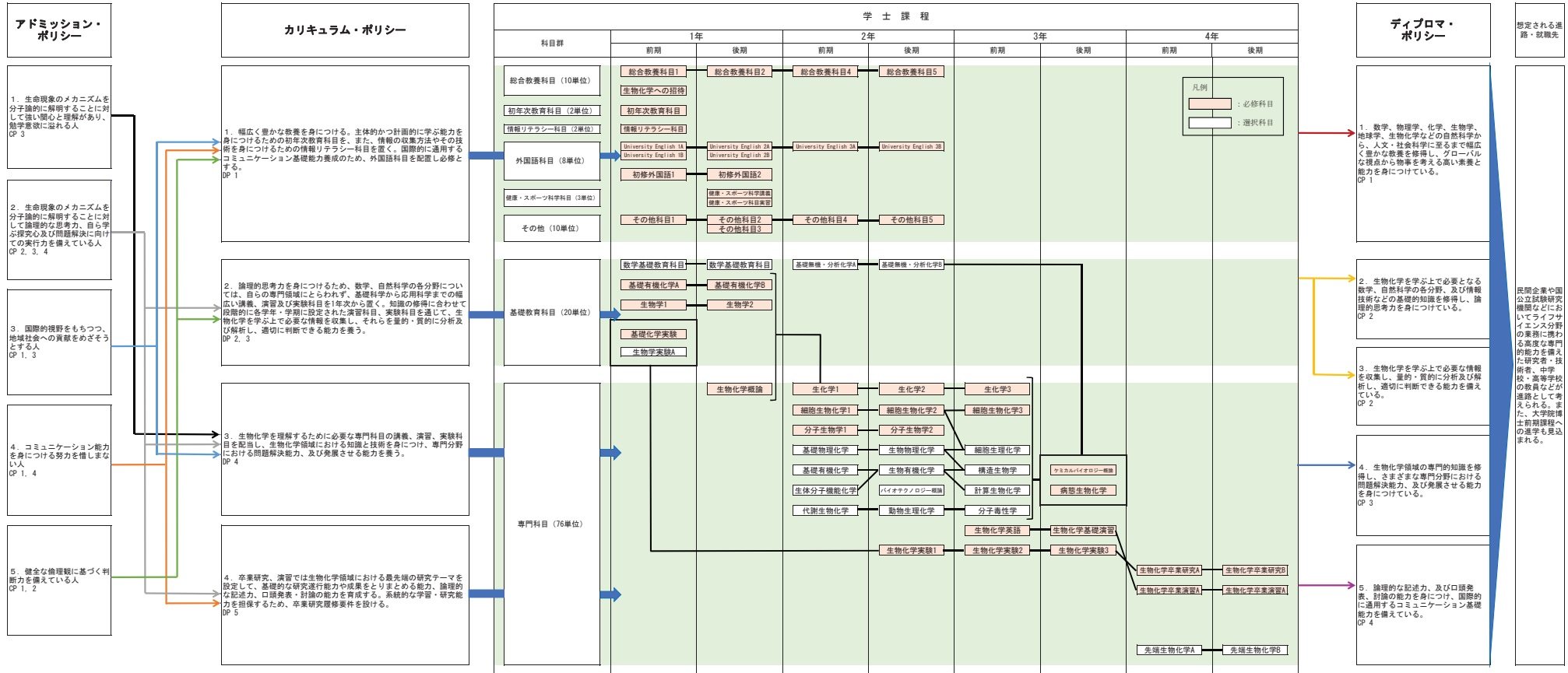
【設置の留意・必要性】
地球は、過去から現在に至る地球の発展を学理的に認識し、その未来を予測するための知識と技術を構築するための学問である。地球の真の姿を把握するためには、地球を構成する物質の物理・化学作用によって生じる現象の法則性を明らかにするとともに、さまざまな作用が相互に影響し、変遷を繰り返して複雑なシステムとなり、その地球の歴史と変遷を捉える必要がある。これは、人間の活動がもたらす環境変化のメカニズムを明らかにし、その原因と結果を追究するとともに、地球環境の持続可能性を確保し、人類の未来を展望するための学問である。地球環境の持続可能性を確保し、人類の未来を展望するための学問である。地球環境の持続可能性を確保し、人類の未来を展望するための学問である。



理学部 生物化学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】
○本学科は、生命活動を担う生体分子やその集合体の構造、機能、相互作用などを主な研究対象とし、生体の秩序が維持されるしくみ、生体分子が細胞や生体を形作るしくみ、それらが周囲の環境に広がるしくみの分子論的説明を目指し、これらの研究を担う人材を育成する。
○高齢化社会を迎える21世紀において健全な社会生活を維持していくためには、病気の発症メカニズムの解明、予防方法の確立、創薬などにつながる戦略的な基礎研究が極めて重要である。生体システムの破綻によって引き起こされる疾病の克服につながる研究を推進する人材の養成を行うことで、高齢化社会の諸問題の解決に貢献するためにも、本学科の設置が必要である。

【養成する人材像】
本学科では、生体分子が生体を形作るしくみ、生体秩序を維持するしくみ、それらが周囲の環境に広がるしくみを分子論的に理解するために、化学、生化学、分子生物学、細胞生化学、バイオテクノロジー、ケミカルバイオロジーなどの専門的な知識の修得を目指す。さらに、論理的思考力や幅広い教養を身につけ、専門的な知識を生かして、ヒトのさまざまな疾病の発症メカニズムの解明、疾病の予防方法の確立、創薬などに向けた基礎研究に関連した分野で広く社会に貢献できる人材の育成を行う。また、当該分野で国際的な活躍のできる人材の育成を行う。この教育目的に照らして、次のような能力を身につけたものに学士の学位を授与する。



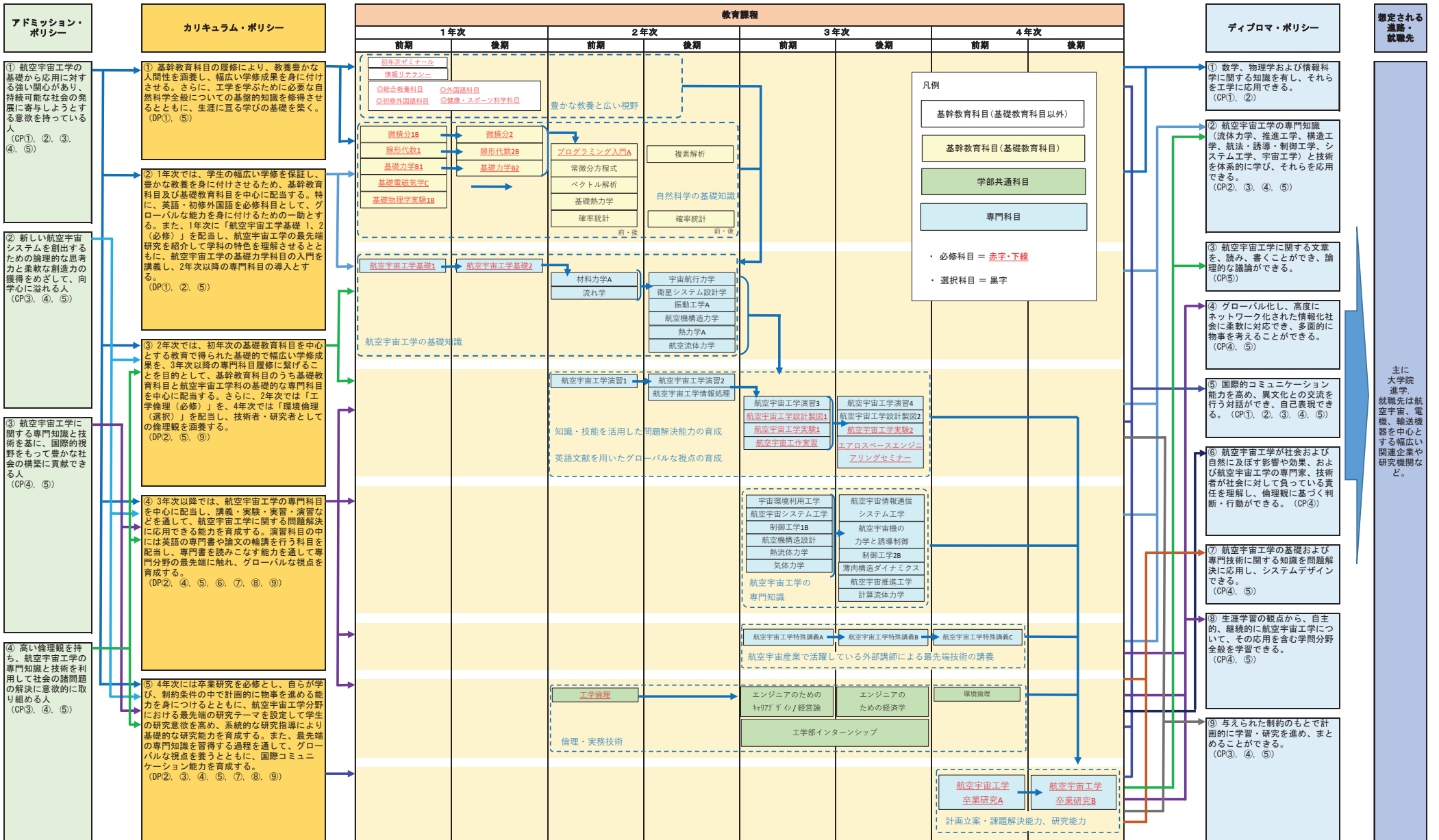
工学部 航空宇宙工学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

現代社会において、航空宇宙産業は、高度な技術が要求される先進国特有の成長産業であり、その技術は自動車、高速鉄道、ガスタービン発電等に広く適用されている。航空宇宙工学は、航空機ならびに宇宙機の開発・運用に関する学問分野であり、空と宇宙のフロンティアをめざす人類の挑戦を担うとともに、持続可能な社会と地球環境保全との調和をめざす先端の工学分野である。このため、大蔵公立大学では、これまでの両大学の教育研究資源と実績を継承し、工学部に航空宇宙工学科を設置する。航空宇宙工学を体系的に教授する学科を有するのは関西圏で希少であり、新大学の工学部として大きな特徴の一つとなる。このように工学部 航空宇宙工学科では、社会ニーズに対応し、航空宇宙分野で活躍する人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

航空宇宙の専門分野を深く極めると同時に、全地球的な視野から物事を総合的に考える能力、およびシステムデザイン能力を育成するとともに、自主的、継続的に学習し、可能性を切り開く能力、精神を涵養し、未来を担う人材を育成する。



工学部 海洋システム工学科 カリキュラムマップ

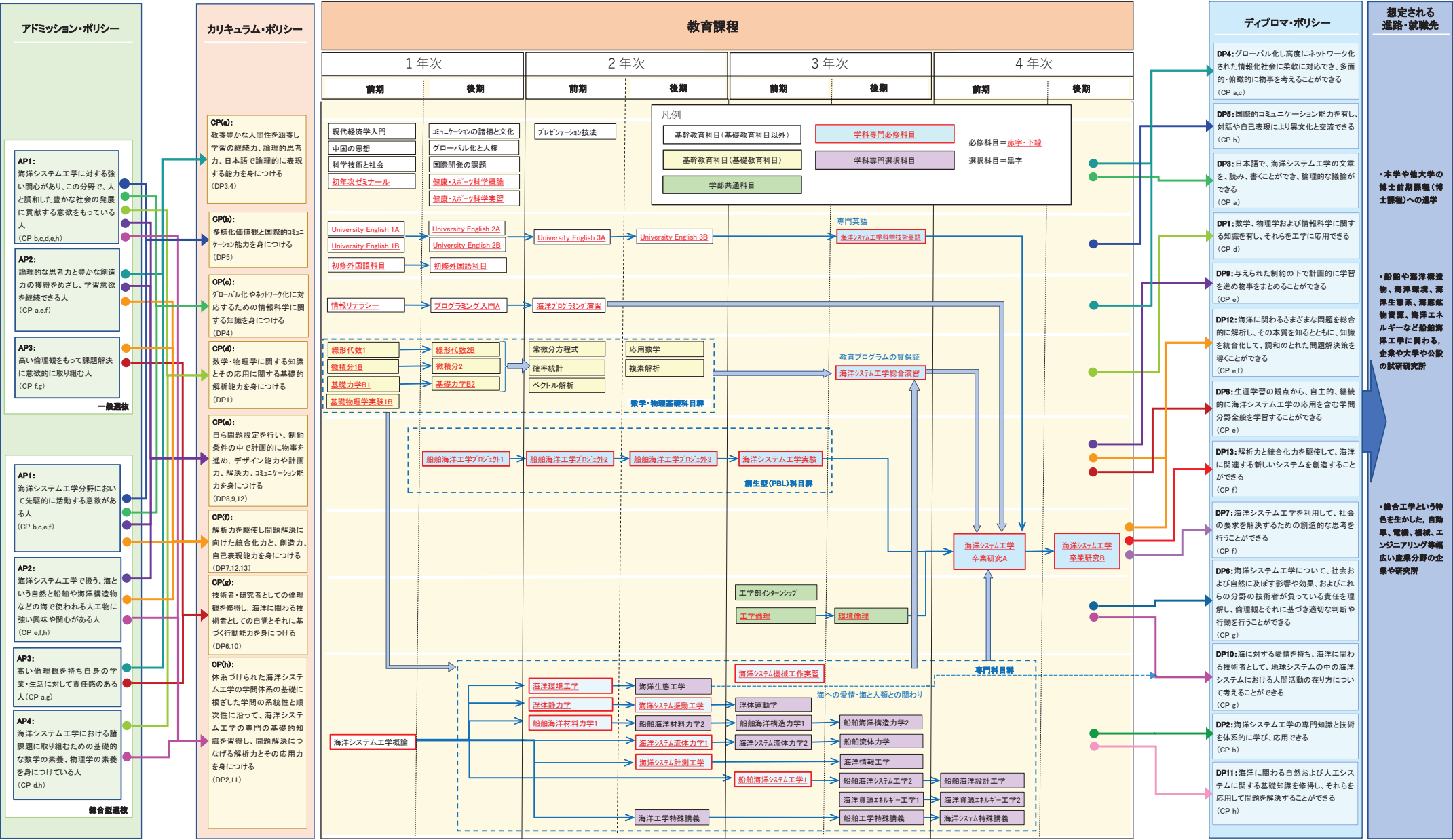
【設置の趣旨・必要性】

船舶海洋工学に関わる人材育成の重要性は、我が国の海洋基本法に基づく海洋基本計画にも記されるところであるが、系統的に船舶海洋工学を学ぶ高等教育プログラムは日本国内では8大学しか設置されておらず、海洋に関する工学を学んだ人材を輩出する機関の継続・発展が必要とされている。既存の大阪府立大学 工学部 海洋システム工学科は、船舶海洋工学にとどまらず海洋に関わる総合工学を学ぶ教育プログラムとして、2009 年よりJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けるとともに、船舶海洋工学に関わる多くの分野で活躍する優秀な人材を輩出してきた。

大阪公立大学では、これまでの教育研究組織の資源と実績を継承し、工学部に海洋システム工学科を設置する。海洋システム工学科では、船舶や海洋構造物、海洋環境、海洋生態系、海底鉱物資源、海洋エネルギーなどに強い学術的関心を持って船舶海洋工学を志す学生を対象に、「環境がわかるエンジニア」の育成を特長としたユニークな教育研究体制を整備し、当該分野の教育研究を進展させ、有為な人材を育成し、社会に貢献する。

【人材養成の方針】

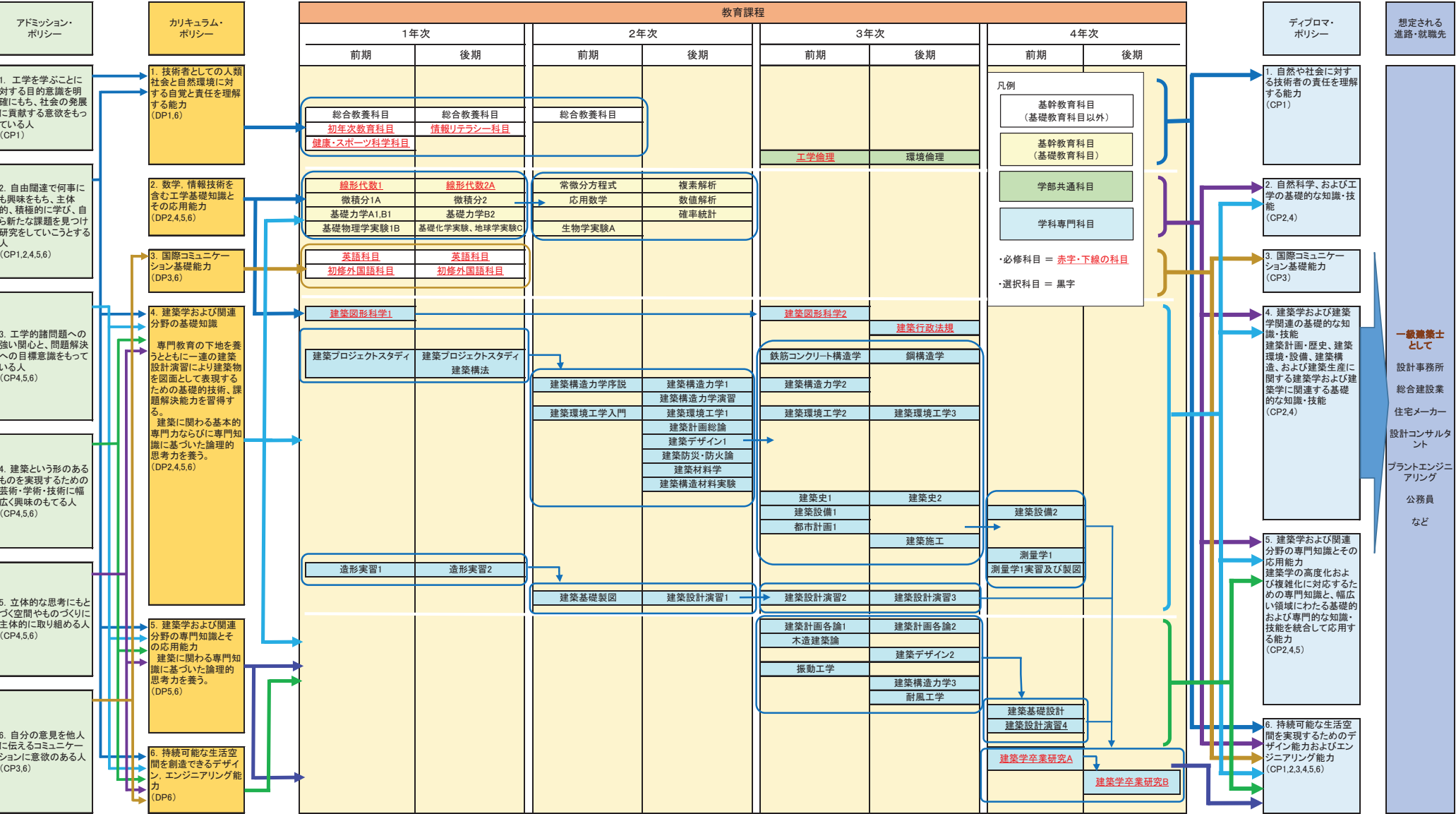
海洋における人間活動に関わるすべての技術は、人間および環境との調和の上にあるべきとの基本理念のもとに、海洋における各種の人工システムに関する研究、開発、設計、生産、運用を担う人材、および海洋環境の計測、保全、創造に寄与できる人材を育成する。





【設置の趣旨・必要性】
建築学は、多様な自然環境と社会環境の中で、人間にとって不可欠な建築環境を築く学問である。とりわけ、少子高齢社会を迎え、量から質への価値観の転換が進むわが国では、建築固有の歴史と文化を踏まえつつ、環境の保全と創造、効率的なストックの維持管理と有効利用、及び激甚化する自然災害への防災対策に基づく、快適で安全・安心な建築づくりが求められる。これまでのようなスクラップアンドビルド（壊して造る）ではなく、省エネルギーや既存の建築資産の活用を考慮した持続可能なデザイン、すなわち、工学・技術・芸術に立脚した人文・社会領域にまたがる要求に総合的に対応する能力が求められている。
未来の持続可能な社会の中で求められる建築の姿を創出するとともに、そのような建築を実現するためには、グローバルな視野を持ち、多面的に物事を捉えることができるデザイナーやエンジニアを育成することが必要不可欠である。芸術・学術・技術に立脚した「総合建築教育」を教育理念に掲げ、「建築」から「都市」まで幅広く教育することによって、「発展」から「持続」へ、「効率性」から「人間性」へという、成熟期を迎えた社会の要求や課題を的確に把握し、それらの実現や解決に対して「理論的」かつ「実践的」に対応しうるデザイナーやエンジニアの育成を担う学科として、大阪市立大学工学部建築学科の教育研究組織と実績を継承し、大阪公立大学工学部に建築学科を設置し、有為な人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】
成熟期を迎えた社会の諸課題を的確に把握し、持続可能な生活空間を実現するためには、工学から自然科学、人文社会科学に至るまで、幅広い領域の知識・技能を統合する必要がある。
建築学科は芸術・学術・技術に立脚した「建築総合教育」と、学生の個性を育てる「少人数教育」によって、社会の諸課題に対し専門的な知識・技能を統合し、持続可能な生活空間の実現にむけて主体的に行動できるような、柔軟な発想力と論理的な思考力を備えたデザイナーやエンジニアを育成する。



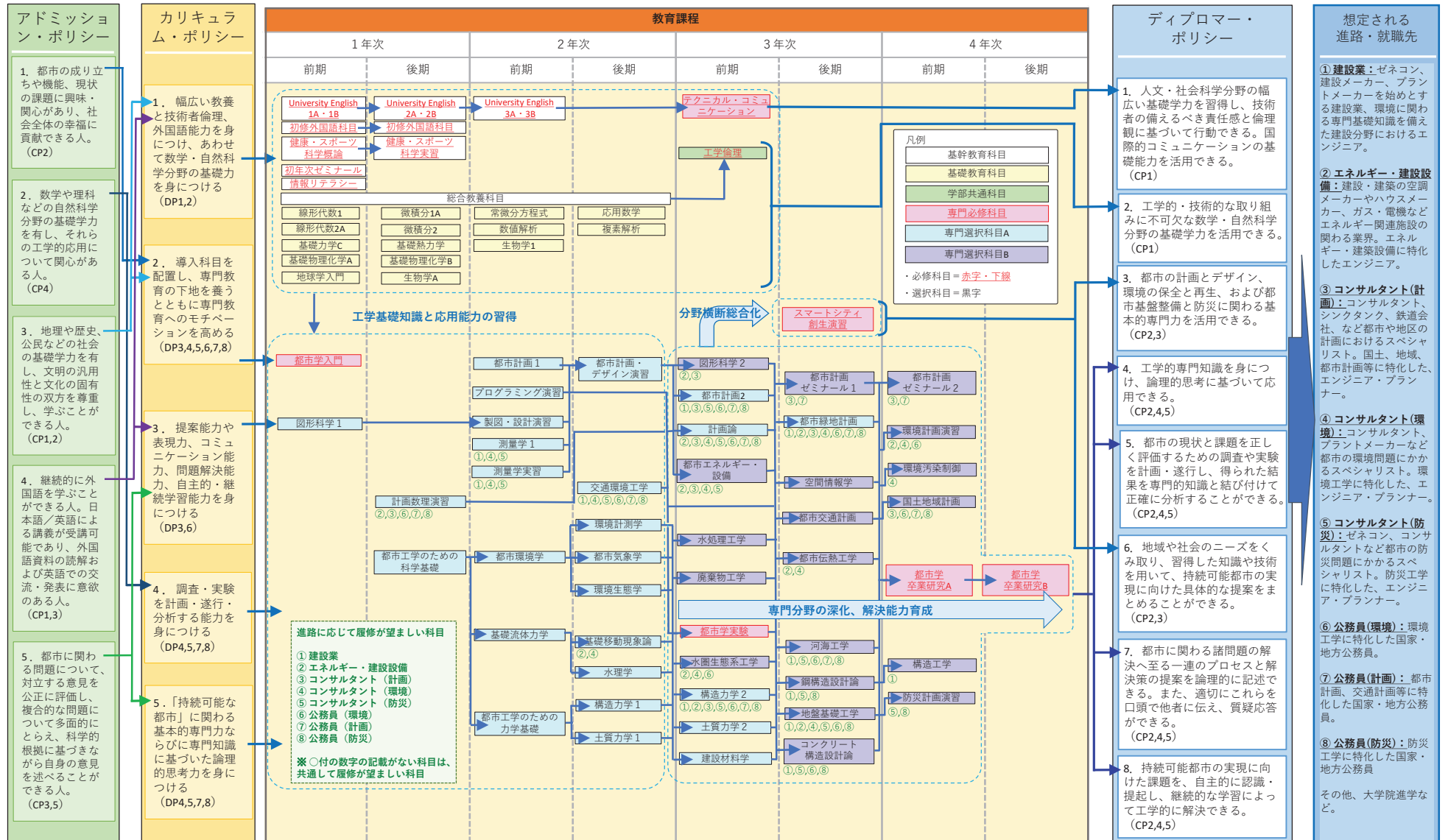
工学部 都市学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

現代社会は、都市固有の歴史と文化を踏まえつつ、環境の保全と創造、効率的なインフラの維持管理と防災対策に基づく、快適で安全・安心な都市づくりが求められる。また、限りある資源・エネルギーを有効に使いながら、環境汚染を未然に防止し、効率的かつ安全なインフラ整備を行うための都市設計および都市づくりが求められる。大阪公立大学では、これまでの大阪市立大学の教育研究資源と実績に基づき、工学部に都市学科を設置する。都市学科では、グローバルな視野を持ち、多面的に物事を捉えることができるプランナーとエンジニアを養成することを目的に社会に貢献する。

【養成する人材像】

都市の機能と構造を理解するための基礎科学力（DP2, DP3）と、これからの都市に求められる様々な要素を見極めるための多様な知識を有し（DP1）、科学的根拠を基に都市が抱える課題を読み解く（DP4, DP5, DP8）とともに、説得力のある解決策を提案し（DP6）、それを実現するためのコミュニケーション能力と順応性（DP7）を有するプランナー／エンジニアを養成する。



工学部 電子物理工学科 カリキュラムマップ（電子物性コース）

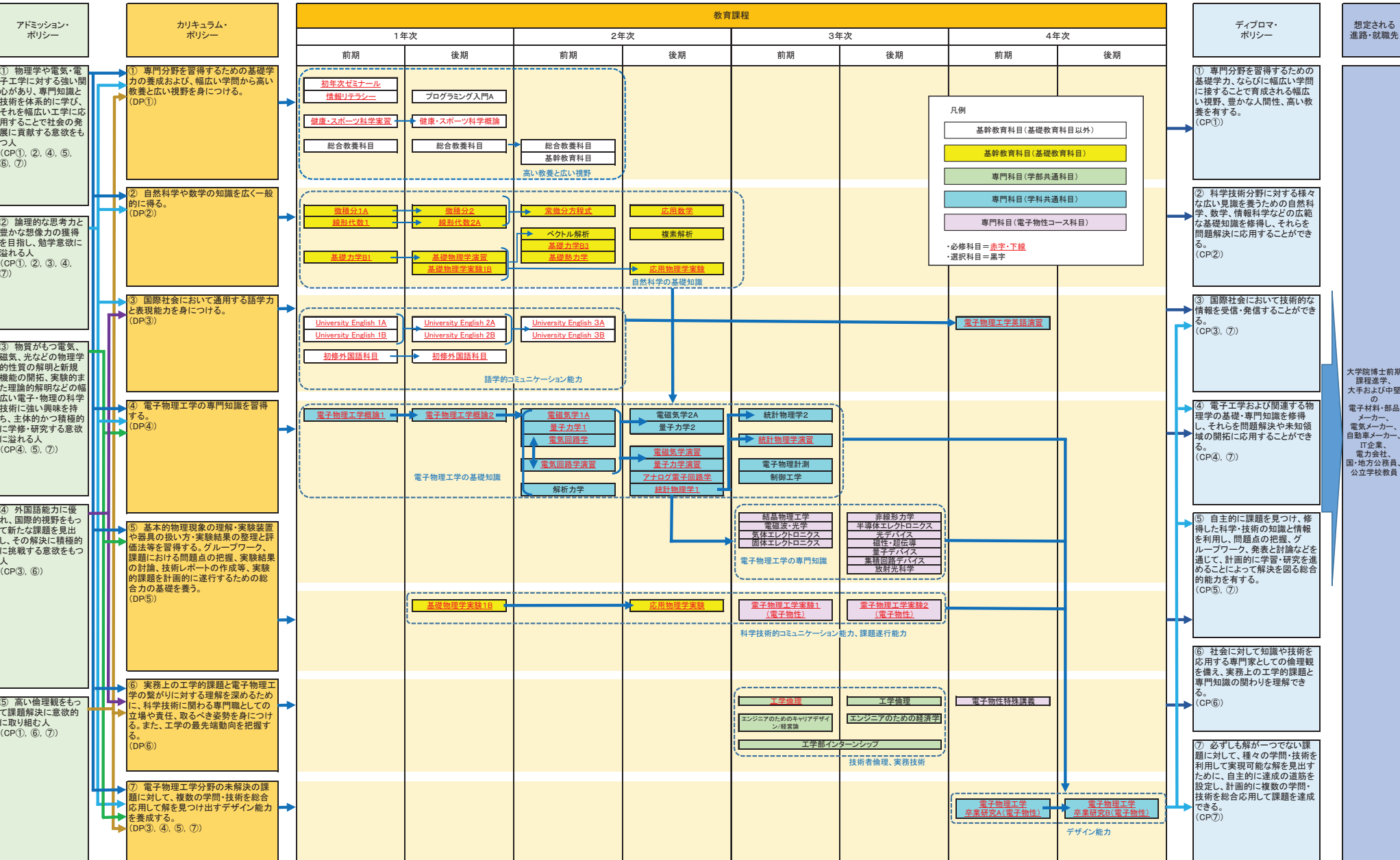
【設置の趣旨・必要性】

電子の物理的機能をもとに発展してきたエレクトロニクスに関する科学技術は我々の社会を支えており、電子物理工学という一つの学問体系となっている。この電子物理工学によって実現される技術として、電子の電荷としての性質を利用するもの、電子のエネルギー的な遷移によって生じる光を利用するもの、電子のスピンを起源とする磁性を利用したものが含まれる。電子物性の探求と新しい電子材料の開拓は、電子物理工学の両輪をなすものである。

今後のIoTの発展とサステイナブルな社会を実現するためには、新着なデバイスの開発を含む電子物理工学の発展が社会的にも望まれており、その発展を担う人材育成を行う学科が必要である。このため、大阪公立大学に既存の教育研究組織の資源と実績を継承し、工学部に電子物理工学科を設置し、当該分野の教育研究を進展させ、社会のニーズに応え得る有為な人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

電子物理工学はエレクトロニクスを支える幅広い学問領域であるが、電子物性と電子材料に関する学問領域に大別され、これらは電子物理工学の両輪となっている。その発展は、両者が関連し合うことによって実現されてきたが、今後の社会を支えるには、それぞれの深化とさらなる発展が必要不可欠である。本学科では、こうした背景に基づき、電子物理工学の発展に必要な電子物性、電子材料に共通の知識と能力を修得した上で、その発展を支える両輪となる電子物性に秀でた人材と電子材料に秀でた人材を養成する。



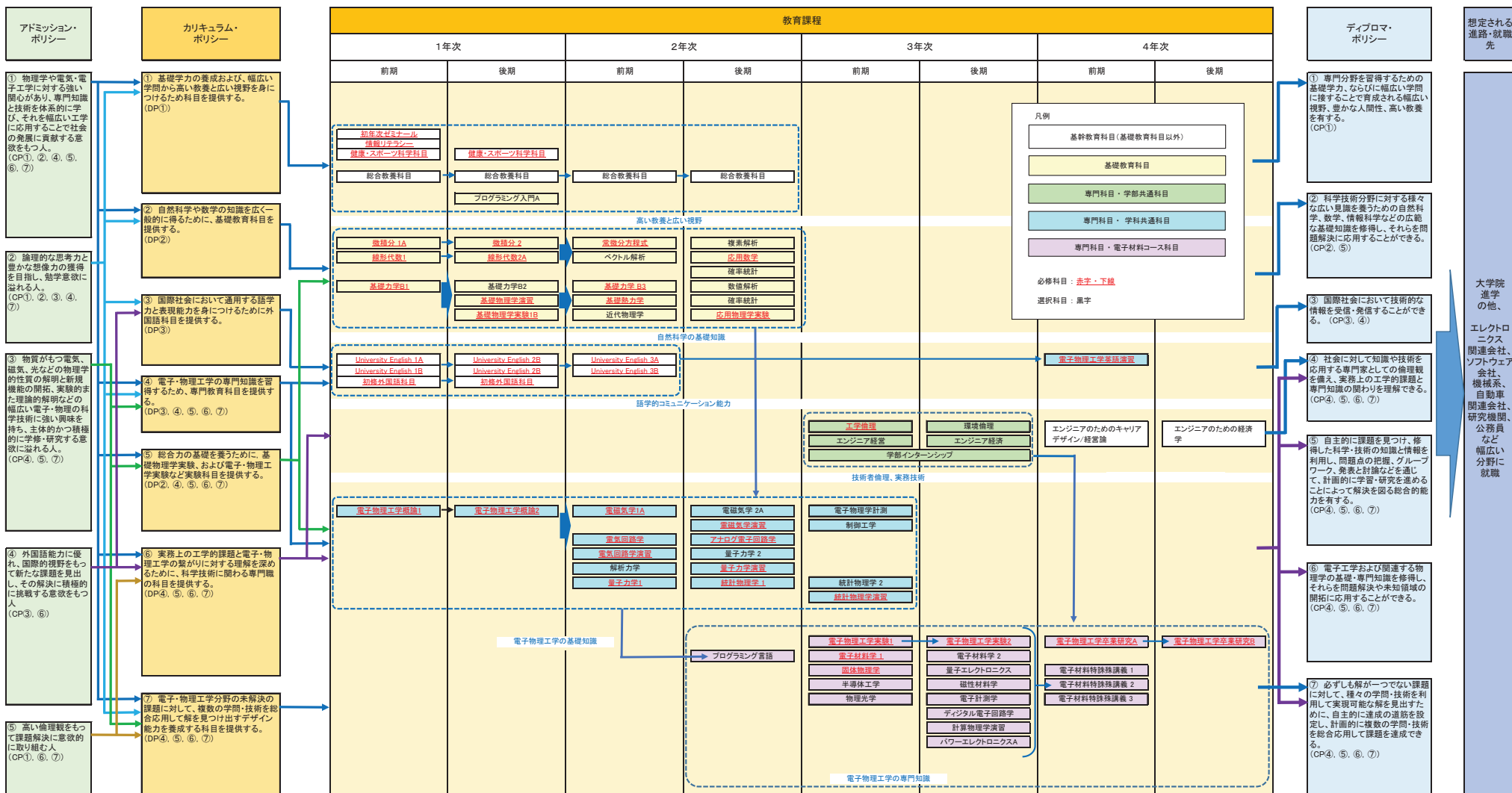
【設置の趣旨・必要性】

電子の物理的機能をもとに発展してきたエレクトロニクスに関する科学技術は我々の社会を支えており、電子物理学という一つの学問体系となっている。この電子物理学によって実現される技術として、電子の電荷としての性質を利用するもの、電子のエネルギー的な遷移によって生じる光を利用するもの、電子のスピンを起源とする磁性を利用したものが含まれる。電子物性の探求と新しい電子材料の開発は、電子物理学の両輪をなすものである。

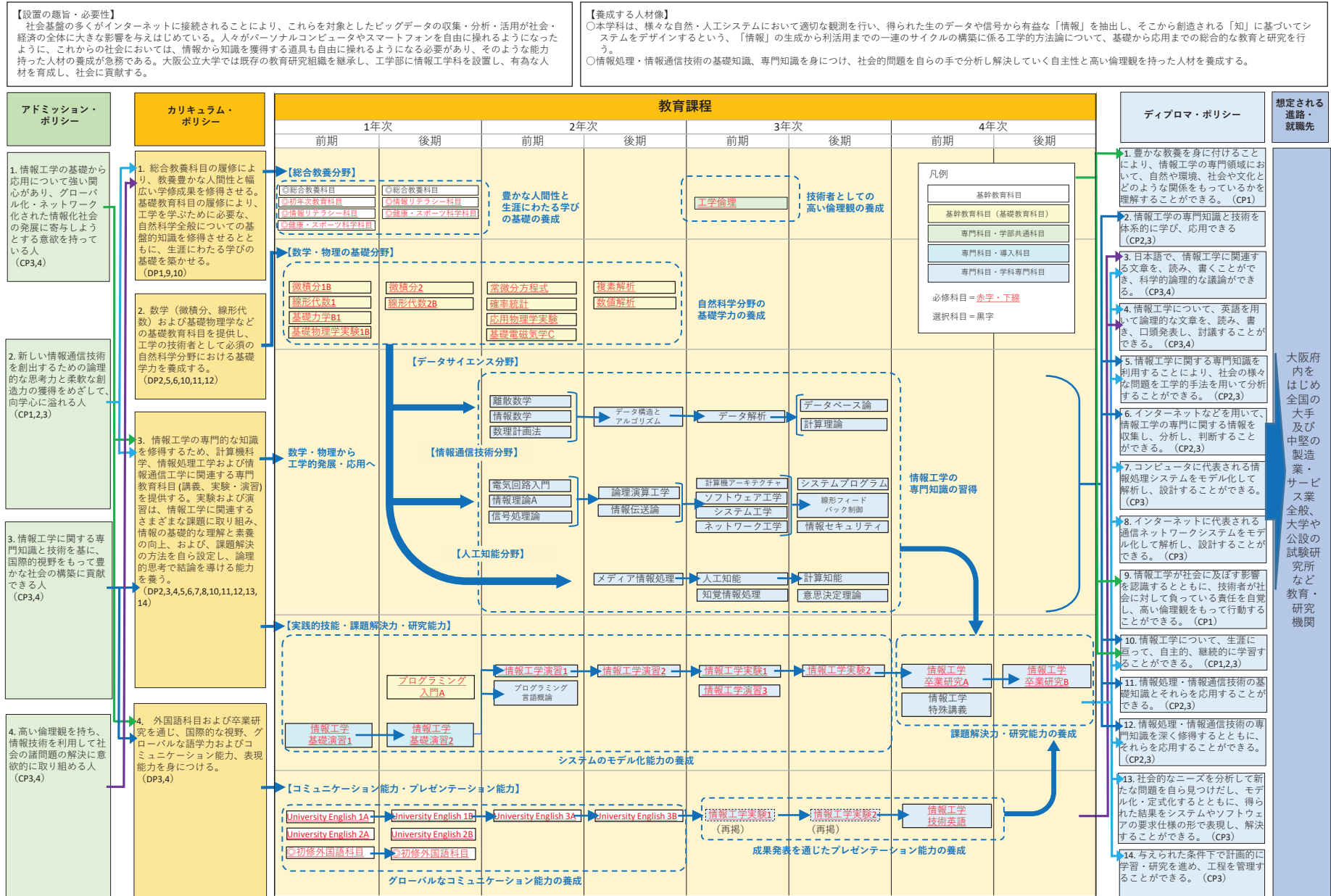
今後のIoTの発展とサステナブルな社会を実現するためには、新奇なデバイスの開発を含む電子物理学の発展が社会的にも望まれており、その発展を担う人材育成を行う学科が必要である。このため、大阪公立大学に既存の教育研究組織の資源と実績を継承し、工学部に電子物理工学科を設置し、当該分野の教育研究を進展させ、社会のニーズに応え得る有為な人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

電子物理学はエレクトロニクスを支える幅広い学問領域であるが、電子物性と電子材料に関する学問領域に大別され、これらは電子物理学の両輪となっている。その発展は、両者が関連し合うことによって実現されてきたが、今後の社会を支えるには、それぞれの深化とさらなる発展が必要不可欠である。本学科では、こうした背景に基づき、電子物理学の発展に必要な電子物性、電子材料に共通の知識と能力を修得した上で、その発展を支える両輪となる電子物性に秀でた人材と電子材料に秀でた人材を養成する。



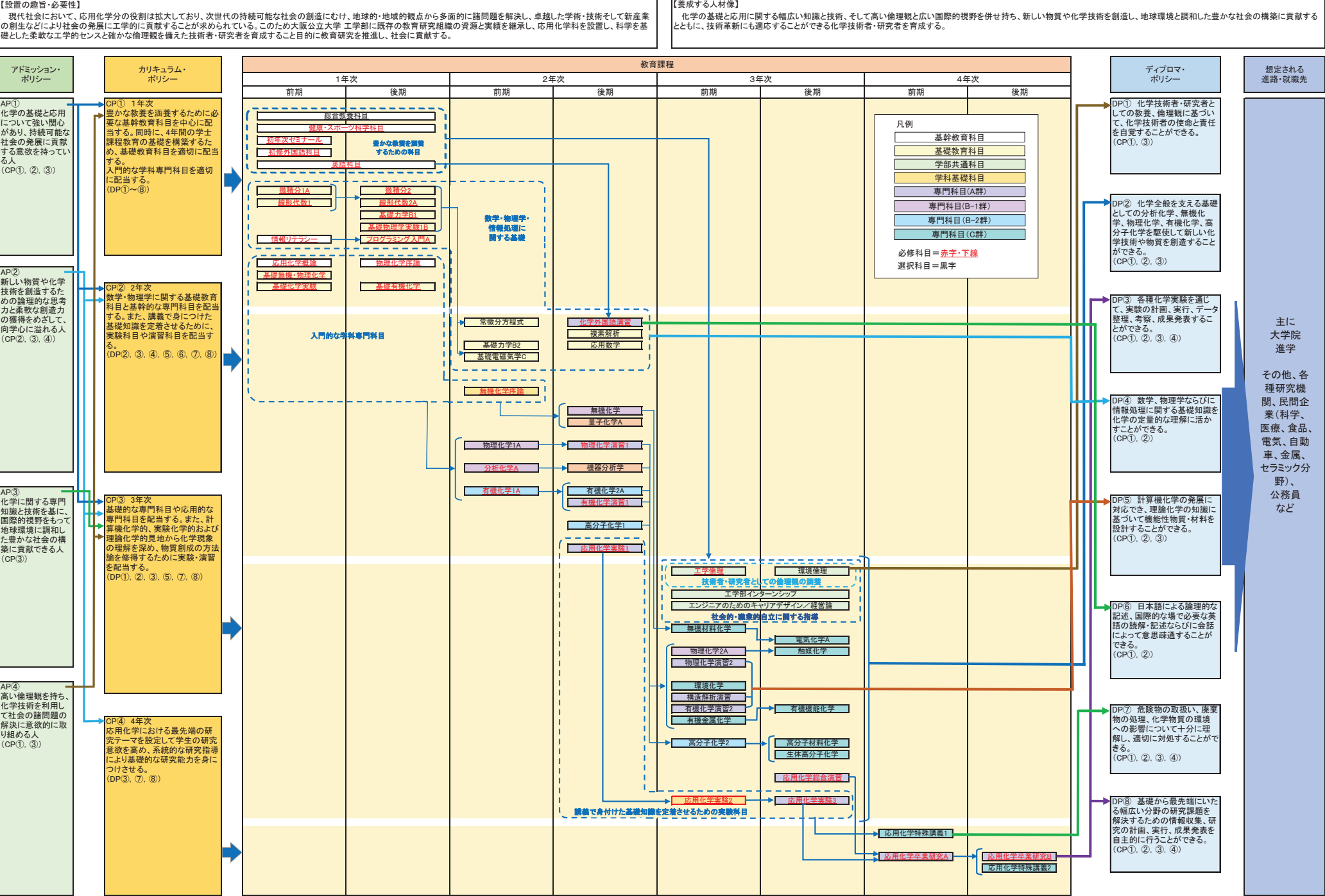
工学部 情報工学科 カリキュラムマップ



【設置の趣旨・必要性】 社会はグローバル化し、高度にネットワーク化された情報化社会へと革新的に移行し続けている。Society5.0におけるサイバー空間とフィジカル空間の高度な融合には、電気エネルギーの発生・配送・制御・利用を支える「電気工学」、実社会で観測される膨大なデータをインターネット等を通じて離れた場所もしくはサイバー空間に伝達するための理論と技術を担う「情報通信工学」、サイバー空間とフィジカル空間の双方に存在する様々なシステム上の効率的な運用の力を支える「システム工学」の3つの工学分野の知識が必要不可欠である。このような社会構造の変化に柔軟に対応し、現在だけでなく未来にわたって快適な日常生活を支え、世の中を発展させていくために、「電気工学」「情報通信工学」「システム工学」の知識を付け、ソフトとハードの両面を使いこなせる人材が強く求められている。このため大阪公立大学 工学部に両大学の間で教育研究組織の資源と実績を継承し、電気電子システム工学科を設置し、有為な人材を育成し、社会に貢献する。	【養成する人材像】 電気電子システム工学に関する基礎知識、専門的知識とその応用能力やシステム設計能力を身に付け、幅広い視野で社会的問題を自らの手で分析し解決していく自主性と、豊かな人間性、倫理観をもち、人と環境に優しいスマートコミュニティ社会の発展を担う技術者・研究者を養成する。
--	--

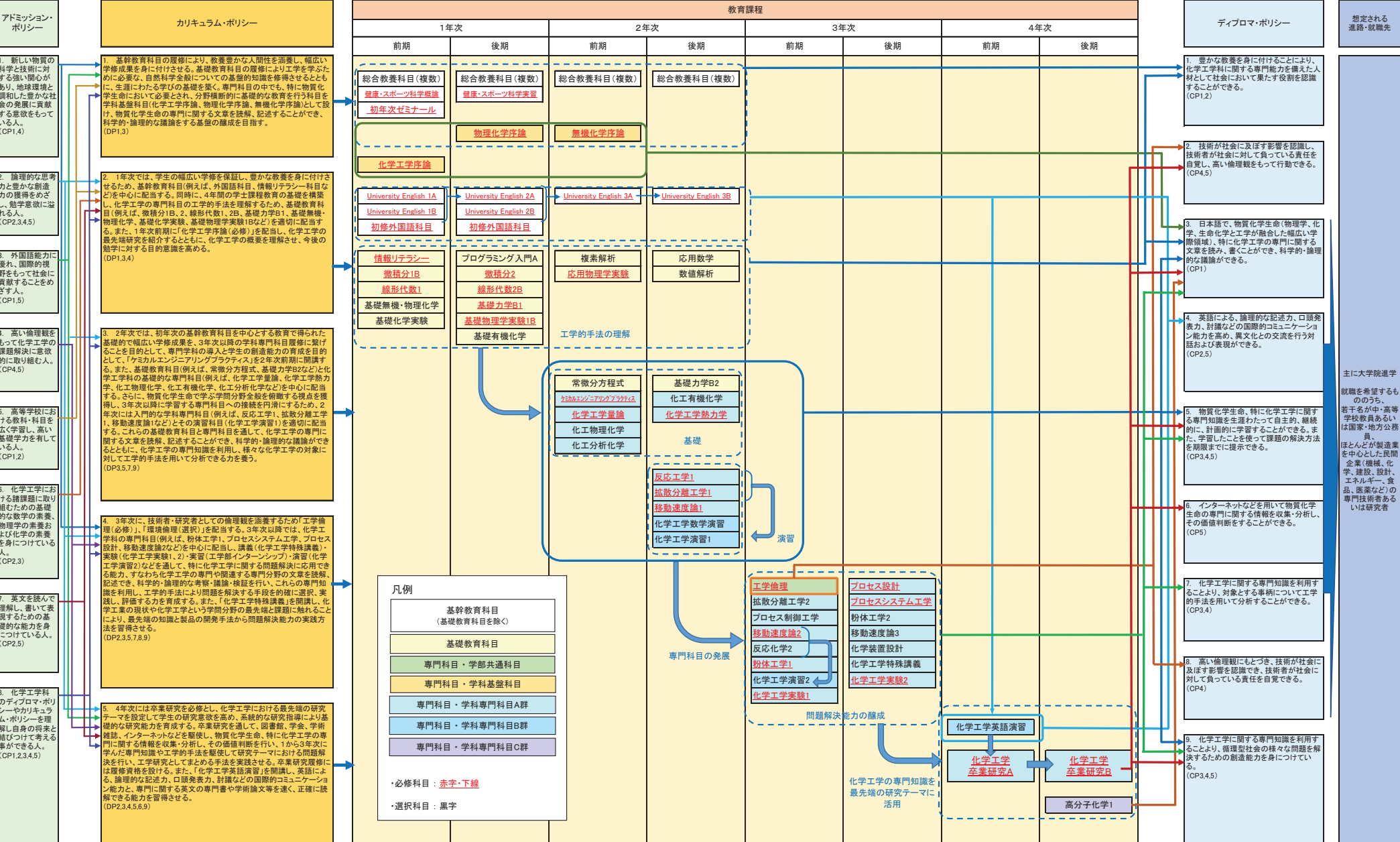


工学部 応用化学科 カリキュラムマップ



工学部 化学工学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】 化学工学は、原料から化学工業製品を生産する各種プロセスの開発、設計および操作に関連する諸問題を対象として、種々のプロセスに共通な基礎理論とその応用とを教養学問として発達してきた。近年、各種プロセスの多様化、高度化および精密化が進む中で、化学工学の果たすべき役割が変化しつつあり、従来の大型志向からマイクロ化、また化学だけでなく生物学や物理学等に関する広領域化、理論の高度化、精密化など、様々な展開が図られている。また、人類社会の持続的発展のためには、地球環境に配慮しつつ、限りある資源を有効かつ循環的に利用することが不可欠となる。このため、大阪公立大学 工学部が既存の教育研究組織の資源と連携して、化学工学科を設置する。化学工学科では、化学工学を中心とした幅広い知識、技能と、豊かな人間性、倫理観を持ち、地域から地球規模までの化学工学における重要な課題を、材料からシステム、環境、エネルギーまで、原子・分子レベルのナノ・マイクロスケールから社会のマクロスケールまで多角的に認識、考察して、人にも環境にも優しい循環型社会を可能にする各種生産プロセスや環境保全プロセスの構築に貢献できる優れた技術者・研究者として広い視野と倫理観を持ち、国際的に活躍できる人材の育成を目指して教育研究を推進し、社会に貢献する。	【養成する人材像】 人類社会の持続的発展のためには、地球環境に配慮しつつ、限りある資源を有効かつ循環的に利用することが不可欠である。化学工学科では、豊かな教養を身に付け、高い倫理観を持って社会貢献を志し、化学工学に関連する基礎領域と専門領域を修得して、資源循環を総合的に含む化学プロセスの構築を目指した化学工学に関する諸問題を解決するため、専門知識を収集・分析するとともに高い技能を活かした実験検証を行い、その詳細・解析を的確に行い、それらを統合して循環型社会の要請に応える応用力を備えた化学工学の研究者・技術者を育成する。また、社会的にも広い視野と倫理観を持ち、国際的にも活躍できる人材を育成する。
--	--

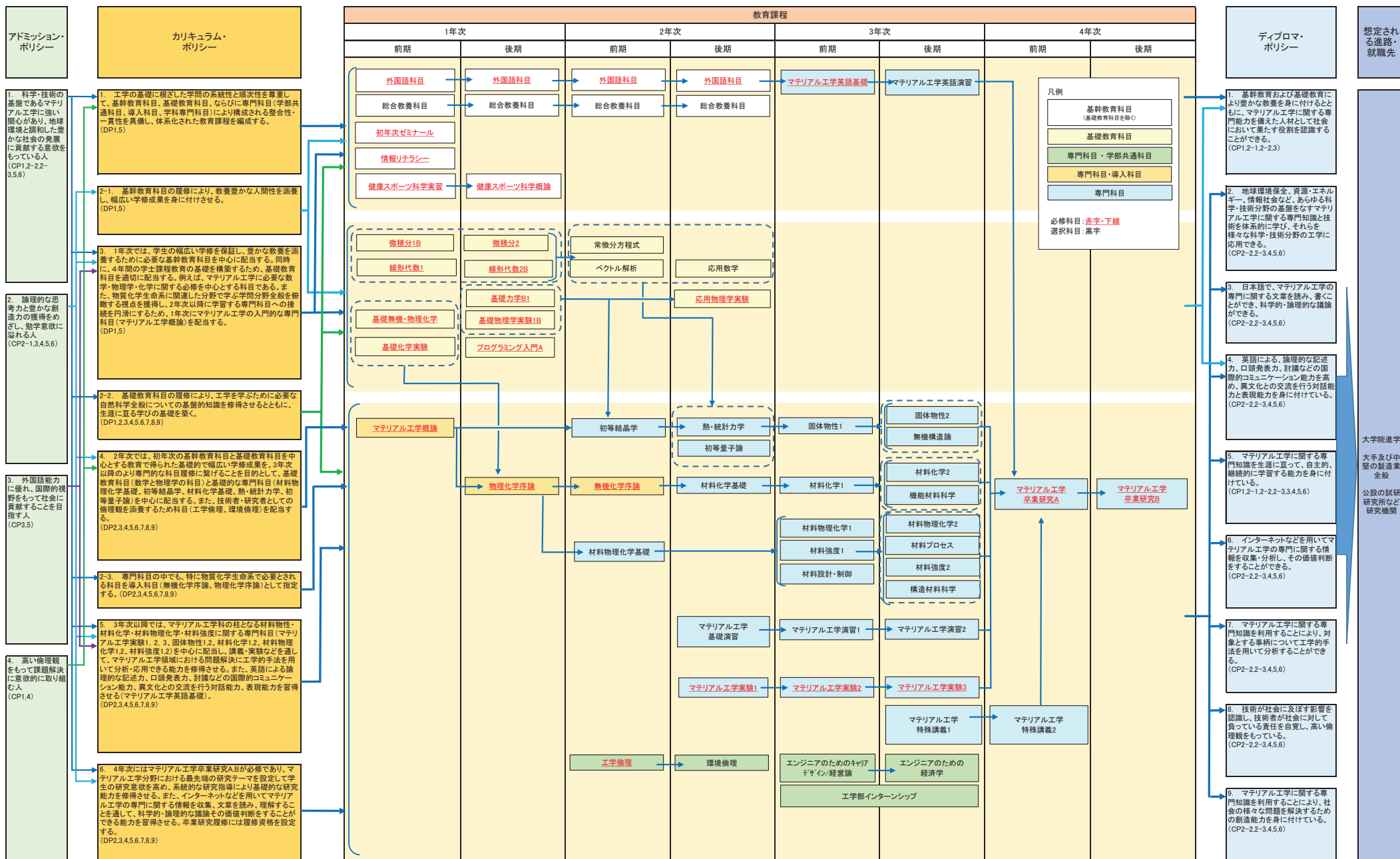


【設置の趣旨・必要性】

マテリアル工学は、日々の暮らしを守り、豊かにする材料の性能を探索し、さらなる新材料を電子・原子・分子のレベルで設計し、創造する技術を担うことを目的とする。「ものを創る」、「構造を調べる」、「特性を測る」をキーワードとし、飛行機や携帯電話に使われている軽くて強い合金から、機能性セラミックス、機能性高分子まで、普通のなアプローチで探索することは極めて重要である。これまで、当該分野は、大阪府立大学の「金属工部門」をルーツとし、マテリアル工学科という名称の材料に関連した幅広い学問領域を教育・研究する大規模組織となり、学部制導入後は「マテリアル工学科」に改組し、無機・有機・無機金属材料、金属材料での多様な「マテリアル」の、原子レベルの「ミクロ」から、構造物のような「マクロ」スケールまでの現象を、合成・評価・加工・応用に渡る様々なステージで理解を深め、社会に貢献すること、ならびに、これらを担う次世代の人材の育成を目指してきた。現在では、信頼性材料、ナノテク基礎材料、生体材料、材料構造物理学、社会基礎材料、材料プロセス制御、先端素形材・ものづくり、複合ナノ材料、超高温合成材料、計算材料科学の10研究グループで構成され、多岐の「材料」に関わる基礎科学から応用工学まで広く研究対象としている。大阪公立大学では、引き続きこれまでの教育研究組織の実績を継承し、工学部にマテリアル工学科を設置する。本学科では、マテリアル工学の基礎から応用まで幅広い学問を体系的に学び、教育研究を進め、有為な人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

マテリアル工学科では、「材料物理学」、「材料化学」、「材料工学」など、世の中を支えている材料を理解するのに必要な学問を学ぶことで、材料の科学と工学の基礎概念と学理を理解し、科学的基礎に基づいたものづくりに必要な材料設計理論、素材の合成技術、組織観察技術、物性や構造の評価解析技術を身に付けた、社会の高度化を担う国際性豊かな創造力溢れる人材を育成する。



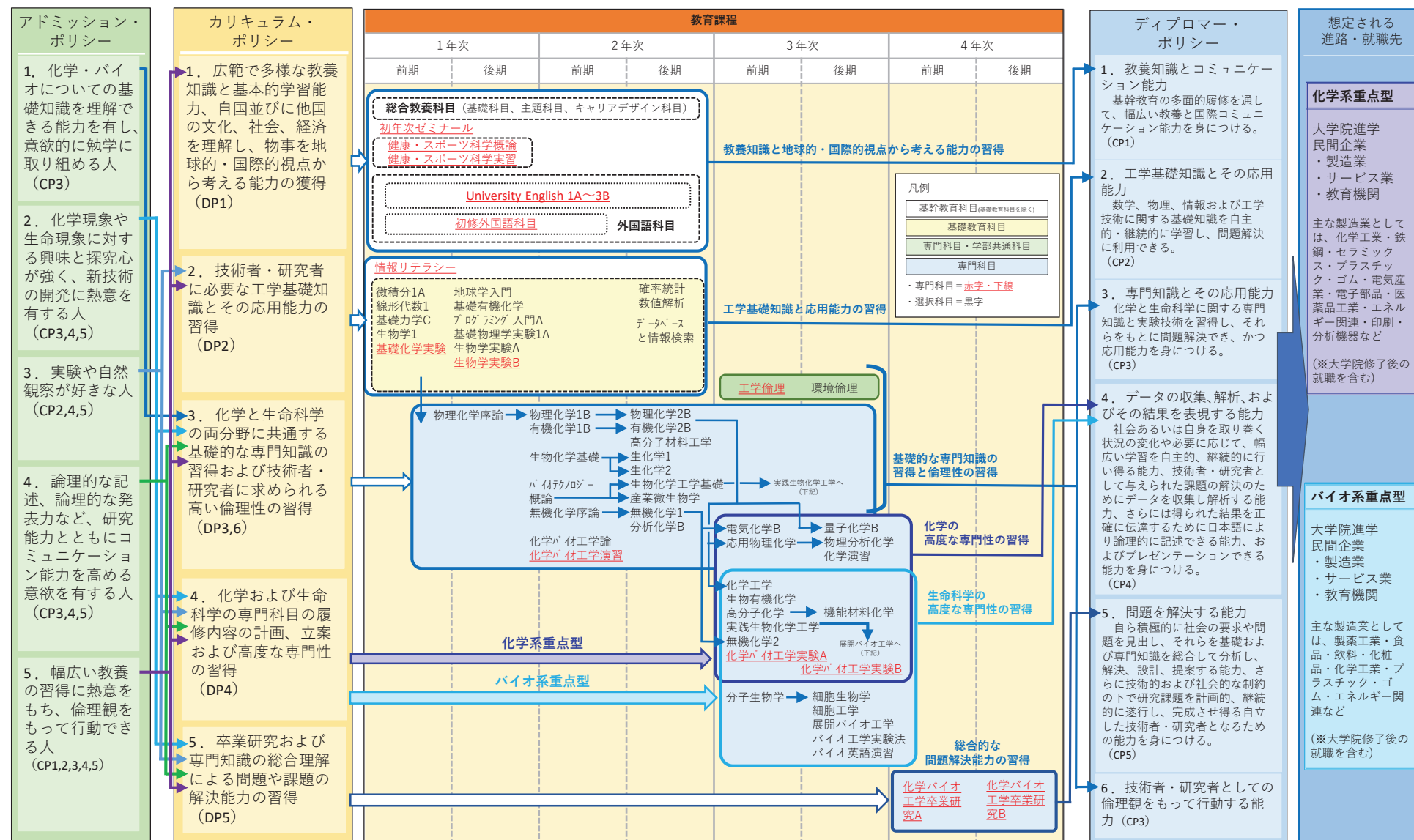
工学部 化学バイオ工学科 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

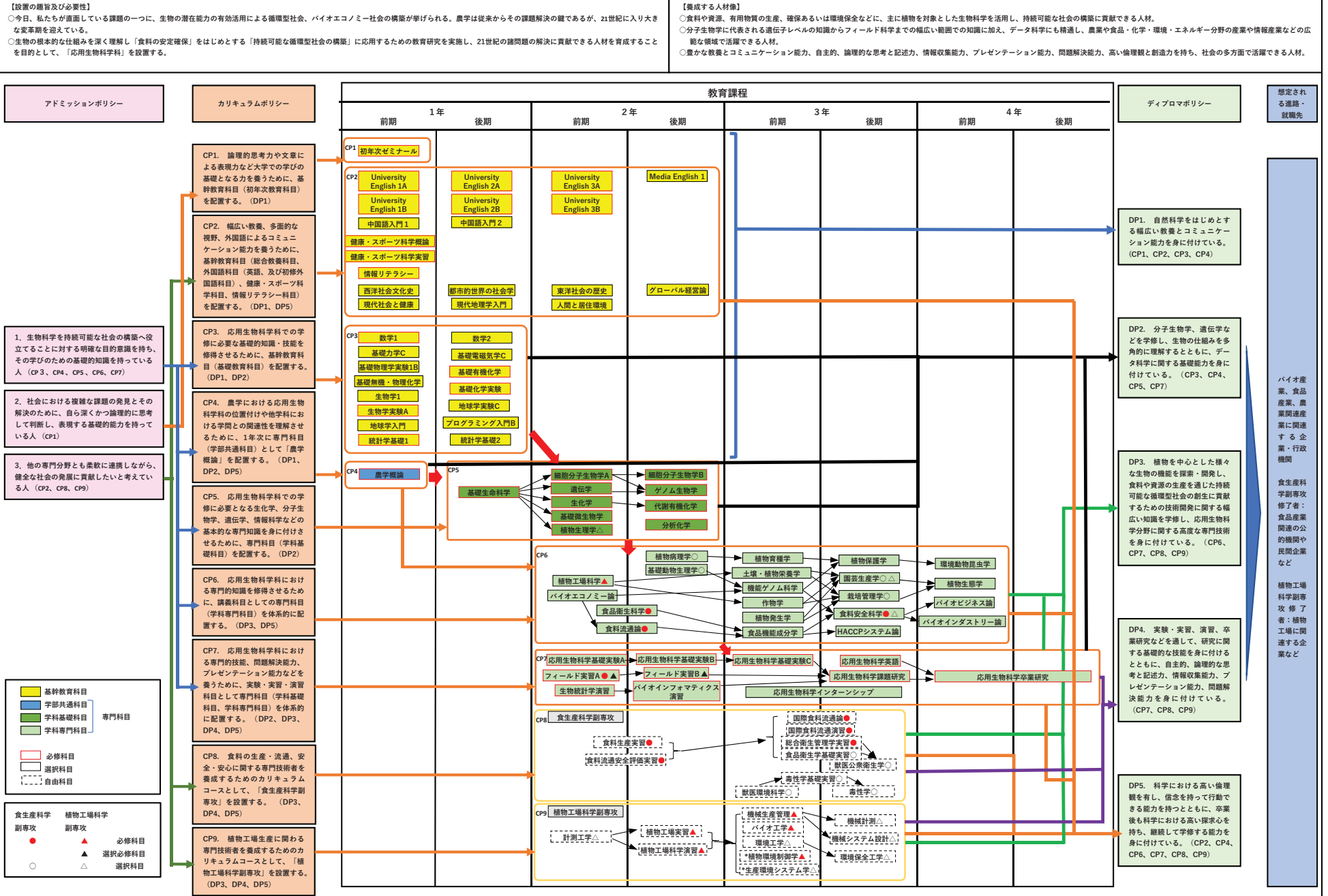
現代社会において、科学技術は、化学や物理、生物など多様な学問が織りなす知的ワールドの中で成立している。化学バイオ工学分野は、従来の化学技術に加え、20世紀後半に急速に発達してきたバイオテクノロジーを基に環境調和型の「ものづくり」を通じて、持続的な発展と地球環境保全が両立した豊かで安全な社会の構築に貢献していくため、化学と生命科学を同時に学び、これらを融合した「ものづくり」の教育研究の推進が必要である。このため、大阪公立大学ではこれまでの教育研究組織の資源と実績を継承し、工学部に化学バイオ工学科を設置する。化学バイオ工学科の教育では化学・食品・医療・材料・環境・エネルギー分野で基幹をなす化学と生命科学を系統的に学び、研究では、化学の原理や方法に基づき、原子や分子の世界から生活に欠かせない物質や材料を創り出す分野と、複雑な生体分子や細胞機能に基づき先端バイオ技術を創造する分野が共存し融合することで、化学・生物・工学をキーワードとした新しい分野を開拓していくことを目指し、自ら適切に判断できる専門技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

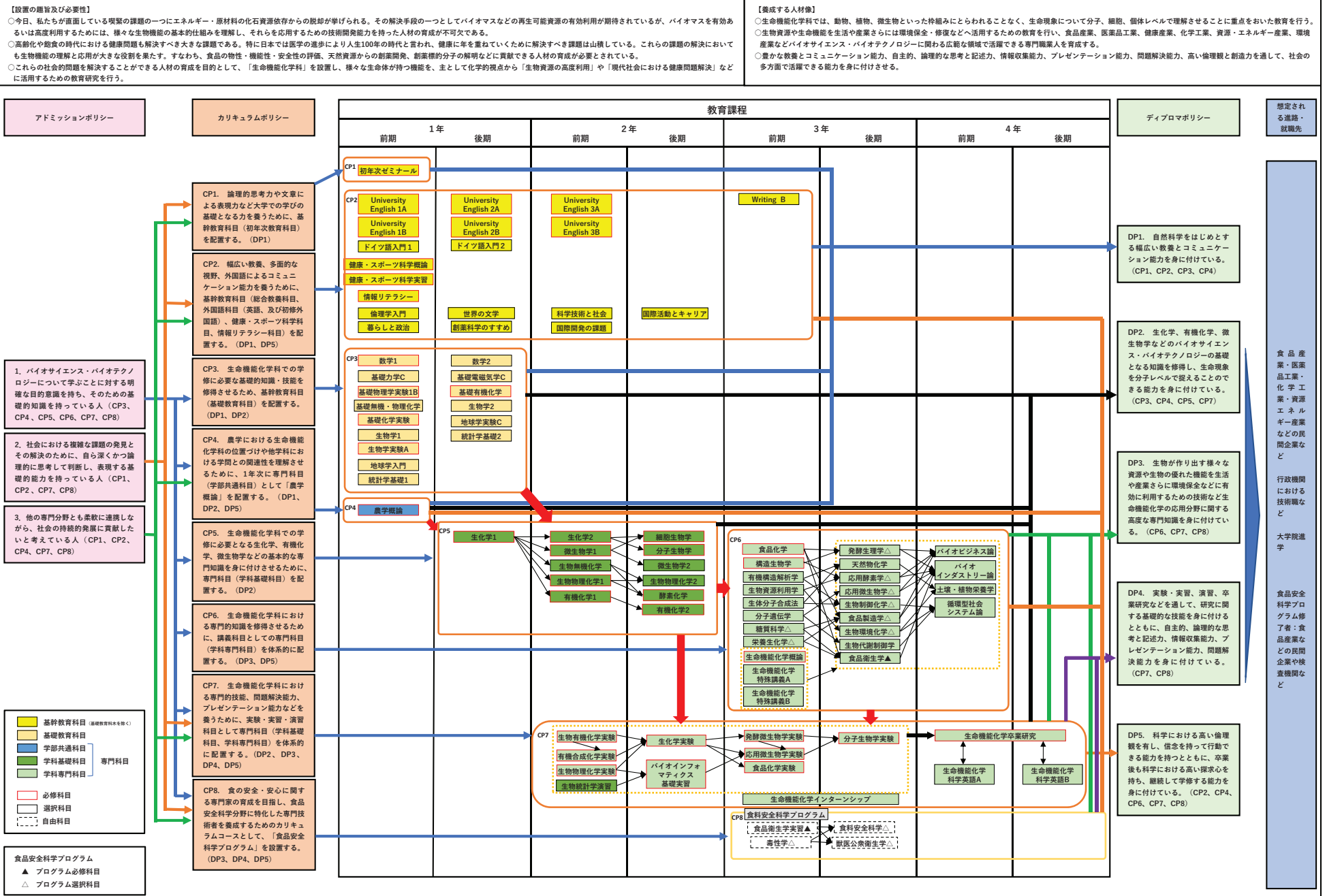
専門知識だけでなく、社会的問題を自らの手で分析し解決していく問題解決能力や、課題を正確に伝達するための表現力、技術者・研究者としての責任感・倫理観を身につけ、科学技術が社会に及ぼす影響について化学・バイオ双方の立場から総合的に洞察し、自ら適切に判断できる専門技術者・研究者を養成する。



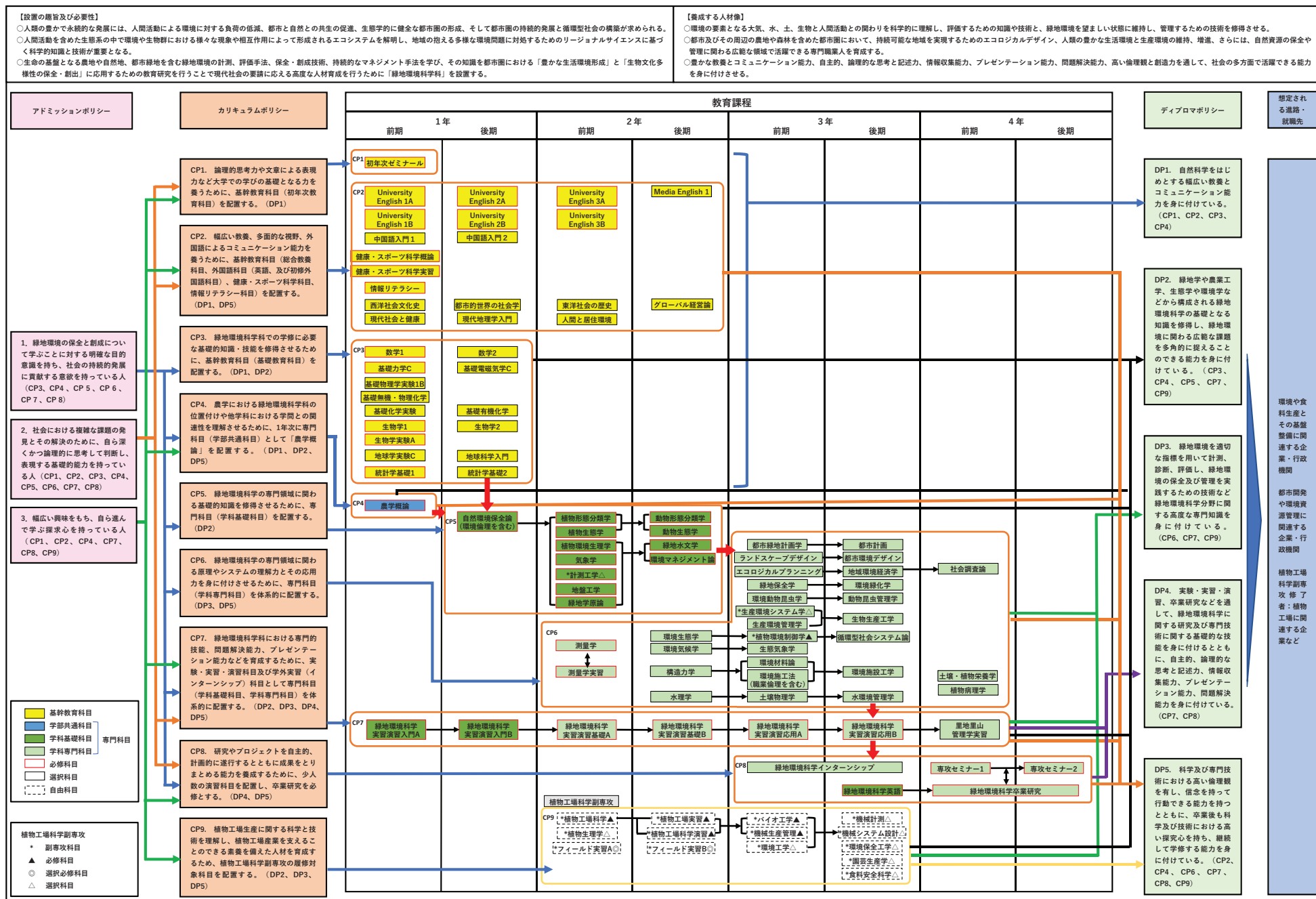
農学部 応用生物科学科 カリキュラムマップ



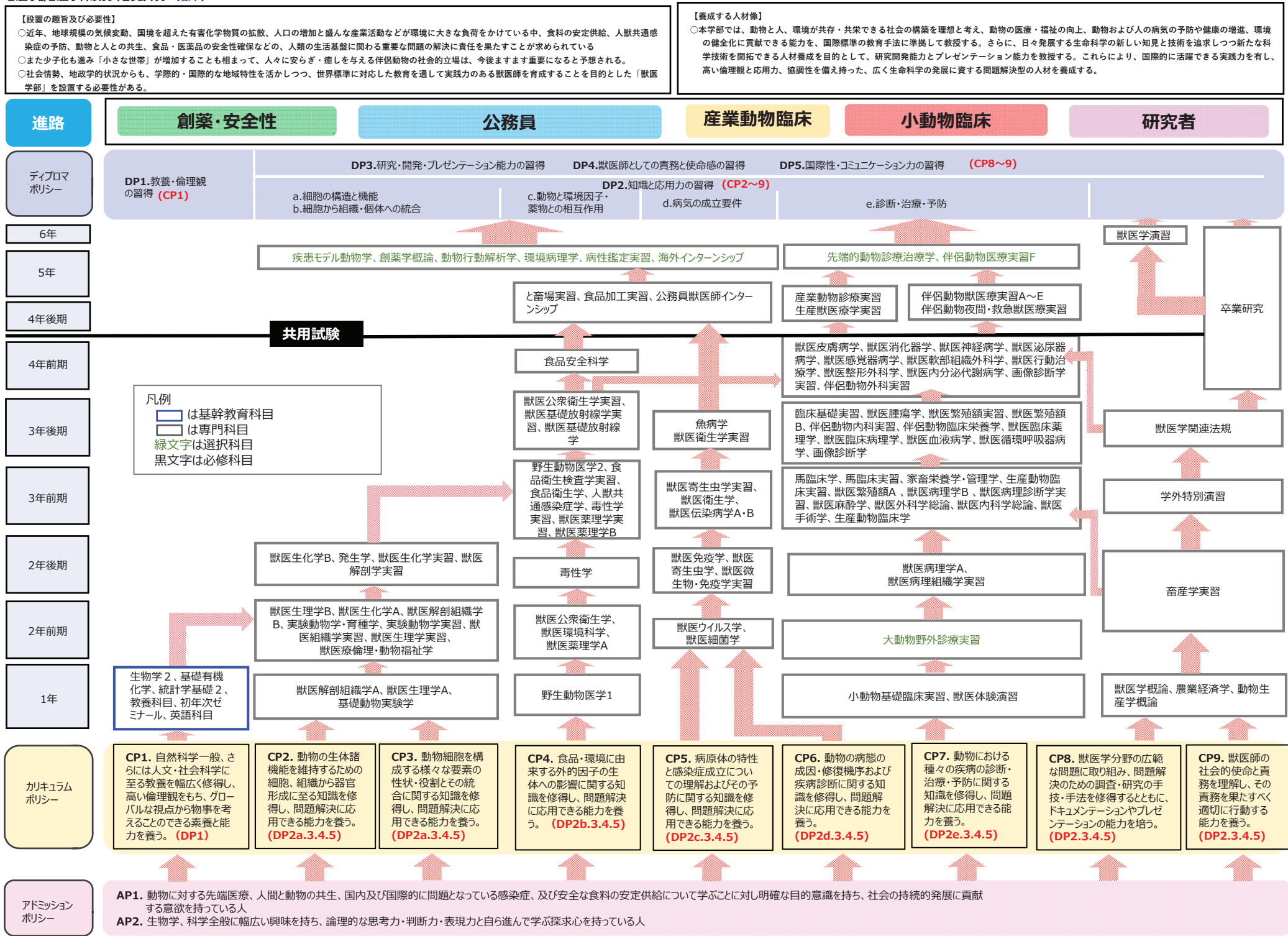
農学部 生命機能化学科 カリキュラムマップ



農学部 緑地環境科学科 カリキュラムマップ



獣医学部獣医学科のカリキュラムマップ（標準）



獣医学部獣医学科のカリキュラムマップ（食生産科学副専攻）

【設置の趣旨及び必要性】

- 近年、地球規模の気候変動、国境を超えた有害化学物質の拡散、人口の増加と盛んな産業活動などが環境に大きな負荷をかけている中、食料の安定供給、人獣共通感染症の予防、動物と人の共生、食品・医薬品の安全性確保などの、人類の生活基盤に関わる重要な問題の解決に責任を果たすことが求められている
- また少子化も進み「小さな世帯」が増加することも相まって、人々に安らぎ・癒しを与える伴侶動物の社会的立場は、今後ますます重要になると予想される。
- 社会情勢、地政学的状況からも、学際的・国際的な地域特性を活かしつつ、世界標準に対応した教育を通して実践力のある獣医師を育成することを目的とした「獣医学部」を設置する必要がある。

【養成する人材像】

○本学部では、動物と人、環境が共存・共生できる社会の構築を理想と考え、動物の医療・福祉の向上、動物および人の病気の予防や健康の増進、環境の健全化に貢献できる能力を、国際標準の教育手法に準拠して教授する。さらに、日々発展する生命科学の新しい知見と技術を追いつつ新たな科学技術を開拓できる人材養成を目的として、研究開発能力とプレゼンテーション能力を教授する。加えて大都市で問題となる食の安全について、植物および動物由来の食品原材料全般に詳しく、食品の生産から流通、加工、消費に至るまでの全過程における課題を解決できる能力を付与する。これらにより、国際的に活躍できる実践力を有し、高い倫理観と応用力、協調性を備えた、広く生命科学の発展と社会貢献に資する問題解決型の人材を養成する。

進路

創薬・安全性

公務員

産業動物臨床

小動物臨床

研究者

ディプロマポリシー

DP1.教養・倫理観の習得

DP3.研究・開発・プレゼンテーション能力の習得

DP4.獣医師としての責務と使命感の習得

DP5.国際性・コミュニケーション力の習得

a.細胞の構造と機能
b.細胞から組織・個体への統合

c.動物と環境因子・薬物との相互作用

DP2.知識と応用力の習得

(CP2~9)

d.病気の成立要件

e.診断・治療・予防

6年

5年

4年後期

共用試験

凡例

- は基幹教育科目
- は専門科目
- は副専攻科目

黒文字は必修科目
緑文字は選択科目
ピンク文字は自由科目（うち下線は副専攻における必修科目）

3年後期

3年前期

2年後期

2年前期

1年

総合衛生管理学実習

国際食糧流通論、食料流通論、国際食糧流通演習、食料流通安全評価実習

食料衛生学、食料生産実習、植物バイオサイエンスフィールド実習A、食料安全科学、栽培管理学

獣医生化学B、発生学、獣医生化学実習、獣医解剖学実習

獣医生理学B、獣医生化学A、獣医解剖組織学B、実験動物学・育種学、実験動物学実習、獣医組織学実習、獣医生理学実習、獣医療倫理・動物福祉学

獣医解剖組織学A、獣医生理学A、基礎動物実験学

食品安全科学

獣医公衆衛生学実習、獣医基礎放射線学実習、獣医基礎放射線学

野生動物医学2、食品衛生検査学実習、食品衛生学、人獣共通感染症学、毒性学実習、獣医薬理学実習、獣医薬理学B

毒性学

獣医公衆衛生学、獣医環境科学、獣医薬理学A

野生動物医学1

魚病学

獣医衛生学実習

獣医寄生虫学実習、獣医衛生学、獣医伝染病学A・B

獣医免疫学、獣医寄生虫学、獣医微生物・免疫学実習

獣医ウイルス学、獣医細菌学

先進的動物診療治療学、伴侶動物医療実習F

産業動物診療実習
生産獣医療実習

伴侶動物獣医療実習A～E
伴侶動物夜間・救急獣医療実習

獣医皮膚病学、獣医消化器学、獣医神経病学、獣医泌尿器病学、獣医感覚器病学、獣医軟部組織外科学、獣医行動治療学、獣医整形外科、獣医内分泌代謝病学、画像診断学実習、伴侶動物外科実習

臨床基礎実習、獣医腫瘍学、獣医繁殖額実習、獣医繁殖額B、伴侶動物内科実習、伴侶動物臨床栄養学、獣医臨床薬理学、獣医臨床病理学、獣医血液病学、獣医循環呼吸器病学、画像診断学

馬臨床学、馬臨床実習、家畜栄養学・管理学、生産動物臨床実習、獣医繁殖額A、獣医病理学B、獣医病理診断学実習、獣医麻酔学、獣医外科学総論、獣医内科学総論、獣医手術学、生産動物臨床学

獣医病理学A、獣医病理組織学実習

大動物野外診療実習

小動物基礎臨床実習、獣医体験演習

獣医学演習

卒業研究

獣医学関連法規

学外特別演習

畜産学実習

獣医学概論、農業経済学、動物生産学概論

CP1. 自然科学一般、さらには人文・社会科学に至る教養を幅広く修得し、高い倫理観をもち、グローバルな視点から物事を考えることのできる素養と能力を養う。(DP1)

CP2. 動物の生体諸機能を維持するための細胞、組織から器官形成に至る知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。(DP2a.3.4.5)

CP3. 動物細胞を構成する様々な要素の性状・役割とその統合に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。(DP2a.3.4.5)

CP4. 食品・環境に由来する外的因子の生体への影響に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。(DP2b.3.4.5)

CP5. 病原体の特性と感染症成立についての理解およびその予防に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。(DP2c.3.4.5)

CP6. 動物の病態の成因・修復機構および疾病診断に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。(DP2d.3.4.5)

CP7. 動物における種々の疾病の診断・治療・予防に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。(DP2e.3.4.5)

CP8. 獣医学分野の広範な問題に取り組み、問題解決のための調査・研究の手法・方法を修得するとともに、ドキュメンテーションやプレゼンテーションの能力を培う。(DP2.3.4.5)

CP9. 獣医師の社会的使命と責務を理解し、その責務を果たすべく適切に行動する能力を養う。(DP2.3.4.5)

アドミッションポリシー

AP1. 動物に対する先端医療、人間と動物の共生、国内及び国際的に問題となっている感染症、及び安全な食料の安定供給について学がことに対し明確な目的意識を持ち、社会の持続的発展に貢献する意欲を持っている人
AP2. 生物学、科学全般に幅広い興味を持ち、論理的な思考力・判断力・表現力と自ら進んで学ぶ探究心を持っている人



医学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

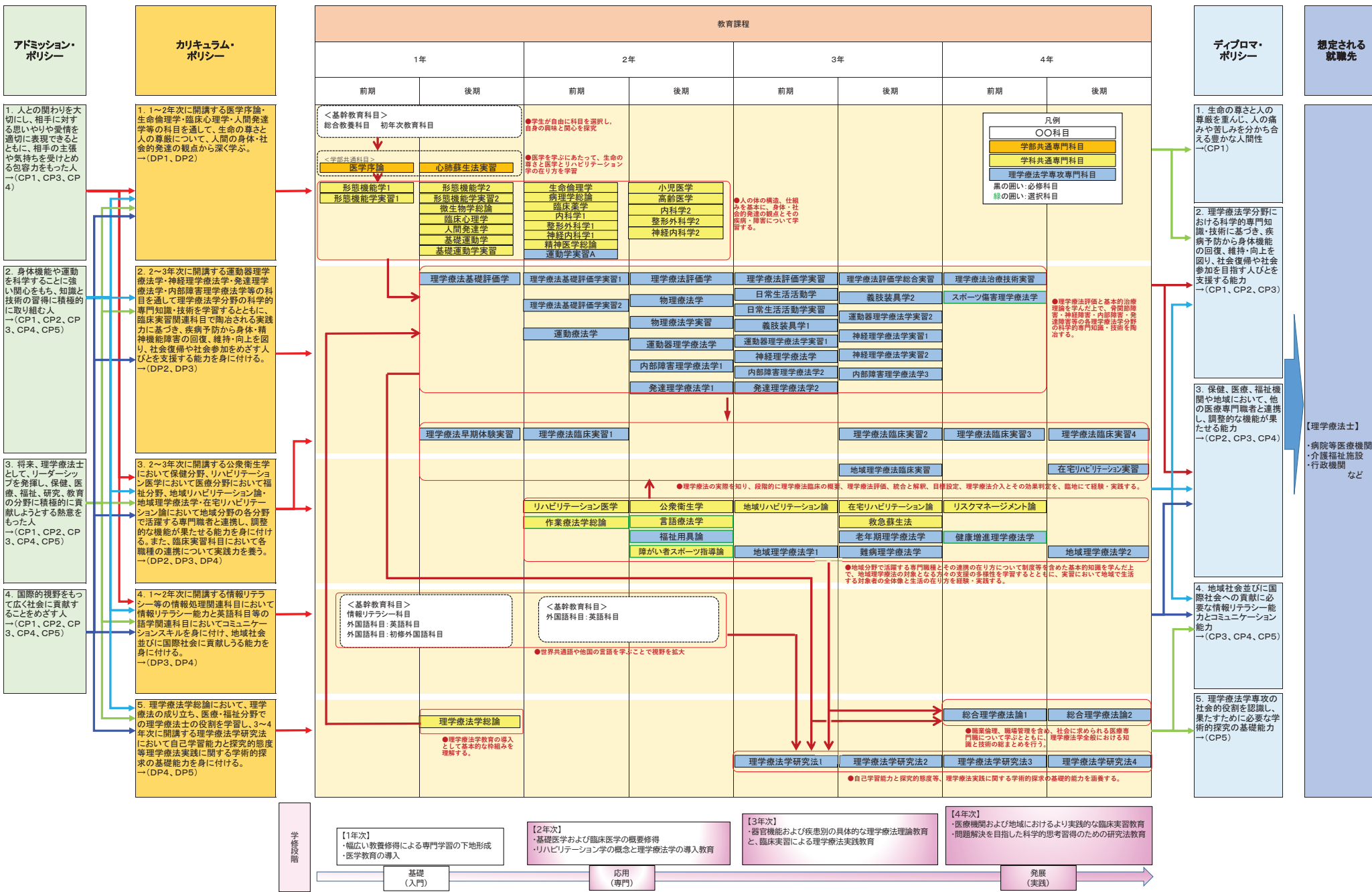
○ 理学療法士・作業療法士の役割は、医療の高度化やチーム医療の必要性等からますます重要となっている。在宅ケアにおいては社会福祉施設の増設、介護保険制度導入に伴う訪問・通所リハビリテーションに加えて、地域包括ケアシステムの創設に伴い、医療施設から在宅患者の訪問指導管理や地域における介護予防の取組みを強化する関与等が求められており、これまでの理学療法士・作業療法士養成課程にはない、新たな視点で養成された専門職者の需要が十分見込まれる。

○ 乳幼児期から成人期、老齢期に至る、あらゆるライフステージにおいて、疾病や障害の有無に関わらず自立した質の高い生活を可能にするには、リハビリテーション医療が疾病の治療あるいは障害の進行の抑制に留まらず、地域での自立や社会参加を支援する考え方が求められており、健康維持・増進、疾病・障害の予防から治療、回復、社会復帰・参加に至るライフステージ全体に渡るリハビリテーション学の確立と、これを支えるリハビリテーションプロフェッションの育成を実現する。

○ 特に「疾患」に応じた治療だけでなく、「人」そのものに視点を置いた、保健・医療・福祉の現場で、これまでにない指導力を発揮する新しいリハビリテーション専門職者としての理学療法士を育成する。

【養成する人材像】

○ 本学科ではその養成段階から専門領域のみを担う専門職者でなく、保健・医療・福祉を総合的にとらえ適切なサービスを提供することを基本認識として、チーム医療の推進に寄与できる共通の価値観と豊かな人間性を有する人材を養成する。このため、生命の尊厳と人の尊厳を重んじることを基礎にした専門知識・技術を教授することにより、豊かな人間性と深い教養を備え、社会に貢献できる有為な人材を育成し、保健・医療・福祉の向上と地域社会並びに国際社会に貢献するリハビリテーション医療専門職者を育成する。



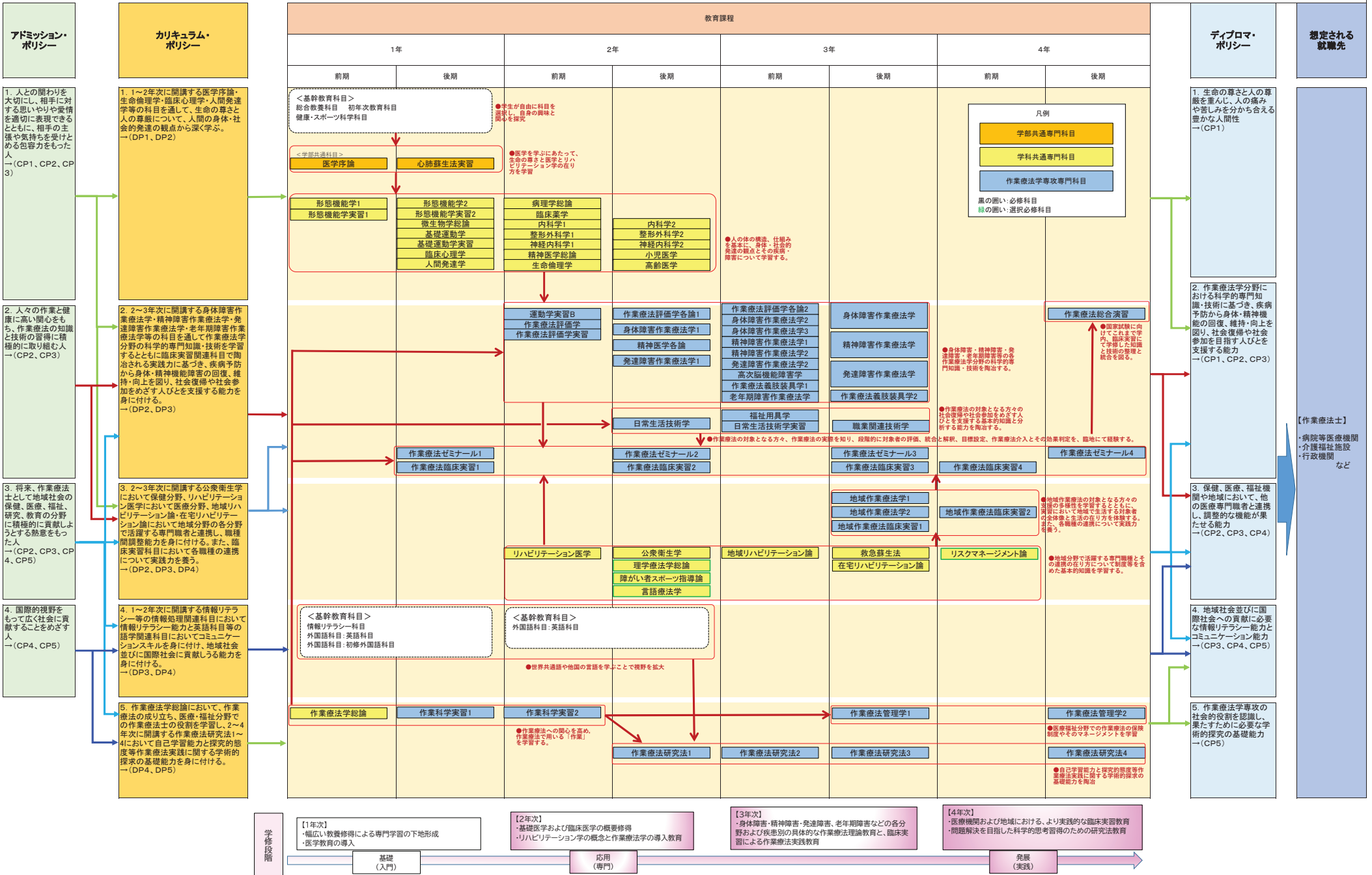
医学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

- 理学療法士・作業療法士の役割は、医療の高度化やチーム医療の必要性等からますます重要となっている。在宅ケアにおいては社会福祉施設の増設、介護保険制度導入に伴う訪問・通所リハビリテーションに加えて、地域包括ケアシステムの創設に伴い、医療施設から在宅患者の訪問指導管理や地域における介護予防の取組みを強化する関与等が求められており、これまでの理学療法士・作業療法士養成課程にはない、新たな視点で養成された専門職者の需要が十分見込まれる。
- 乳幼児期から成人期、老齢期に至る、あらゆるライフステージにおいて、疾病や障害の有無に関わらず自立した質の高い生活を可能にするには、リハビリテーション医療が疾病の治療あるいは障害の進行の抑制に留まらず、地域での自立や社会参加を支援する考え方が求められており、健康維持・増進、疾病・障害の予防から治療、回復、社会復帰・参加に至るライフステージ全体に渡るリハビリテーション学の確立と、これを支えるリハビリテーションプロフェッションの育成を実現する。
- 特に、「疾患」に応じた治療だけでなく、「人」そのものに視点を置いた、保健・医療・福祉の現場で、これまでにない指導力を発揮する新しいリハビリテーション専門職者としての作業療法士を育成する。

【養成する人材像】

- 本学科ではその養成段階から専門領域のみを担う専門職者でなく、保健・医療・福祉を総合的にとらえ適切なサービスを提供することを基本認識として、チーム医療の推進に寄与できる共通の価値観と豊かな人間性を有する人材を養成する。このため、生命の尊さと人の尊厳を重んじることを基礎にした専門知識・技術を教授することにより、豊かな人間性と深い教養を備え、社会に貢献できる有為な人材を育成し、保健・医療・福祉の向上と地域社会並びに国際社会に貢献するリハビリテーション医療専門職者を育成する。



【設置の趣旨・必要性】

- ### 【養成する人材像】

アドミッション・
ポリシー：AP

カリキュラム・
ポリシー：CP

ディプロマ・
ポリシー：DP

想定される
進路・就職先



生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ（食品栄養学コース）

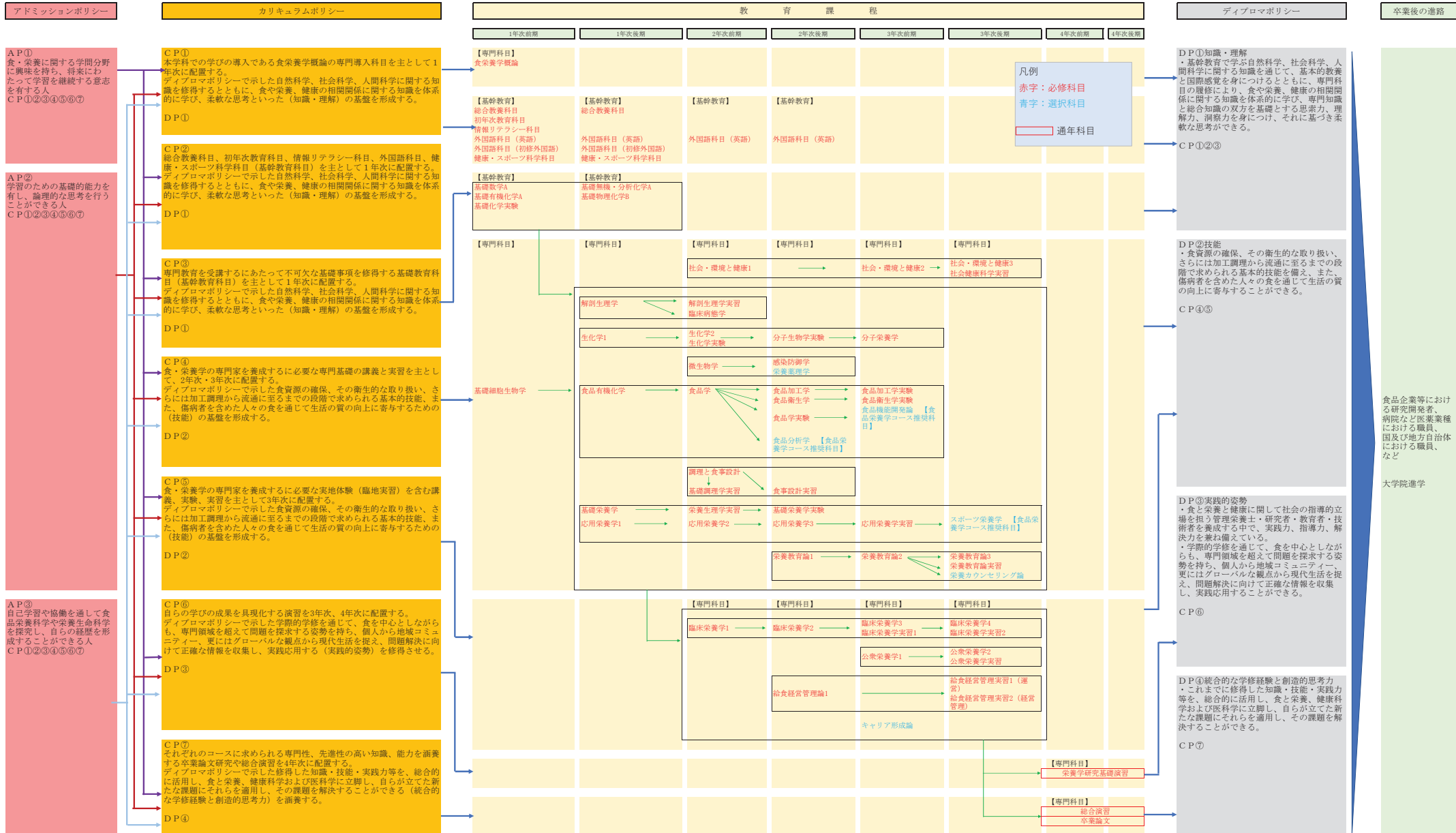
【設置の趣旨・必要性】

少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・相食に見られる家族で食べる「食卓の減少・食卓の喪失、採食障害」による瘦せと肥満化も複雑・多岐にわたる問題が起きている。一方で、医食関係と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能性が次々と明らかになり、食と健康との関わりは従来より大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学科」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。

今回の両大学の協定にあたり、大阪公立大学では生命科学部に管理栄養士実習課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会・臨床現場における栄養学の課題を取り扱う研究者、そして実践者を含めた社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などとの学際的な研究を基盤とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れ、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生命科学部において「食栄養学部」を構築することとした。

【養成する人材像】

基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。

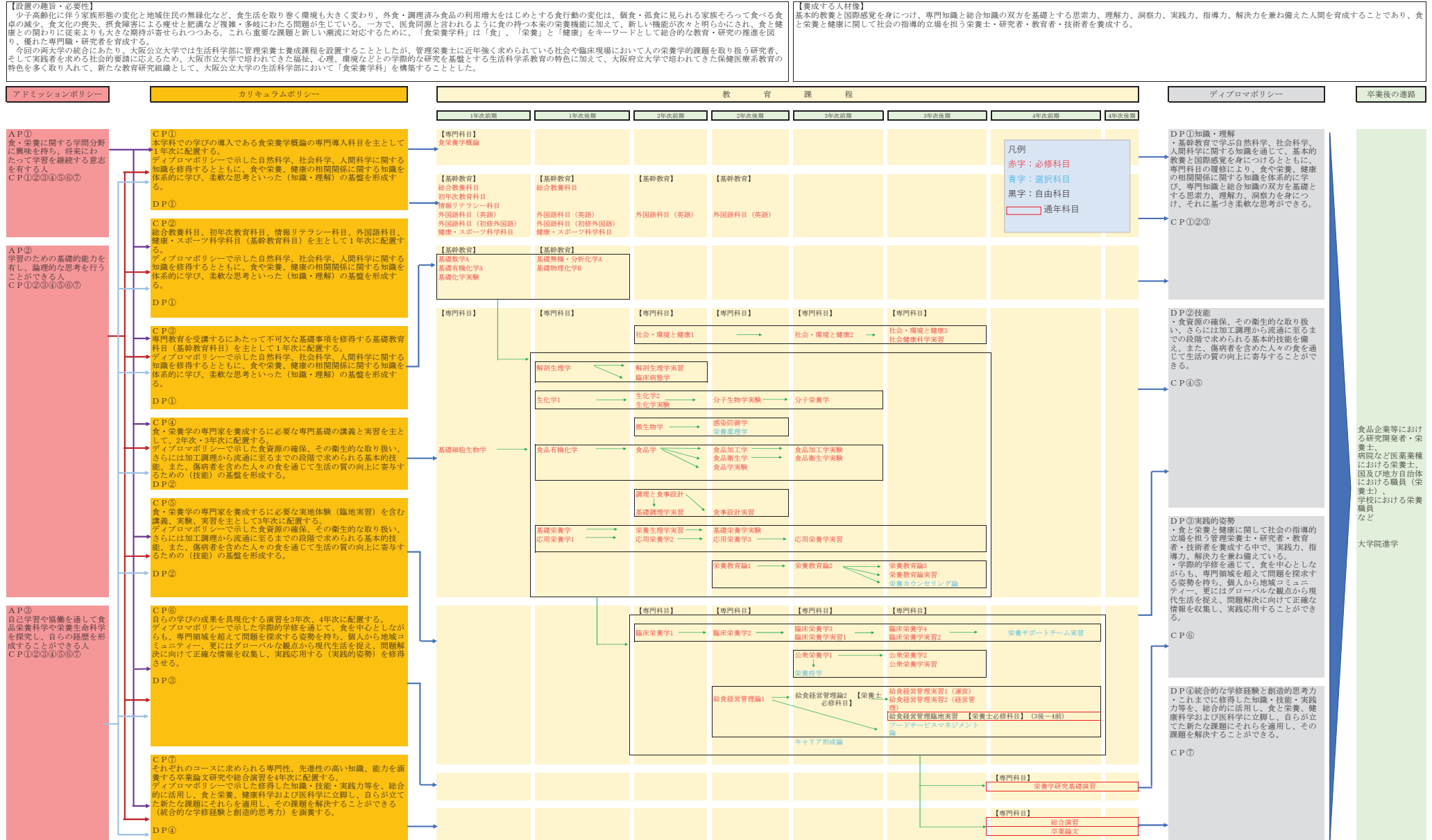


生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ（実践栄養学コース）

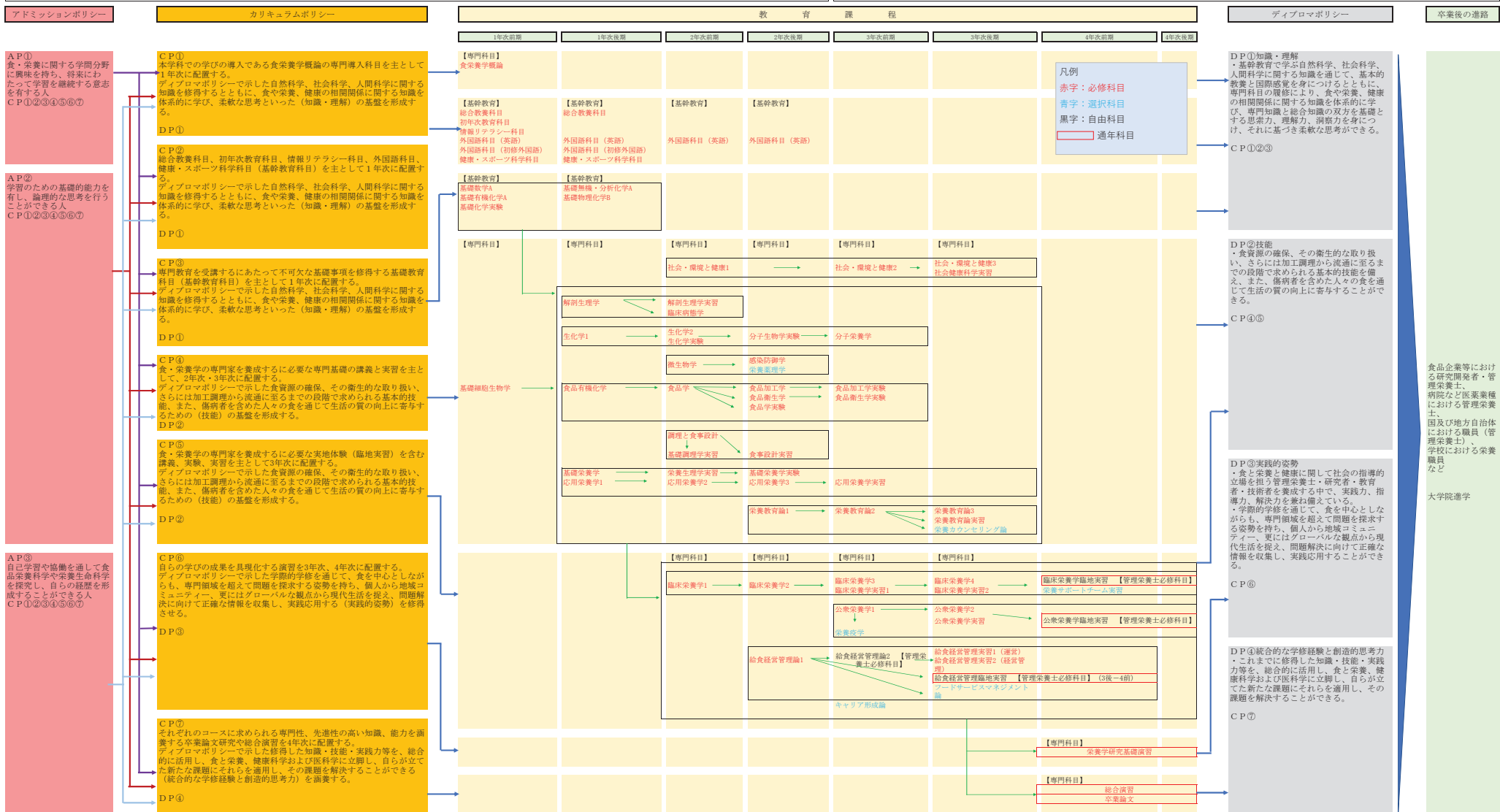
【設置の趣旨・必要性】 少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろうて食べる食卓の減少、食文化の喪失、摂食障害による瘦せと肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、医食同軌と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能が次々と明らかにされ、食と健康との関わりに従来よりも大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。 今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などとの学際的な研究を基礎とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れて、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生活科学部において「食栄養学」を構築することとした。		【養成する人材像】 基本的教養と国際感覚を身につけて、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。	
--	--	--	--

アドミッションポリシー		カリキュラムポリシー		教 育 課 程								ディプロマポリシー	卒業後の進路
				1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期		
AP① 食・栄養に関する学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意志を有する人 CP①②③④⑤⑥⑦	DP①	CP① 本学科での学びの導入である食栄養学概論の専門導入科目を主として1年次に配置する。 ディプロマポリシーで示した自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を修得するとともに、食や栄養、健康の相互関係に関する知識を体系的に学び、柔軟な思考といった（知識・理解）の基盤を形成する。	DP①	【専門科目】 食栄養学概論								凡例 赤字：必修科目 青字：選択科目 □ 通年科目	DP①知識・理解 ・基礎教育で学ぶ自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を通じて、基本的教養と国際感覚を身につけるとともに、専門科目の履修により、食や栄養、健康の相互関係に関する知識を体系的に学び、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力を身につけ、それに基づき柔軟な思考ができる。
				【基礎教育】 総合教養科目 初年次教育科目 情報リテラシー科目 外国語科目（英語） 外国語科目（英語） 外国語科目（初修外国語） 健康・スポーツ科学科目	【基礎教育】 総合教養科目 外国語科目（英語） 外国語科目（初修外国語） 健康・スポーツ科学科目	【基礎教育】 総合教養科目 外国語科目（英語） 外国語科目（初修外国語） 健康・スポーツ科学科目	【基礎教育】 総合教養科目 外国語科目（英語） 外国語科目（初修外国語） 健康・スポーツ科学科目						
AP② 学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人 CP①②③④⑤⑥⑦	DP①	CP② 総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目（基礎教育科目）を主として1年次に配置する。 ディプロマポリシーで示した自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を修得するとともに、食や栄養、健康の相互関係に関する知識を体系的に学び、柔軟な思考といった（知識・理解）の基盤を形成する。	DP①	【基礎教育】 基礎数学A 基礎有機化学A 基礎化学実験	【基礎教育】 基礎数学A 基礎有機化学A 基礎物理化学B							DP②技能 ・食資源の確保、その衛生的な取り扱い、さらには加工調理から流通に至るまでの段階で求められる基本的技能を備え、また、傷病者を含めた人々の食を通じて生活の質の向上に寄与することができる。	
				【専門科目】	【専門科目】	【専門科目】 社会・環境と健康1	【専門科目】 社会・環境と健康2	【専門科目】 社会・環境と健康3 社会健康科学実習					
AP③ 自己学習や協働を通して食品栄養科学や栄養生命科学を探究し、自らの経歴を形成することができる人 CP①②③④⑤⑥⑦	DP②	CP③ 専門教育を受講するにあたって不可欠な基礎事項を修得する基礎教育科目（基礎教育科目）を主として1年次に配置する。 ディプロマポリシーで示した自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を修得するとともに、食や栄養、健康の相互関係に関する知識を体系的に学び、柔軟な思考といった（知識・理解）の基盤を形成する。	DP②	基礎細胞生物学	解剖生理学	解剖生理学実習 臨床病態学						CP④⑤	
					生化学1	生化学2 生化学実験	分子生物学実験	分子栄養学					
AP④ 自己学習や協働を通して食品栄養科学や栄養生命科学を探究し、自らの経歴を形成することができる人 CP①②③④⑤⑥⑦	DP②	CP④ 食・栄養学の専門家を養成するために必要な専門基礎の講義と実習を主として、2年次・3年次に配置する。 ディプロマポリシーで示した食資源の確保、その衛生的な取り扱い、さらには加工調理から流通に至るまでの段階で求められる基本的技能、また、傷病者を含めた人々の食を通じて生活の質の向上に寄与するための（技能）の基盤を形成する。	DP②	基礎細胞生物学	微生物学	感染防御学 栄養微生物学						DP③実践的姿勢 ・食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する中で、実践力、指導力、解決力を兼ね備えている。 ・学際的の学修を通じて、食を中心としながらも、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を持ち、個人から地域コミュニティ、更にはグローバルな観点から現代生活を捉え、問題解決に向けて正確な情報を収集し、実践応用することができる。	
					食品有機化学	食品学	食品加工学 食品衛生学 食品学実験	食品加工学実験 食品衛生学実験					
AP⑤ 自己学習や協働を通して食品栄養科学や栄養生命科学を探究し、自らの経歴を形成することができる人 CP①②③④⑤⑥⑦	DP②	CP⑤ 食・栄養学の専門家を養成するために必要な実地体験（臨地実習）を含む講義、実験、実習を主として3年次に配置する。 ディプロマポリシーで示した食資源の確保、その衛生的な取り扱い、さらには加工調理から流通に至るまでの段階で求められる基本的技能、また、傷病者を含めた人々の食を通じて生活の質の向上に寄与するための（技能）の基盤を形成する。	DP②	基礎細胞生物学	調理と食事設計 基礎調理学実習	食事設計実習						CP⑥	
					基礎栄養学 応用栄養学1	栄養生理学実習 応用栄養学2	基礎栄養学実験 応用栄養学3	応用栄養学実習					
AP⑥ 自己学習や協働を通して食品栄養科学や栄養生命科学を探究し、自らの経歴を形成することができる人 CP①②③④⑤⑥⑦	DP③	CP⑥ 自らの学びの成果を具現化する演習を3年次、4年次に配置する。 ディプロマポリシーで示した学際的の学修を通じて、食を中心としながらも、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を持ち、個人から地域コミュニティ、更にはグローバルな観点から現代生活を捉え、問題解決に向けて正確な情報を収集し、実践応用する（実践的姿勢）を修得させる。	DP③	基礎細胞生物学	臨床栄養学1	臨床栄養学2	臨床栄養学3 臨床栄養学実習1	臨床栄養学4 臨床栄養学実習2	栄養サポートチーム実習 【実践栄養学コース推奨科目】			DP④統合的な学修経験と創造的思考力 ・これまでに修得した知識・技能・実践力等を、総合的に活用し、食と栄養、健康科学および医学に立脚し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。	
					公衆栄養学1 栄養疫学 【実践栄養学コース推奨科目】	給食経営管理実習1（運営） 給食経営管理実習2（経営管理） フードサービスマネジメント 【実践栄養学コース推奨科目】	公衆栄養学2 公衆栄養学実習						
AP⑦ 自己学習や協働を通して食品栄養科学や栄養生命科学を探究し、自らの経歴を形成することができる人 CP①②③④⑤⑥⑦	DP④	CP⑦ それぞれのコースに求められる専門性、先進性の高い知識、能力を演習する卒業論文研究や総合演習を4年次に配置する。 ディプロマポリシーで示した修得した知識・技能・実践力等を、総合的に活用し、食と栄養、健康科学および医学に立脚し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる（統合的な学修経験と創造的思考力）を演習する。	DP④	基礎細胞生物学					【専門科目】 栄養学研究基礎実習		DP⑤ 卒業論文研究で総合演習を4年次に配置する。 ディプロマポリシーで示した修得した知識・技能・実践力等を、総合的に活用し、食と栄養、健康科学および医学に立脚し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる（統合的な学修経験と創造的思考力）を演習する。		
									【専門科目】 総合演習 卒業論文				

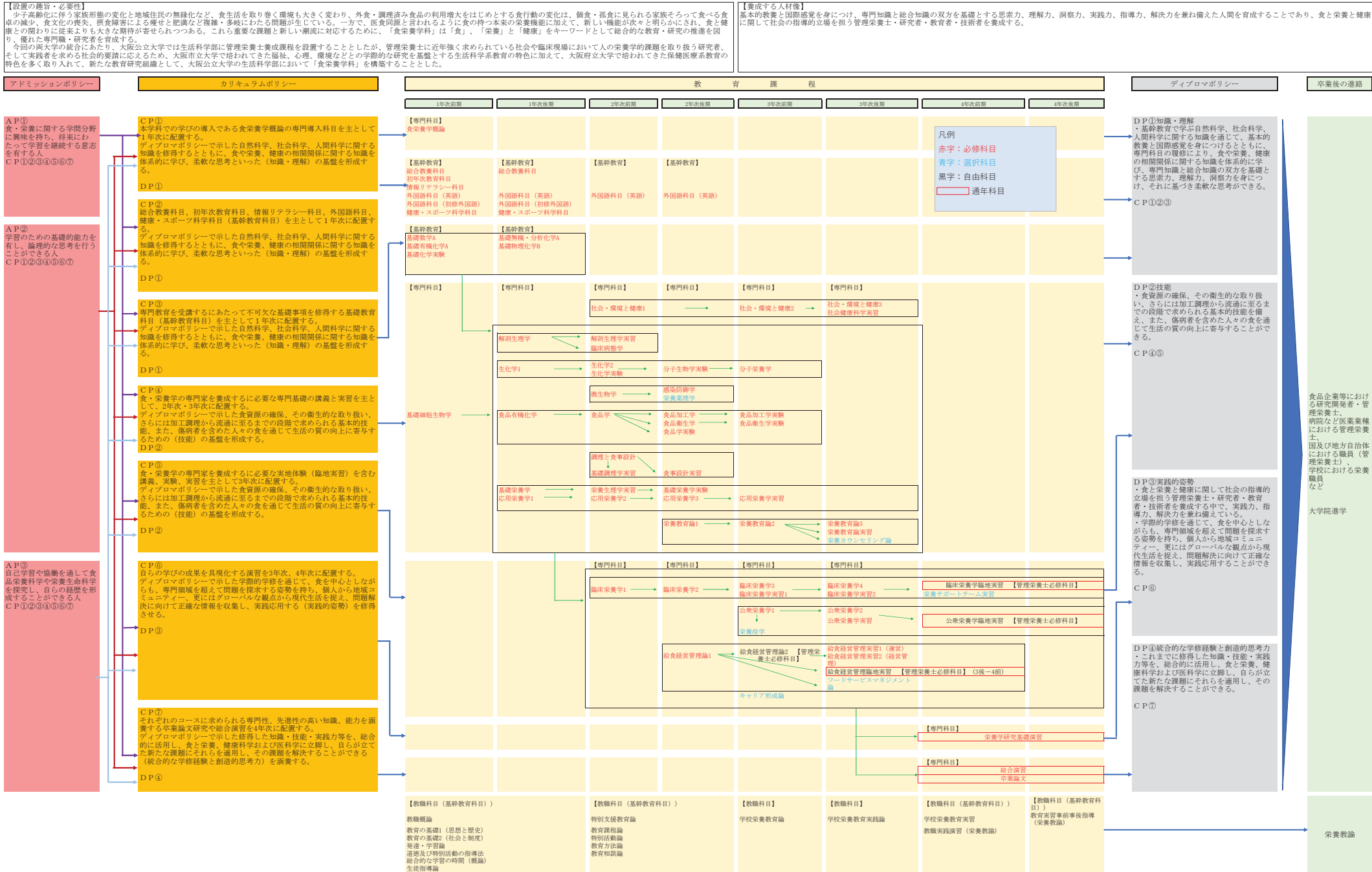
生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ（栄養士）



【政策の趣旨・必要性】 少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活をとり巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろって食べる食の減少、食文化の喪失、摂食障害による増進と肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、既食原産と言われる「食」の持つ本来の意義機能に加えて、新しい機能が次々と明らかになり、食と健康との関係性について従来よりも大きな期待が寄せられるところ。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。 今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などの学際的な研究を基盤とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れ、新たな教育研究組織として、「大阪公立大学の生活科学部において」「食栄養学」を構築することとした。	【養成する人材像】 基本的教養と国際感覚を身に付け、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思考力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。
---	---



生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ（栄養教諭）



生活科学部 食栄養学科 カリキュラム・マップ (家庭科教諭)

【設置の趣旨・必要性】

少子高齢化に伴う家族形態の変化と地域住民の無縁化など、食生活を取り巻く環境も大きく変わり、外食・調理済み食品の利用増大をはじめとする食行動の変化は、個食・孤食に見られる家族そろって食べる食の減少、食文化の喪失、摂食障害による痩せと肥満など複雑・多岐にわたる問題が生じている。一方で、医食同源と言われるように食の持つ本来の栄養機能に加えて、新しい機能が次々と明らかにされ、食と健康との関わりに従来よりも大きな期待が寄せられつつある。これら重要な課題と新しい潮流に対応するために、「食栄養学科」は「食」、「栄養」と「健康」をキーワードとして総合的な教育・研究の推進を図り、優れた専門職・研究者を育成する。

今回の両大学の統合にあたり、大阪公立大学では生活科学部に管理栄養士養成課程を設置することとしたが、管理栄養士に近年強く求められている社会や臨床現場において人の栄養学的課題を取り扱う研究者、そして実践者を求める社会的要請に応えるため、大阪市立大学で培われてきた福祉、心理、環境などとの学際的な研究を基礎とする生活科学系教育の特色に加えて、大阪府立大学で培われてきた保健医療系教育の特色を多く取り入れて、新たな教育研究組織として、大阪公立大学の生活科学部において「食栄養学科」を構築することとした。

【養成する人材像】

基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思考力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人間を育成することであり、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する。

アドミッションポリシー

AP①
食・栄養に関する学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意志を有する人
CP①②③④⑤⑥⑦

AP②
学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人
CP①②③④⑤⑥⑦

AP③
自己学習や協働を通して食生活や食文化や食生活科学を探究し、自らの経歴を形成することができる人
CP①②③④⑤⑥⑦

カリキュラムポリシー

CP①
本学科での学びの導入である食栄養概論の専門導入科目を主として1年次に配置する。
ディプロマポリシーで示した自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を修得するとともに、食や栄養、健康の相関関係に関する知識を体系的に学び、柔軟な思考といった(知識・理解)の基盤を形成する。

CP②
総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目(基礎教育科目)を主として1年次に配置する。
ディプロマポリシーで示した自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を修得するとともに、食や栄養、健康の相関関係に関する知識を体系的に学び、柔軟な思考といった(知識・理解)の基盤を形成する。

CP③
専門教育を受講するにあたって不可欠な基礎事項を修得する基礎教育科目(基礎教育科目)を主として1年次に配置する。
ディプロマポリシーで示した自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を修得するとともに、食や栄養、健康の相関関係に関する知識を体系的に学び、柔軟な思考といった(知識・理解)の基盤を形成する。

CP④
食・栄養学の専門家を養成するために必要な専門基礎の講義と実習を主として、2年次・3年次に配置する。
ディプロマポリシーで示した食資源の確保、その衛生的な取り扱い、さらには加工調理から流通に至るまでの段階で求められる基本的技能、また、傷病者を含めた人々の食を通じて生活の質の向上に寄与するための(技能)の基盤を形成する。

CP⑤
食・栄養学の専門家を養成するために必要な実地体験(臨地実習)を含む講義、実験、実習を主として3年次に配置する。
ディプロマポリシーで示した食資源の確保、その衛生的な取り扱い、さらには加工調理から流通に至るまでの段階で求められる基本的技能、また、傷病者を含めた人々の食を通じて生活の質の向上に寄与するための(技能)の基盤を形成する。

CP⑥
自らの学びの成果を具現化する演習を3年次、4年次に配置する。
ディプロマポリシーで示した学際的学習を通じて、食を中心としながらも、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を持ち、個人から地域コミュニティ、更にはグローバルな観点から現代生活を捉え、問題解決に向けて正確な情報を収集し、実践応用する(実践的姿勢)を修得させる。

CP⑦
それぞれのコースに求められる専門性、先進性の高い知識、能力を顕著する卒業論文研究や総合演習を4年次に配置する。
ディプロマポリシーで示した修得した知識・技能・実践力等を、総合的に活用し、食と栄養、健康科学および医学に立脚し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる(統合的な学習経験と創造的思考力)を顕著する。

DP①

教育課程

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
【専門科目】 食栄養学概論							
【基礎教育】 総合教養科目 初年次教育科目 情報リテラシー科目 外国語科目(英語) 外国語科目(英語) 健康・スポーツ科学科目	【基礎教育】 総合教養科目 外国語科目(英語) 外国語科目(初級外国語) 健康・スポーツ科学科目	【基礎教育】 外国語科目(英語)	【基礎教育】 外国語科目(英語)	【基礎教育】 外国語科目(英語)			
【基礎教育】 基礎数学A 基礎有機化学A 基礎化学実験	【基礎教育】 基礎無機・分析化学A 基礎物理化学B						
【専門科目】	【専門科目】	【専門科目】 社会・環境と健康1	【専門科目】	【専門科目】 社会・環境と健康2	【専門科目】 社会・環境と健康3 社会健康科学実習		
解剖生理学 生化学1	解剖生理学実習 臨床病態学 生化学2 生化学実験 微生物学	分子生物学実験 食品有機化学 食品学 食品衛生学 食品学実験 調理と食事設計 基礎調理実習	食品加工学 食品衛生学 食品学実験 食事設計実習	食品加工学実験 食品衛生学実験 基礎栄養学実験 栄養生理学実習 応用栄養学2	分子栄養学 食品衛生学実験 基礎栄養学実験 応用栄養学3 応用栄養学実習 栄養教育論1 栄養教育論2 栄養教育論3 栄養教育実習 栄養カウンセリング論		
基礎細胞生物学							
【専門科目】	【専門科目】	【専門科目】	【専門科目】	【専門科目】	【専門科目】	【専門科目】	【専門科目】
臨床栄養学1	臨床栄養学2	臨床栄養学3 臨床栄養学実習1	臨床栄養学4 臨床栄養学実習2	臨床栄養学5 臨床栄養学実習3	臨床栄養学6 臨床栄養学実習4	臨床栄養学7 臨床栄養学実習5	臨床栄養学8 臨床栄養学実習6
公衆栄養学1 公衆栄養学実習1	公衆栄養学2 公衆栄養学実習2	公衆栄養学3 公衆栄養学実習3	公衆栄養学4 公衆栄養学実習4	公衆栄養学5 公衆栄養学実習5	公衆栄養学6 公衆栄養学実習6	公衆栄養学7 公衆栄養学実習7	公衆栄養学8 公衆栄養学実習8
給食経営管理論1	給食経営管理論2(運営)	給食経営管理論3(経営)	給食経営管理論4(フードサービスマネジメント)				
キャリア形成論							
【専門科目】 栄養学研究基礎演習							
【専門科目】 総合演習 卒業論文							
【教職科目(基礎教育科目)】 教職概論 教育基礎論 教育制度論	【教職科目(基礎教育科目)】 特別支援教育論 教育課程論 発達・学習論	【教職科目(基礎教育科目)】 総合的な探求の指導論 教育方法論 生徒・進路指導論 教育相談論 特別活動論 道徳教育論	【教職科目(基礎教育科目)】 教育実習(2単位) 教育実習(4単位) 教育実習事前事後指導(中・高) 教職実践演習(中・高)				
【教職科目】 住居学概論	【教職科目】 被服学概論 家族関係学 生活経済学 保育学 家庭科教育法1A 家庭科教育法1B	【教職科目】 生活機器学 被服構成学 家庭科教育法1B 家庭科教育法2B					

ディプロマポリシー

卒業後の進路

凡例
赤字：必修科目
青字：選択科目
通年科目

DP①知識・理解
・基礎教育で学ぶ自然科学、社会科学、人間科学に関する知識を通じて、基本的教養と国際感覚を身につけるとともに専門科目の履修により、食や栄養、健康の相関関係に関する知識を体系的に学び、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思考力、理解力、洞察力を身につけ、それに基づき柔軟な思考ができる。

CP①②③

DP②技能
・食資源の確保、その衛生的な取り扱い、さらには加工調理から流通に至るまでの段階で求められる基本的技能を備え、また、傷病者を含めた人々の食を通じて生活の質の向上に寄与することができる。

CP④⑤

DP③実践的姿勢
・食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・教育者・技術者を養成する中で、実践力、指導力、解決力を兼ね備えている。
・学際的学習を通じて、食を中心としながらも、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を持ち、個人から地域コミュニティ、更にはグローバルな観点から現代生活を捉え、問題解決に向けて正確な情報を収集し、実践応用することができる。

CP⑥

DP④統合的な学習経験と創造的思考力
・これまでに修得した知識・技能・実践力等を、総合的に活用し、食と栄養、健康科学および医学に立脚し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決することができる。

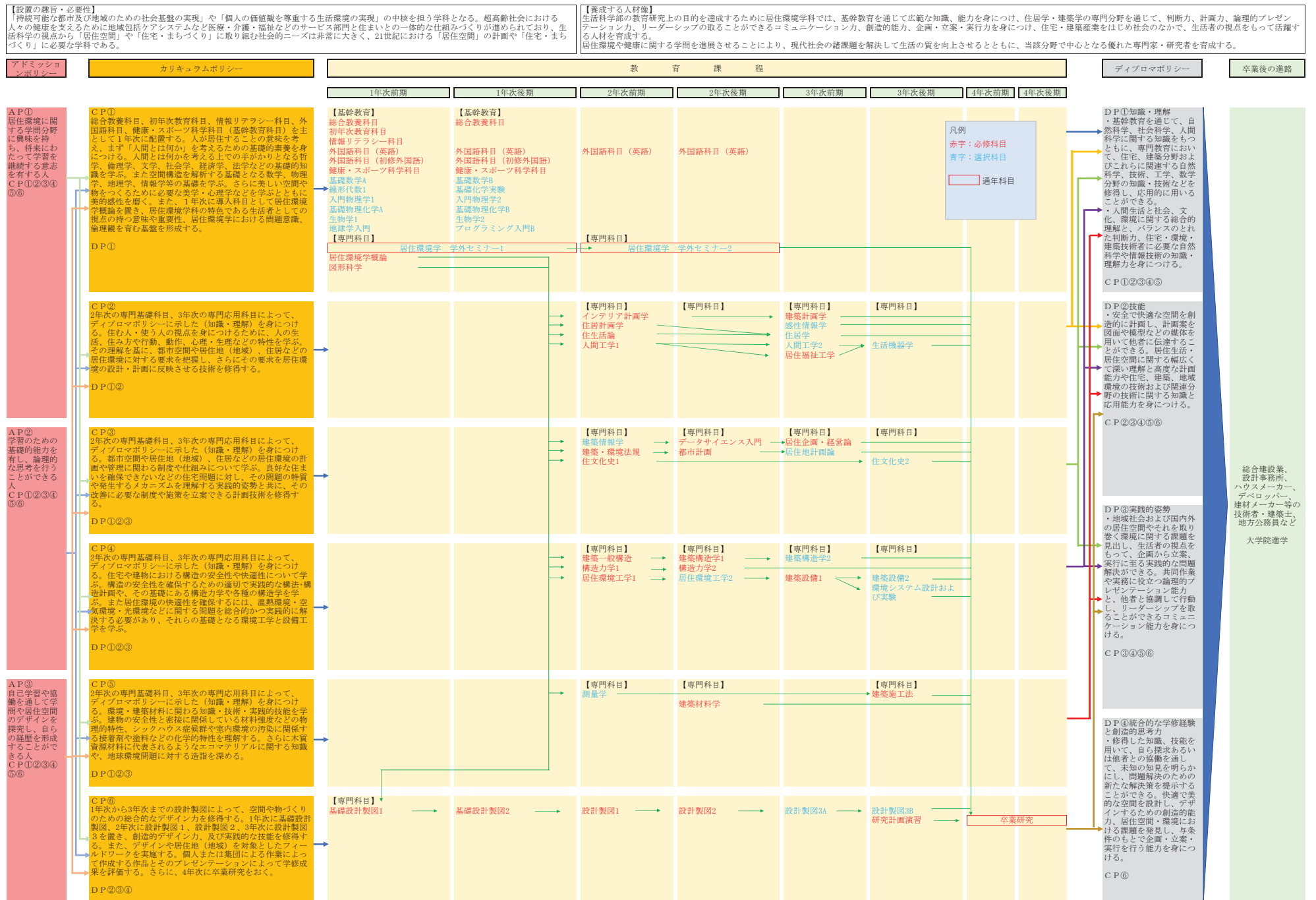
CP⑦

食品企業等における研究開発者、病院など医療現場における職員、国及び地方自治体における職員、など

大学院進学

家庭科教諭(中・高)

生活科学部 居住環境学科 カリキュラム・マップ（建築士資格取得）



生活科学部 居住環境学科 カリキュラム・マップ (標準)

【設置の趣旨・必要性】
「持続可能な都市及び地域のための社会基盤の実現」や「個人の価値観を尊重する生活環境の実現」の中核を担う学科となる。超高齢社会における人々の健康を支えるために地域包括ケアシステムと医療・介護・福祉などのサービス部門と住まいとの一体的な仕組みづくりが進められており、生活科学の視点から「居住空間」や「住宅・まちづくり」に取り組む社会的ニーズは非常に大きく、21世紀における「居住空間」の計画や「住宅・まちづくり」に必要な学科である。

【養成する人材像】
生活科学部の教育研究上の目的を達成するために居住環境学科では、基幹教育を通じて広範な知識、能力を身につけ、住居学・建築学の専門分野を通じて、判断力、計画力、論理的プレゼンテーション力、リーダーシップの取ることができるコミュニケーション力、創造的能力、企画・立案・実行力を身につけ、住宅・建築産業をはじめ社会のなかで、生活者の視点をもって活躍する人材を育成する。
居住環境や健康に関する学問を進展させることにより、現代社会の諸課題を解決して生活の質を向上させるとともに、当該分野で中心となる優れた専門家・研究者を育成する。

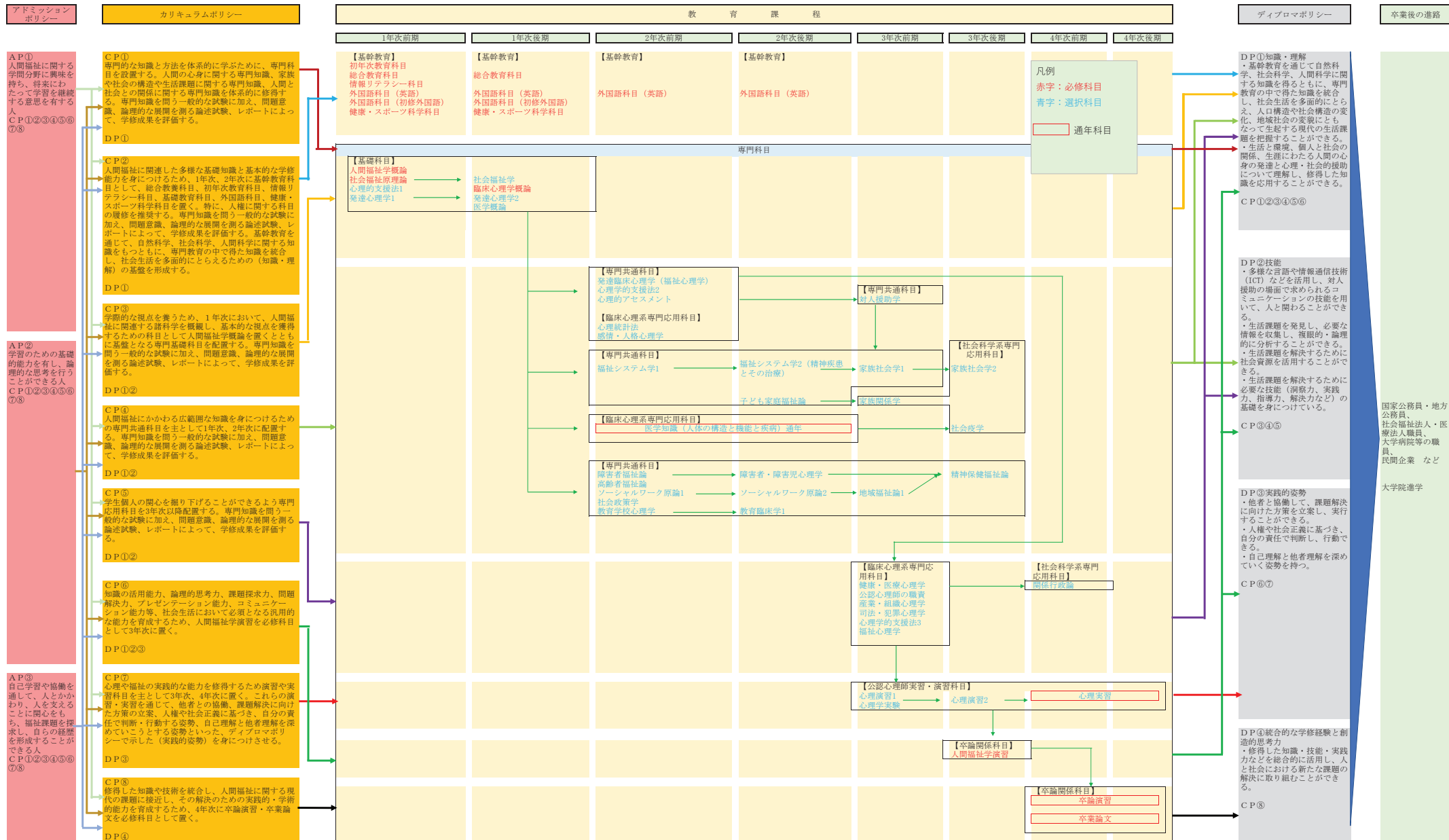
アドミッショ ンポリシー	カリキュラムポリシー	教 育 課 程								ディプロマポリシー	卒業後の進路
		1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期		
		【基幹教育】 総合教養科目 初年次教育科目 情報リテラシー科目 外国語科目 (英語) 外国語科目 (初修外国語) 健康・スポーツ科学科目 基礎数学A 線形代数1 入門物理学1 基礎物理学A 生物学1 地球学入門	【基幹教育】 総合教養科目 外国語科目 (英語) 外国語科目 (初修外国語) 健康・スポーツ科学科目 基礎数学B 基礎化学実験 入門物理学2 基礎物理学B 生物学2 プログラミング入門B	外国語科目 (英語)	外国語科目 (英語)						
AP① 居住環境に関する学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意志を有する人 CP①②③④⑤⑥	CP① 総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目 (基幹教育科目) を主として1年次に配置する。人が居住することの意味を考え、まず「人間とは何か」を考えるための基礎的素養を身につける。人間とは何かを考える上での手がかりとなる哲学、倫理学、文学、社会学、経済学、法学などの基礎的知識を学ぶ。また空間構造を解析する基礎となる数学、物理学、地理学、情報学等の基礎を学ぶ。さらに美しい空間や物をつくるために必要な美学・心理学などを学ぶとともに美的感性を磨く。また、1年次に導入科目として居住環境学概論を置き、居住環境学科の特色である生活者としての視点の持つ意味や重要性、居住環境学における問題意識、倫理観を育む基礎を形成する。	DP①									D P①知識・理解 ・基幹教育を通じて、自然科学、社会科学、人間科学に関する知識をもつとともに、専門教育において、住宅、建築分野およびこれらに関連する自然科学、技術、工学、数学分野の知識・技術などを修得し、応用的に用いることができる。 ・人間生活と社会、文化・環境に関する総合的理解と、バランスのとれた判断力、住宅・環境・建築技術者に必要な自然科学や情報技術の知識・理解力を身につける。 C P①②③④⑤
	CP② 2年次の専門基礎科目、3年次の専門応用科目によって、ディプロマポリシーに示した (知識・理解) を身につける。住む人・使う人の視点を身につけるために、人の生活、住み方や行動、動作、心理・生理などの特性を学ぶ。その理解を基に、都市空間や居住地 (地域)、住居などの居住環境に対する要求を把握し、さらにその要求を居住環境の設計・計画に反映させる技術を修得する。	DP①②			【専門科目】 インテリア計画学 住居計画学 住生活論 人間工学1	【専門科目】 建築計画学 色彩学	【専門科目】 建築計画学 感性情報学 住居学 人間工学2 居住福祉工学				
AP② 学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人 CP①②③④⑤⑥	CP③ 2年次の専門基礎科目、3年次の専門応用科目によって、ディプロマポリシーに示した (知識・理解) を身につける。都市空間や居住地 (地域)、住居などの居住環境の計画や管理に関わる制度や仕組みについて学ぶ。良好な住まいを確保できないなどの住宅問題に対し、その問題の特質や発生するメカニズムを理解する実践的姿勢と共に、その改善に必要な制度や施策を立案できる計画技術を修得する。	DP①②③		【専門科目】 建築情報学 建築・環境法規 住文化史1	【専門科目】 データサイエンス入門 都市計画	【専門科目】 居住企画・経営論 居住地計画論	【専門科目】 住文化史2				D P②技能 ・安全で快適な空間を創造的に計画し、計画案を図面や模型などの媒体を用いて他者に伝達することができる。居住生活・居住空間に関する幅広く深い理解と高度な計画能力や住宅、建築、地域環境の技術および関連分野の技術に関する知識と応用能力を身につける。 C P②③④⑤⑥
	CP④ 2年次の専門基礎科目、3年次の専門応用科目によって、ディプロマポリシーに示した (知識・理解) を身につける。住宅や建物における構造の安全性や快適性について学ぶ。構造の安全性を確保するための適切な実践的な構法・構造計画や、その基礎にある構造力学や各種の構造学を学ぶ。また居住環境の快適性を確保するには、温熱環境・空気環境・光環境などに関する問題を総合的かつ実践的に解決する必要があり、それらの基礎となる環境工学と設備工学を学ぶ。	DP①②③		【専門科目】 建築一般構造 構造力学1 居住環境工学1	【専門科目】 建築構造学1 構造力学2	【専門科目】 建築構造学2 建築設備1	【専門科目】 建築設備2				
AP③ 自己学習や協働を通して学問や居住空間のデザインを探究し、自らの経歴を形成することができる人 CP①②③④⑤⑥	CP⑤ 2年次の専門基礎科目、3年次の専門応用科目によって、ディプロマポリシーに示した (知識・理解) を身につける。環境・建築材料に関わる知識・技術・実践的技能を学ぶ。建物の安全性と密接に関係している材料強度などの物理的特性、シックハウス症候群や室内環境の汚染に係る接着剤や塗料などの化学的特性を理解する。さらに木質資源材料に代表されるようなエコマテリアルに関する知識や、地球環境問題に対する造詣を深める。	DP①②③		【専門科目】 測量学	【専門科目】 建築材料科学		【専門科目】 建築施工法				D P③実践的姿勢 ・地域社会および国内外の居住空間やそれを取り巻く環境に関する課題を見出し、生活者の視点をもって、企画から立案、実行に至る実践的な問題解決ができる。共同作業や実務に役立つ論理的プレゼンテーション能力と、他者と協調して行動し、リーダーシップを取ることができるコミュニケーション能力を身につける。 C P③④⑤⑥
	CP⑥ 1年次から3年次までの設計製図によって、空間や物づくりのための総合的なデザイン力を修得する。1年次に基礎設計製図、2年次に設計製図1、設計製図2、3年次に設計製図3を置き、創造的デザイン力、及び実践的な技能を修得する。また、デザインや居住地 (地域) を対象としたフィールドワークを実施する。個人または集団による作業によって作成する作品とそのプレゼンテーションによって学修成果を評価する。さらに、4年次に卒業研究をおく。	DP②③④	【専門科目】 基礎設計製図1	基礎設計製図2	設計製図1	設計製図2		研究計画演習	卒業研究		

【設置の趣旨・必要性】

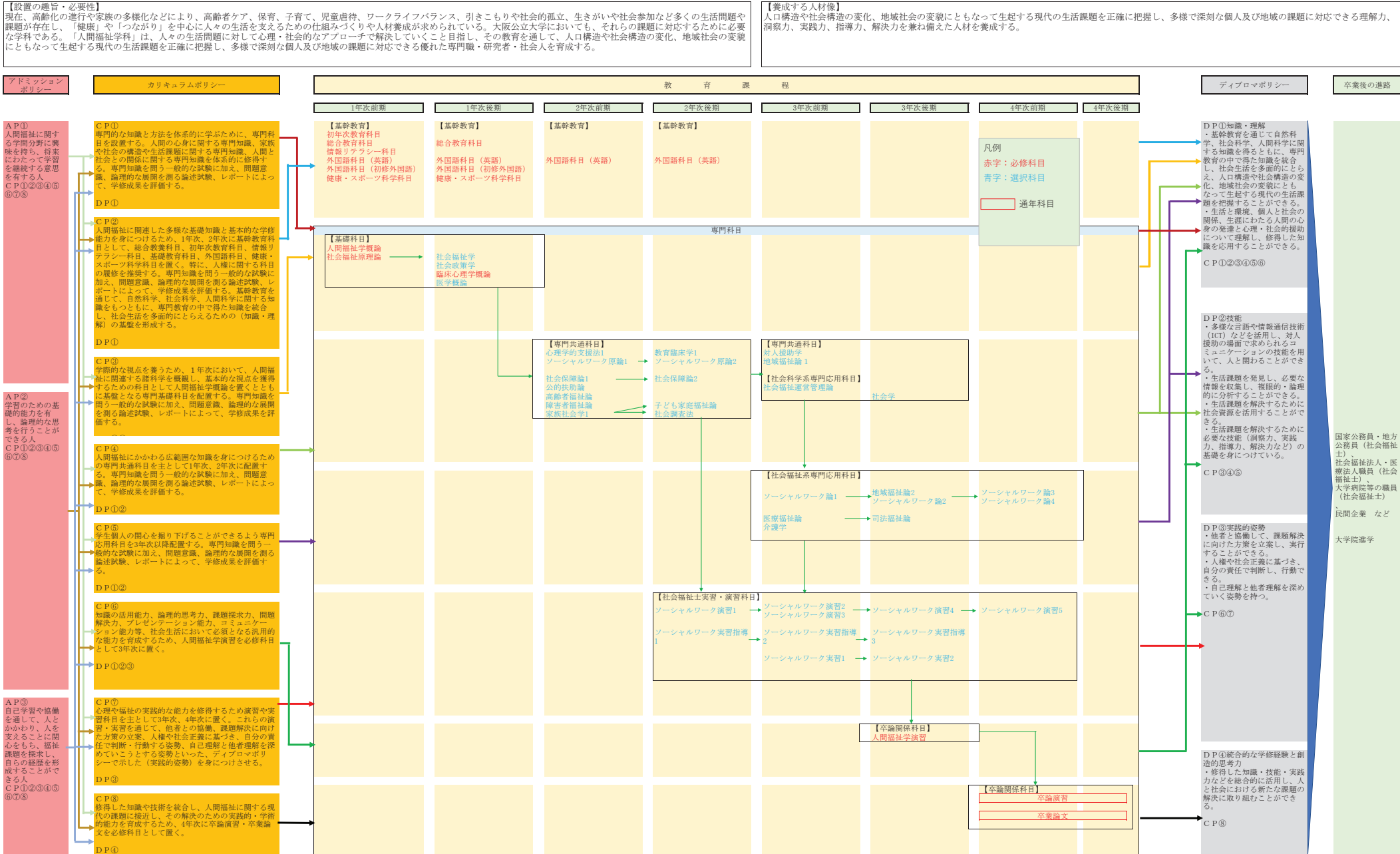
現在、高齢化の進行や家族の多様化などにより、高齢者ケア、保育、子育て、児童虐待、ワークライフバランス、引きこもりや社会的孤立、生きがいや社会参加など多くの生活問題や課題が存在し、「健康」や「つながり」を中心に人々の生活を支えるための仕組みづくりや人材養成が求められている。大阪公立大学においても、それらの課題に対応するために必要な学科である。「人間福祉学科」は、人々の生活問題に対して心理・社会的なアプローチで解決していくこと目指し、その教育を通して、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる優れた専門職・研究者・社会人を育成する。

【養成する人材像】

人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人材を養成する。



生活科学部 人間福祉学科 カリキュラム・マップ (社会福祉士)



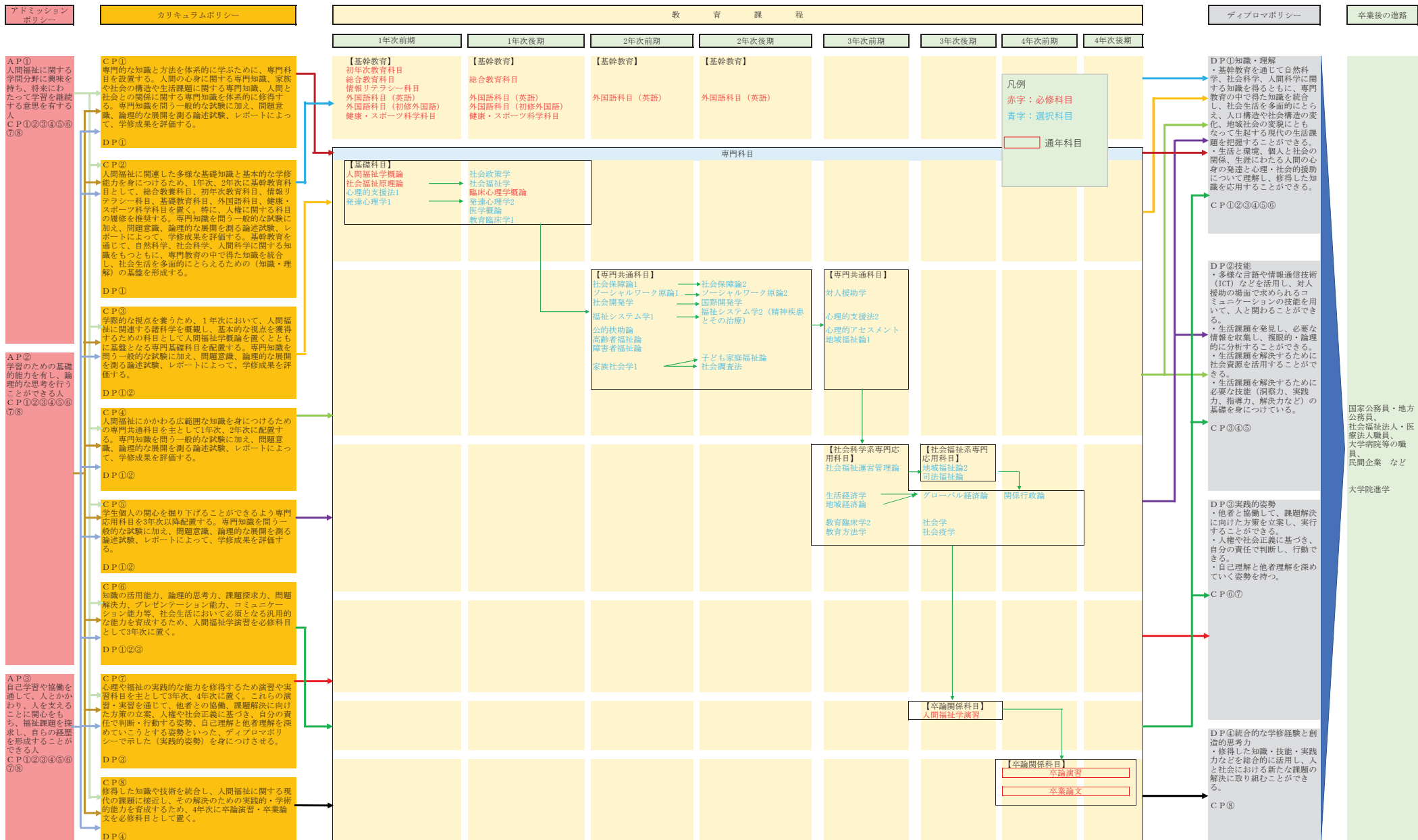
生活科学部 人間福祉学科 カリキュラム・マップ（家族・社会・生活系モデル）

【設置の趣旨・必要性】

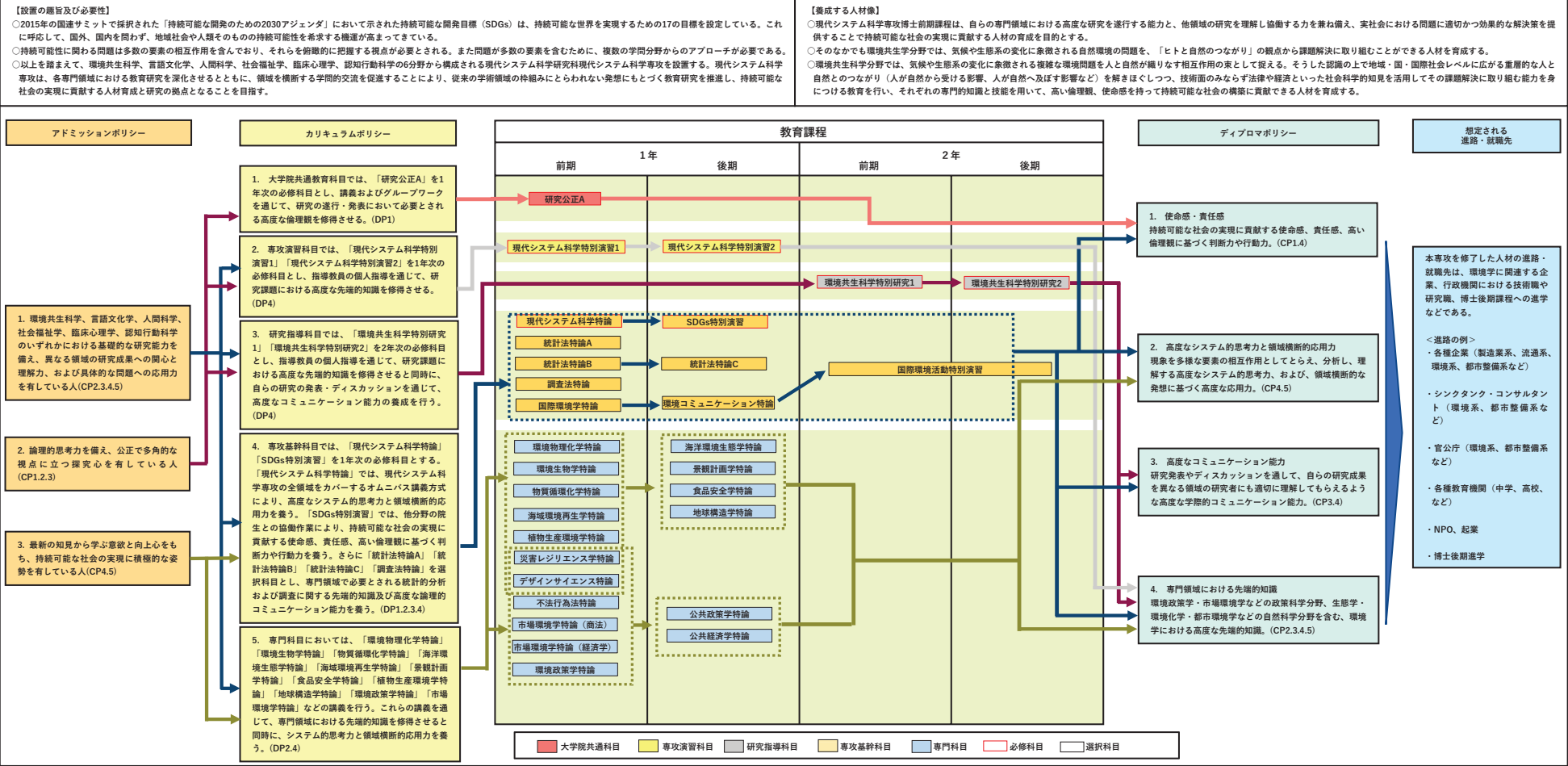
現在、高齢化の進行や家族の多様化などにより、高齢者ケア、保育、子育て、児童虐待、ワークライフバランス、引きこもりや社会的孤立、生きがいや社会参加など多くの生活問題や課題が存在し、「健康」や「つながり」を中心に人々の生活を支えるための仕組みづくりや人材養成が求められている。大阪公立大学においても、それらの課題に対応するために必要な学科である。「人間福祉学科」は、人々の生活問題に対して心理・社会的なアプローチで解決していくこと目指し、その教育を通して、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなうて生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる優れた専門職・研究者・社会人を育成する。

【養成する人材像】

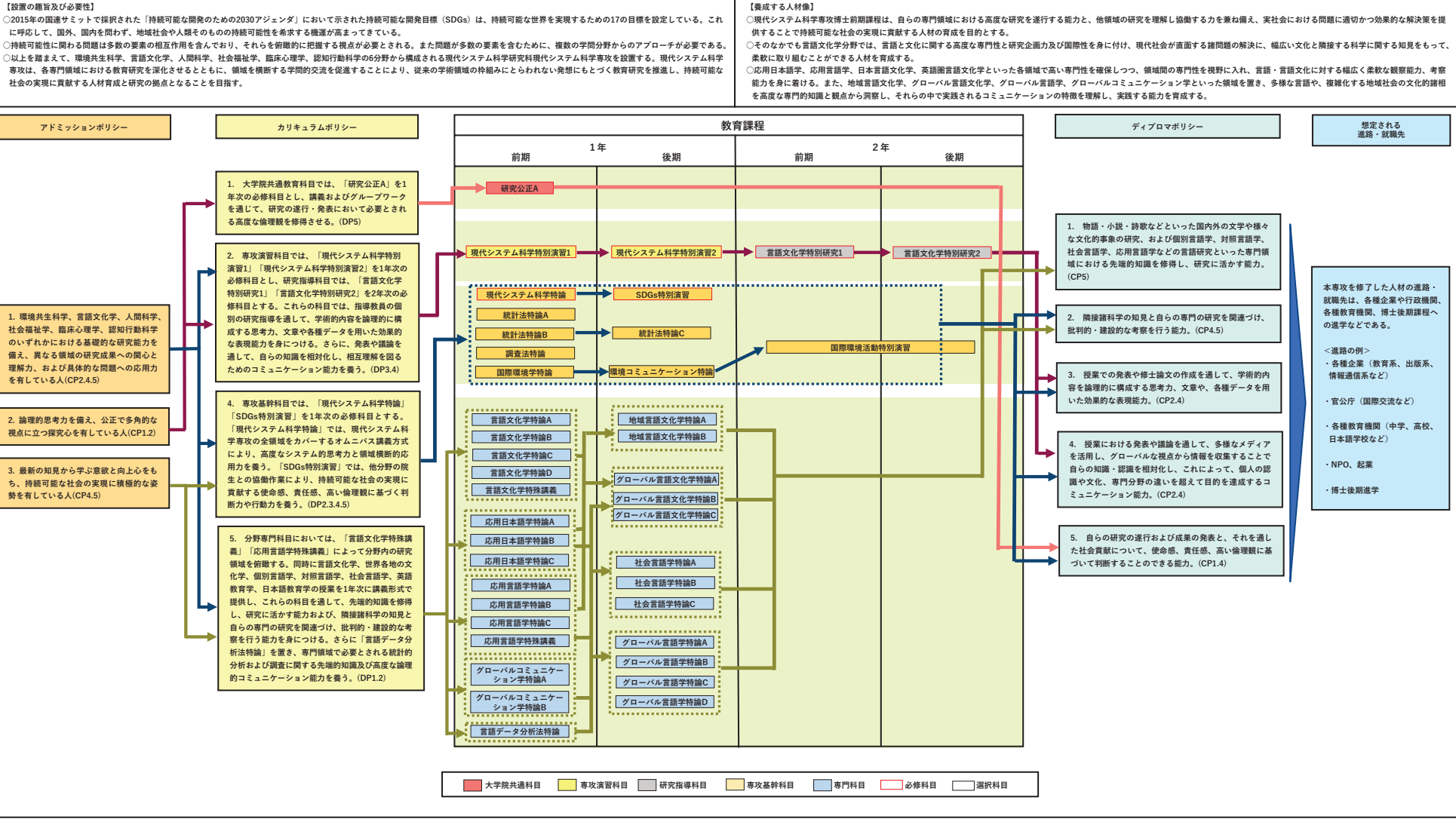
人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなうて生じる現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力を兼ね備えた人材を養成する。



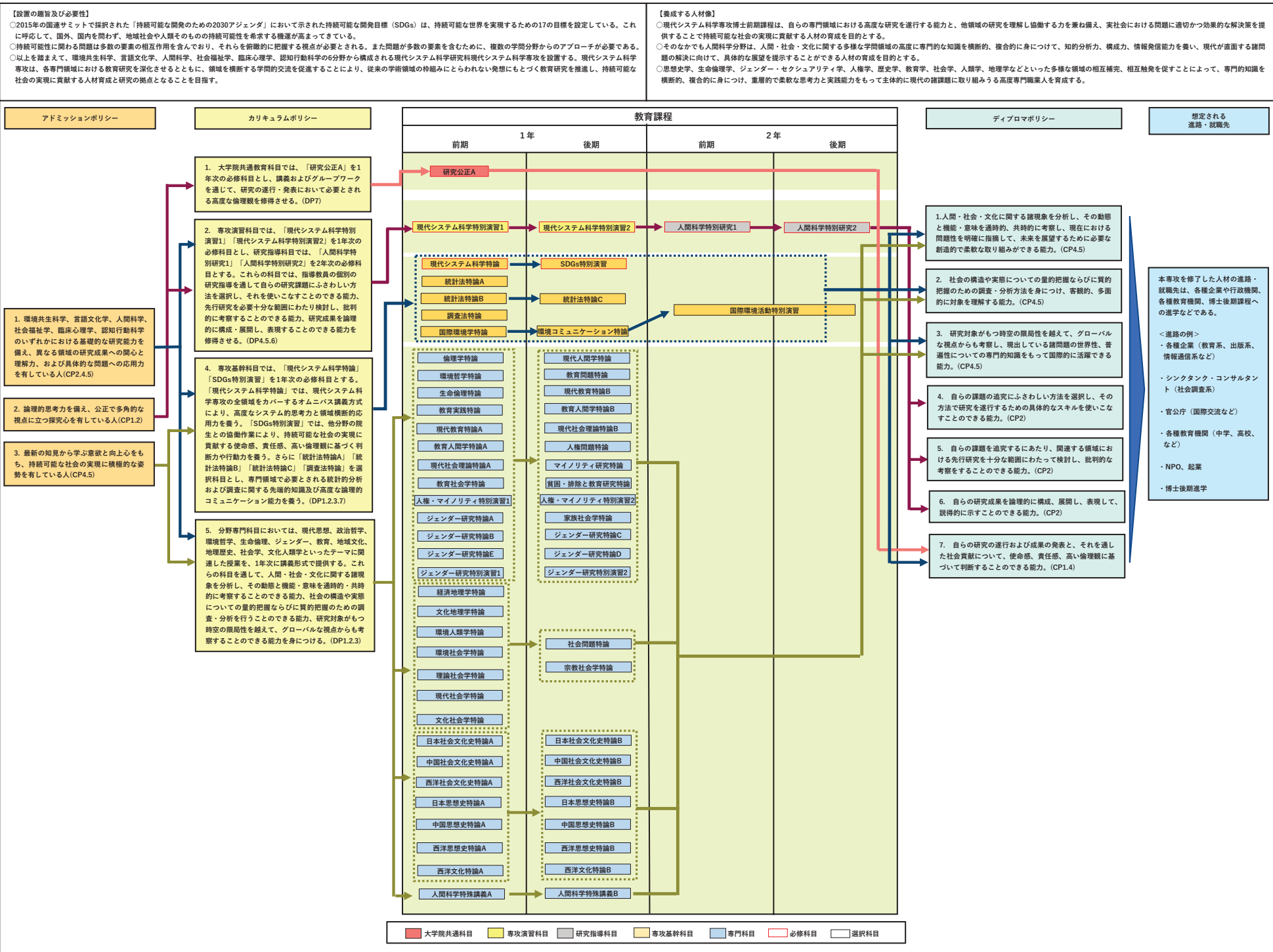
現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士前期課程 環境共生科学分野 カリキュラムマップ



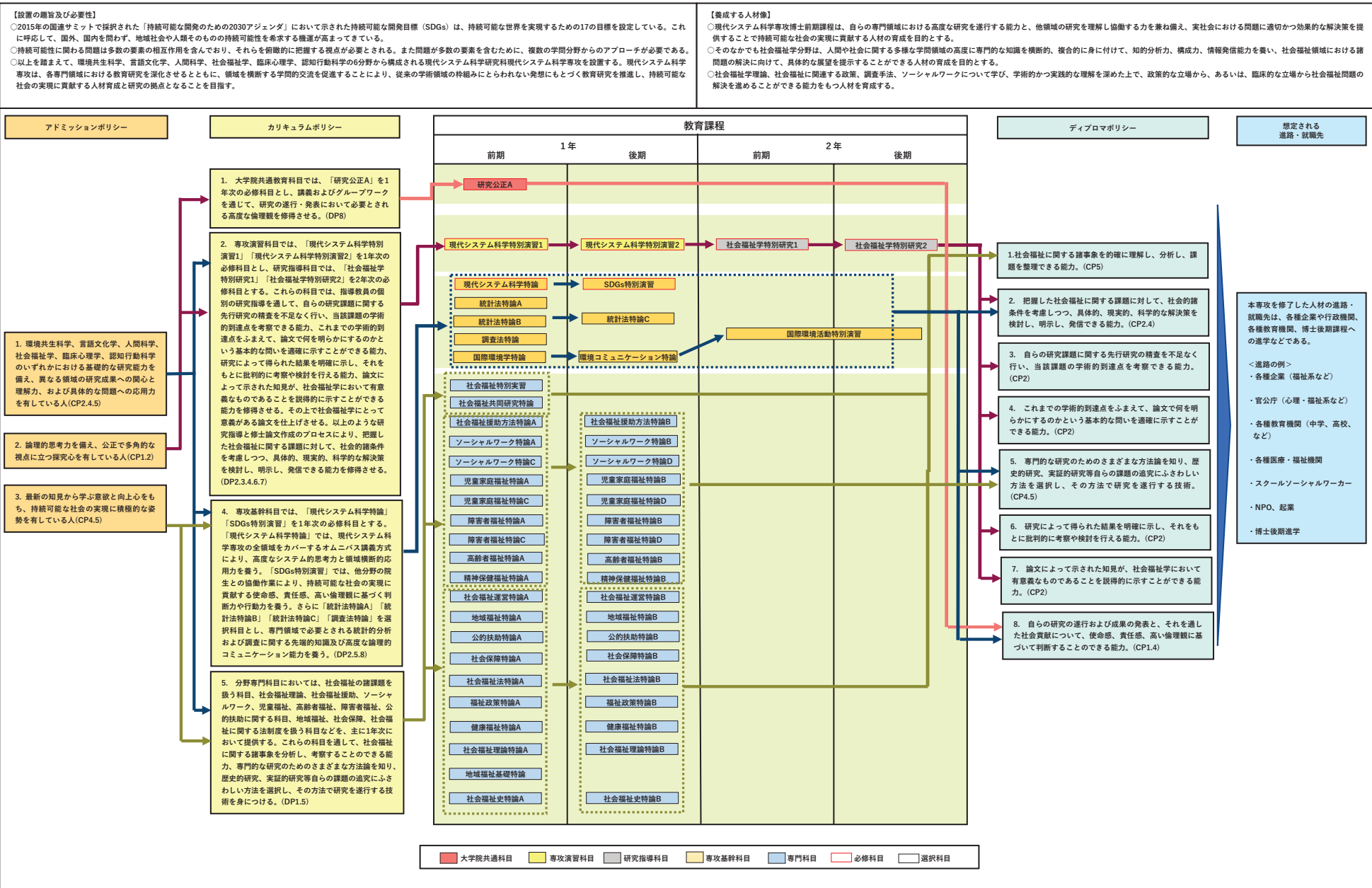
現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士前期課程 言語文化学分野 カリキュラムマップ



現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士前期課程 人間科学分野 カリキュラムマップ



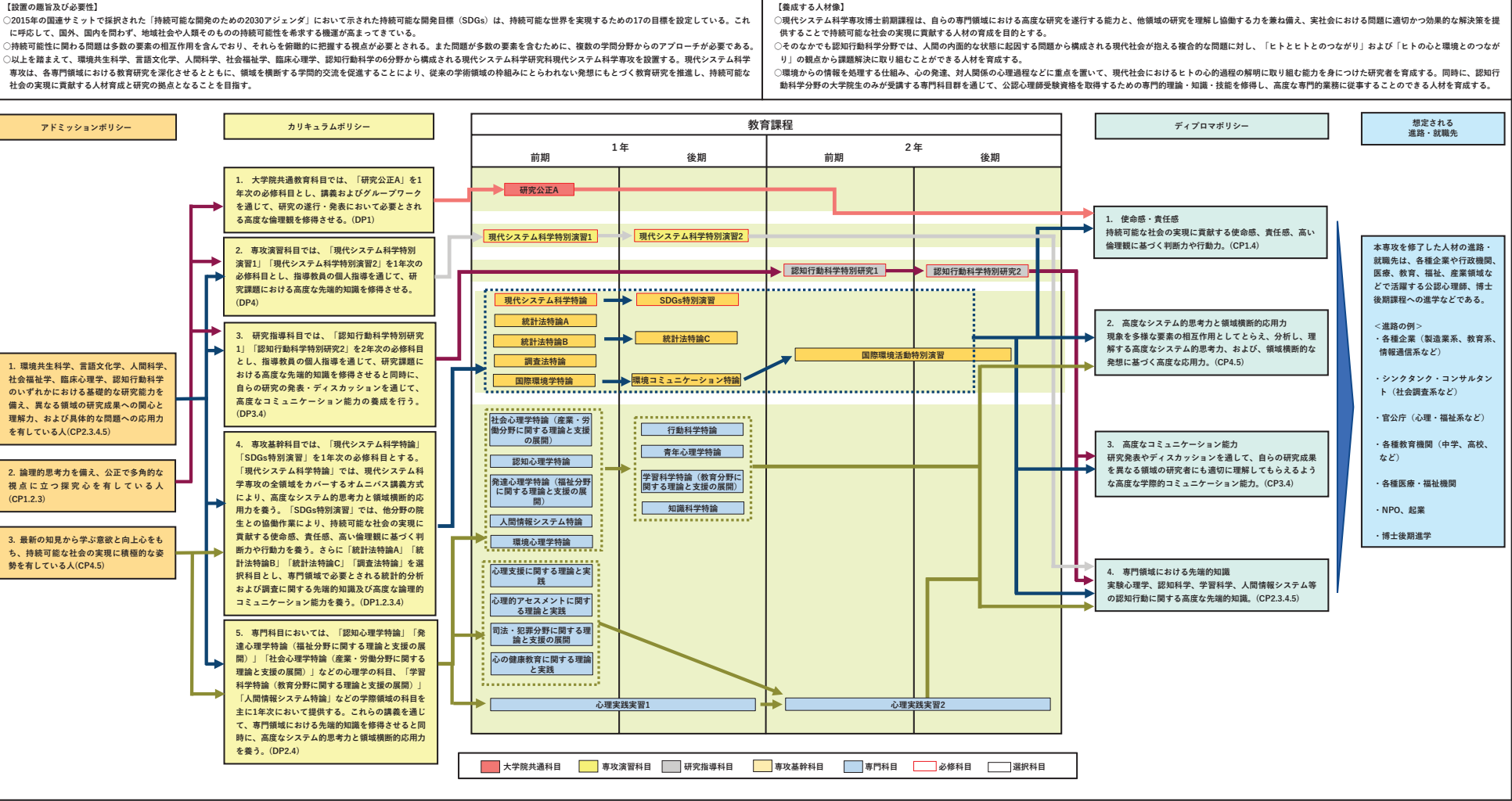
現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士前期課程 社会福祉学分野 カリキュラムマップ



【設置の趣旨及び必要性】 ○2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において示された持続可能な開発目標（SDGs）は、持続可能な世界を実現するための17の目標を設定している。これに呼応して、国内外を問わず、地域社会や人類そのものの持続可能性を希求する機運が高まってきた。 ○持続可能性に関わる問題は多岐の要素が相互作用を及ぼしており、それらを体系的に理解する視点が必要とされる。また問題が多岐の要素を含むために、複数の学問分野からのアプローチが必要である。 ○以上を踏まえて、環境共生科学、言語文化学、人間科学、社会福祉学、臨床心理学、認知行動科学の分野から構成される現代システム科学研究科現代システム科学専攻を設置する。現代システム科学専攻は、各専門領域における教育研究を深化させるとともに、領域を横断する学際的交流を促進することにより、従来の学術領域の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材育成と研究の拠点となることを目指す。	【養成する人材像】 ○現代システム科学専攻博士前期課程は、自らの専門分野における高度な研究を遂行する能力と、他領域の研究を理解し協働する力を兼ね備え、実社会における問題に適切かつ効果的な解決策を提供することと持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目的とする。 ○博士前期課程臨床心理学分野では、取得し得るものに関する視点と背景となる視点を涵養しつつ、臨床心理学分野の大学院生がめざする専門科目群より、臨床心理学受験資格（第一種）および公認心理師資格を取得するための専門的理論・知識・技能を修得することができるとともに、人間の心・自然・社会環境との関係について従来の人文科学の枠組みを超えた領域横断的な発想が求められる人材を育成する。
---	---

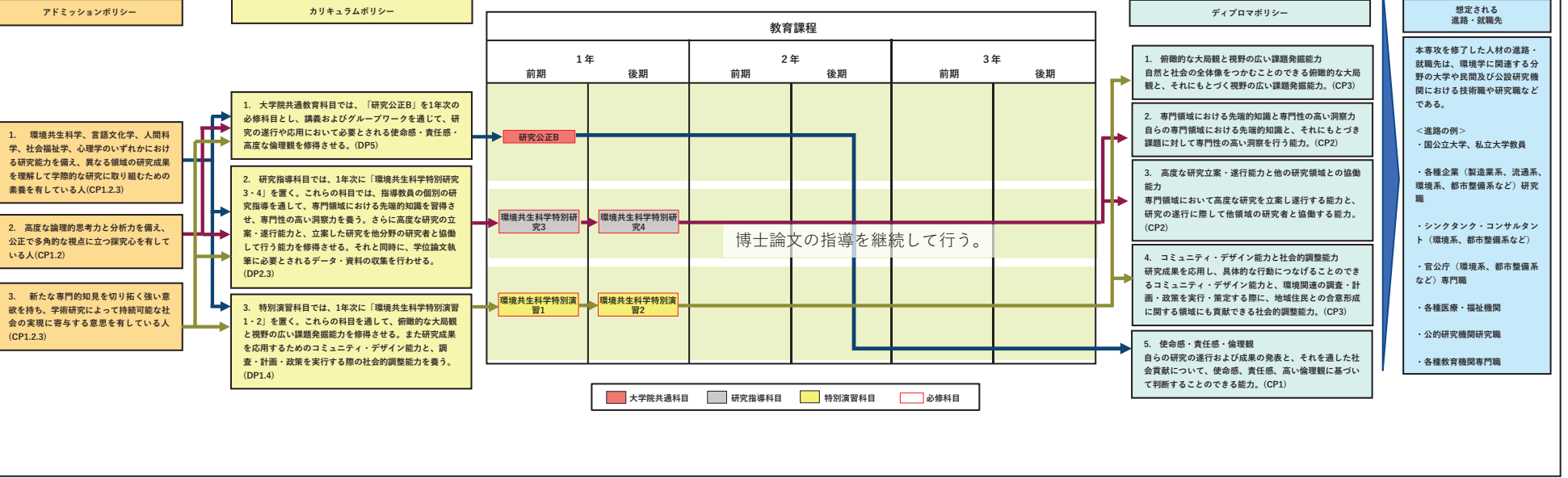


現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士前期課程 認知行動科学分野 カリキュラムマップ



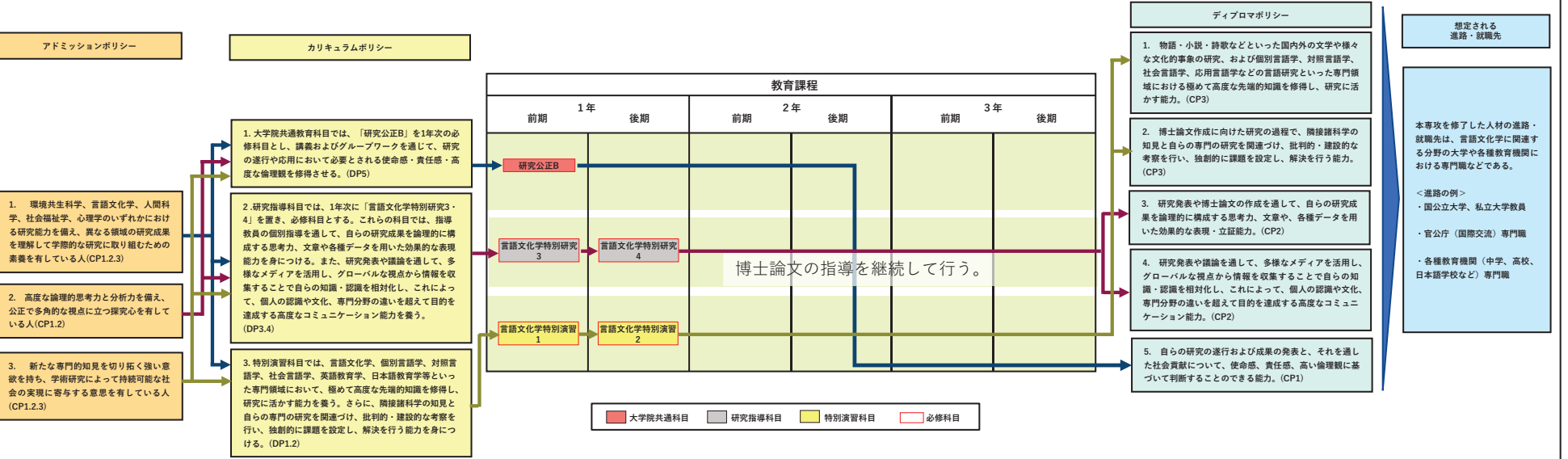
現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士後期課程 環境共生科学分野 カリキュラムマップ

【設置の趣旨及び必要性】 ○2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において示された持続可能な開発目標（SDGs）は、持続可能な世界を実現するための17の目標を設定している。これに呼応して、国外、国内を問わず、地域社会や人類そのものの持続可能性を希求する機運が高まってきている。 ○持続可能性に関わる問題は多数の要素の相互作用を含んでおり、それらを俯瞰的に把握する視座が必要とされる。また問題が多数の要素を含むために、複数の学問分野からのアプローチが必要である。 ○以上を踏まえて、環境共生科学、言語文化学、人間科学、社会福祉学、臨床心理学、認知行動科学の6分野から構成される現代システム科学研究科現代システム科学専攻を設置する。現代システム科学専攻は、各専門領域における教育研究を深化させるとともに、領域を横断する学問的交流を促進することにより、従来の学術領域の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材育成と研究の拠点となることを目指す。	【養成する人材像】 ○現代システム科学専攻博士後期課程環境共生科学分野は、自らの専門領域である環境学における教育研究を深化させるとともに、領域を横断し、隣接諸領域との学問的交流を促進することにより、従来の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成する。 ○そのなかでも環境共生科学分野では、博士前期課程との継続性を重視しつつ、人と自然とのつながりに重点を置いて喫緊の課題である環境問題に対処する能力を更に高めることを狙いとす。 ○自律的に研究を遂行する能力の涵養を重視し、問題発見から仮説の提示、複眼的な分析から結論を導き出すまでの総合的な知的能力、研究成果を応用し、具体的な行動につなげることでできるコミュニティ・デザイン能力、地域住民との合意形成に関する領域にも貢献できる社会的調整能力を備えた人材を育成する。
--	---



現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士後期課程 言語文化学分野 カリキュラムマップ

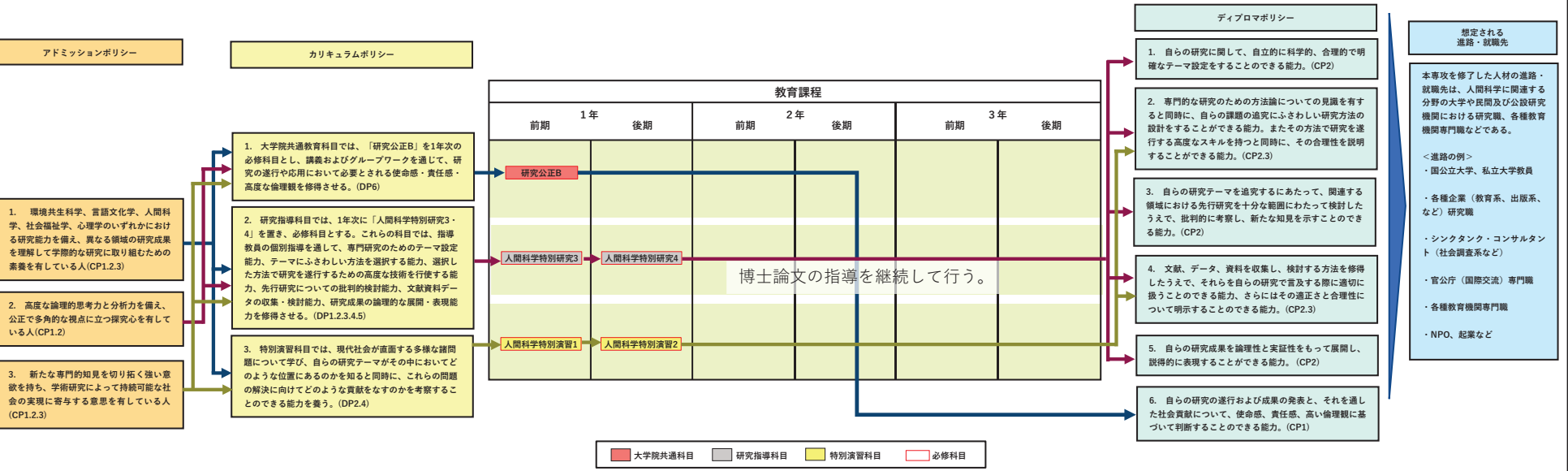
【設置の趣旨及び必要性】 ○2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において示された持続可能な開発目標（SDGs）は、持続可能な世界を実現するための17の目標を設定している。これに呼応して、国外、国内を問わず、地域社会や人類そのものの持続可能性を希求する機運が高まってきている。 ○持続可能性に関わる問題は多数の要素の相互作用を含んでおり、それらを俯瞰的に把握する視点が必要とされる。また問題が多数の要素を含むために、複数の学問分野からのアプローチが必要である。 ○以上を踏まえて、環境共生科学、言語文化学、人間科学、社会福祉学、臨床心理学、認知行動科学の6分野から構成される現代システム科学研究科現代システム科学専攻を設置する。現代システム科学専攻は、各専門領域における教育研究を深化させるとともに、領域を横断する学問的交流を促進することにより、従来の学術領域の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材育成と研究の拠点となることを目指す。	【養成する人材像】 ○現代システム科学専攻博士後期課程言語文化学分野では、言語と文化に関する極めて高度な学術的専門性と研究企画力及び幅広い国際性を身に付け、現代社会が直面しうる諸問題を発見し、それに対して独自の視点と高度な学術的知見をもって、柔軟な解決策を提案できる人材を育成する。 ○地域言語文化学、グローバル言語文化学、グローバル言語学、グローバルコミュニケーション学といった領域を置き、多様な言語や、複雑化する地域社会の文化的諸相を高度な専門的知識と観点から洞察し、それらの中で実践されるコミュニケーションの特徴を理解し、実践する能力を育成する。 ○博士後期課程では、各研究領域での専門性をさらに高度なものとし、言語および言語文化に対するより深く幅広い知識を得て、体系化することができる研究者を育成する。
--	--



現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士後期課程 人間科学分野 カリキュラムマップ

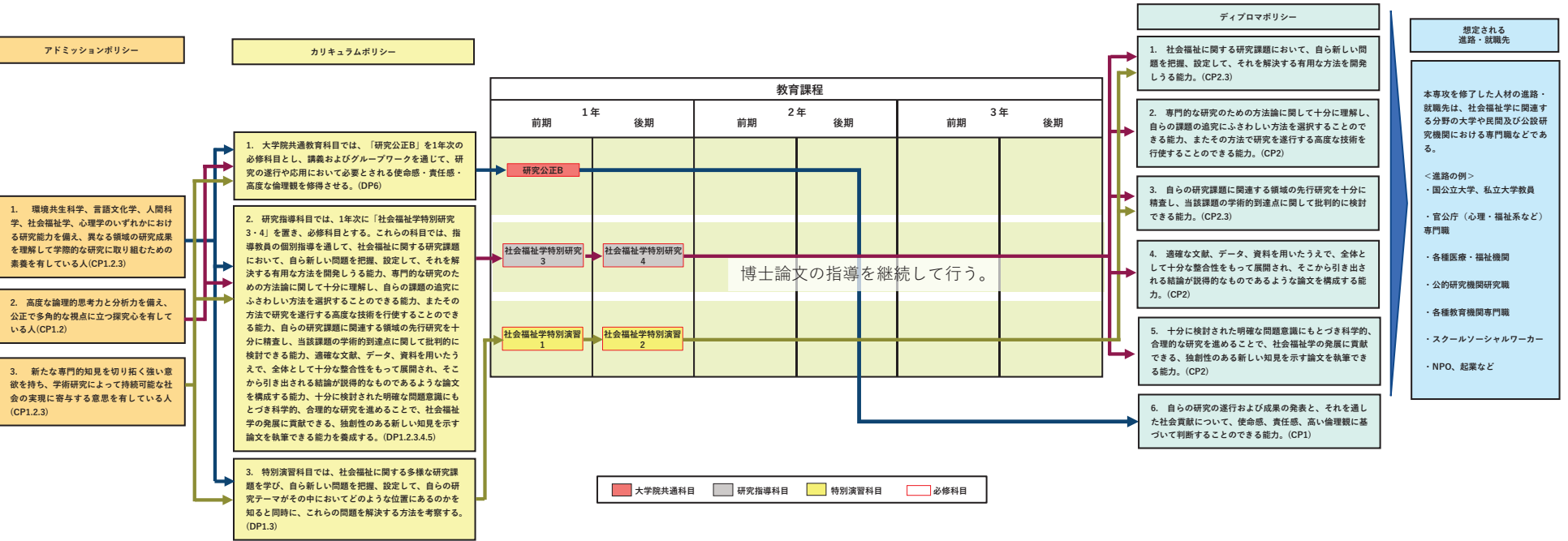
【設置の趣旨及び必要性】
○2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において示された持続可能な開発目標（SDGs）は、持続可能な世界を実現するための17の目標を設定している。これに呼応して、国外、国内を問わず、地域社会や人類そのものの持続可能性を希求する機運が高まってきている。
○持続可能性に関わる問題は多数の要素の相互作用を含んでおり、それらを俯瞰的に把握する視点が必要とされる。また問題が多数の要素を含むために、複数の学問分野からのアプローチが必要である。
○以上を踏まえて、環境共生科学、言語文化学、人間科学、社会福祉学、臨床心理学、認知行動科学の6分野から構成される現代システム科学研究科現代システム科学専攻を設置する。現代システム科学専攻は、各専門領域における教育研究を深化させるとともに、領域を横断する学問的交流を促進することにより、従来の学術領域の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材育成と研究の拠点となることを目指す。

【養成する人材像】
○現代システム科学専攻博士後期課程人間科学分野は、人間・社会・文化に関する多様な学問領域のより高度な学術的探究を進め、専門的、科学的な展望を提示するに必要な、知的分析力、批判能力、論理的構成力、言語運用能力、情報発信能力を養い、現代が直面する諸問題の解決に向けて、取り組むことができる人材の育成を目的とする。
○思想史学、生命倫理学、ジェンダー・セクシュアリティ学、人権学、歴史学、教育学、社会学、人類学、地理学などといった多様な領域の相互補完、相互触発を促すことによって、専門的知識を横断的、複合的に身につけ、重層的で柔軟な思考力と実践能力を備えた人材を育成する。
○博士後期課程においては、各研究領域においてさらに高度な専門性を身につけることにより、問題のより深い理解と課題解決に向けた、知の体系とその応用方法を構築する研究者を育成する。



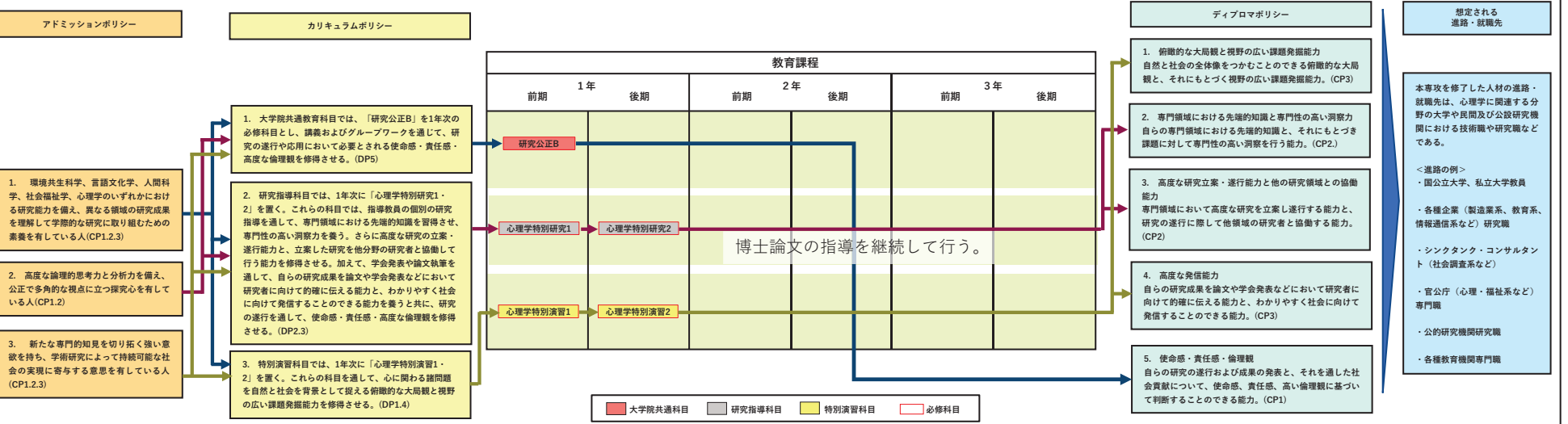
現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士後期課程 社会福祉学分野 カリキュラムマップ

【設置の趣旨及び必要性】 ○2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において示された持続可能な開発目標（SDGs）は、持続可能な世界を実現するための17の目標を設定している。これに呼応して、国外、国内を問わず、地域社会や人類そのものの持続可能性を希求する機運が高まってきている。 ○持続可能性に関わる問題は多数の要素の相互作用を含んでおり、それらを前端的に把握する視点が必要とされる。また問題が多数の要素を含むために、複数の学問分野からのアプローチが必要である。 ○以上を踏まえて、環境共生科学、言語文化学、人間科学、社会福祉学、臨床心理学、認知行動科学の6分野から構成される現代システム科学研究科現代システム科学専攻を設置する。現代システム科学専攻は、各専門領域における教育研究を深化させるとともに、領域を横断する学問的交流を促進することにより、従来の学術領域の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材育成と研究の拠点となることを目指す。	【養成する人材像】 ○現代システム科学専攻博士後期課程社会福祉学分野は、人間や社会に関する多様な学問領域のより高度な学術的探究を進め、専門的、科学的な展望を提示するに必要な、知的分析力、批判能力、論理的構成力、言語運用能力、情報発信能力を備え、社会福祉領域における諸問題の解決に向けて、取り組むことができる人材の育成を目的とする。 ○社会福祉学理論、社会福祉に関連する政策、調査手法、ソーシャルワークについて学び、学術的かつ実践的な理解を深めた上で、政策的な立場から、あるいは、臨床的な立場から社会福祉問題の解決を進めることができる能力を備えた人材を育成する。 ○博士後期課程では、社会福祉に関して高度な専門的能力を持つ職業人や、社会福祉学の新たな地平につながる、創造的な研究を生み出す自立した研究者を育成することを目指す。
---	--



現代システム科学研究科 現代システム科学専攻 博士後期課程 心理学分野 カリキュラムマップ

【設置の趣旨及び必要性】 ○2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において示された持続可能な開発目標（SDGs）は、持続可能な世界を実現するための17の目標を設定している。これに呼応して、国外、国内を問わず、地域社会や人類そのものの持続可能性を希求する機運が高まってきている。 ○持続可能性に関わる問題は多数の要素の相互作用を含んでおり、それらを俯瞰的に把握する視点が必要とされる。また問題が多数の要素を含むために、複数の学問分野からのアプローチが必要である。 ○以上を踏まえて、環境共生科学、言語文化学、人間科学、社会福祉学、臨床心理学、認知行動科学の6分野から構成される現代システム科学研究科現代システム科学専攻を設置する。現代システム科学専攻は、各専門領域における教育研究を深化させるとともに、領域を横断する学問的交流を促進することにより、従来の学術領域の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材育成と研究の拠点となることを目指す。	【養成する人材像】 ○現代システム科学専攻博士後期課程心理学分野では、自らの専門領域における教育研究を深化させるとともに、領域を横断し、隣接諸領域との学問的交流を促進することにより、従来の枠組みにとらわれない発想にもとづく教育研究を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成する。 ○博士後期課程心理学分野は、博士前期課程における臨床心理学分野と認知行動科学分野の研究領域から構成され、各研究領域での専門性をさらに高度なものとし、心理学において現代社会の課題解決に取り組む能力をさらに高め、心理学に関するより深く幅広い知識を得て体系化することができ、自律的に研究を遂行する能力を備えた人材を育成する。
--	---



103

文学研究科 哲学歴史学専攻(博士後期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会では、これまで人類がどのようにして危機に直面しそれを乗り越えてきたかを分析し、持続可能な社会を志向する倫理観、価値観を考察していくことが一層重要となる。そこで求められるが、人間と文化に対する新たなものの見方と方法に対する原理的反省である。哲学と歴史学は諸学の基礎としての役割を共有しており、哲学的観点と歴史的観点は人間理解のための2つの基本的な座標軸と言える。激しく変動する時代潮流のなかで、人間文化の本質とその普遍的価値を見極め、さらにその変化の意味と方向性を調整する能力が切実に求められており、哲学と歴史学(日本史学・東洋史学・西洋史学)の学問的追究を行う研究者養成が強く希求される。このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。

①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者、

②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者

とともに哲学歴史学専攻では、人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とする。人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを旨とする。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成する。

アドミッション・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		教 育 課 程			ディプロマ・ポリシー		修了後の進路	
以下の学生を求める。		共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く		【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	1年次	2年次	3年次	3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力や広い知識と教養をもった専門職業人としての能力を発揮して社会に貢献する。
哲学専修	・哲学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・哲学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究能力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究能力を身に付けさせる。それらのために、哲学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎哲学特殊研究A ◎哲学特殊研究B					DP ① 哲学の探究をとおして、人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する能力を習得している。 C P ①	哲学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 博物館・美術館・公文書館（学芸員など）、 人文関係学術的研究開発事業所、	
	・哲学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ②哲学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎哲学論文指導	【論文指導科目】 ◎哲学論文指導	【論文指導科目】 ◎哲学論文指導			DP ② 人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究者としての能力を習得している。 C P ②	中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（発掘調査、自治体史編纂、国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）	
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究能力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B					DP ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③		
日本史学専修	・日本史学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・日本史学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究能力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究能力を身に付けさせる。それらのために、日本史学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎日本史学特殊研究A ◎日本史学特殊研究B					DP ① 日本史学の探究をとおして、人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する能力を習得している。 C P ①	日本史学の高度な専門的知見を基盤として以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 博物館・美術館・公文書館（学芸員など）、 人文関係学術的研究開発事業所、	
	・日本史学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ②日本史学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎日本史学論文指導	【論文指導科目】 ◎日本史学論文指導	【論文指導科目】 ◎日本史学論文指導			DP ② 人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究者としての能力を習得している。 C P ②	中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（発掘調査、自治体史編纂、国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）	
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究能力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B					DP ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③		
東洋史学専修	・東洋史学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・東洋史学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究能力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究能力を身に付けさせる。それらのために、東洋史学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎東洋史学特殊研究A ◎東洋史学特殊研究B					DP ① 東洋史学の探究をとおして、人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する能力を習得している。 C P ①	東洋史学の高度な専門的知見を基盤として以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 博物館・美術館・公文書館（学芸員など）、 人文関係学術的研究開発事業所、	
	・東洋史学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ②東洋史学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎東洋史学論文指導	【論文指導科目】 ◎東洋史学論文指導	【論文指導科目】 ◎東洋史学論文指導			DP ② 人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究者としての能力を習得している。 C P ②	中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（発掘調査、自治体史編纂、国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）	
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究能力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B					DP ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③		
西洋史学専修	・西洋史学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・西洋史学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究能力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究能力を身に付けさせる。それらのために、西洋史学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎西洋史学特殊研究A ◎西洋史学特殊研究B					DP ① 西洋史学の探究をとおして、人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する能力を習得している。 C P ①	成長し学への高度な専門的知見を基盤として以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 博物館・美術館・公文書館（学芸員など）、 人文関係学術的研究開発事業所、	
	・西洋史学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ②西洋史学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎西洋史学論文指導	【論文指導科目】 ◎西洋史学論文指導	【論文指導科目】 ◎西洋史学論文指導			DP ② 人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究者としての能力を習得している。 C P ②	中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（発掘調査、自治体史編纂、国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）	
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究能力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B					DP ③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③		

【設置の趣旨】

あくまでも人間を中心として、一人一人が他者と関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基盤とする総合的・学際的に捉える「人間行動学」である。

社会学は、人間の社会生活の仕組み、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や環境の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものである。それらは、ともに人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを目指す点で共通しており、このような学際的追究を行う研究者の養成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く希求される。

このような理由から本専攻を設置する。

【養成の人材像】

文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かで人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域の発展に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応える高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人の養成も視野に入れた人材養成を行う。

とくに人間行動学専攻では、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的・学際的に捉えることを目的とする。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視する。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材を養成する。

アドミッション・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		教 育 課 程		ディプロマ・ポリシー		修了後の進路	
以下の学生を求める。		共通教育科目、専攻共通科目、分野専門科目、研究指導科目を置く		【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ◇印：自由選択科目 1年次2年次		2年以上在学し、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。		現実の社会や人間を客観的に観察する能力や研究者としての能力や高度な専門的知識と技術をもった専門職業人としての能力を發揮して社会に貢献する。	
社会学専修	・社会学に関する先進的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・社会学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・社会学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために人間行動学共通科目と社会学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【専攻共通科目】 ◎人間行動学研究 A ◎人間行動学研究 B 【分野専門科目】 ◎社会学基礎問題研究 A ◎社会学基礎問題研究演習 A ◎社会学基礎問題研究 B ◎社会学基礎問題研究演習 B ◎社会学特殊問題研究 A ◎社会学特殊問題研究演習 A ◎社会学特殊問題研究 B ◎社会学特殊問題研究演習 B ◎社会学特殊問題研究 C ◎社会学特殊問題研究演習 C			D P ① 社会学の探究をとおして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①		社会学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）	
		C P ②人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P ②	【分野専門科目】 ◎社会学総合研究演習 1 ◎社会学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ◎社会学研究指導 1 ◎社会学研究指導 2			D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②		
		C P ③研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正 A ◎人間地論				D P ③ 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、高度な専門的知識と技術をもった専門職業人としての能力を習得している。 C P ③		
心理学専修	・心理学に関する先進的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・心理学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・心理学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために人間行動学共通科目と心理学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【専攻共通科目】 ◎人間行動学研究 A ◎人間行動学研究 B 【分野専門科目】 ◎心理学基礎問題研究 ◎心理学基礎問題研究演習 ◎実験心理学研究 ◎実験心理学研究演習 ◎心理学特殊問題研究 A ◎心理学特殊問題研究演習 A ◎心理学特殊問題研究 B ◎心理学特殊問題研究演習 B			D P ① 心理学の探究をとおして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①		心理学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）	
		C P ②人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P ②	【分野専門科目】 ◎心理学総合研究演習 1 ◎心理学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ◎心理学研究指導 1 ◎心理学研究指導 2			D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②		
		C P ③研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正 A ◎Academic Writing ◎Academic Presentation				D P ③ 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、高度な専門的知識と技術をもった専門職業人としての能力を習得している。 C P ③		
教育学専修	・教育学に関する先進的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・教育学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・教育学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために人間行動学共通科目と教育学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【専攻共通科目】 ◎人間行動学研究 A ◎人間行動学研究 C 【分野専門科目】 ◎教育学基礎問題研究 ◎教育学基礎問題研究演習 ◎学校教育研究 A ◎学校教育研究演習 A ◎学校教育研究 B ◎学校教育研究演習 B ◎教育学特殊問題研究 A ◎教育学特殊問題研究演習 A ◎教育学特殊問題研究 B ◎教育学特殊問題研究演習 B			D P ① 教育学の探究をとおして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①		教育学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）	
		C P ②人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P ②	【分野専門科目】 ◎教育学総合研究演習 1 ◎教育学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ◎教育学研究指導 1 ◎教育学研究指導 2			D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②		
		C P ③研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正 A				D P ③ 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、高度な専門的知識と技術をもった専門職業人としての能力を習得している。 C P ③		
地理学専修	・地理学に関する先進的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・地理学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・地理学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える研究力を身に付けさせる。また、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる研究力を身に付けさせる。それらのために人間行動学共通科目と地理学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【専攻共通科目】 ◎人間行動学研究 A ◎人間行動学研究 D 【分野専門科目】 ◎地理学基礎問題研究 ◎地理学基礎問題研究演習 ◎地理情報論研究 ◎地理情報論研究演習 ◎人文地理特殊問題研究 A ◎人文地理特殊問題研究演習 A ◎人文地理特殊問題研究 B ◎人文地理特殊問題研究演習 B ◎社会学特殊問題研究 A			D P ① 地理学の探究をとおして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①		地理学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）	
		C P ②人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養する。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P ②	【分野専門科目】 ◎地理学総合研究演習 1 ◎地理学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ◎地理学研究指導 1 ◎地理学研究指導 2			D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②		
		C P ③研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正 A				D P ③ 人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究者としての能力を習得させ、また、高度な専門的知識と技術をもった専門職業人としての能力を習得している。 C P ③		

文学研究科 人間行動学専攻(博士後期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】 あくまでも人間を中心として、一人一人が他者との関わりの中で「幸せ」や「豊かさ」を追求できる社会の中では、他者を思いやり、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造する人材が求められる。そのニーズに応えるのが、社会学、心理学、教育学、地理学を基礎とする総合的・学際的な人間行動学専攻である。 社会学は、人間の社会生活の諸相、心理学は人間の行動とそれを支える心の働き、教育学は人間の発達と教育的働きかけとの関係、地理学は地域性や景観の形成に対する人間の働きかけをそれぞれに研究するものである。それらは、ともに人間の行動の諸相面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークの科学的手法に基づいて実証的に明らかにすることを旨とする点で共通しており、このような学問的探究を行う研究者の養成が予測不可能な時代、グローバル社会において強く求められる。このような理由から本専攻を設置する。	【養成する人材像】 文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。 ①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者、 ②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主体的に推進する研究者 文学研究科博士後期課程では、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、学際的に捉えることを目的とする。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視する。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材を養成する。
---	--

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程			ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 黄緑：発展科目	1年次 2年次 3年次	3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力や広い知識と教養をもった専門職業人としての能力を発揮して社会に貢献する。

社会学専修	・社会学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・社会学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・社会学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらのために、社会学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎社会学特殊研究A ◎社会学特殊研究B		D P ① 社会学の探究をおとして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①	社会学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教授、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）
		C P ②社会学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すよう博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎社会学論文指導	【論文指導科目】 ◎社会学論文指導	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②	公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B		D P ③人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	コンサルティング

心理学専修	・心理学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・心理学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・心理学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらのために、心理学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎心理学特殊研究A ◎心理学特殊研究B		D P ① 心理学の探究をおとして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①	心理学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教授、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）
		C P ②心理学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すよう博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎心理学論文指導	【論文指導科目】 ◎心理学論文指導	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②	公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B		D P ③人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	コンサルティング

教育学専修	・教育学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・教育学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・教育学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらのために、教育学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎教育学特殊研究A ◎教育学特殊研究B		D P ① 教育学の探究をおとして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①	教育学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教授、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）
		C P ②教育学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すよう博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎教育学論文指導	【論文指導科目】 ◎教育学論文指導	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②	公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B		D P ③人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	コンサルティング

地理学専修	・地理学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・地理学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・地理学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P ①人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求する研究力を身に付けさせる。また、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにする研究力を身に付けさせる。それらのために、地理学の分野専門科目を配置する。 D P ①	【分野専門科目】 ◎地理学特殊研究A ◎地理学特殊研究B		D P ① 地理学の探究をおとして、人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉える能力を習得している。 C P ①	地理学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教授、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）
		C P ②地理学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すよう博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P ②	【論文指導科目】 ◎地理学論文指導	【論文指導科目】 ◎地理学論文指導	D P ② フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基盤に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化できる能力を習得している。 C P ②	公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、
		C P ③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P ③	【共通教育科目】 ※研究公正B		D P ③人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P ③	コンサルティング

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営みの所産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。

グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。

このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人の養成も視野に入れた人材養成を行う。

とくに言語文化学専攻では、言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エリヤスタディーズなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

アドミッション・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		教 育 課 程		ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。		共通教育科目、専攻共通科目、分野専門科目、研究指導科目を置く		【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	2年以上在学し、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を発揮して社会に貢献する。
国語国文学専修	・国語国文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・国語国文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・国語国文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①日本語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのため言語文化学専攻共通科目と国語国文学の分野専門科目を配置する。D P①	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎国文学研究A ◎国文学研究演習A ◎国文学研究B ◎国文学研究演習B ◎国文学研究C ◎国文学研究演習C ◎国文学研究D ◎国語学研究	1年次	2年次	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	国語国文学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
		C P②日本語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのため分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P②	【分野専門科目】 ◎国語国文学総合研究演習1 ◎国語国文学総合研究演習2	◎国語国文学研究指導1 ◎国語国文学研究指導2	D P② 日本語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②		情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
		C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍しうる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのため文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P③	【共通教育科目】 ※研究公正A		D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③		
中国語中国文学専修	・中国語中国文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・中国語中国文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・中国語中国文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①中国語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのため言語文化学専攻共通科目と中国語中国文学の分野専門科目を配置する。D P①	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎中国文化学研究 ◎中国文化学研究演習 ◎中国文学研究 ◎中国文学研究演習 ◎中国語学研究 ◎中国語学研究演習 ◎中国語応用研究 ◎言語応用学研究B ◎言語応用学研究演習B			D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	中国語中国文学の専門的知見を基盤として以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
		C P②中国語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのため分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P②	【分野専門科目】 ◎中国語中国文学総合研究演習1 ◎中国語中国文学総合研究演習2	◎中国語中国文学研究指導1 ◎中国語中国文学研究指導2	D P② 中国語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②		情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
		C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍しうる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのため文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P③	【共通教育科目】 ※研究公正A		D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③		
英語英文学専修	・英語英文学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・英語英文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・英語英文学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①英語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのため言語文化学専攻共通科目と英語英文学の分野専門科目を配置する。D P①	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究D 【分野専門科目】 ◎英文学研究A ◎英文学研究演習A ◎英文学研究B ◎英文学研究演習B ◎英語学研究A ◎英語学研究演習 ◎英米文化学研究 ◎英米文化学研究演習			D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	英語英文学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
		C P②英語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのため分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。D P②	【分野専門科目】 ◎英語英米文化総合研究演習1 ◎英語英米文化総合研究演習2	◎英語英米文化研究指導1 ◎英語英米文化研究指導2	D P② 英語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②		情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）
		C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍しうる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのため文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。D P③	【共通教育科目】 ※研究公正A ◎Academic Presentation		D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③		

文学研究科 言語文化学専攻 (博士前期課程) カリキュラムマップ 2/2

【設置の趣旨】
予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営みの所産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。
グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。
このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】
文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人の養成も視野に入れた人材養成を行う。
とくに言語文化学専攻では、言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エアスタディーズなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

アドミッション・ポリシー		カリキュラム・ポリシー		教 育 課 程		ディプロマ・ポリシー		修了後の進路																																																																																																																																																														
以下の学生を求める。		共通教育科目、専攻共通科目、分野専門科目、研究指導科目を置く		【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目 1年次2年次		2年以上在学し、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。		鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を発揮して社会に貢献する。																																																																																																																																																														
ドイツ語圏言語文化学専修	・ドイツ語圏言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・ドイツ語圏言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・ドイツ語圏言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①ドイツ語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために言語文化学専攻共通科目とドイツ語圏言語文化学の分野専門科目を配置する。 D P① C P②ドイツ語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P② C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A 【分野専門科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学研究 ◎ドイツ語圏文学研究A ◎ドイツ語圏文学研究演習A ◎ドイツ語圏文学研究B ◎ドイツ語圏文学研究演習B ◎ドイツ語学 ◎ドイツ語学研究 ◎ドイツ語圏文化研究 ◎ドイツ語圏文化研究演習	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究B 【分野専門科目】 ◎ヨーロッパ言語文化学研究 ◎地域社会文化学研究A	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② ドイツ語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① ドイツ語圏言語文化学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する。 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）																																																																																																																																																														
			【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A 【分野専門科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学総合研究演習1 ◎ドイツ語圏言語文化学総合研究演習2	【研究指導科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学研究指導1 ◎ドイツ語圏言語文化学研究指導2	D P② ドイツ語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P② フランス語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② フランス語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① フランス語圏言語文化学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する。 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）																																																																																																																																																										
			【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A 【分野専門科目】 ◎フランス語圏言語文化学研究 ◎フランス語圏文学研究A ◎フランス語圏文学研究演習B ◎フランス語圏文化研究A ◎フランス語学 ◎フランス語学研究演習B ◎フランス語圏言語文化論A ◎フランス語圏言語文化論B ◎多文化研究 ◎地域社会文化学研究B	◎言語文化学研究B 【分野専門科目】 ◎フランス語圏言語文化学総合研究演習1 ◎フランス語圏言語文化学総合研究演習2	【研究指導科目】 ◎フランス語圏言語文化学研究指導1 ◎フランス語圏言語文化学研究指導2	D P② フランス語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語応用学の専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する。 大学院進学（博士後期課程）、 中学・高等学校教員（国語、外国語）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、 外資系企業（商社、メーカー等）																																																																																																																																																											
フランス語圏言語文化学専修	・フランス語圏言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・フランス語圏言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・フランス語圏言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①フランス語の言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身に付けさせる。そのために言語文化学専攻共通科目とフランス語圏言語文化学の分野専門科目を配置する。 D P① C P②フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P② C P③鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③	【専攻共通科目】 ◎言語文化学研究A 【分野専門科目】 ◎フランス語圏言語文化学研究 ◎フランス語圏文学研究A ◎フランス語圏文学研究演習B ◎フランス語圏文化研究A ◎フランス語学 ◎フランス語学研究演習B ◎フランス語圏言語文化論A ◎フランス語圏言語文化論B ◎多文化研究 ◎地域社会文化学研究B	◎言語文化学研究B 【分野専門科目】 ◎フランス語圏言語文化学総合研究演習1 ◎フランス語圏言語文化学総合研究演習2	【研究指導科目】 ◎フランス語圏言語文化学研究指導1 ◎フランス語圏言語文化学研究指導2	D P② フランス語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P③	D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得している。 C P①	D P② 諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21世紀にふさわしい人材としての能力を習得している。 C P②	D P③ 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者や専門職業人など、国際

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会において、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を、言語を通じて根源的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。

グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生とがともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。

このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。

①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者。

②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者

とくに言語文化学専攻では、言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とする。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現する。さらに西洋古典学、エリスタディーズなどの分野を含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程			ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目			3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力、広い知識と教養をもった専門職業人としての能力を発揮して社会に貢献する。
		1年次	2年次	3年次		
国語国文学専修	・国語国文学に関する基礎的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・国語国文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・国語国文学の研究を通じて生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身につけさせる。また、日本語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21 世紀にふさわしい研究力を身につけさせる。それらのために、国語国文学の分野A専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎国語国文学特殊研究A ◎国語国文学特殊研究B		D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得させる。日本語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21 世紀にふさわしい研究者	国語国文学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング
		C P②国語国文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎国語国文学論文指導	【論文指導科目】 ◎国語国文学論文指導	D P② 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P②	
		C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身につけさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正B		D P③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③	
中国語中国文学専修	・中国語中国文学に関する基礎的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・中国語中国文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・中国語中国文学の研究を通じて生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身につけさせる。また、中国語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21 世紀にふさわしい研究力を身につけさせる。それらのために、中国語中国文学の分野専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎中国語中国文学特殊研究A ◎中国語中国文学特殊研究B		D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得させる。中国語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21 世紀にふさわしい研究者とし	中国語中国文学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング
		C P②中国語中国文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎中国語中国文学論文指導	【論文指導科目】 ◎中国語中国文学論文指導	D P② 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P②	
		C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身につけさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正B		D P③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③	
英語英米文学専修	・英語英米文学に関する基礎的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・英語英米文学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・英語英米文学の研究を通じて生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する研究力を身につけさせる。また、英語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21 世紀にふさわしい研究力を身につけさせる。それらのために、国語国文学の分野専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎英語英米文学特殊研究A ◎英語英米文学特殊研究B		D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明する能力を習得させる。英語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバル化という21 世紀にふさわしい研究者と	英語英米文学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング
		C P②英語英米文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎英語英米文学論文指導	【論文指導科目】 ◎英語英米文学論文指導	D P② 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P②	
		C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身につけさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正B		D P③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③	

【設置の趣旨】

予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあって、自分のよさや可能性を認識すること、そして、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるためには、人類の歴史的営為の所産である文化を、言語を通じて根拠的に解明することが極めて重要であり、そのニーズに応えるのが言語文化学専攻である。

グローバルな社会であるからこそ、日本に育った学生と異文化で育った学生あふれともに、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語圏言語文化学、フランス語圏言語文化学、言語応用学、それぞれの言語、文学、文化および社会という視点から学問的な追究を行うことにより、多様性を尊重し、持続可能な社会を志向し、新たな価値を創造することを可能とする研究者の養成が強く求められている。

このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成する。

①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者、

②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者

③国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者

とくに言語文化学専攻では、言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明することを目的とする。従来の言語単位の専門分野と、言語応用学という言語横断的分野とを合わせ、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実施する。さらに西洋古典学、エリASTADIYANSなどの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人に関わらず国際社会において活躍し得る人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程			ディプロマ・ポリシー	修了後の進路	
以下の学生を求める。	共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	1年次	2年次	3年次	3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力、やい知識と教養をもった専門職業人としての能力を発揮して社会に貢献する。
ドイツ語圏言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ドイツ語圏言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ドイツ語圏言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する研究力を身に付けさせる。また、ドイツ語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバルバージョンという21 世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、ドイツ語圏言語文化学の分野専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学特異研究A ◎ドイツ語圏言語文化学特異研究B			D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する能力を習得させる。ドイツ語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバルバージョンという21 世紀にふさわしい研究	ドイツ語圏言語文化学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング	
	C P②ドイツ語圏言語文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎ドイツ語圏言語文化学論文指導	D P② 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P②	大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング	
	C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正B			D P③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③		
フランス語圏言語文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 フランス語圏言語文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 フランス語圏言語文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する研究力を身に付けさせる。また、フランス語を中心とした各言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバルバージョンという21 世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、フランス語圏言語文化学の分野専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎フランス語圏言語文化学特異研究A ◎フランス語圏言語文化学特異研究B			D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する能力を習得させる。フランス語を中心とした言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバルバージョンという21 世紀にふさわしい研究者	フランス語圏言語文化学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング	
	C P②フランス語圏言語文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎フランス語圏言語文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎フランス語圏言語文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎フランス語圏言語文化学論文指導	D P② 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P②	大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング	
	C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正B			D P③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③		
言語応用学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 言語応用学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 言語応用学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する研究力を身に付けさせる。また、諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバルバージョンという21 世紀にふさわしい研究力を身に付けさせる。それらのために、言語応用学の分野専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎言語応用学特異研究A ◎言語応用学特異研究B			D P① 言語にかかわる文化現象の諸領域、すなわち、言語学、文学、文化学およびその関連領域を、言語を通じて根拠的に解明する能力を習得させる。諸言語圏における古今を通じた諸現象を解明するのみならず、言語の隣接分野への応用という観点からも探究を深め、情報技術やグローバルバージョンという21 世紀にふさわしい研究者としての能力を習得している。	言語応用学の高度な専門的知見を基盤として、以下の分野で社会に貢献する 大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング	
	C P②国語国文学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎言語応用学論文指導	【論文指導科目】 ◎言語応用学論文指導	【論文指導科目】 ◎言語応用学論文指導	D P② 鋭い言語感覚と高度な言語運用能力を備えた研究者として国際社会において活躍し得る人材に必要な能力を習得している。 C P②	大学教員、 人文関係学術的研究開発事業所、 中学・高等学校教員（社会、地理歴史、公民）、 公務員（国家公務員、府県庁、市役所、地方裁判所等）、 学校事務（大学、教育委員会）、 コンサルティング	
	C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正B			D P③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③		

文学研究科 文化構想学専攻(博士前期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

文化構想専攻は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる研究者を養成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにたいして本専攻では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテンツに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実際についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテンツの表現そのものから社会的活用に至るまでの一連の過程について、教育、研究を進めていく。

文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための土台としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっているものであり、本専攻の教育、研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。

このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科では、予測不可能な時代、高度知識基盤社会、グローバル社会にあつて、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人づくりをめざす。その際、人文科学や行動科学の分野における研究者の養成を主軸としながらも、とくに博士前期課程では、地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人の養成や、生涯学習への意欲をもち、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を行うことのできる高度教育人の養成も視野に入れた人材養成を行う。

とくに文化構想学専攻では、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教 育 課 程		ディプロマ・ポリシー	修了後の進路
以下の学生を求める。	共通教育科目、専攻共通科目、分野専門科目、研究指導科目を置く	【凡例】 ※印：必修科目 ◎印：選択必修科目 ○印：自由選択科目	緑色：基礎科目 赤色：応用科目 青色：発展科目	2年以上在学し、別途定める31単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。	研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる能力を発揮して社会に貢献する。
		1年次	2年次		

表現文化学専修	・表現文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・表現文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・表現文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を行う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。そのために文化構想学専攻共通科目と表現文化学の分野専門科目を配置する。 D P①	【専攻共通科目】 ◎文化構想学研究 A (表現文化) ◎文化構想学研究 B (アジア文化) 【分野専門科目】 ◎テキスト文化論研究 ◎テキスト文化論研究演習 ◎表象文化構造論研究 ◎表象文化構造研究演習 ◎比較表現論研究 ◎比較表現論研究演習 ◎表現文化学特別講義 B ◎ポピュラー文化論研究 ◎ポピュラー文化論研究演習	D P① 表現文化学の探究をとおして、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する能力を習得している。 C P①	大学院進学（博士後期課程）、博物館・美術館学芸員、サービス業（人材派遣、観光業等）、広告代理店、コンサルティング、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）、製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
	C P②新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P②	【分野専門科目】 ◎表現文化学総合研究演習 1 ◎表現文化学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ◎表現文化学研究指導 1 ◎表現文化学研究指導 2	D P② 新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。 C P②	
	C P③研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 A		D P③ 研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる能力を習得している。 C P③	

アジア文化学専修	・アジア文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・アジア文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・アジア文化学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を行う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。そのために文化構想学専攻共通科目とアジア文化学の分野専門科目を配置する。 D P①	【専攻共通科目】 ◎文化構想学研究 B (アジア文化) ◎文化構想学研究 C (文化資源) 【分野専門科目】 ◎アジア文化構想学研究 ◎アジア地域文化創造論研究 ◎アジア地域文化創造論研究演習 ◎アジア共生文化政策論研究 ◎アジア共生文化政策論研究演習 ◎ポピュラー文化論研究 ◎国際文化資源論研究 ◎アジア文化学特別講義 A ◎アジア文化学特別講義 B	D P① アジア文化学の探究をとおして、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する能力を習得している。 C P①	大学院進学（博士後期課程）、博物館・美術館学芸員、サービス業（人材派遣、観光業等）、広告代理店、コンサルティング、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）、製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
	C P②新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P②	【分野専門科目】 ◎アジア文化学総合研究演習 1 ◎アジア文化学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ◎アジア文化学研究指導 1 ◎アジア文化学研究指導 2	D P② 新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。 C P②	
	C P③研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 A		D P③ 研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる能力を習得している。 C P③	

文化資源学専修	・文化資源学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独自の研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・文化資源学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・文化資源学の研究を通じた生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を行う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。そのために文化構想学専攻共通科目と文化資源学の分野専門科目を配置する。 D P①	【専攻共通科目】 ◎文化構想学研究 A (表現文化) ◎文化構想学研究 C (文化資源) 【分野専門科目】 ◎国際文化資源論研究 ◎国際文化資源論研究演習 ◎芸術文化資源論研究 ◎芸術文化資源論研究演習 ◎文化資源学特別講義 A ◎社会実践文化資源論研究 ◎社会実践文化資源論研究演習 ◎文化資源学特別講義 B	D P① 文化資源学の探究をとおして、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する能力を習得している。 C P①	大学院進学（博士後期課程）、博物館・美術館学芸員、サービス業（人材派遣、観光業等）、広告代理店、コンサルティング、情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、卸売業・小売業（百貨店、自動車販売、雑貨販売等）、製造業（電気電子、自動車、製紙、繊維、金属、事務用品等）公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
	C P②新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。そのために分野専門科目の総合研究演習科目および研究指導科目を配置する。 D P②	【分野専門科目】 ◎文化資源学総合研究演習 1 ◎文化資源学総合研究演習 2	【研究指導科目】 ◎文化資源学研究指導 1 ◎文化資源学研究指導 2	D P② 新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。 C P②	
	C P③研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材になるための研究力を身に付けさせる。そのために文学研究科共通科目および全学の大学院共通教育科目を配置する。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 A ○大学院キャリアデザイン演習		D P③ 研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる能力を習得している。 C P③	

文学研究科 文化構想学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ

【設置の趣旨】

文化構想専攻は、文化を積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高め、文化をもって21世紀型成熟社会における諸課題の解決をはかることのできる研究者を養成する。従来の文化研究においては、文化はあくまでも研究対象であり、それを活用するという視点は必ずしも重視されてこなかった。それにはたいして本専攻では、さまざまな場で活用される文化や文化的コンテクストに関する研究、日本を含めたアジア地域における文化活用の実践についての比較研究、実践的・課題解決的な文化活用の方策についての研究等の観点から、文化や文化的コンテクストの表現そのものから社会的活用いたるまでの一連の過程について、教育・研究を進めていく。文化の社会的活用について修得した専門人材は、従来の人文系諸分野においては今後の必要性に比して必ずしも十分に輩出されてきたとは言いがたい。ビジネスの素材や集客のための訴求力として、対外的なソフトパワーとして、共生的社会実現のための主軸としてなど、文化が活用される場は多岐にわたる。これらはいずれも現代社会における重要な課題となっており、本専攻の教育・研究は、現代社会の課題解決にも大きく寄与するものである。このような理由から本専攻を設置する。

【養成する人材像】

文学研究科の博士後期課程においては、次のような人材を養成 する。
①人文科学・行動科学の最先端の研究課題に探究する高度な研究能力を備えた研究者、
②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者
とくに文化構想学専攻では、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想することを目的とする。新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得させる。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー

以下の学生を求める。

カリキュラム・ポリシー

共通教育科目、分野専門科目、論文指導科目を置く

教 育 課 程

【凡例】
※印：必修科目
◎印：選択必修科目

1年次

2年次

3年次

ディプロマ・ポリシー

3年以上在学し、別途定める16単位以上を修得するとともに、学位論文の審査および試験に合格しなければならない。

修了後の進路

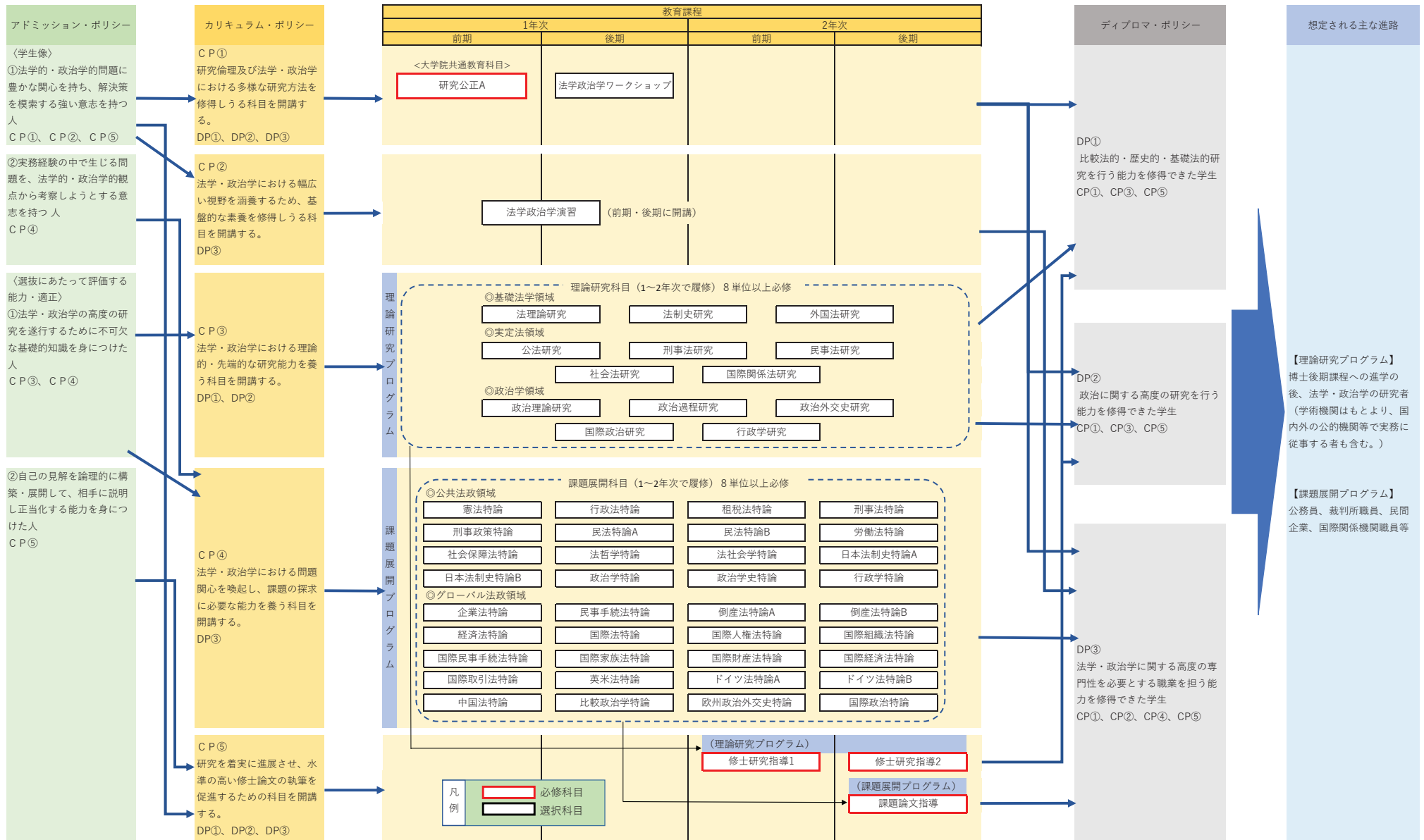
文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる研究者として、専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者として社会に貢献する。

表現文化学専修	・表現文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・表現文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・表現文化学の研究を通じた生涯学習への意欲を持ち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。また、新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。それらのために、表現文化学の分野専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎表現文化学特殊研究 A (表現文化学研究動向) ◎表現文化学特殊研究 B (表現文化学研究と社会)			DP① 表現文化学の探究をとおして、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用すること で文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する。新 たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知 見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。 C P①	大学教員、 博物館・美術館学芸員、 人文関係学術的研究開発事業所、サービス業（人材派遣、観光業等）、 コンサルティング、 広告代理店、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、
		C P②表現文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎表現文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎表現文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎表現文化学論文指導	DP② 文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる研究者としての能力を習得している。 C P②	公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
		C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 B			DP③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③	
アジア文化学専修	・アジア文化学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・アジア文化学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・アジア文化学の研究を通じた生涯学習への意欲を持ち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。また、新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。それらのために、アジア文化学の分野専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎アジア文化学特殊研究 A (アジア文化学研究動向) ◎アジア文化学特殊研究 B (アジア文化学研究と社会)			DP① アジア文化学の探究をとおして、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用すること で文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する。新 たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知 見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。 C P①	大学教員、 博物館・美術館学芸員、 人文関係学術的研究開発事業所、サービス業（人材派遣、観光業等）、 コンサルティング、 広告代理店、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、
		C P②アジア文化学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎アジア文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎アジア文化学論文指導	【論文指導科目】 ◎アジア文化学論文指導	DP② 文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる研究者としての能力を習得している。 C P②	公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
		C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 B			DP③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③	
文化資源学専修	・文化資源学に関する先端的知識と方法を身につける意欲を持ち、独創的研究を進めるための基礎的な資質を身につけた人。 ・文化資源学の研究を通して、地域の教育に貢献し、都市問題の解決に取り組む意欲と基礎的な資質を身につけた人。 ・文化資源学の研究を通じた生涯学習への意欲を持ち、人間、社会、文化、言語に関心と基礎的な理解を有し、国内外で様々な文化的活動を担う意欲と基礎的な資質を身につけた人。	C P①さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用することで文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する研究力を身に付けさせる。また、新たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる研究力を身に付けさせる。それらのために、文化資源学の分野専門科目を配置する。 D P①	【分野専門科目】 ◎文化資源学特殊研究 A (文化資源学研究動向) ◎文化資源学特殊研究 B (文化資源学研究と社会)			DP① 文化資源学の探究をとおして、さまざまな文化や文化的事象を、社会的実践の場において積極的に活用すること で文化のもつ力をさらに高めるとともに、現代社会が抱える諸課題の解決に資する文化を主導的に構想する。新 たな文化の創出、比較文化的・多文化共生的な認識、文化の応用的・実践的活用のそれぞれにたいする専門的知 見を併せ持ちながら、文化や文化的事象をさまざまな課題解決に活用することができる能力を習得している。 C P①	大学教員、 博物館・美術館学芸員、 人文関係学術的研究開発事業所、サービス業（人材派遣、観光業等）、 コンサルティング、 広告代理店、 情報通信業（マスコミ、システムエンジニアリング等）、
		C P②文化資源学の専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、自立した研究者としての能力を示すような博士論文を執筆できるように論文指導科目を配置する。 D P②	【論文指導科目】 ◎文化資源学論文指導	【論文指導科目】 ◎文化資源学論文指導	【論文指導科目】 ◎文化資源学論文指導	DP② 文化の活用を理論と実践の双方で牽引できる研究者としての能力を習得している。 C P②	公務員（国家公務員、府県庁、市役所、裁判所等）
		C P③専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人になるための研究力を身に付けさせる。そのために全学の大学院共通教育科目を配置し、研究公正科目1単位を必修とする。 D P③	【共通教育科目】 ※研究公正 B			DP③ 専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者としての能力を習得している。 C P③	

法学研究科 法学政治学専攻(博士前期課程) カリキュラム・マップ

【設置の趣旨・必要性】
 法学および政治学は、民主主義社会における基盤的な研究領域であるとともに、その中核を担う市民を育成するために不可欠な学問領域でもある。大阪公立大学においても、大学院法学研究科法学政治学専攻を設置し、わが国の豊かな法学・政治学研究の発展に寄与するとともに、民主主義社会の担い手である市民を数多く育成することが求められている。本専攻は、将来を担う優秀な法学・政治学の研究者を養成すること、および、実社会において、より高度かつ専門的な法学・政治学の知見を基礎とした合理的判断を地道に繰り返すことを通じ、課題解決の道を探ることのできる自立的な高度職業人を養成することを、その理念・目的とする。

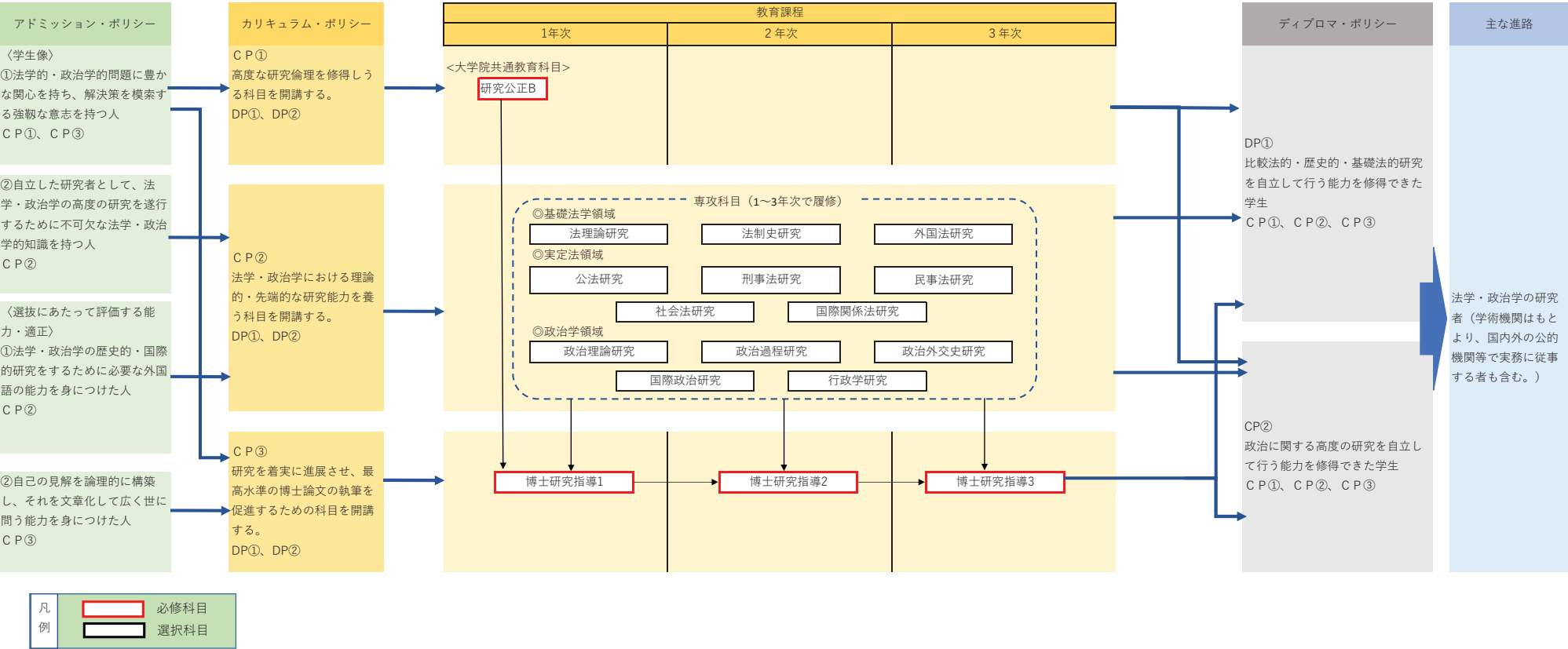
【養成する人材像】
 ・高度な水準で法学・政治学の研究を遂行するとともに、民主主義社会の中核を担う市民を育成する高い能力を有する研究者
 ・複雑化する日本社会・国際社会が抱える様々な問題に向き合い、より専門的な法学・政治学の知見を基礎とした合理的判断に基づき、粘り強く解決の道を探ることのできる自立的な高度職業人



法学研究科 法学政治学専攻(博士後期課程) カリキュラム・マップ

【設置の趣旨・必要性】
法学および政治学は、民主主義社会における基盤的な研究領域であるとともに、その中核を担う市民を育成するために不可欠な学問領域でもある。大阪公立大学においても、大学院法学研究科法学政治学専攻を設置し、わが国の豊かな法学・政治学研究の発展に寄与するとともに、民主主義社会の担い手である市民を数多く育成することが求められている。大阪公立大学大学院法学政治学専攻は、長年にわたり都市大阪における研究機関として貢献を続けてきた大阪市立大学大学院法学研究科の伝統を継承し、将来を担う優秀な法学・政治学の研究者を養成することを、その理念・目的とする。

【養成する人材像】
高度な水準で法学・政治学の研究を遂行するとともに、民主主義社会の中核を担う市民を育成する高い能力を有する研究者

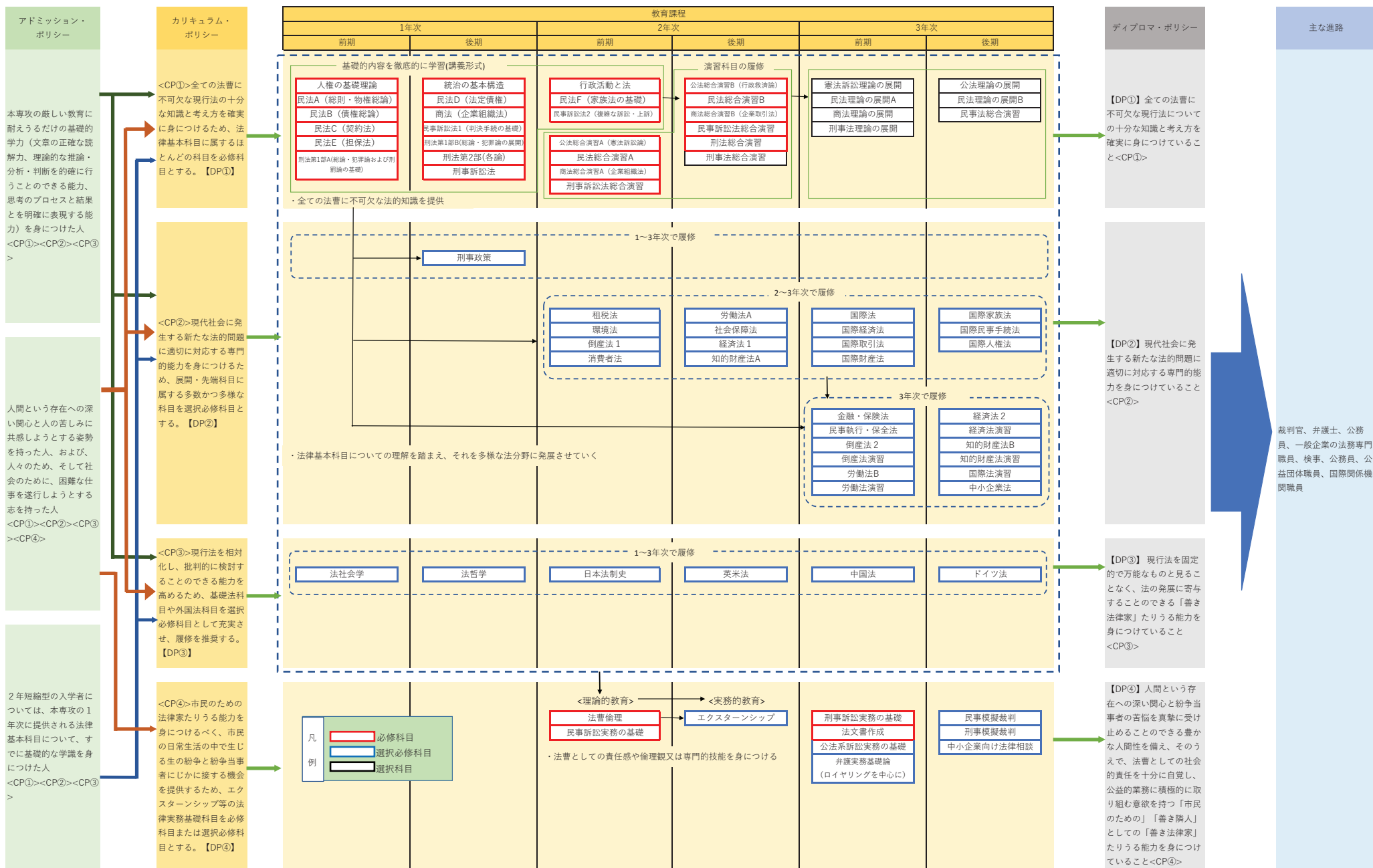


【設置の趣旨・必要性】

現代社会の縮図である都市には、一方にはグローバル化した社会経済体制のアクターとして活躍する市民が、他方には貧困問題に象徴される社会的底辺に置かれた市民が存在する。このような複雑な利益対立が生じる都市とそれを中軸として形成される現代社会においては、都市であるがゆえに発生する様々な法的問題に即応できる高度な法的能力を備えた、真のプロフェッションとしての法曹の養成が必要である。大阪公立大学大学院法学研究科法曹養成専攻は、大阪市内に設置される唯一の法科大学院として、真のプロフェッションとしての法曹、すなわち、新たな法的問題に果敢にチャレンジする精神、リーダーシップを発揮し法実務の発展を担う意欲、実定法の技術的な解釈に終始することなく現にある法を相対化し批判的に検討する能力、人間への深い関心と紛争当事者の苦悩を真摯に受け止める豊かな人間性、社会的責任の自覚と公益的業務に積極的に取り組む意欲を備えた法曹を養成することを、その理念・目的とする。

【養成する人材像】

- ①複雑化しつつ多面化する企業の法的ニーズに十全に応えるとともに、その企業活動が法の枠を超えることのないよう的確なアドバイスを提供することのできる法曹
- ②日本国憲法の人権擁護の精神を十分に内面化したうえで、市民の日常生活に深くかわかる法分野に精通し、なおかつ、社会的弱者への深い理解と共感をもって、頼りがいのある法的アドバイザーとして依頼者に接し、公益的活動に積極的に取り組む法曹
- ③経済および社会のグローバル化の進展に伴って多発している国際取引にかかわる紛争や外国人を当事者とする紛争に的確に対応することのできる法曹



経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程) カリキュラムマップ

【設置の趣旨：背景・必要性】

○経済のグローバル化のもと、さらなる発展の可能性がある一方で、金融危機など、いつ何らかのショックが世界経済にどう影響を与えるのか先行きは見通しづらい。同時に、先進国と途上国の格差、さらに、各国国内に所得不平等も拡大している。

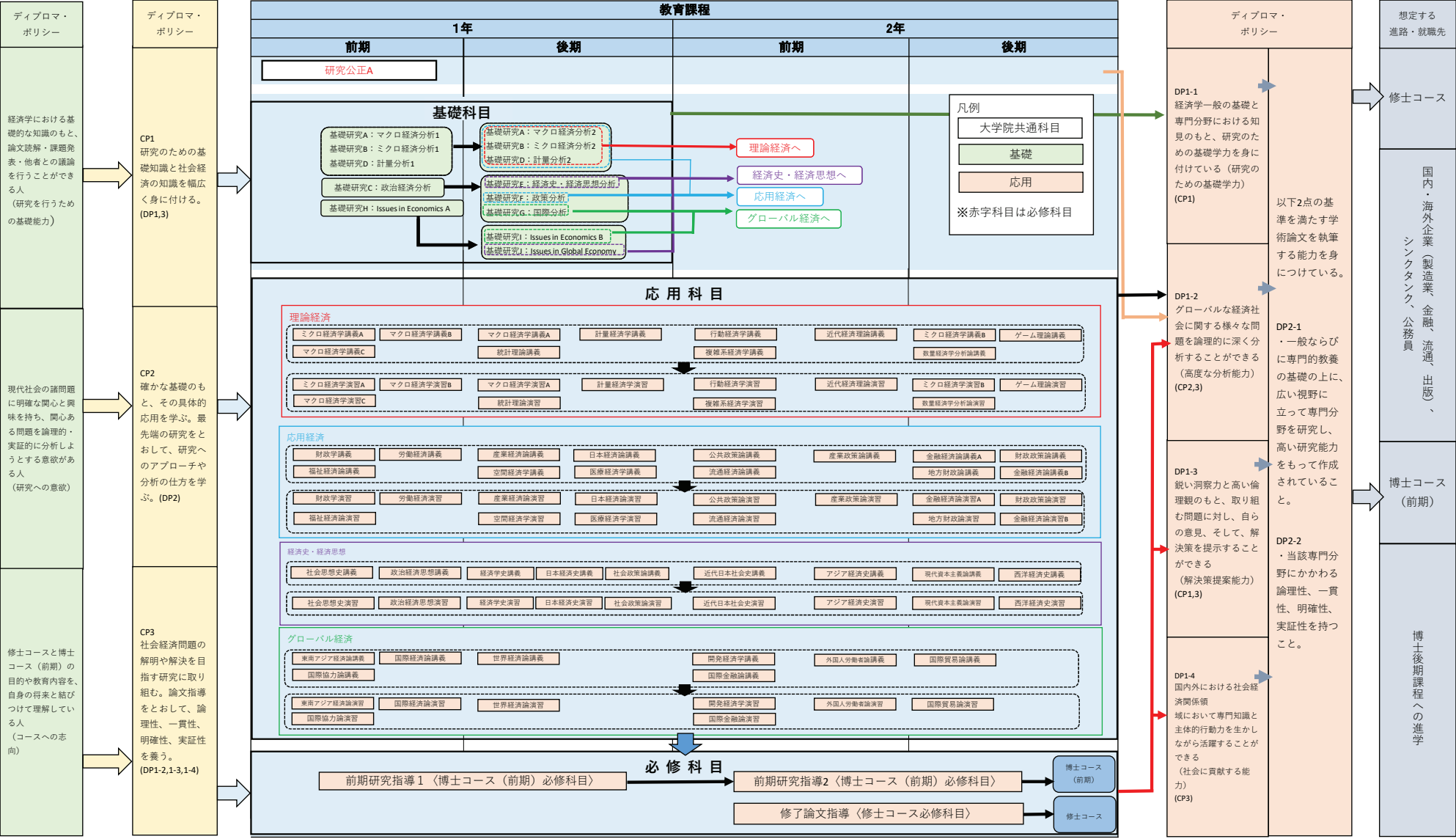
○人工知能の進歩を含む情報通信技術の発達、それら技術を活用する能力を人々に求める。また、COVID-19により、情報通信技術を利用した働き方の変化が求められている。

○「持続可能な成長」という既成の観念を超えて経済発展の仕方を再構築することが現在問われている。

上記の背景を受けて、経済学研究科に問われているのは、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を創造的に提案する能力を身に付けたエコノミストを社会に送り出すことであり、グローバルな経済社会に貢献しうる実践的・創造的能力を備えた高度な専門的職業人や研究者の養成が必要がある。また、海外の学生の受け入れ、研究・教育ともにグローバル化に対応していく必要がある。

【養成する人材像】

経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程) では、グローバルな経済社会に関する幅広い知見と高い倫理観を備え、社会の発展に貢献できるエコノミスト、ならびに国内外における経済関係領域において専門的知識と主体的行動力を生かしながら活躍することのできるエコノミストなど、国内外における経済関係領域において専門的知識と主体的行動力を生かしながら活躍することのできる人材を養成することを目的とする。



経済学研究科 経済学専攻(博士後期課程)カリキュラムマップ

【設置の趣旨：背景・必要性】

○経済のグローバル化の進展のもと、さらなる発展の可能性がある一方で、金融危機など、いつ何らかのショックが世界経済にどう影響を与えるのか先行きは見通しにくくなっている。同時に、先進国と途上国の格差、さらには、各国国内における所得不平等も拡大している。

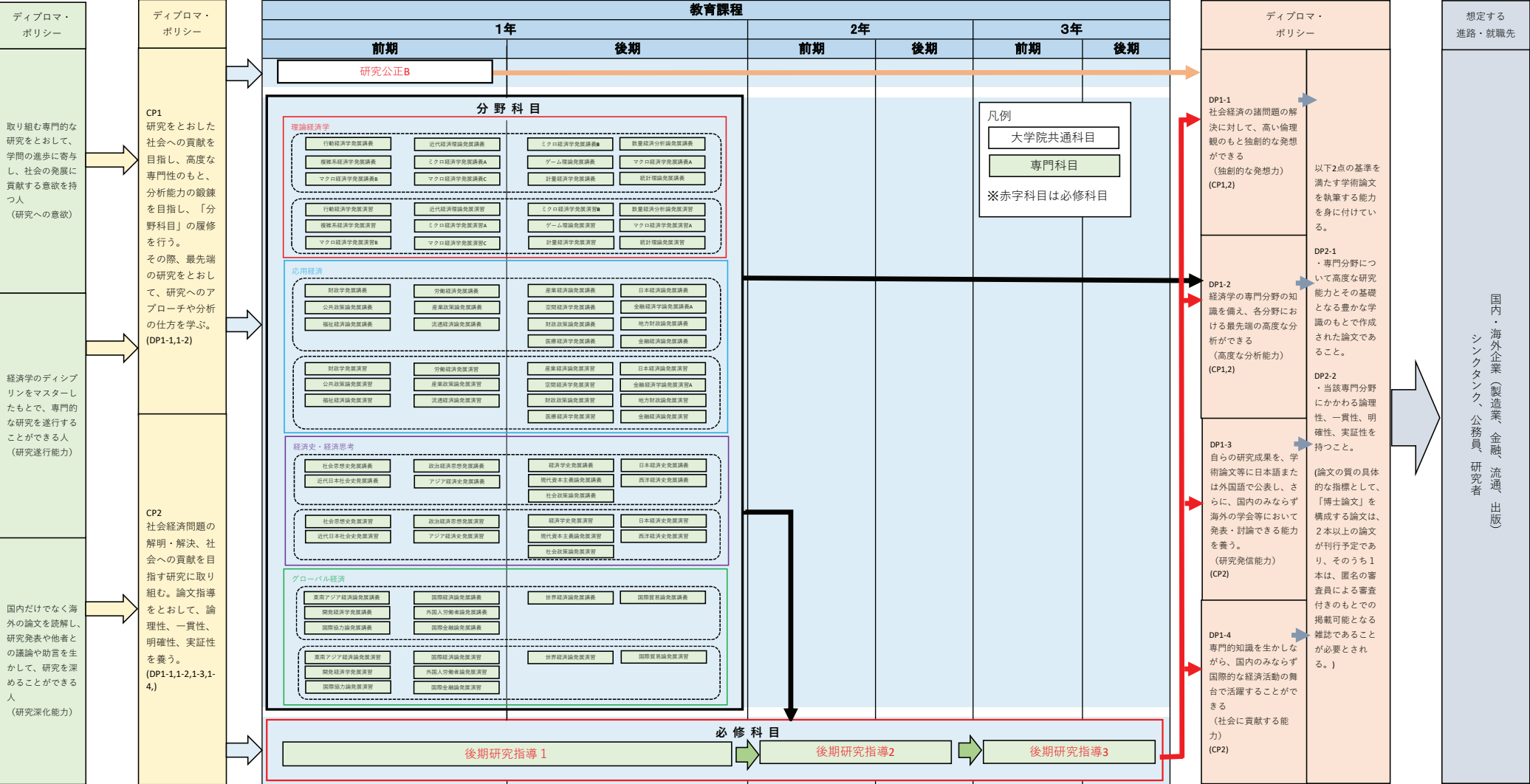
○人工知能の進歩を含む情報通信技術の発達は、それら技術を有効に活用する能力を人々に求める。また、COVID-19により、情報通信技術を利用した働き方の変化が求められている。

○以上のもと、「持続可能な成長」という既成の概念を超えて経済発展の仕方を再構築することが現在問われている。

上記の背景を受けて、経済学研究科に問われているのは、グローバルな社会と地域社会が直面する諸課題への解決策を創造的に提案する能力を身に付けたエコノミストを社会に送り出すことがであり、グローバルな経済社会に貢献しうる実践的・創造的能力を備えた高度な専門的職業人や研究者の養成が必要がある。また、海外の学生の受け入れ、研究・教育ともにグローバル化に対応していく必要がある。

【養成する人材像】

経済学研究科 経済学専攻(博士後期課程)では、高度な専門分野の知識を備え、各分野における最先端の高度かつ独創的な研究に必要な分析能力を持ち、問題に対して解決案を提案できるエコノミスト、ならびに専門的知識と豊富なキャリアを生かしながら国際的な経済活動の舞台で活躍することのできるエコノミストなど、専門的知識と豊富なキャリアを生かしながら国際的な経済活動の舞台で活躍することのできる人材を養成することを目的とする。



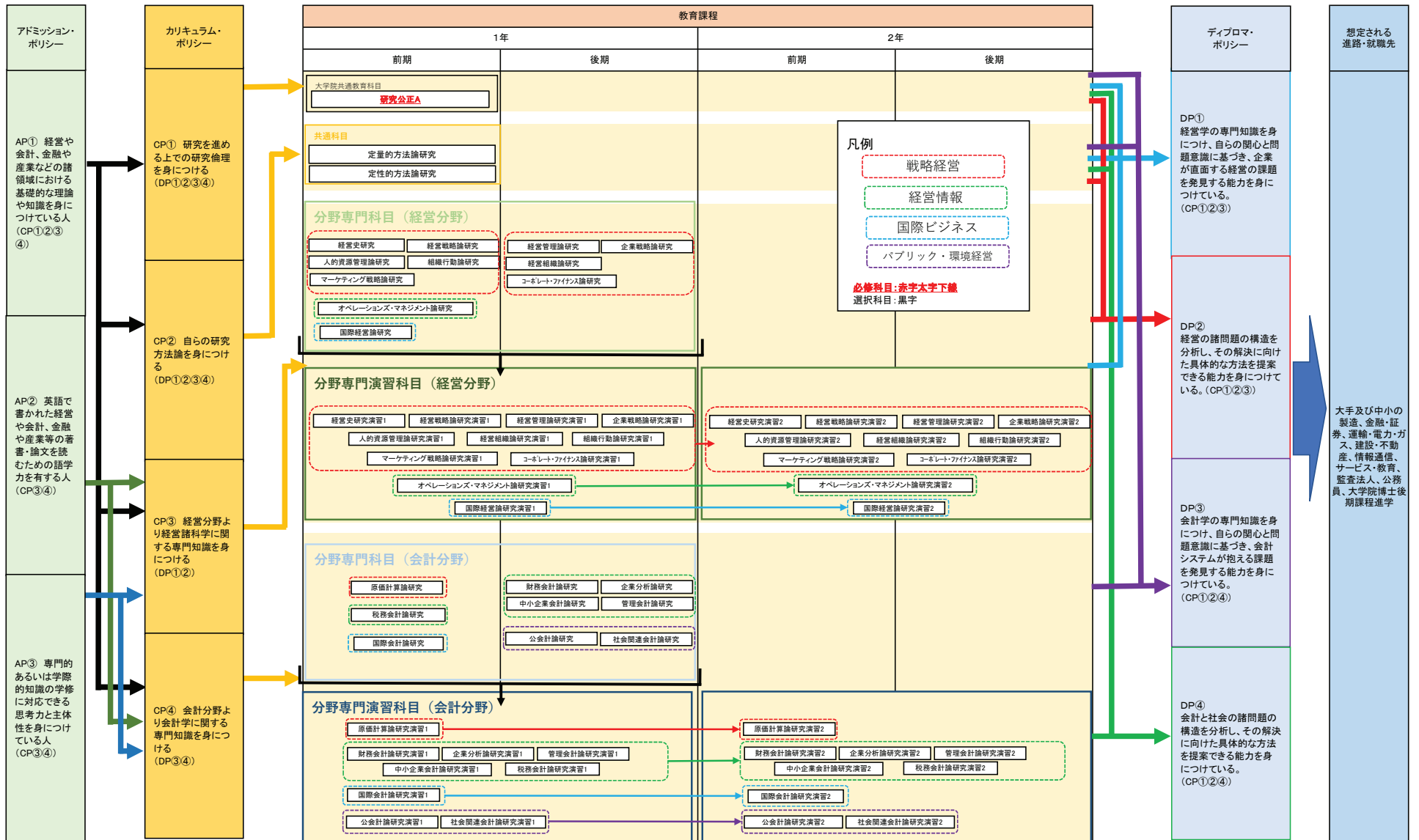
経営学研究科 グローバルビジネス専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（修士：経営学）

【設置の趣旨・必要性】

○大阪市立大学大学院経営学研究科は、1953（昭和28）年に研究者養成を目的として創設され、わが国を先導する数多くの研究者を輩出してきた。
○経営学・商学・会計学の分野において、良質な研究者を養成する目的は変わることなく継続しながらも、ビジネスに関する専門知識と課題解決能力を有する高度職業人が求められる社会ニーズに対応する形で、大学院教育の目的も徐々に多様化している。
○大阪府立大学大学院経済学研究科は1959（昭和34）年に開設され、2005（平成17）年に経営学専攻、2013（平成25）年に観光・地域創造専攻が新設され、学術の発展に寄与できる研究者並びに専門分野で活躍できる多くの人材を育成・輩出してきた。
○経営諸科学及び会計学に関する専門知識を有し、将来の研究者を目指す意思と忍耐力、研究能力を有する人材を養成する。
○一般企業のみならず、公的機関や非営利組織において身につけた専門知識を活かし、能力を発揮し活躍できる人材を養成する。

【養成する人材像】

○経営諸科学および会計学に関する専門知識を有し、将来の研究者を目指す意思と忍耐力、研究能力を有する人材を養成する。
○金融・流通および地域企業・都市発展に関する専門知識を有し、将来の研究者を目指す意思と忍耐力、研究能力を有する人材を養成する。
○現代のビジネスとビジネス社会における諸課題を自ら発見する課題発見能力、それらの解決に向けた政策提言能力、変革マインドを兼ね備えた高度職業人を養成する。
○一般企業のみならず、公的機関や非営利組織において身につけた専門知識を活かし、能力を発揮し活躍できる人材を養成する。



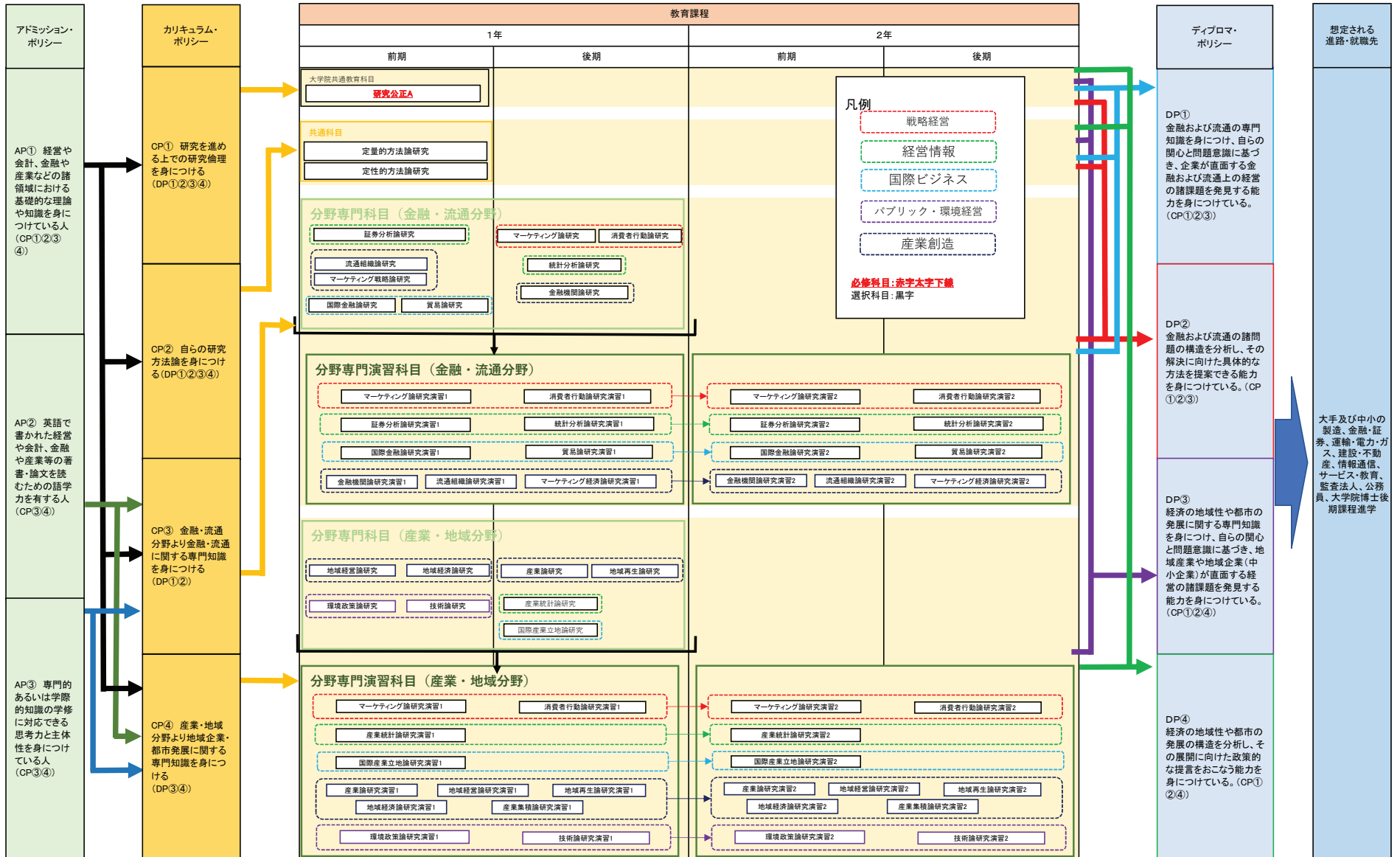
経営学研究科 グローバルビジネス専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（修士：商学）

【設置の趣旨・必要性】

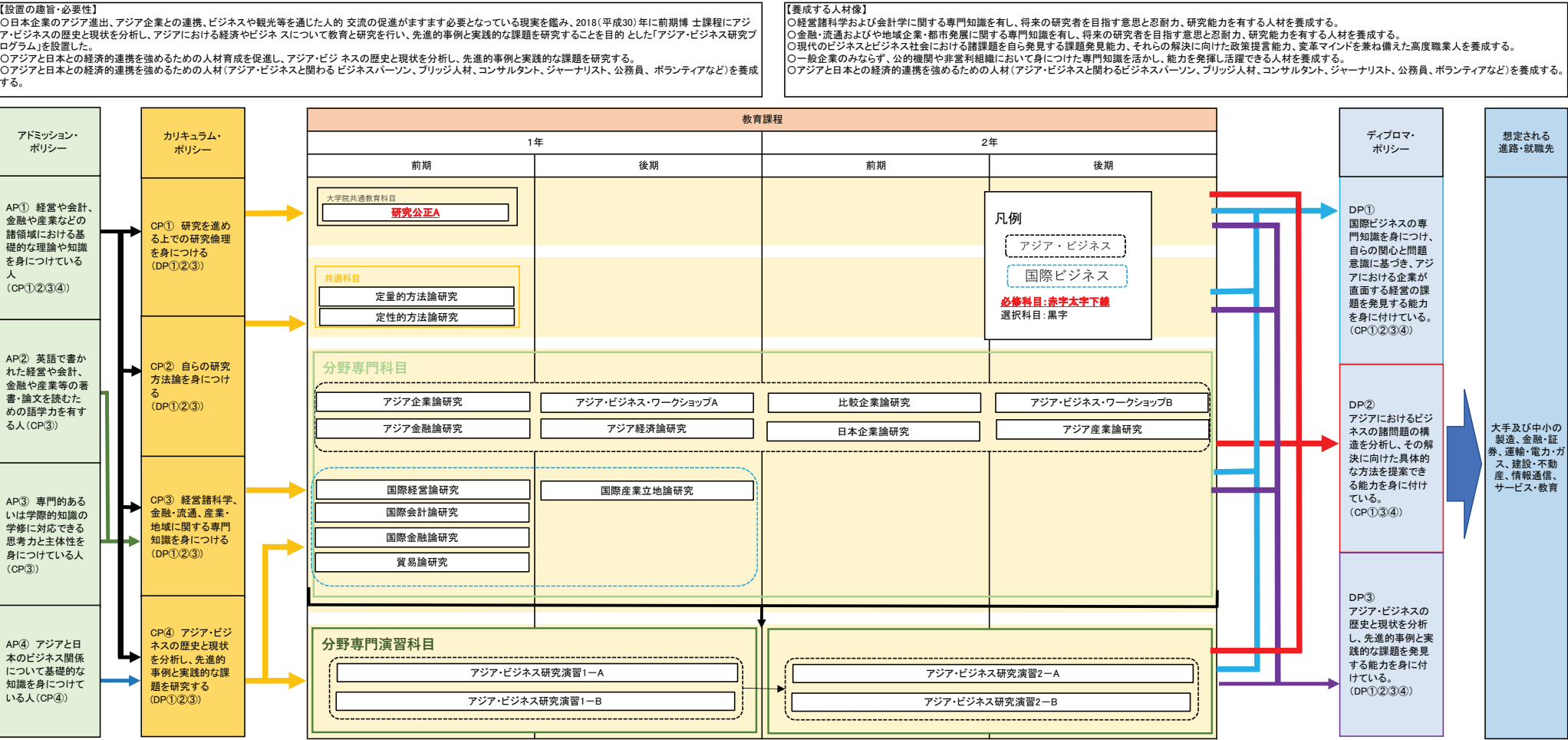
○大阪市立大学大学院経営学研究科は、1953（昭和28）年に研究者養成を目的として創設され、わが国を先導する数多くの研究者を輩出してきた。
○経営学・商学・会計学の分野において、良質な研究者を養成する目的は変わる ことなく継続しながらも、ビジネスに関する専門知識と課題解決能力を有する高 度職業人が求められる社会ニーズに対応する形で、大学院教育の目的も徐々に多 様化している。
○大阪府立大学大学院経済学研究科は1959（昭和34）年に開設され、2005（平成 17）年に経営学専攻、2013（平成25）年に観光・地域創造専攻が新設され、学術 の発展に寄与できる研究者並びに専門分野で活躍できる多くの人材を育成・輩出してきた。
○金融・流通及び地域企業・都市発展に関する専門知識を有し、将来の研究者を目指す意思と忍耐力、研究能力を有する人材を養成する。
○一般企業のみならず、公的機関や非営利組織において身につけた専門知識を活かし、能力を発揮し活躍できる人材を養成する。

【養成する人材像】

○経営諸科学および会計学に関する専門知識を有し、将来の研究者を目指す意思と忍耐力、研究能力を有する人材を養成する。
○金融・流通および地域企業・都市発展に関する専門知識を有し、将来の研究者を目指す意思と忍耐力、研究能力を有する人材を養成する。
○現代のビジネスとビジネス社会における諸課題を自ら発見する課題発見能力、それらの解決に向けた政策提言能力、変革マインドを兼ね備えた高度職業人を養成する。
○一般企業のみならず、公的機関や非営利組織において身につけた専門知識を活かし、能力を発揮し活躍できる人材を養成する。



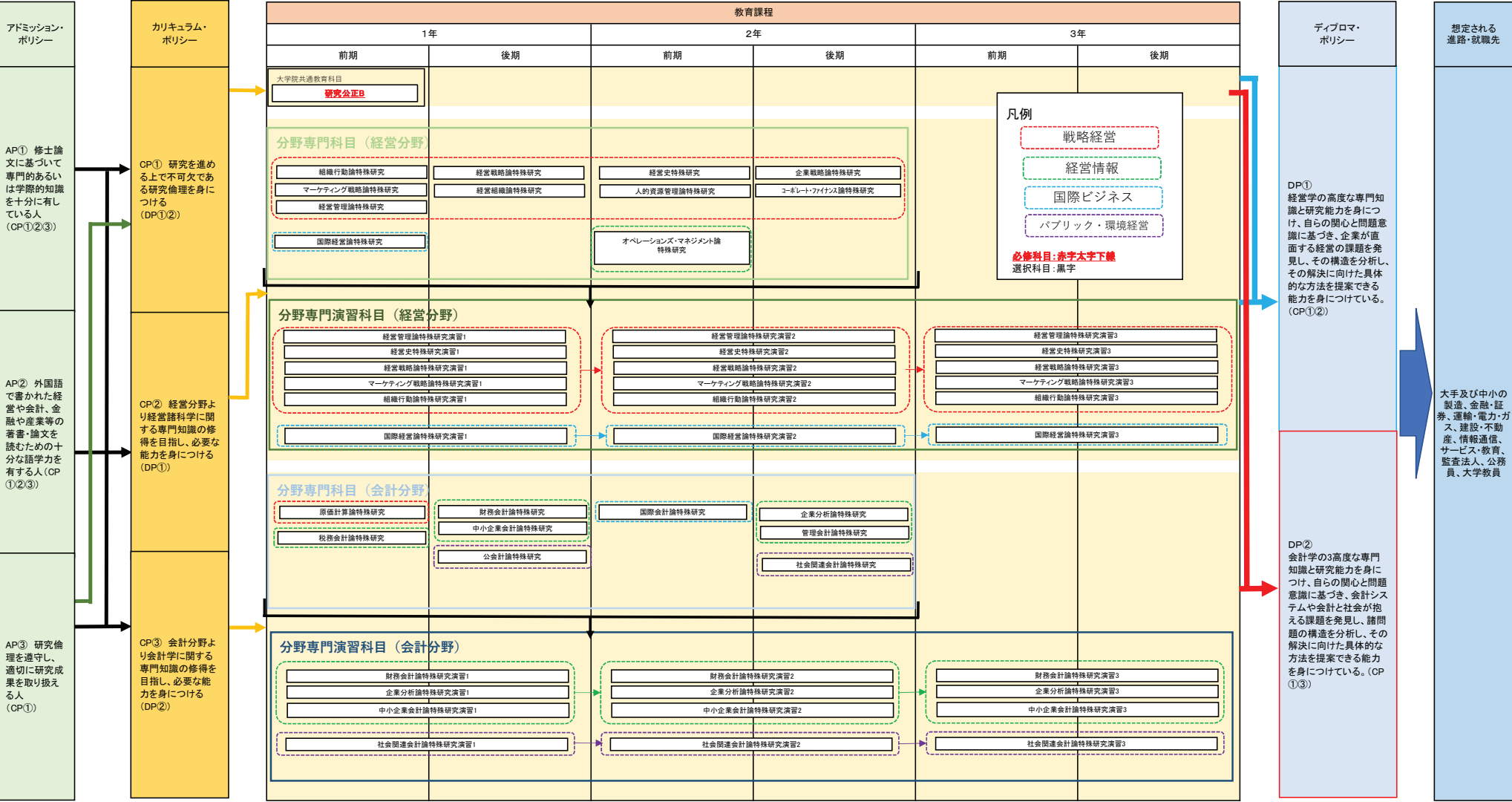
経営学研究科 グローバルビジネス専攻 カリキュラムマップ（修士：グローバルビジネス）



経営学研究科 グローバルビジネス専攻 カリキュラムマップ (博士:経営学)

【設置の趣旨・必要性】
○大阪市立大学大学院経営学研究科は、1953(昭和28)年に研究者養成を目的として創設され、わが国を先導する数多くの研究者を輩出してきた。
○博士前期課程で学んだ成果を基礎として展開し、研究をより深化・体系化することによって博士論文を作成することを最大の目的としている。博士論文を書き上げる過程で、われわれが目指す研究能力を有する研究者ならびに「ジェネラル・スペシャリスト」を養成することが可能となる。
○経営諸科学及び会計学に関する高度な専門知識と研究能力を有し、さらに教育に対する高い関心を有する自立した研究者を養成する。

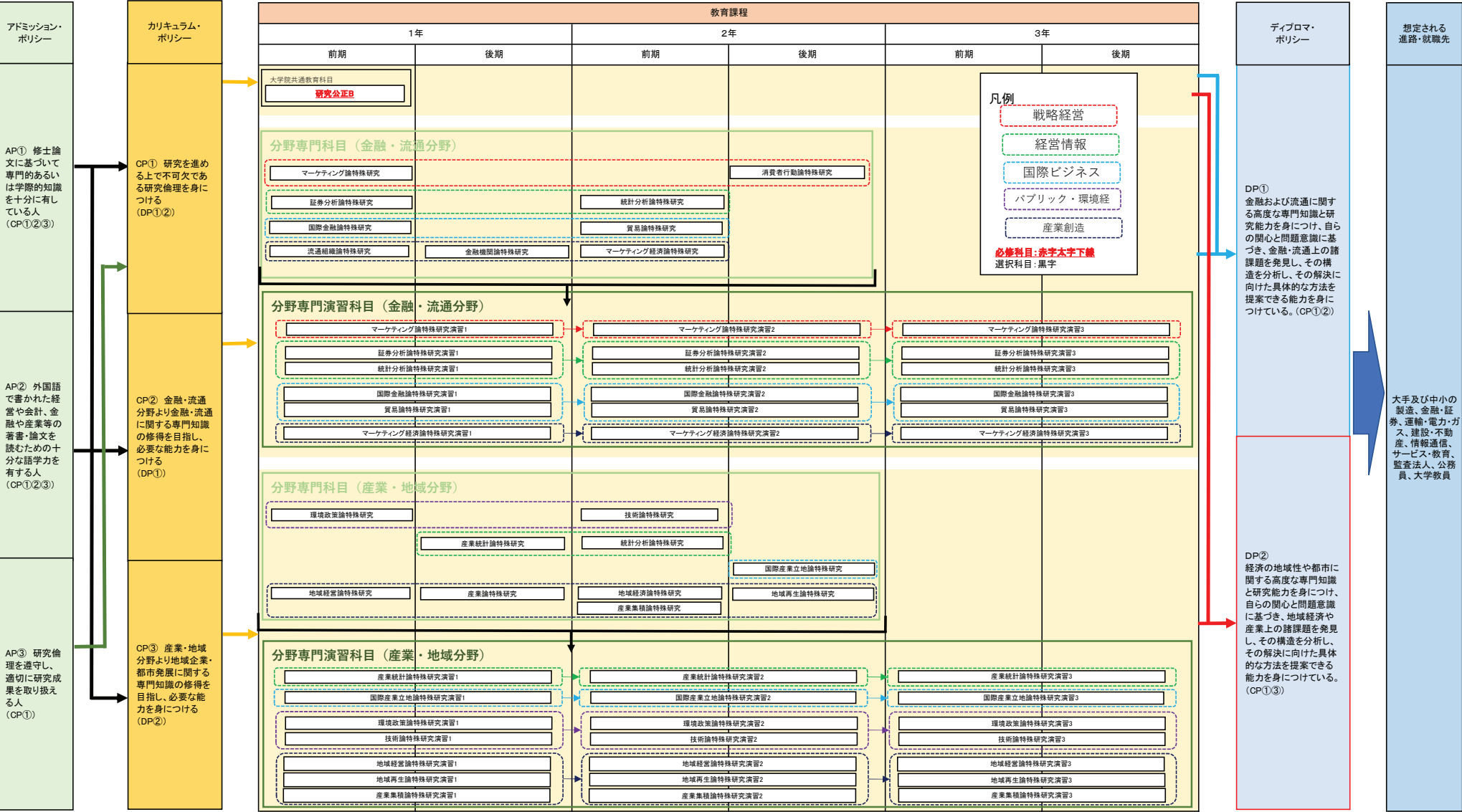
【養成する人材像】
○経営諸科学および会計学に関する高度な専門知識と研究能力を有し、さらに教育に対する高い関心を有する自立した研究者を養成する。
○金融・流通および地域企業・都市発展に関する高度な専門知識と研究能力を有し、さらに教育に対する高い関心を有する自立した研究者を養成する。
○一般企業のみならず、公的機関や非営利組織において、自らの課題発見能力、それらの解決に向けた政策提言能力を有し、変革マインドを十分兼ね備えた高度職業人を養成する。



経営学研究科（博士後期課程）カリキュラムマップ（博士：商学）

【設置の趣旨・必要性】
○大阪市立大学大学院経営学研究科は、1953（昭和28）年に研究者養成を目的として創設され、わが国を先導する数多くの研究者を輩出してきた。
○博士前期課程で学んだ成果を基礎として展開し、研究をより深化・体系化することによって博士論文を作成することを最大の目的としている。博士論文を書き上げる過程で、われわれが目指す研究能力を有する研究者ならびに「ジェネラル・スペシャリスト」を養成することが可能となる。
○金融・流通及び地域企業・都市発展に関する高度な専門知識と研究能力を有し、さらに教育に対する高い関心を有する自立した研究者を養成する。

【養成する人材像】
○経営諸科学および会計学に関する高度な専門知識と研究能力を有し、さらに教育に対する高い関心を有する自立した研究者を養成する。
○金融・流通および地域企業・都市発展に関する高度な専門知識と研究能力を有し、さらに教育に対する高い関心を有する自立した研究者を養成する。
○一般企業のみならず、公的機関や非営利組織において、自らの課題発見能力、それらの解決に向けた政策提言能力を有し、変革マインドを十分兼ね備えた高度職業人を養成する。



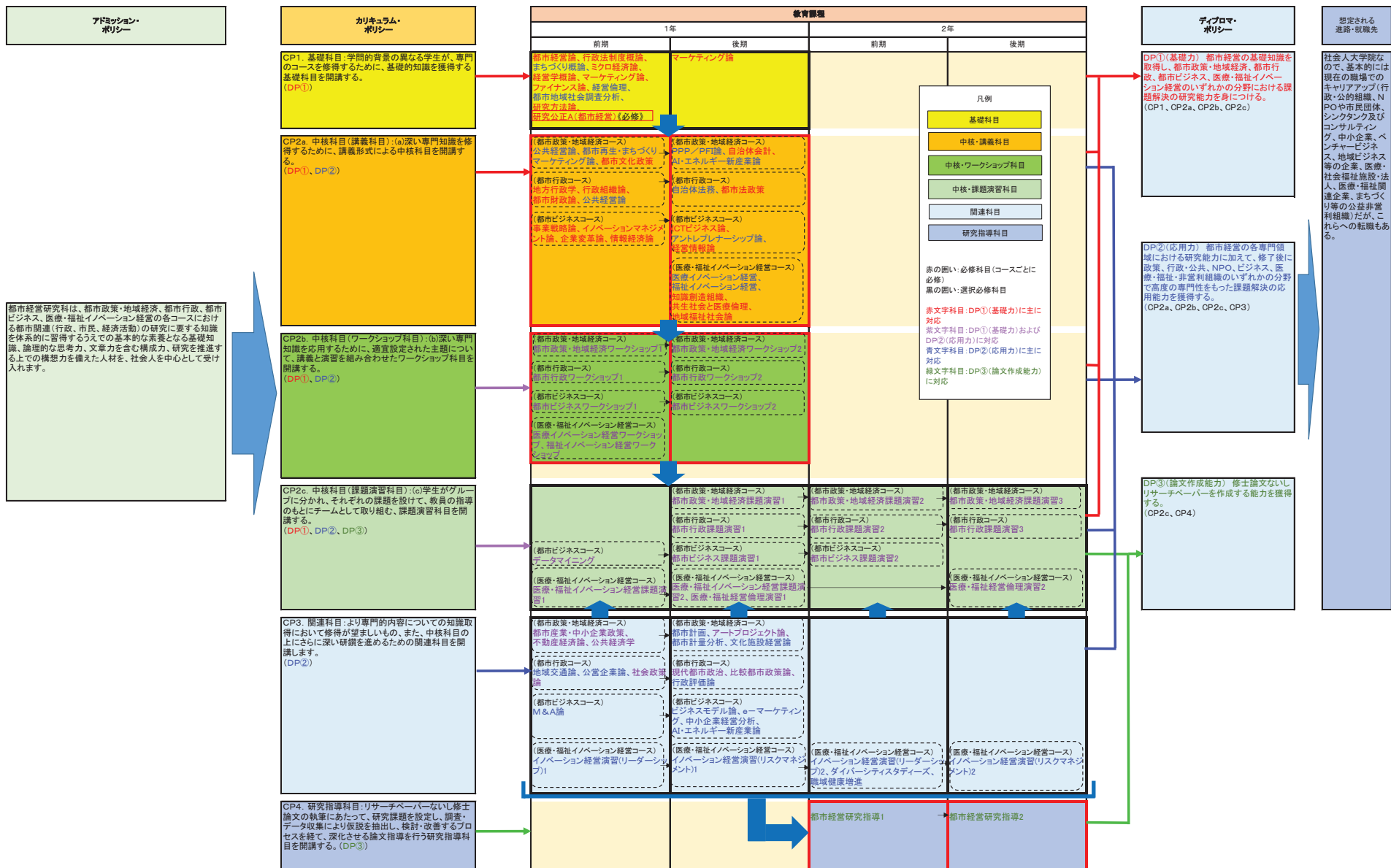
都市経営研究科 都市経営専攻(博士前期課程)カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

都市経営上の諸課題(人口減少・高齢化と経済産業空洞化に対応できるイノベーションとサステナビリティを備えた都市経営の必要性)は、決して短期的ないわゆるブームではなく、21世紀を通じて長期的に問題となる世界的、社会経済史的な構造転換を反映しており、新たな学問体系を創造し、長期的に教育研究する重要性をもつが、これらの都市経営上の新しくかつ重要な諸課題に関する科目やテーマを中心にすえた教育研究機関は少ない。
したがって、現場の課題解決に当たる高度な企画立案責任者とともに生の課題を整理し、これらの新たなテーマを考究し、そのようにして得られた新たな知の体系化をおこなって、さらに高度な企画立案責任者を養成できる社会人大学院である「知」の拠点の整備が必要不可欠になっているものと考え。
そこで、都市経営の基礎となる都市・地域の政策/地域経済分析やまちづくり、地方自治体の行政やNPO等の公共に関わるガバナンス、都市を活性化する中小企業やベンチャーの企業経営革新やOT化、医療・福祉の経営革新等の都市経営の諸課題について、都市政策・地域経済、都市行政、都市ビジネス、医療・福祉イノベーション経営等のテーマを履修コースとして設け、基礎科目、中核科目、関連科目等の履修を通じたコースワークによって系統的知識を習得し、ワークショップや演習により課題解決へのアプローチを深め、関連する科目の履修を通じて、より広い視野から都市を捉える能力を獲得する。課題解決型の高度専門職業人の育成課程として、2018年に大阪市立大学において都市経営研究科修士課程を設け、2020年に博士前期課程に課程変更したところであるが、このたび、それを継承し博士前期課程を設ける。

【養成する人材像】

都市経営研究科 都市経営専攻(博士前期課程)では、都市経営の基礎知識を取得し、都市政策・地域経済、都市行政、都市ビジネス、医療・福祉イノベーション経営のいずれかの専門分野における課題解決に向けた研究能力を身に付け、政策・行政・公共、NPO、ビジネス、医療・福祉・非営利組織のいずれかの分野で高度の専門性をもった課題解決の応用能力を有し、政策・行政・公共、NPO、ビジネス、医療・福祉・非営利組織などの分野で各セクターのサステナビリティを向上させるイノベーションを推進し得る人材を養成することを目的とする。



都市経営研究科 都市経営専攻(博士後期課程)カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】
高度な企画立案者の行う課題解決は、地域政策、地域ビジネス等の分野では、実務に関わりながら、体系的、抽象的な内容を含み、学術研究の色彩を帯びている。社会人大学院の博士前期課程を修了した者のうち、より進んで、自力で、未知の資料や調査データから、新しい知見の発見や開拓にとり組み、さらに自分なりのモデルを構築し、体系化、理論家を図ろうとする者が多数でできている。そのようにして得られた新たな知の体系化を自らの力でおこないつつ、より高度な実務的研究者を養成する博士後期課程の必要は高い。
一方、大学側の状況として、実際に、社会人大学院で教授する政策、行政、ビジネス、医療・福祉にかかわる分野の内容も実務の理論化に近づいており、また本学で実務型教員が教授する内容も増加しており、実務家が博士学位をとり、大学等研究機関で教鞭をとる機会も増大している。
これらのことから、博士前期課程を修了した上で、さらに、高度専門職や学術研究機関において、引き続き研究業務に従事する実務型研究者も排出する博士後期課程を、2020年に大阪市立大学においてを設けたところであるが、このたび、それを継承し博士後期課程を設ける。

【養成する人材像】
都市経営研究科 都市経営専攻(博士後期課程)では、都市経営の諸課題に関する専門領域における深く広い知識と能力を備え、都市経営の諸課題を解決する新しい知見を開拓し、更にそれを体系化・深化させるような創造的で高い倫理的識見を備えた実務的研究者としての高度な研究能力を備え、都市を支える政策、行政・公共、プランナー、NPO、ビジネス、医療・福祉・非営利組織等の主要なセクターのサステナビリティを向上させるイノベーションを推進し得る人材を養成することを目的とする。



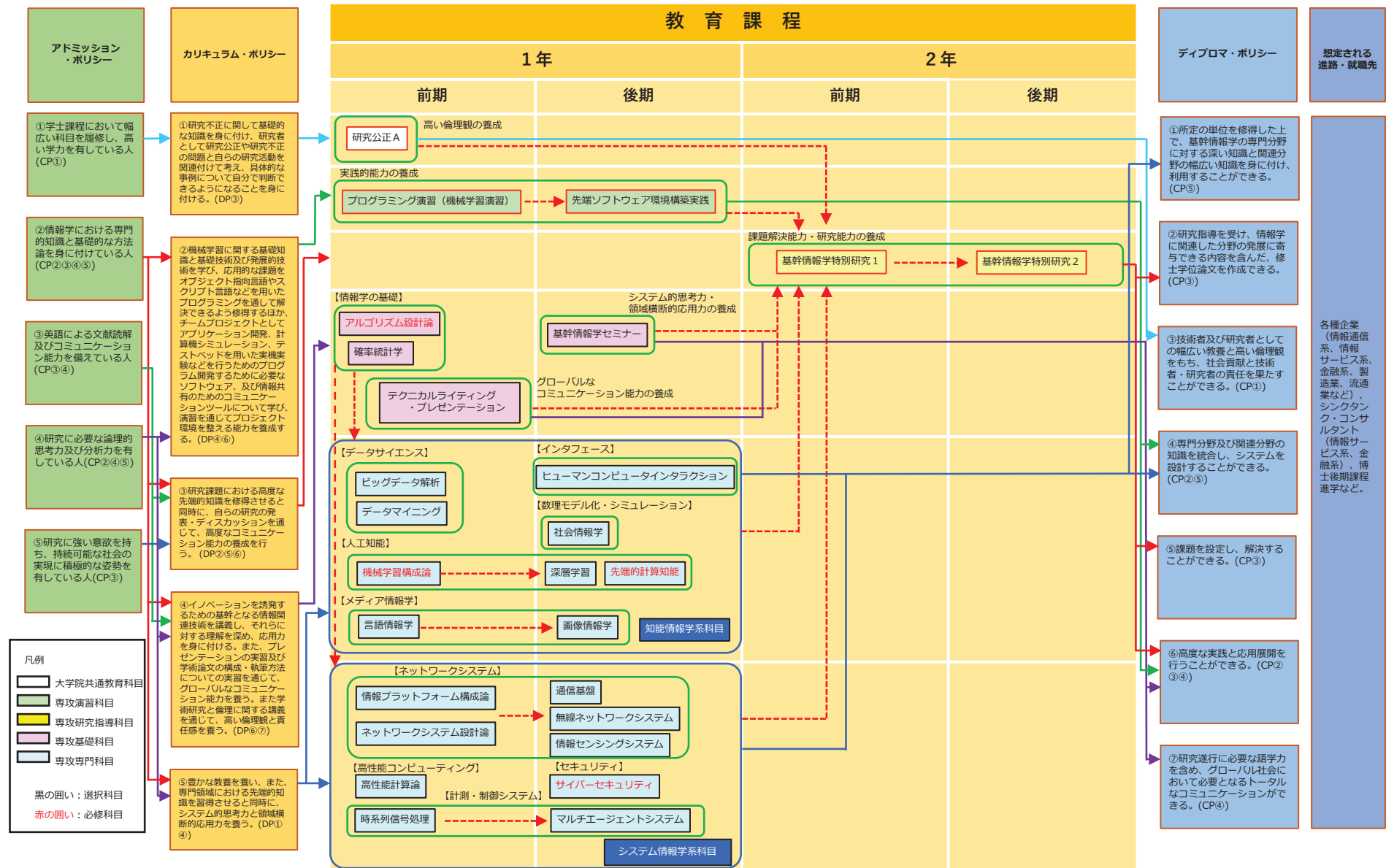
情報学研究科 基幹情報学専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

- Society5.0の実現には、人工知能、データサイエンス、IoT、情報通信などの要素技術の高度化のみならず、それらを組み合わせると共に、ユーザの心理状態などを考慮した上で最適な課題解決を導くシステムの思考能力が必要である。
- 計算機、情報システム、通信ネットワークの発展・深化のみならず、人工知能、データサイエンスを軸としたさまざまな学術領域との有機的融合による新たな「知の創造」が急速に求められている。

【養成する人材像】

社会・技術のパラダイムシフトが起こっても、その変化に追随あるいは先導できるように、知能情報学分野では、信号処理、知能システム、メディア処理、機械学習やデータサイエンスという学術分野の中での課題解決を通して、根底に流れる不変の真実である、人間の持つ認識、理解、推論、学習などの知知的能力をコンピュータ上で実現するための知識と技能を習得し、一方、システム情報学分野では、並列処理、計測制御、情報ネットワーク、セキュリティや信号処理という学術分野の中での課題解決を通して、対象をシステムとして捉えモデル化する能力を習得し、システム全体として最適解を求めることができる知識と技能を習得する。



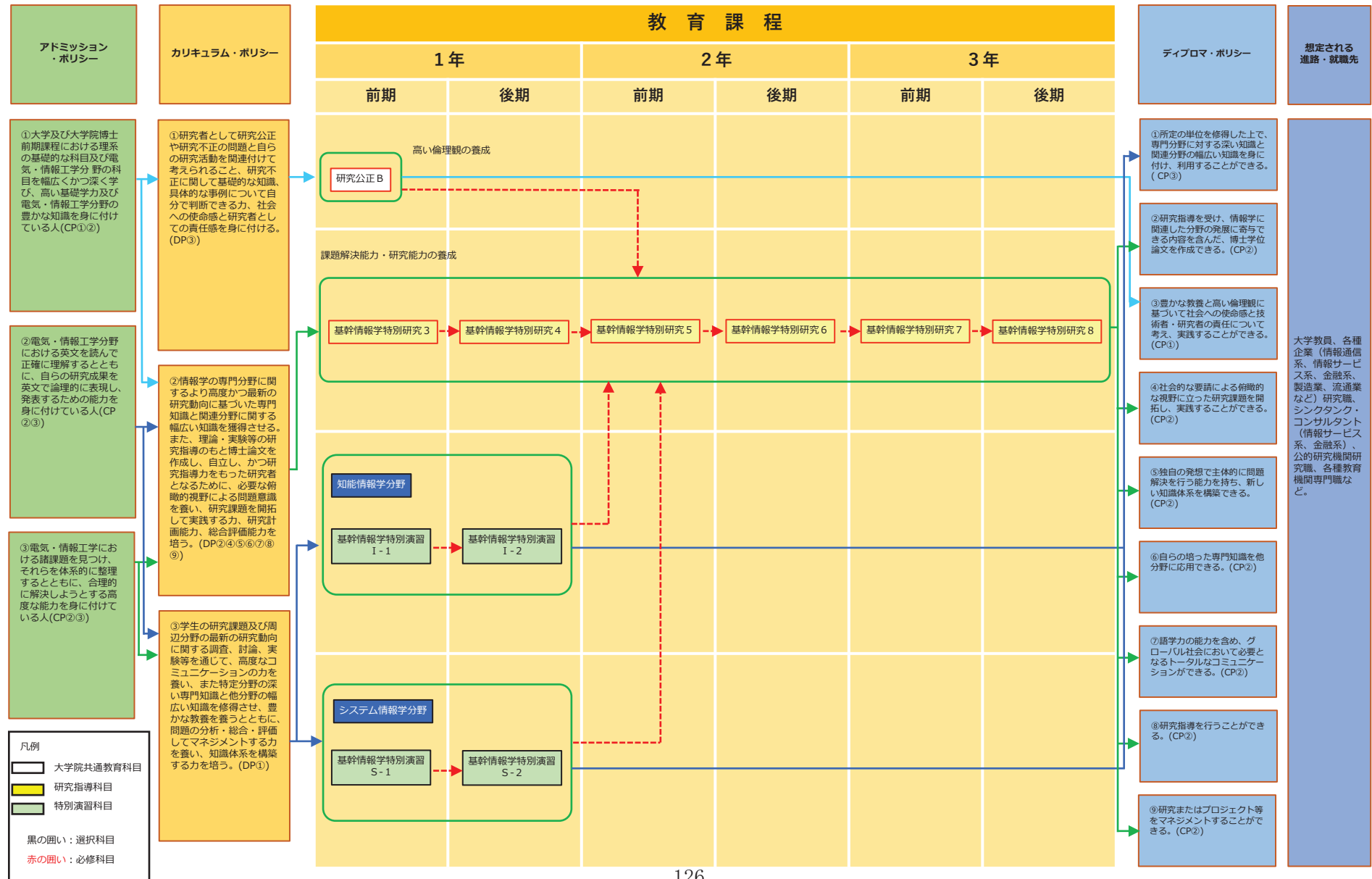
情報学研究科 基幹情報学専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

○Society5.0の実現には、人工知能、データサイエンス、IoT、情報通信などの要素技術の高度化のみならず、それらを組み合わせると共に、ユーザの心理状態などを考慮した上で最適な課題解決を導くシステムの思考力が必要である。
○計算機、情報システム、通信ネットワークの発展・深化のみならず、人工知能、データサイエンスを軸としたさまざまな学術領域との有機的融合による新たな「知の創造」が急速に求められている。

【養成する人材像】

博士前期課程で身に付けた知能情報とシステム情報に関する知識、技能や教養をさらに高め、他分野に応用することができ、自ら研究課題を設定、解決及び実践する能力と、自分のプレゼンスを発信する能力、研究やプロジェクト等をマネジメントとする能力を習得し、さらに研究者及び職業人としての高い倫理観と責任感を備えつつ、これらを駆使してグローバルに活躍できる研究者・研究型専門職業人といった人材を養成する。



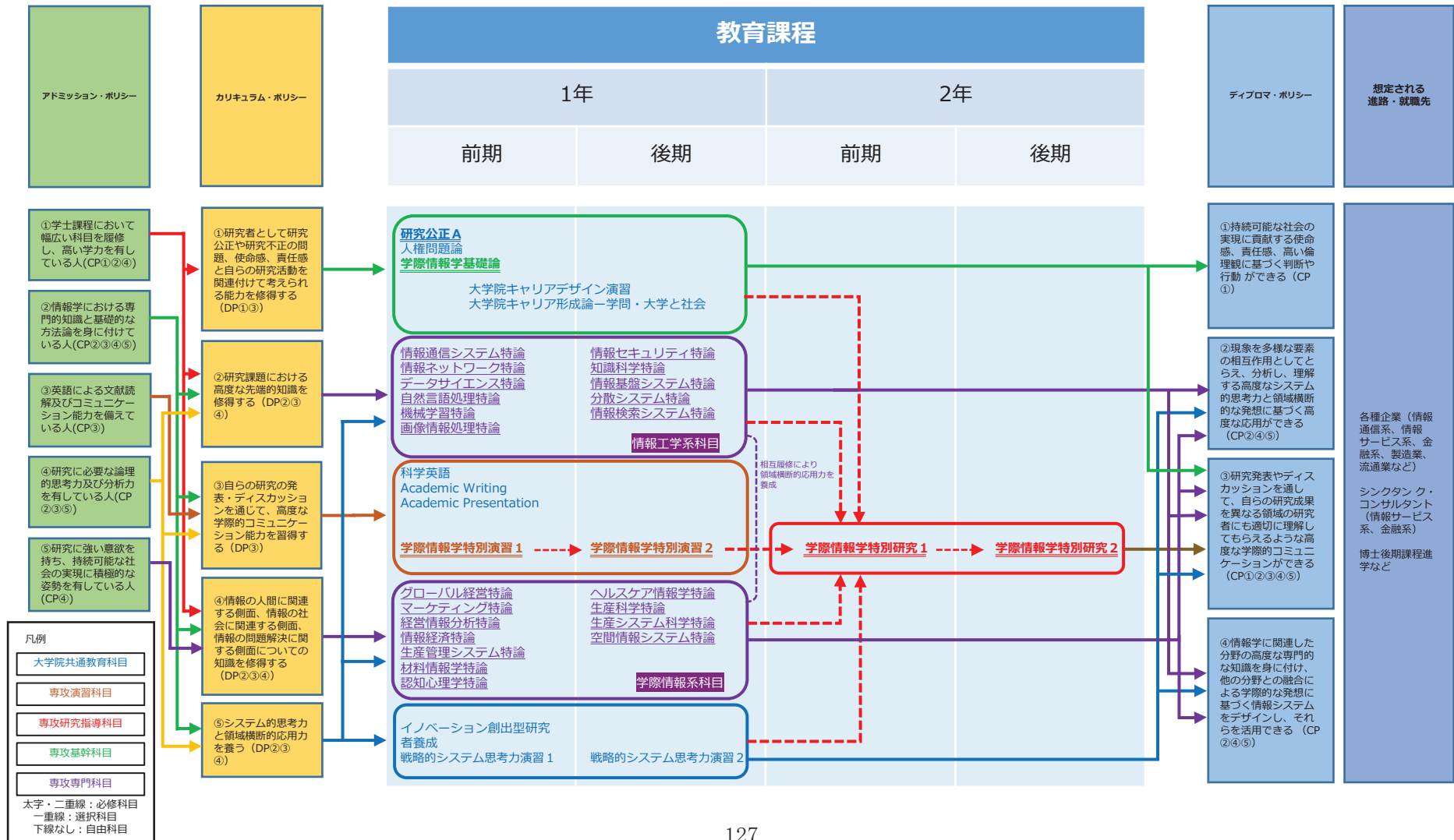
情報学研究科 学際情報学専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

- 大都市大阪からの要請に答えるべく、情報学に関連した技術研究開発と人材養成を、「社会貢献」、「都市シンクタンク」や「技術インキュベーション」の中で実現できるような研究者・技術者が要請されている。
- 高度専門人材やグローバル人材など企業の付加価値創造をリードする人材の養成が求められている。
- 情報通信技術の進歩及び社会の変容にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材の育成が急務となっている。

【養成する人材像】

- 高度情報化社会の基礎となる情報に関連する専門分野の知識と技能を修得した人材
- 知識科学及び情報システム工学と社会科学などの他分野との融合による新たな価値を創造するためのシステムデザイン能力、技術の進歩及び社会の変容に対応できる科学的な分析力・思考力を身に付けた人材
- 技術的な側面のみならず、人々や社会の日常活動に不可欠な情報システムを実現するために、情報通信技術がもたらす社会への影響を深く理解し、専門職業人として高い倫理観と使命感、責任感を持つ人材



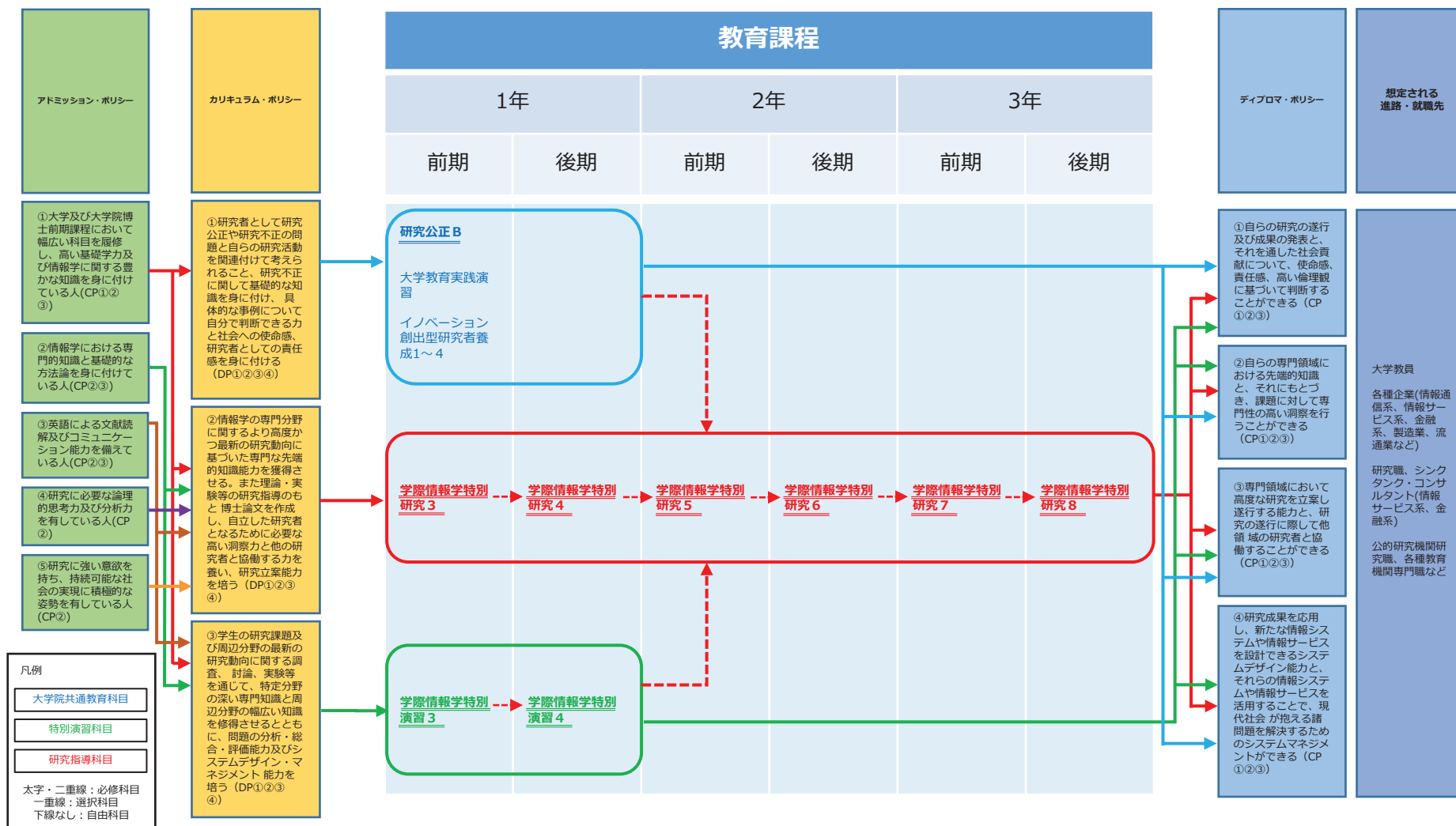
情報学研究科 学際情報学専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

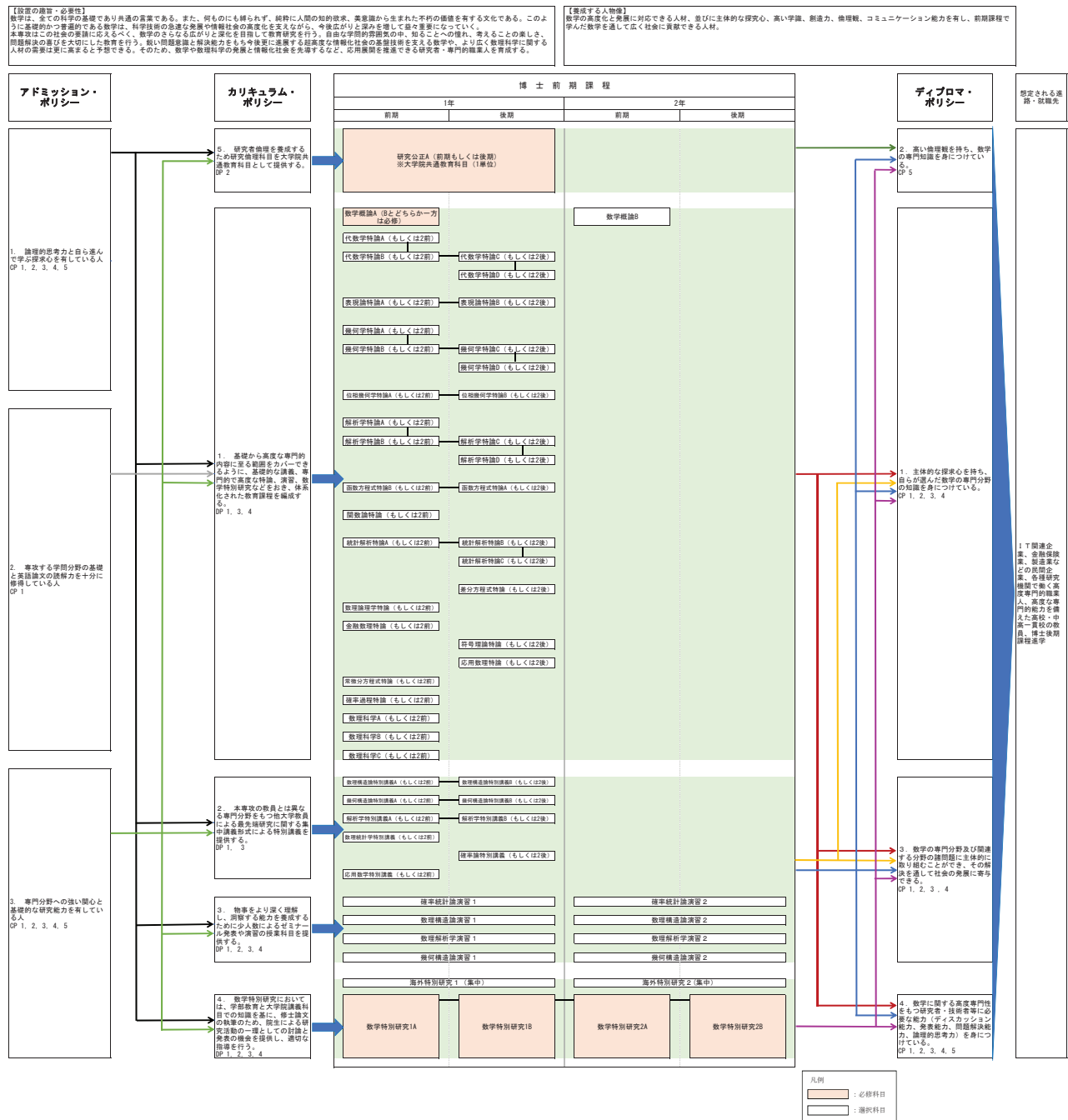
○大都市大阪からの要請に答えるべく、情報学に関連した技術研究開発と人材養成を、「社会貢献」、「都市シンクタンク」や「技術インキュベーション」の中で実現できるような研究者・技術者が要請されている。
○高度専門人材やグローバル人材など企業の付加価値創造をリードする人材の養成が求められている。
○情報通信技術の進歩及び社会の変容にともなう課題を継続して解決するための科学的な分析力・思考力を持つ人材の育成が急務となっている。

【養成する人材像】

○自らの専門領域である情報学における研究・開発をより深化、発展させることができる人材
○領域を横断し、隣接諸領域との学問的交流を促進できる人材
○従来の枠組みにとらわれない発想にもとづく研究開発を推進し、持続可能な社会の実現に貢献できる人材
○他領域の研究者と協働する力を備え、現代社会への俯瞰的視点に基づく学術研究を通じた高い洞察力を持つ人材
○現代社会が抱える諸問題を解決するための新たな情報システムや情報サービスを展開、マネジメントし、専門知識や理論の形成を自立的に行える能力を持つ人材



理学研究科 数学専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ



理学研究科 数学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ

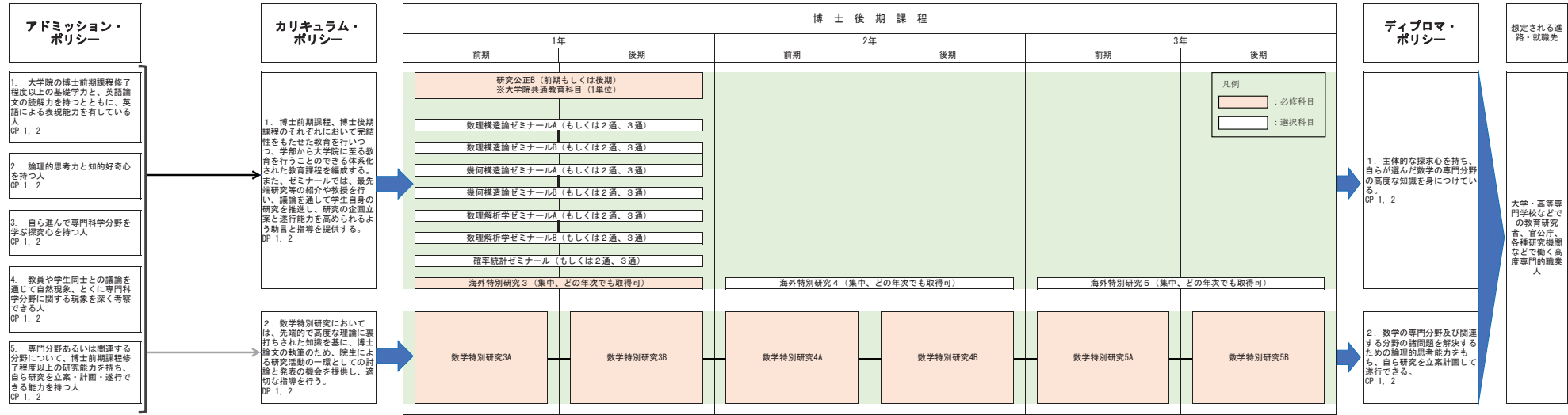
【設置の趣旨・必要性】

数学は、全ての科学の基礎であり共通の言葉である。また、何ものにも縛られず、純粋に人間の知的欲求、美意識から生まれた不朽の価値を有する文化である。このように基礎的かつ普遍的である数学は、科学技術の急速な発展や情報社会の高度化を支えながら、今後広がりや深みを増して益々重要になっていく。

本専攻はこの社会の要請に応えるべく、数学のさらなる広がりや深化を目指して教育研究を行う。自由な学問的雰囲気の中、知ることへの憧れ、考えることの楽しさ、問題解決の喜びを大切にしたい教育を行う。鋭い問題意識と解決能力をもち今後更に進展する超高度な情報化社会の基盤技術を支える数学や、より広く数理科学に関する人材の需要は更に高まると予想できる。そのため、数学や数理科学の発展と情報化社会を先導するなど、応用展開を推進できる研究者・専門的職業人を育成する。

【養成する人物像】

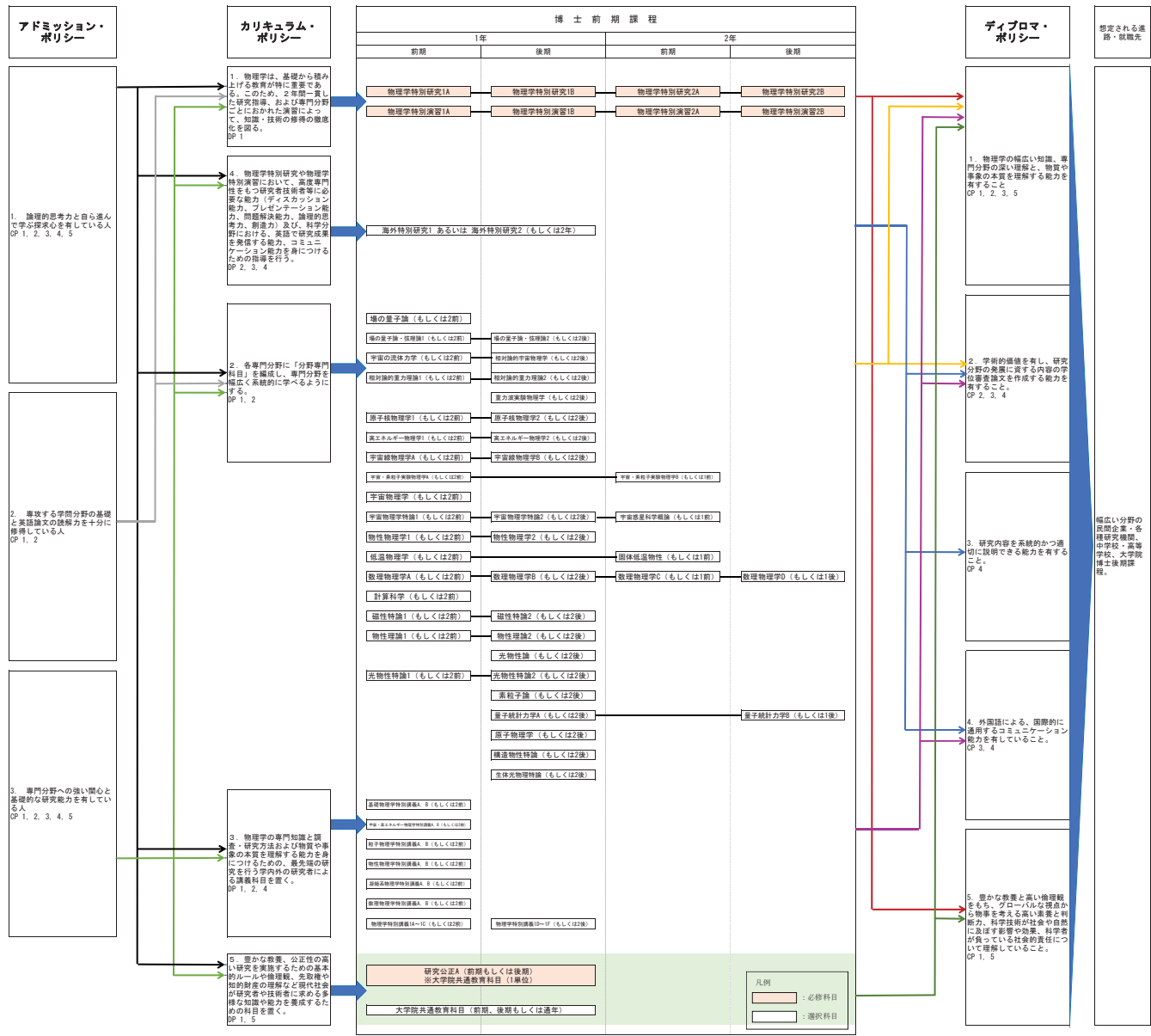
数学の高度な専門知識の修得、学問の深化・発展を重視した教育研究を行い、新たな研究計画の立案や評価を行うための能力、ディスカッション能力を身に付け、研究開発において主導的な役割を果たすことのできる、大学等の教育研究者、研究機関の研究者を養成する。また、世界最先端の研究を通じて、高度な専門知識、創造的開発能力を身に付け、数学とその周辺領域の研究に寄与できる人材。



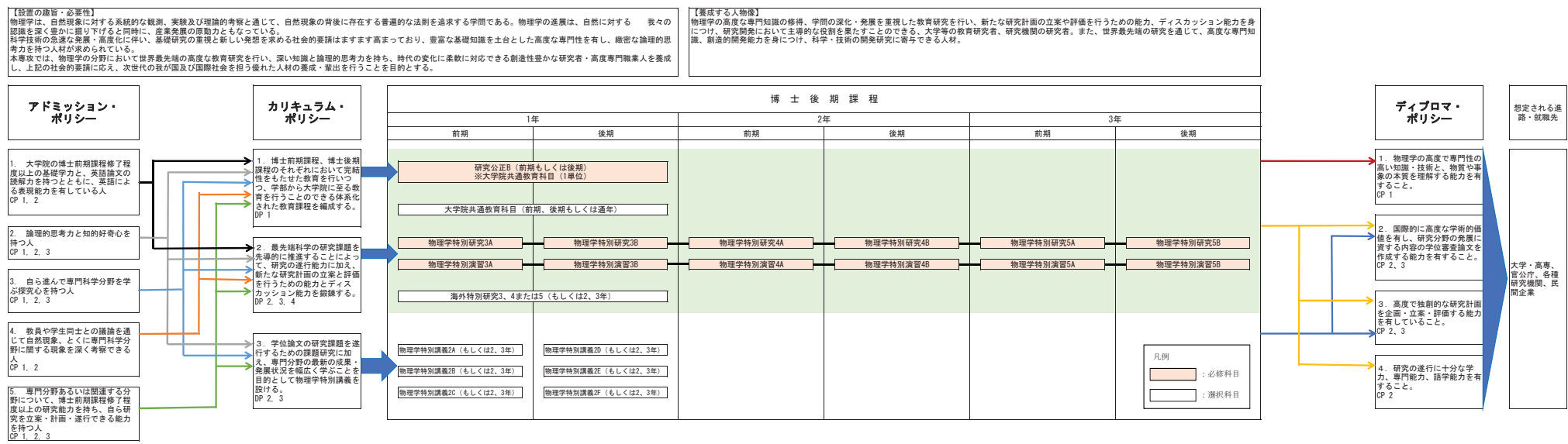
理学研究科 物理学専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】
物理学は、自然現象に対する系統的な観測、実験及び理論的考察を通じて、自然現象の背後に存在する普遍的な法則を追求する学問である。物理学の進展は、自然に対する我々の認識を深く豊かにすると同時に、産業革命の原動力ともなっている。
科学技術の急速な発展、高度化に伴い、基礎研究の重視と新しい発想を求めた社会的要請はますます高まっており、豊富な基礎知識を土台とした高度な専門性を有し、緻密な論理的思考力を持つ人材が求められている。
本専攻では、物理学の分野において世界最先端の高度な教育研究を行い、深い知識と論理的思考力を持ち、時代の変化に柔軟に対応できる創造性豊かな研究者・高度専門職人を養成し、上記の社会的要請に応え、次世代の我が国及び国際社会を担う優れた人材の養成・輩出を行うことを目的とする。

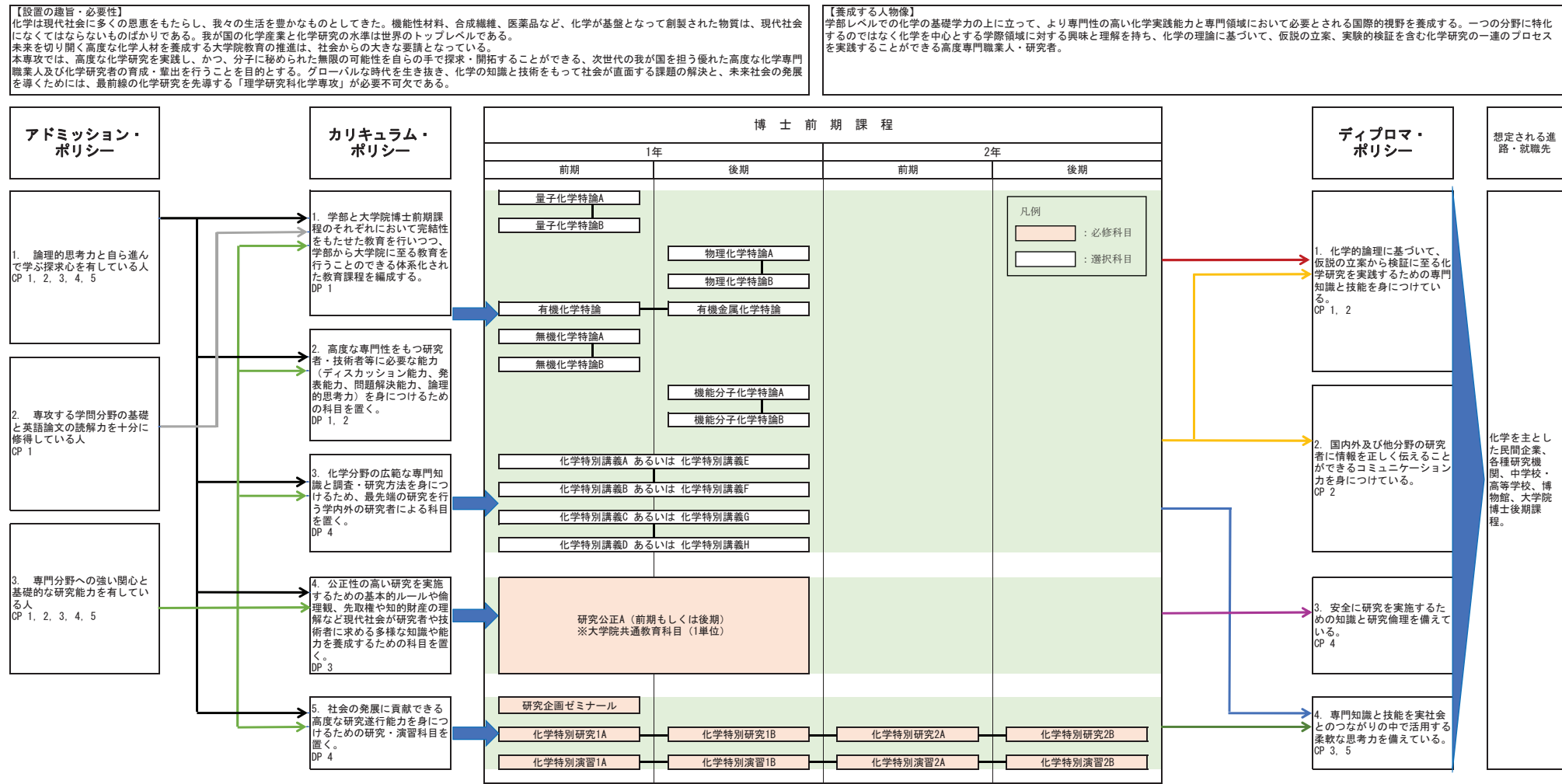
【養成する人物像】
物理学の高度化と発展に対応できる人材、ならびに主体的な探究心、高い学識、創造力、倫理観、コミュニケーション能力を有し、先端科学技術の発展を通して広く社会に貢献できる人材。



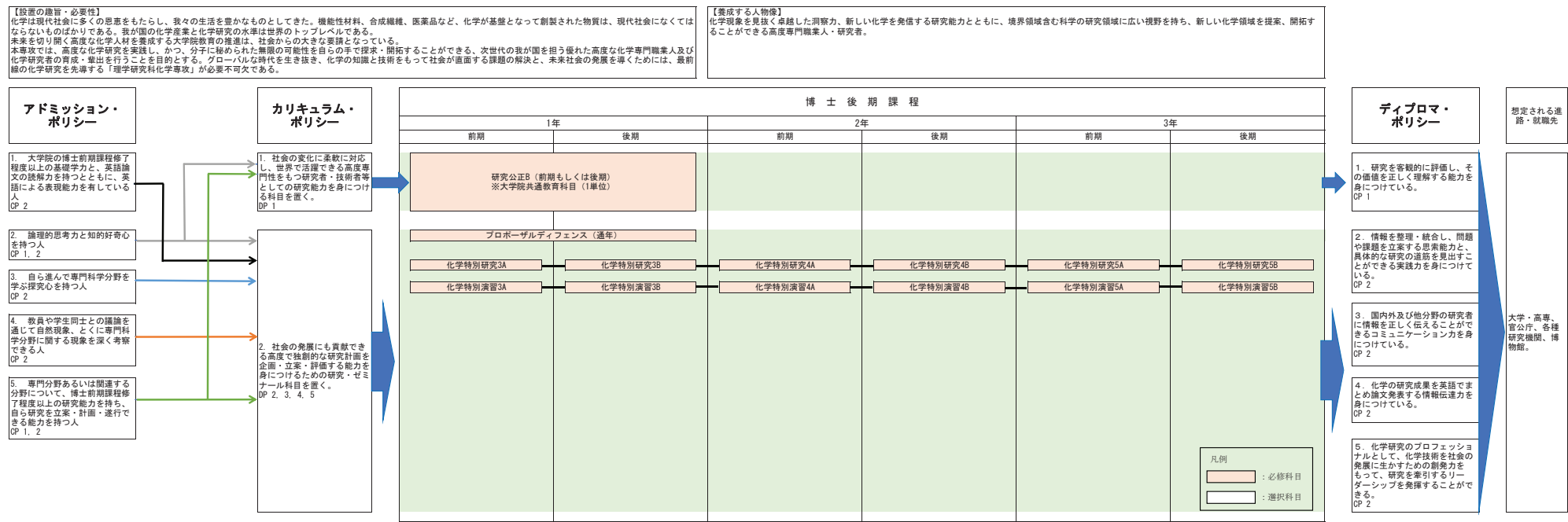
理学研究科 物理学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ



理学研究科 化学専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ



理学研究科 化学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ



理学研究科 生物学専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ

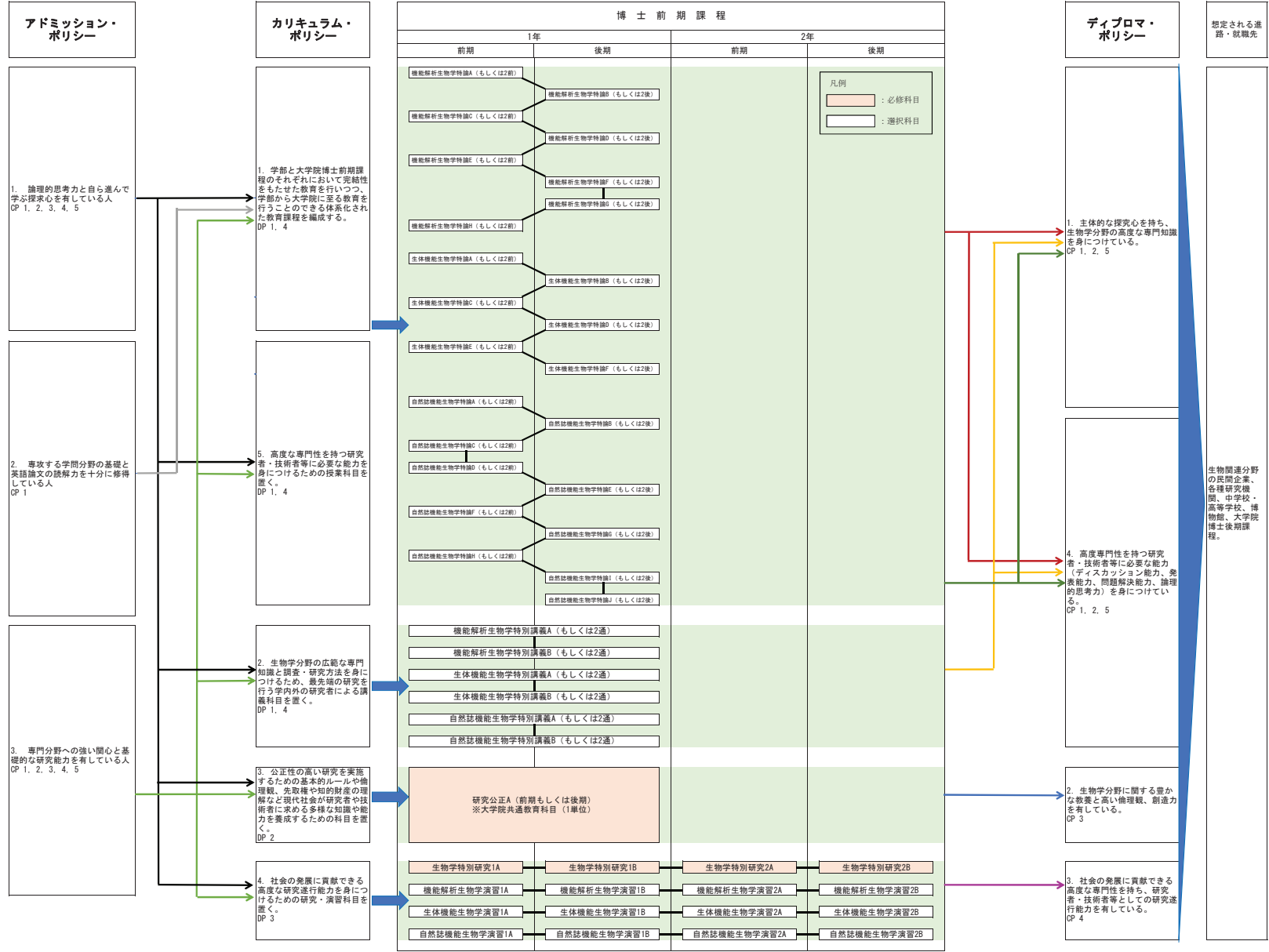
【設置の趣旨・必要性】

地球上の生物はたった一つの祖先を起源とし、進化を繰り返すことで多様化してきた。そして現在、動物、植物、微生物などの多様な生物がお互いに関わり合い、生態系を作り出している。生物学は、これらの生物を分子・細胞から生態系に至る幅広い階層で解析し、生物の進化・多様性の本質及び生命現象の普遍性を探索する学問である。急速に発展する現代社会では、生物にまつわる様々な問題が存在する。それらの問題を正しく理解し解決できる人材が、今まさに求められている。

本専攻では、生物学に関する最先端の高度な研究と教育を推進し、深い知識と論理的思考力を持ち、時代の変化に柔軟に対応できる創造性豊かな人材を養成し、上記の社会的要請に応え、次世代の我が国及び国際社会を担う優れた人材の養成・輩出を行うことを目的とする。

【養成する人物像】

生物学に関する高度な研究能力・研究経験、豊かな学識を活かして、国際的に活躍する研究者、科学技術の発展に貢献できる人材、及び産業界等における研究者・技術者や高度な政策立案を担い得る行政職員など、社会の各層において活躍できる人材。



理学研究科 生物学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ

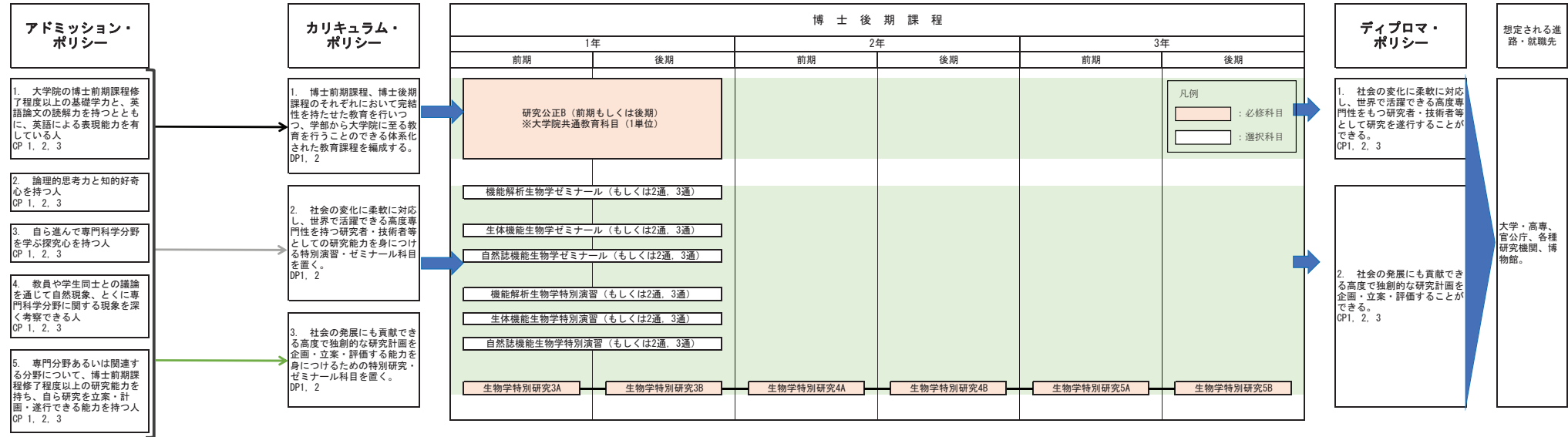
【設置の趣旨・必要性】

地球上の生物はたった一つの祖先を起源とし、進化を繰り返すことで多様化してきた。そして現在、動物、植物、微生物などの多様な生物がお互いに関わり合い、生態系を作り出している。生物学は、これらの生物を分子・細胞から生態系に至る幅広い階層で解析し、生物の進化・多様性の本質及び生命現象の普遍性を探求する学問である。急速に発展する現代社会では、生物にまつわる種々の問題が存在する。それらの問題を正しく理解し解決できる人材が、今まさに求められている。

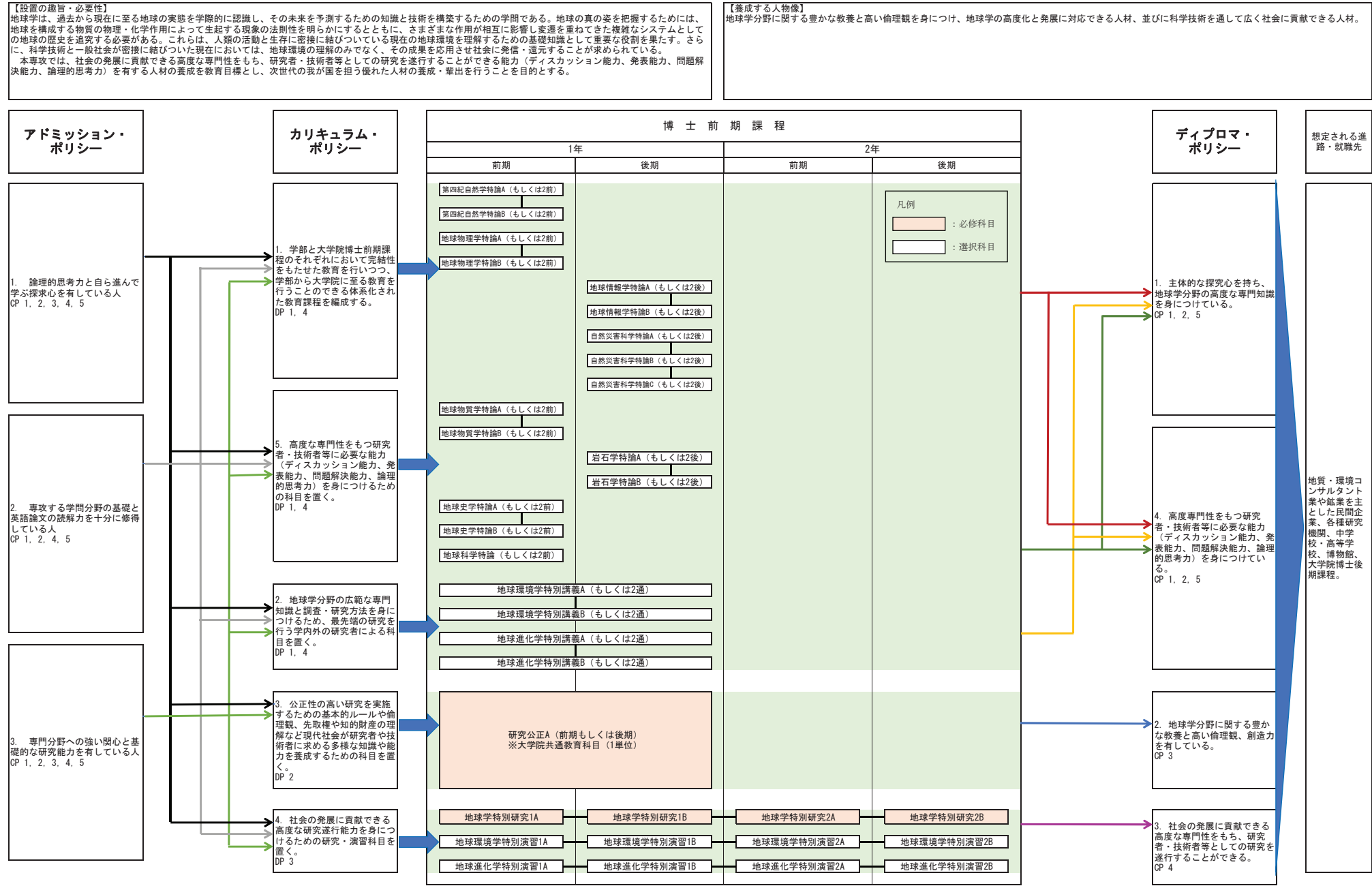
本専攻では、生物学に関する最先端の高度な研究と教育を推進し、深い知識と論理的思考力を持ち、時代の変化に柔軟に対応できる創造性豊かな人材を養成し、上記の社会的要請に応え、次世代の我が国及び国際社会を担う優れた人材の養成・輩出を行うことを目的とする。

【養成する人物像】

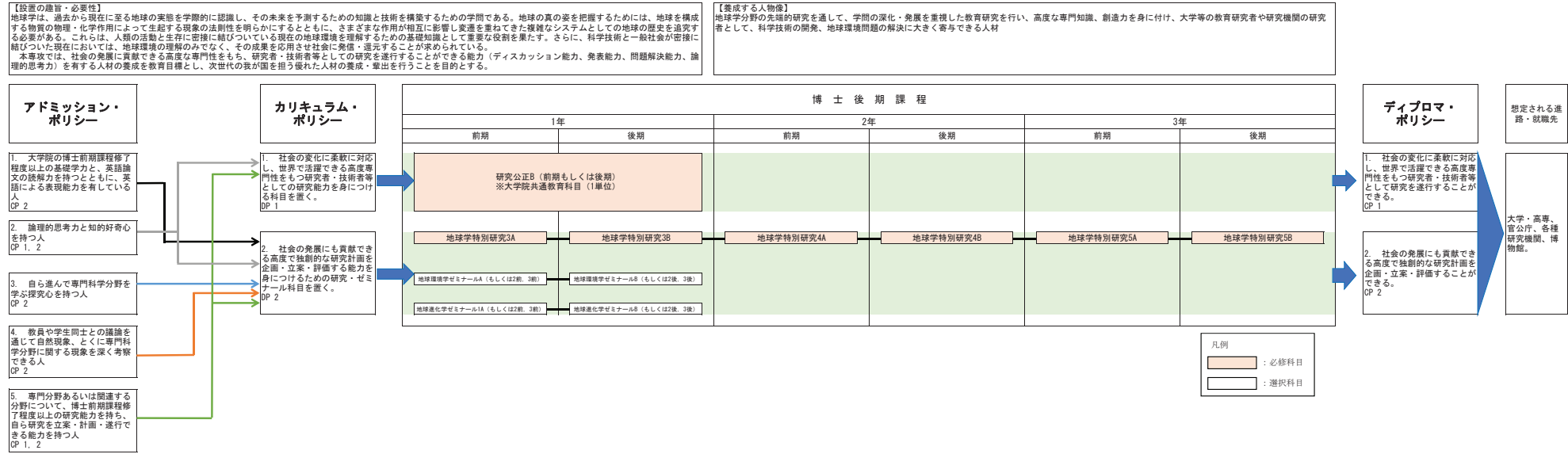
生物学分野の研究を通して、高度な研究力とともに新たな研究計画の立案や評価を行うための能力、ディスカッション能力を身につけ、研究開発において主導的な役割を果たし、かつ高い倫理観を持った、社会の発展に寄与し得る自立した人材。



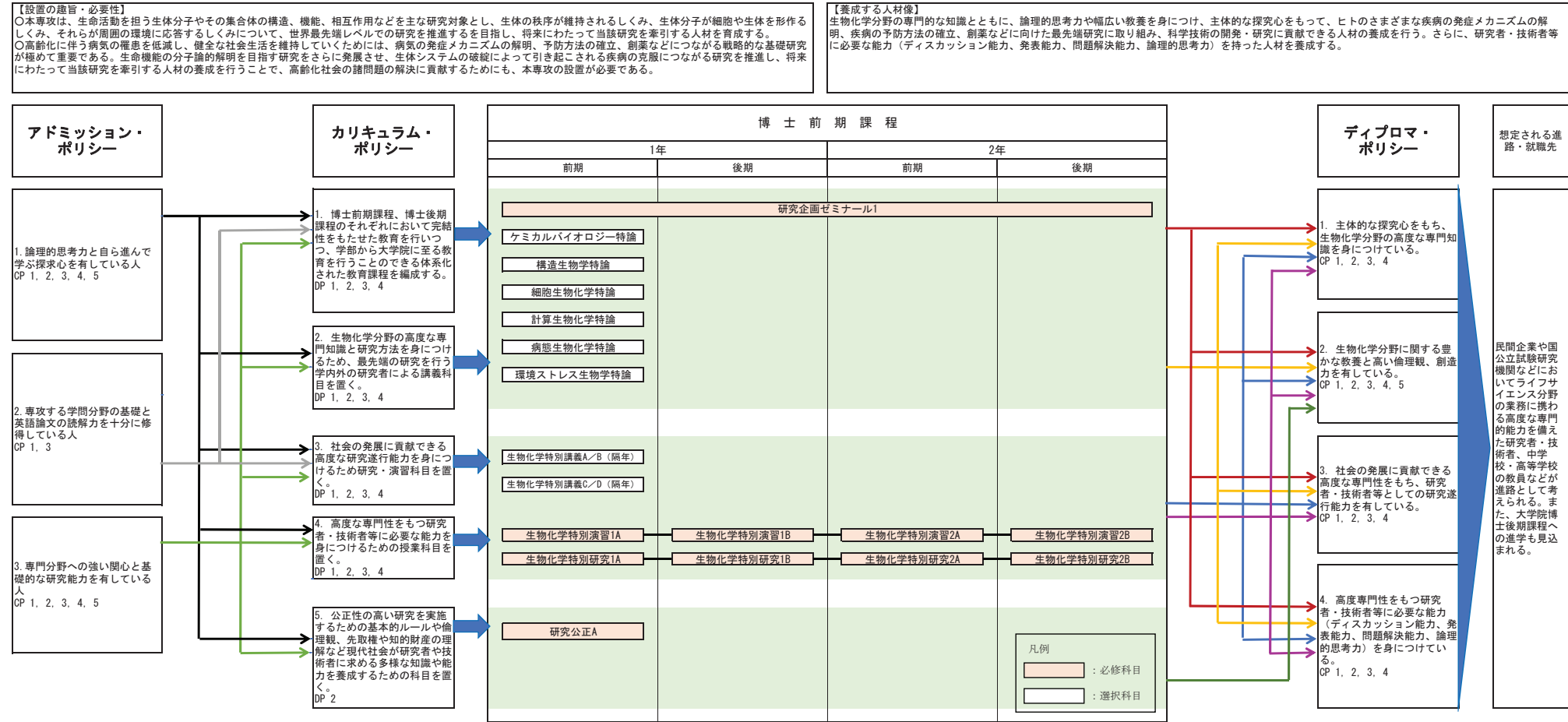
理学研究科 地球学専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ



理学研究科 地球学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ



理学研究科 生物化学専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ



理学研究科 生物化学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ

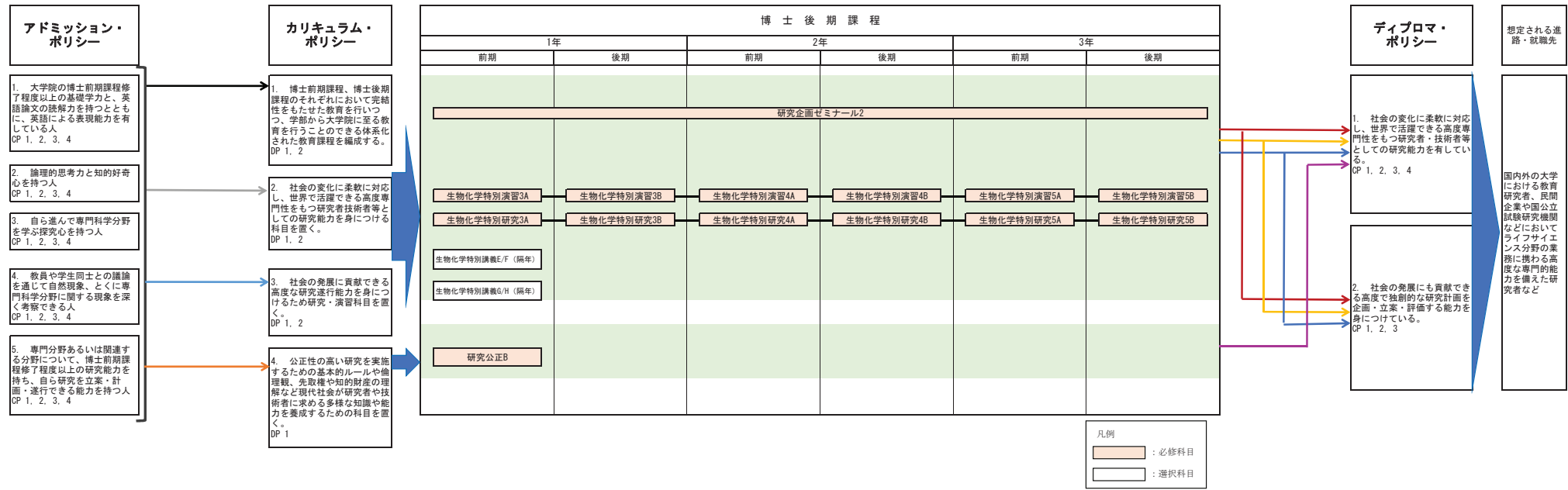
【設置の趣旨・必要性】

○本専攻は、生命活動を担う生体分子やその集合体の構造、機能、相互作用などを主な研究対象とし、生体の秩序が維持されるしくみ、生体分子が細胞や生体を形作るしくみ、それらが周囲の環境に応答するしくみについて、世界最先端レベルでの研究を推進するを旨とし、将来にわたって当該研究を牽引する人材を育成する。

○高齢化に伴う病気の罹患を低減し、健全な社会生活を維持していくためには、病気の発症メカニズムの解明、予防方法の確立、創薬などにつながる戦略的な基礎研究が極めて重要である。生命機能の分子論的解明を目指す研究をさらに発展させ、生体システムの破綻によって引き起こされる疾病の克服につながる研究を推進し、将来にわたって当該研究を牽引する人材の養成を行うことで、高齢化社会の諸問題の解決に貢献するためにも、本専攻の設置が必要である。

【養成する人材像】

生物化学分野の高度な専門知識とともに研究の立案、推進、評価を行うための高度な能力を身につけた、世界で活躍できる高度専門性をもつ教育研究者、研究機関の研究者を養成する。また、研究開発において主導的な役割を果たすことで、社会の発展に大きく寄与する人材を養成する。



工学研究科 航空宇宙海洋系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（航空宇宙工学分野）

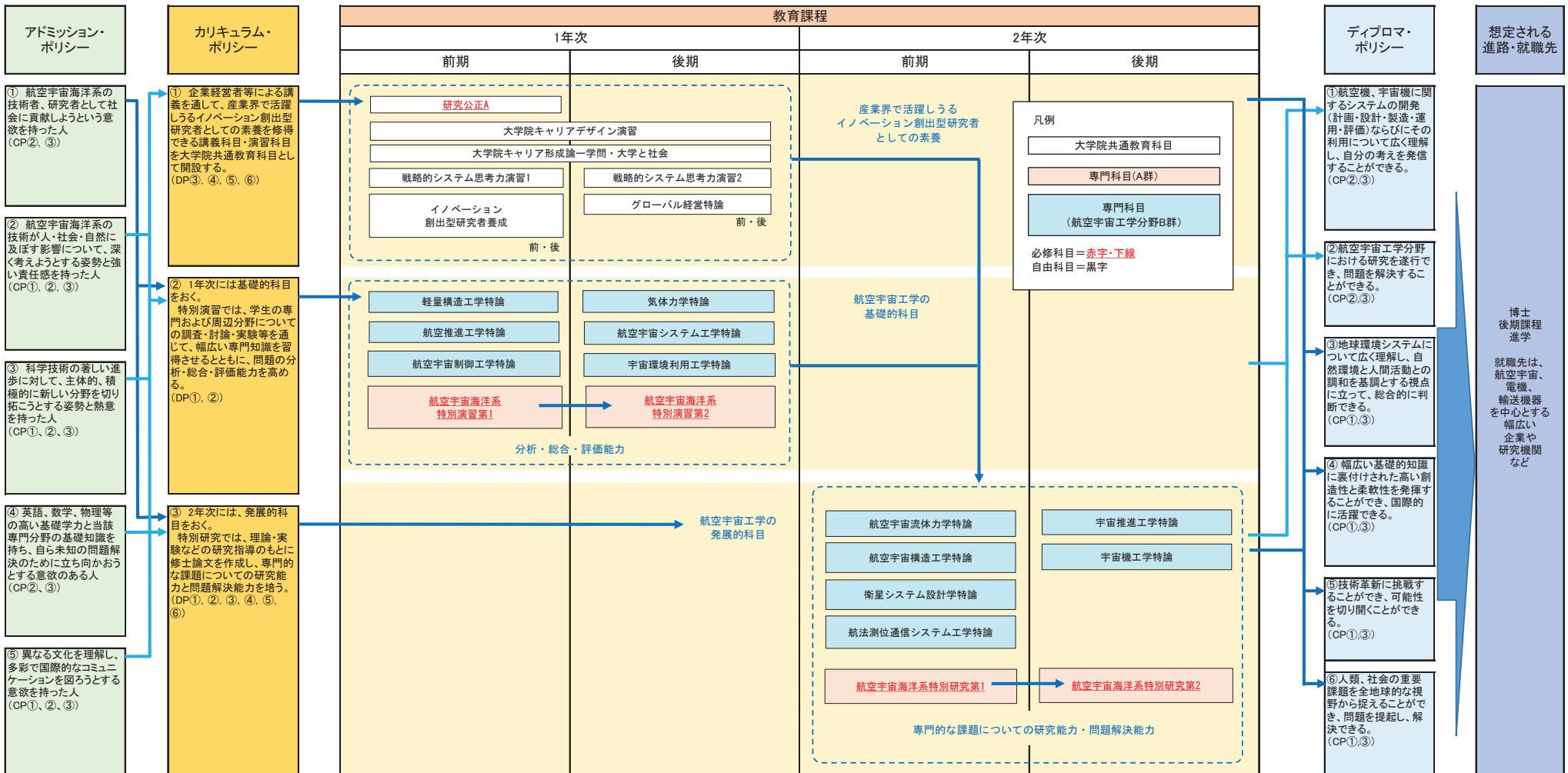
【設置の趣旨・必要性】

20世紀に航空機は人や物の輸送の概念を一変させ、ロケットや人工衛星は宇宙を身近なものとし、その利用を推進してきたが、近年その重要性がますます高まっている。航空機、宇宙機に関する産業は高度な技術が求められる先進国特有の成長産業であり、この分野で活躍できる高度人材の育成が求められている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、航空宇宙海洋系専攻を設置する。当該専攻には、航空宇宙工学分野及び海洋システム工学分野を設定し、航空機、宇宙機、ならびに船舶、海洋システムの開発・運用に関する学問分野において、航空機・宇宙機をはじめとする様々なシステムについての先端的総合工学分野について教授し、人類の持続可能な発展と地球環境の保全との調和を目指し、未来を担う技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

- 航空機、宇宙機に関するシステムの開発（計画・設計・製造・運用・評価）ならびにその利用について広く理解し、自分の考えを発信することができる人材
- 航空宇宙工学分野における研究を遂行でき、問題を解決することができる人材
- 地球環境システムについて広く理解し、自然環境と人間活動との調和を基調とする視点に立って、総合的に判断できる人材
- 幅広い基礎的知識に裏付けされた高い創造性と柔軟性を発揮することができ、国際的に活躍できる人材
- 技術革新に挑戦することができ、可能性を切り開くことができる人材
- 人類、社会の重要課題を全地球的な視野から捉えることができ、問題を提起し、解決できる人材



工学研究科 航空宇宙海洋系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（海洋システム工学分野）

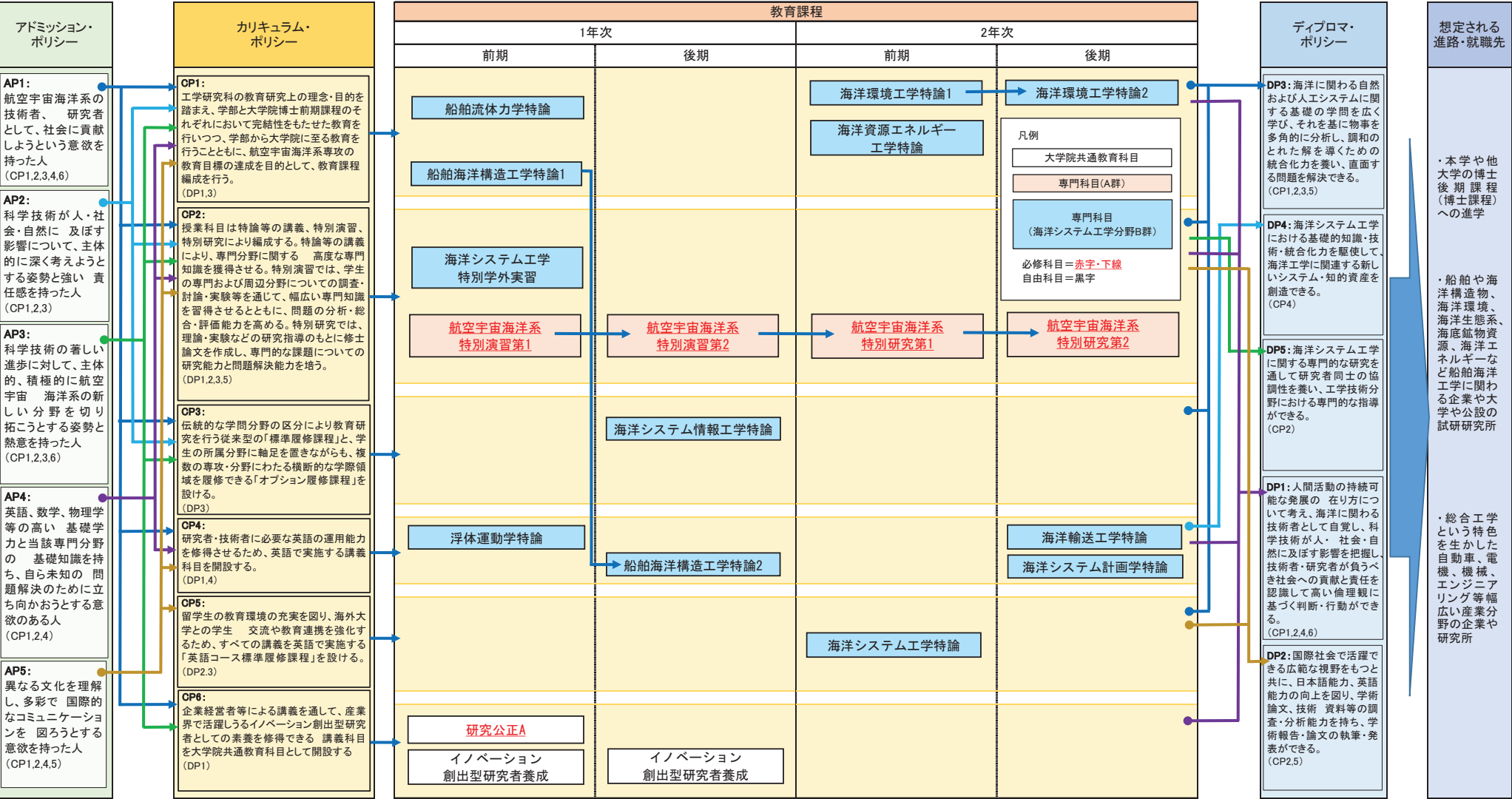
【設置の趣旨・必要性】

人類は古来より船を造り、人や物の輸送、漁業・海洋探査などの海洋活動を行ってきたが、近年の船舶・海洋システムの大型化・高度化に伴い、現在、それらを体系的に学び、研究開発する人材の育成が求められている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、航空宇宙海洋系専攻を設置する。海洋システム工学分野では、海洋に関わる様々な人工システムおよび自然システムについて教授し、海洋における自然と人間活動の調和を図る先端的総合工学分野において、国際的に活躍する技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

- 人間活動の持続可能な発展の在り方について考え、海洋に関わる技術者として自覚し、科学 技術が人・社会・自然に及ぼす影響を把握し、技術者・研究者が負うべき社会への貢献と責任を認識して高い倫理観に基づく判断・行動ができる人材。
- 国際社会で活躍できる広範な視野をもつと共に、日本語能力、英語能力の向上を図り、学術 論文、技術資料等の調査・分析能力を持ち、学術報告・論文の執筆・発表ができる人材。
- 海洋に関わる自然および人工システムに関する基礎の学問を広く学び、それを基に物事を多角的に分析し、調和のとれた解を導くための統合化力を養い、直面する問題を解決できる人材。
- 海洋システム工学における基礎的知識・技術・統合化力を駆使して、海洋工学に関連する新しいシステム・知的資産を創造できる人材。
- 海洋システム工学に関する専門的な研究を通して研究者同士の協調性を養い、工学技術分野における専門的な指導ができる人材。



工学研究科 航空宇宙海洋系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ（航空宇宙工学分野）

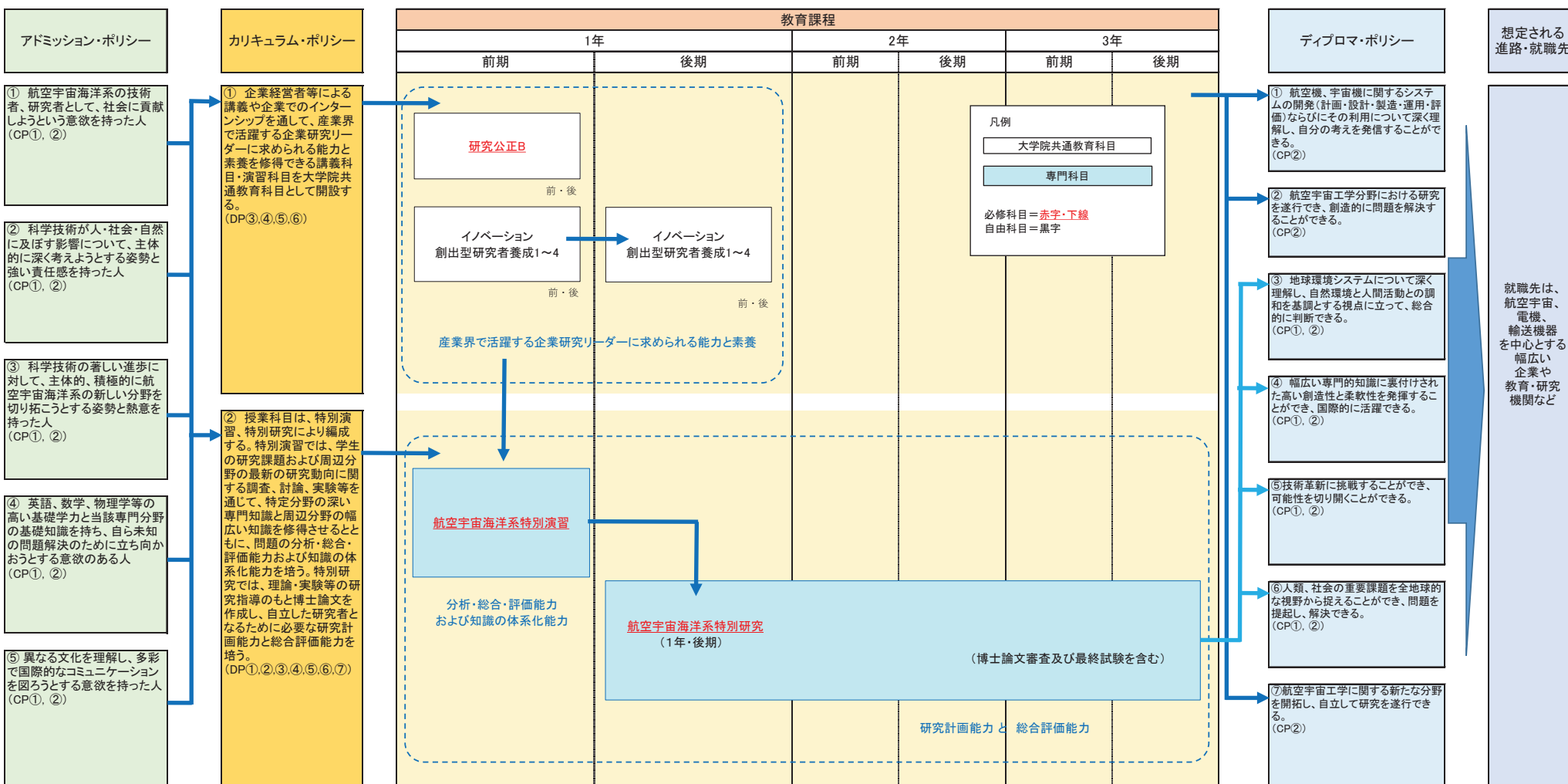
【設置の趣旨・必要性】

20世紀に航空機は人や物の輸送の概念を一変させ、ロケットや人工衛星は宇宙を身近なものとし、その利用を推進してきたが、近年その重要性がますます高まっている。航空機、宇宙機に関する産業は高度な技術が求められる先進国特有の成長産業であり、この分野で活躍できる高度人材の育成が求められている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、航空宇宙海洋系専攻を設置する。当該専攻は、航空機、宇宙機、ならびに船舶、海洋システムの開発・運用に関する学問分野において、航空機・宇宙機をはじめとする様々なシステムについての先端的総合工学分野について教授し、人類の持続可能な発展と地球環境の保全との調和を目指し、未来を担う技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

- 航空機、宇宙機に関するシステムの開発（計画・設計・製造・運用・評価）ならびにその利用について深く理解し、自分の考えを発信することができる人材
- 航空宇宙工学分野における研究を遂行でき、創造的に問題を解決することができる人材
- 地球環境システムについて深く理解し、自然環境と人間活動との調和を基調とする視点に立って、総合的に判断できる人材
- 幅広い専門的知識に裏付けされた高い創造性と柔軟性を発揮することができ、国際的に活躍できる人材
- 技術革新に挑戦することができ、可能性を切り開くことができる人材
- 人類、社会の重要課題を全地球的な視野から捉えることができ、問題を提起し、解決できる人材
- 航空宇宙工学に関する新たな分野を開拓し、自立して研究を遂行できる人材



工学研究科 航空宇宙海洋系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ（海洋システム工学分野）

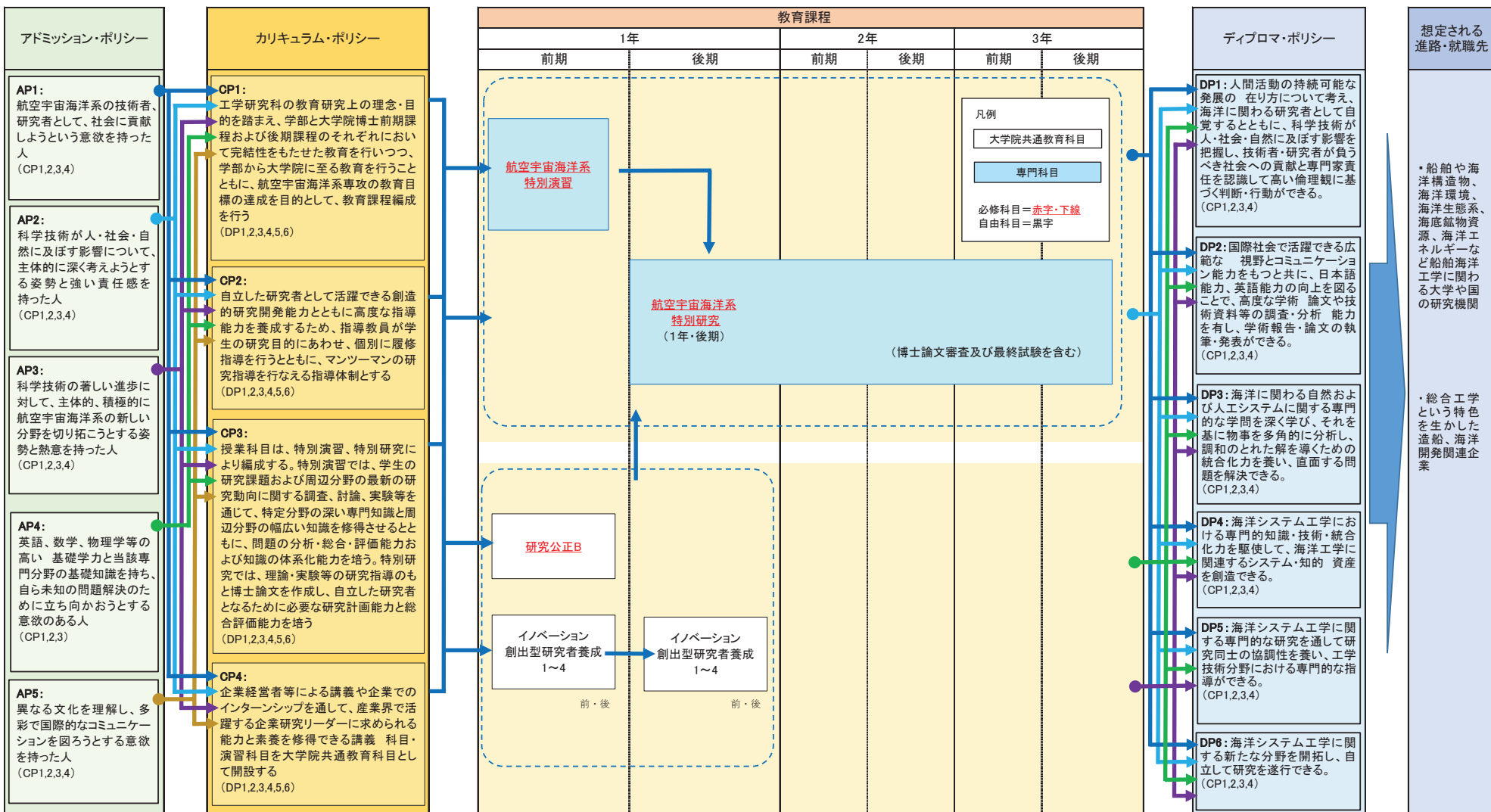
【設置の趣旨・必要性】

人類は古来より船を造り、人や物の輸送、漁業・海洋探査などの海洋活動を行ってきたが、近年の船舶・海洋システムの大型化・高度化に伴い、現在、それらを体系的に学び、研究開発する人材の育成が求められている。

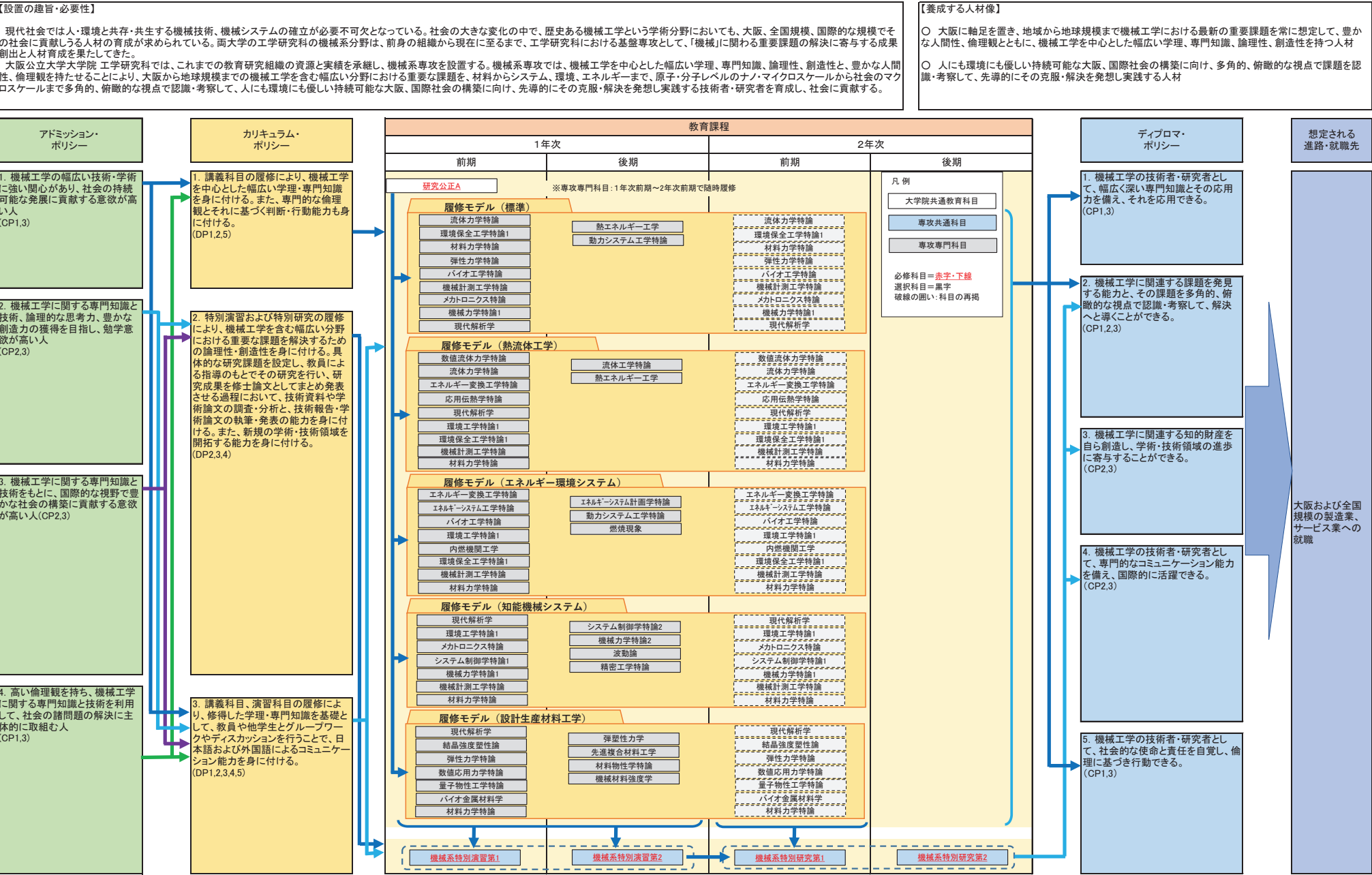
このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、航空宇宙海洋系専攻を設置する。海洋システム工学分野では、海洋に関わる様々な人工システムおよび自然システムについて教授し、海洋における自然と人間活動の調和を図る先端的综合工学分野において、国際的に活躍しうる技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【人材養成の方針】

- 人間活動の持続可能な発展の在り方について考え、海洋に関わる研究者として自覚するとともに、科学技術が人・社会・自然に及ぼす影響を把握し、技術者・研究者が負うべき社会への貢献と専門責任を認識して高い倫理観に基づく判断・行動ができる人材。
- 国際社会で活躍できる広範な視野とコミュニケーション能力をもつと共に、日本語能力、英語能力の向上を図ることで、高度な学術論文や技術資料等の調査・分析能力を有し、学術報告・論文の執筆・発表ができる人材。
- 海洋に関わる自然および人工システムに関する専門的な学問を深く学び、それを基に物事を多角的に分析し、調和のとれた解を導くための統合化力を養い、直面する問題を解決できる人材。
- 海洋システム工学における専門的知識・技術・統合化力を駆使して、海洋工学に関連するシステム・知的資産を創造できる人材。
- 海洋システム工学に関する専門的な研究を通して研究同士の協調性を養い、工学技術分野における専門的な指導ができる人材。
- 海洋システム工学に関する新たな分野を開拓し、自立して研究を遂行できる人材。



工学研究科 機械系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ



工学研究科 機械系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

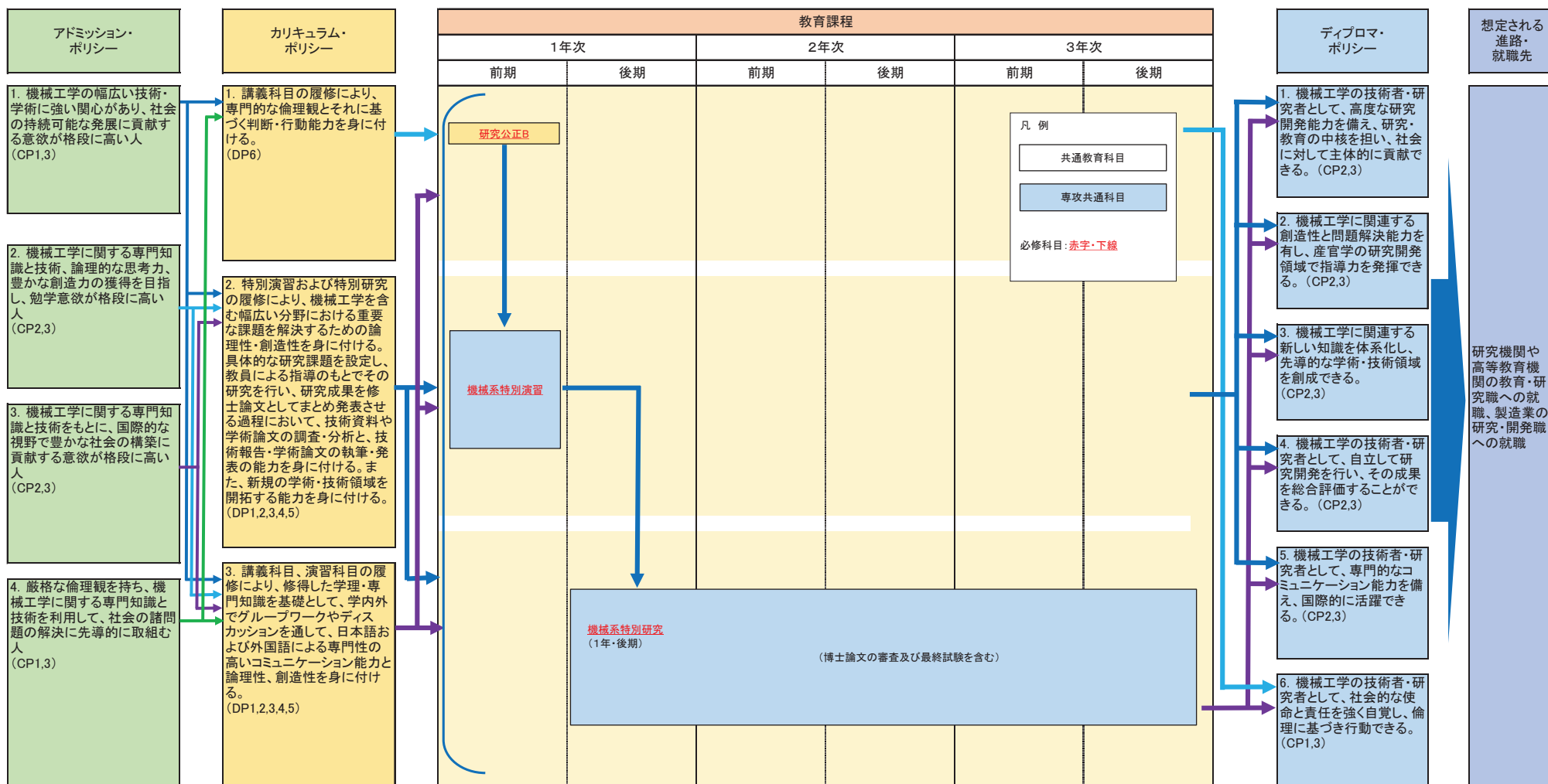
現代社会では、人・環境と共存・共生する機械技術、機械システムの確立が必要不可欠となっている。社会の大きな変化の中で、歴史ある機械工学という学術分野においても、大阪、全国規模、国際的な規模でその社会に貢献しうる人材の育成が求められている。両大学では、前身の組織から現在に至るまで、工学研究科における基盤専攻として、「機械」に関わる重要課題の解決に資する成果創出と人材育成を果たしてきた。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、機械系専攻を設置する。機械系専攻では、機械工学を中心とした幅広い学理、専門知識、論理性、創造性と、豊かな人間性、倫理観を持たせることにより、大阪から地球規模までの機械工学を含む幅広い分野における重要な課題を、材料からシステム、環境、エネルギーまで、原子・分子レベルのナノ・マイクロスケールから社会のマクロスケールまで多角的、俯瞰的な視点で認識・考察して、人にも環境にも優しい持続可能な大阪、国際社会の構築に向け、学際的な領域を含む専門分野で自立して新しい知識を体系化し、先導的な領域を創成する技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

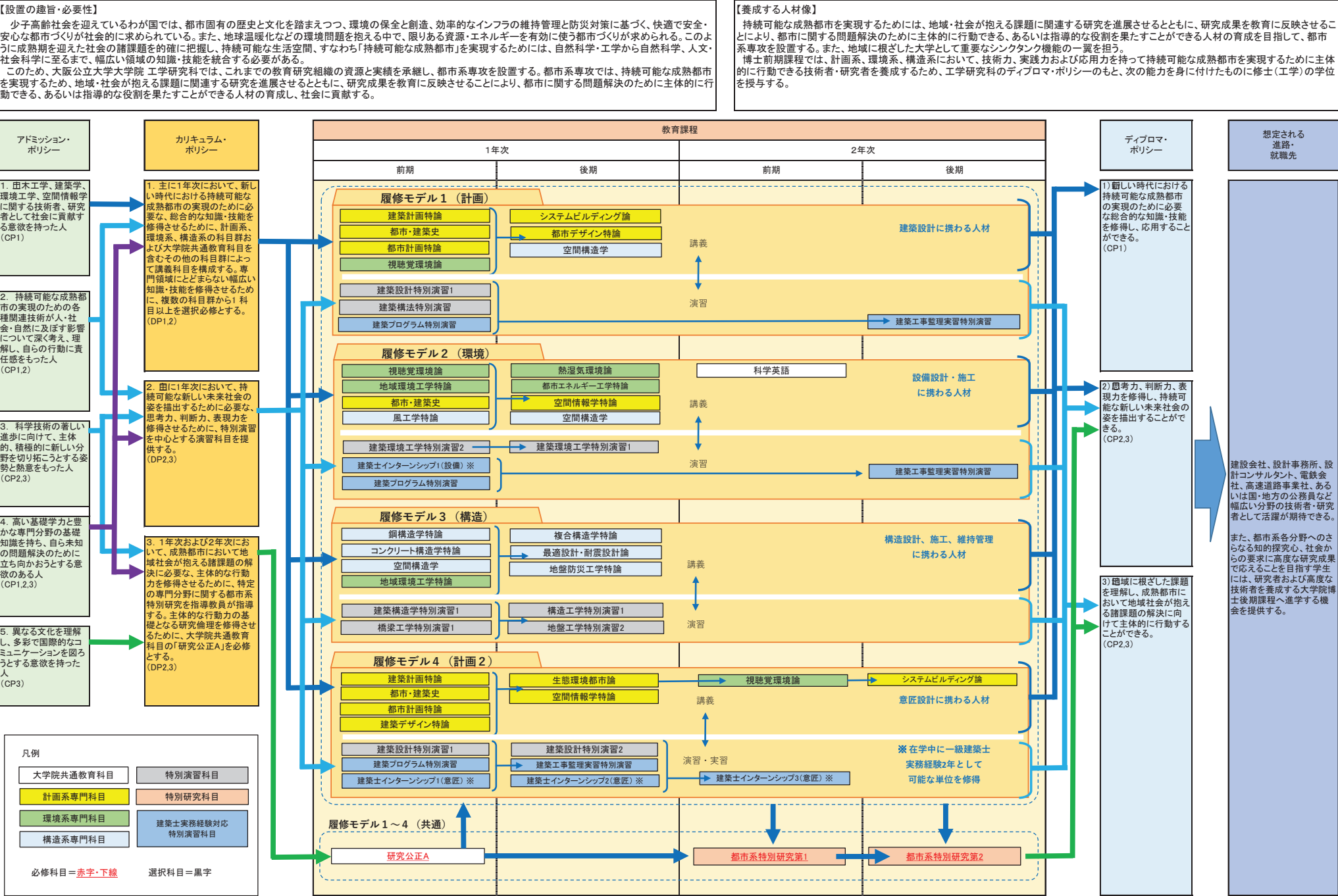
【養成する人材像】

○ 大阪に軸足を置き、地域から地球規模まで機械工学における最新の重要課題を常に想定して、豊かな人間性、倫理観とともに、機械工学を中心とした高度な学理、専門知識、論理性、創造性を持つ人材

○ 人にも環境にも優しい持続可能な大阪、国際社会の構築に向け、学際的な領域を含む専門分野で自立して新しい知識を体系化し、先導的な領域を創成する人材



工学研究科 都市系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ



148

工学研究科 電子物理系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（電子物性コース）

【設置の趣旨・必要性】

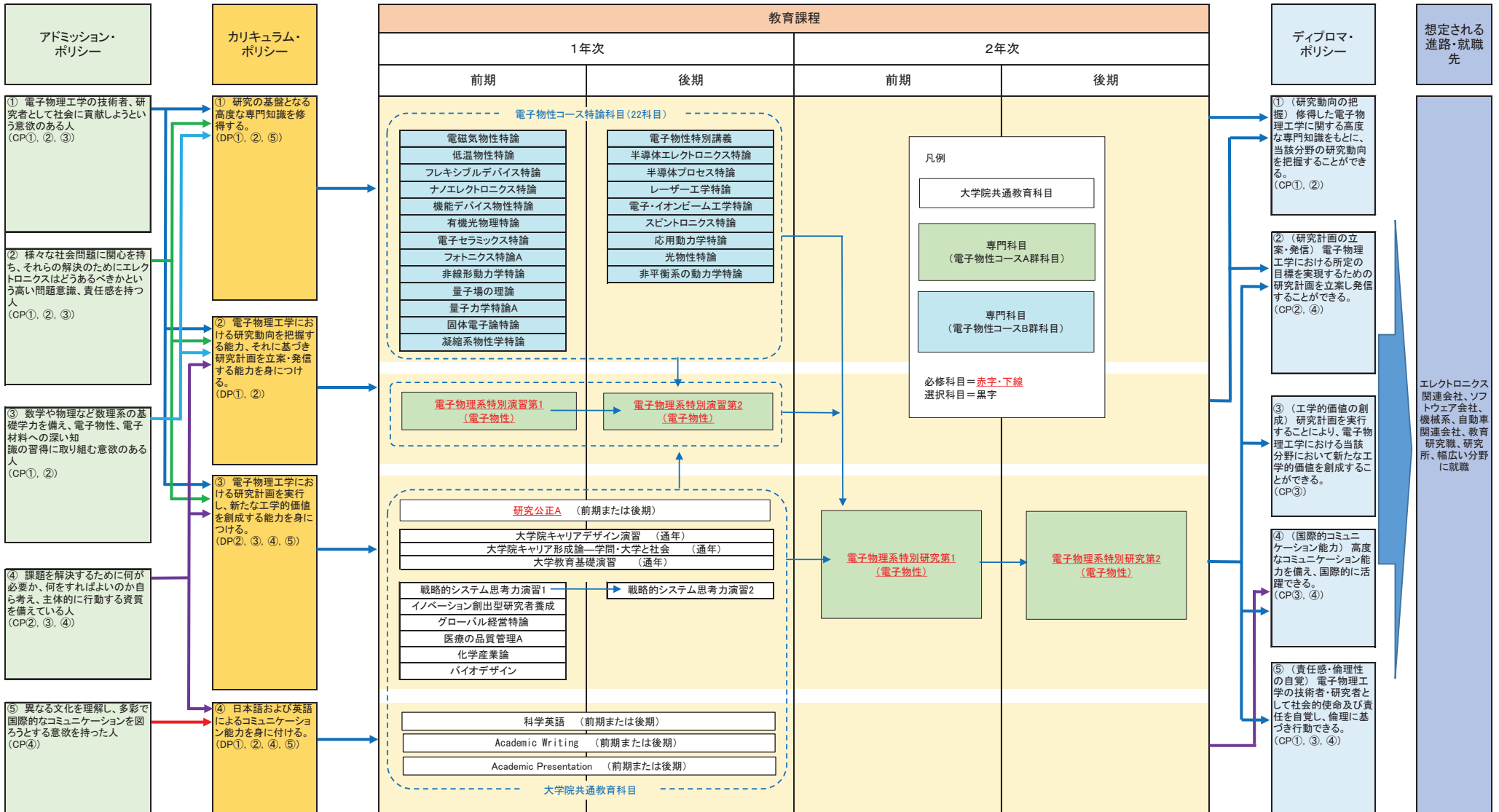
サステナブルな社会の実現を加速するために、電子物性、電子材料の研究を強力に推進し、その研究成果を社会に還元することはもちろんのこと、新奇なエレクトロニクス・デバイスの開発等の工学的な応用をけん引し得る人材、技術の融合や課題設定などのより高度な価値創造能力を有する人材の育成・輩出が強く求められている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、電子物理系専攻を設置する。電子物性の探求と新しい電子材料の開拓を両輪とする電子物理系専攻では、特に、電子物性、電子材料の専門知識を元に所定の目標を実現するとともに新たな工学的価値を創成する能力を備えた人材を養成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

電子物理工学はエレクトロニクスを支える幅広い学問領域であるが、電子物性と電子材料に関する学問に大別され、これらは電子物理工学の両輪となっている。その発展は、両者が関連し合うことによって実現されてきたが、今後の社会を支えるには、それぞれの深化とさらなる発展が必要不可欠である。本専攻では、こうした背景に基づき、電子物理工学の発展を支える両輪となる電子物性の高度な専門知識を有する人材と電子材料の高度な専門知識を有する人材を養成する。

博士前期課程では、上述の専門知識を基に、幅広い物理的視野と電子技術の素養をもった、高い創造性を発揮できる人材を育成する。



工学研究科 電子物理系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（電子材料コース）

【設置の趣旨・必要性】

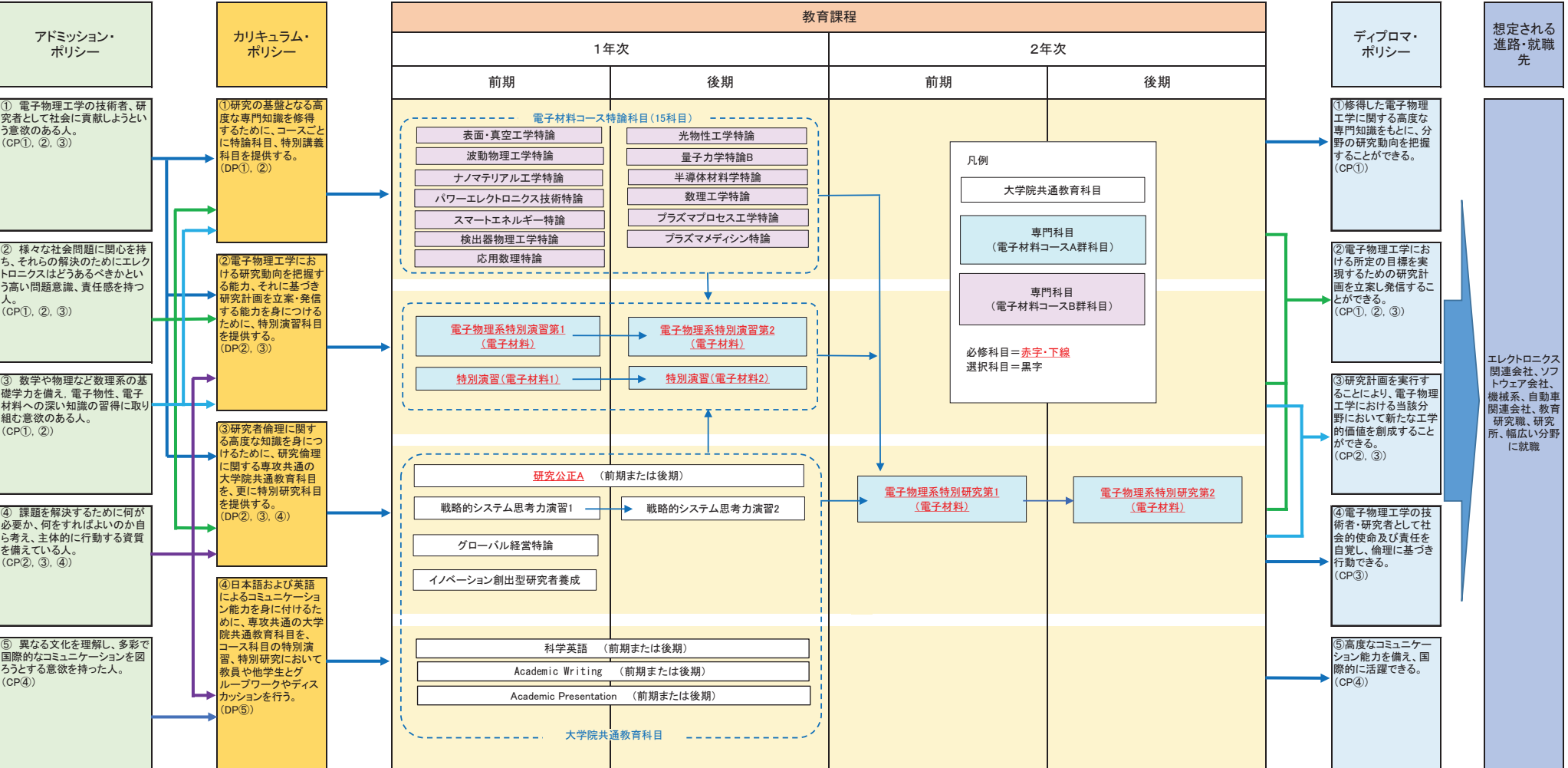
サステイナブルな社会の実現を加速するために、電子物性、電子材料の研究を強力に推進し、その研究成果を社会に還元することはもちろんのこと、新奇なエレクトロニクス・デバイスの開発等の工学的な応用をけん引し得る人材、技術の融合や課題設定などのより高度な価値創造能力を有する人材の育成・輩出が強く求められている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、電子物理系専攻を設置する。電子物性の探求と新しい電子材料の開拓を両輪とする電子物理系専攻では、特に、電子物性、電子材料の専門知識を元に所定の目標を実現するとともに新たな工学的価値を創成する能力を備えた人材を養成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

電子物理工学はエレクトロニクスを支える幅広い学問領域であるが、電子物性と電子材料に関する学問に大別され、これらは電子物理工学の両輪となっている。その発展は、両者が関連し合うことによって実現されてきたが、今後の社会を支えるには、それぞれの深化とさらなる発展が必要不可欠である。本専攻では、こうした背景に基づき、電子物理工学の発展を支える両輪となる電子物性の高度な専門知識を有する人材と電子材料の高度な専門知識を有する人材を養成する。

博士前期課程では、上述の専門知識を基に、所定の目標を実現し新たな工学的価値を創成する能力を備えた人材を養成する。



このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、電気電子系専攻を設置する。電子物性の探求と新しい電子材料の開拓を両輪とする電子物理系専攻では、特に、電子物性、電子材料の専門知識を元に所定の目標を実現するとともに新たな工学的価値を創出し、専門知識に加えて、実現するべき目標・創成するべき工学的価値を自ら定義し、それを達成する能力を備えた研究開発のリーダーとなる人材を養成し、社会に貢献する。

博士後期課程では、上述の専門知識に加えて、実現するべき目標・創成するべき工学的価値を自ら定義し、それを達成する能力を備えた研究開発のリーダーとなる人材を養成する。



工学研究科 電子物理系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ（電子材料コース）

【設置の趣旨・必要性】

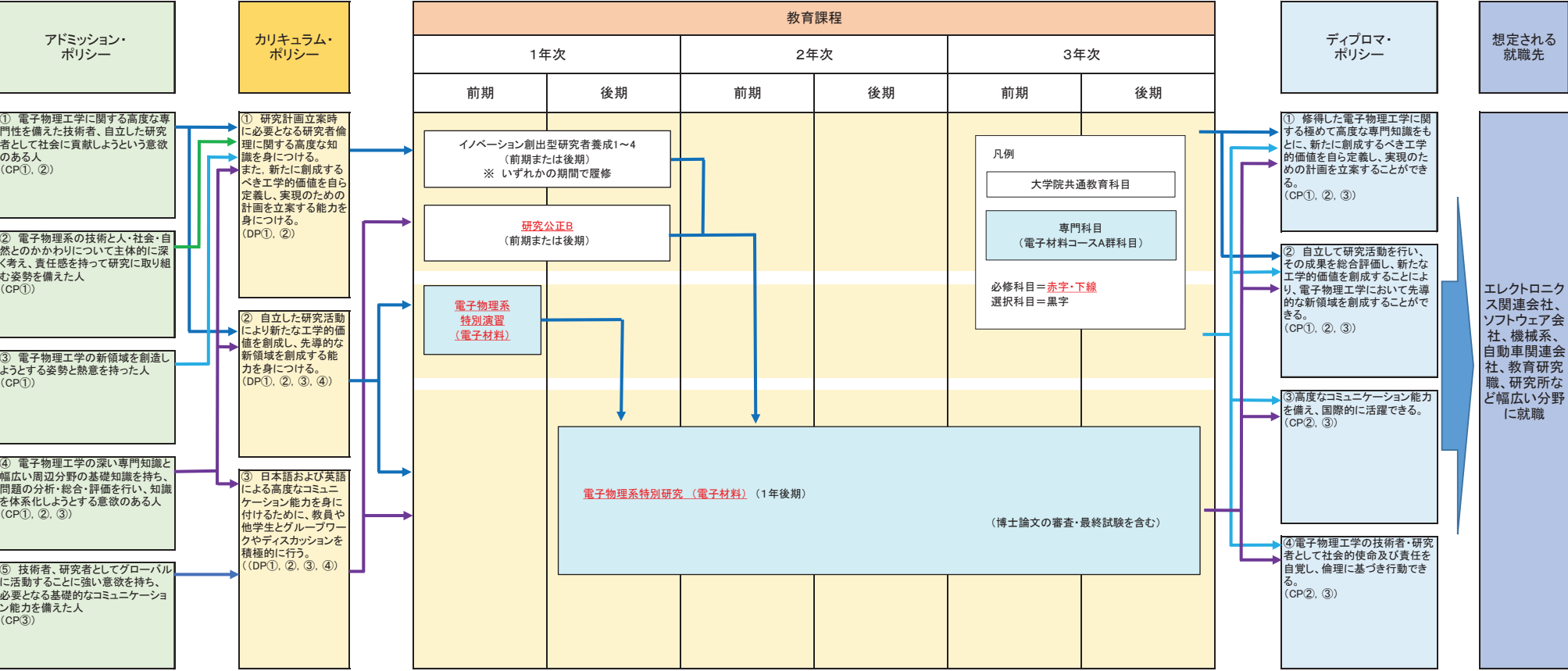
サステナブルな社会の実現を加速するために、電子物性、電子材料の研究を強力に推進し、その研究成果を社会に還元することはもちろんのこと、新奇なエレクトロニクス・デバイスの開発等の工学的な応用をけん引し得る人材、技術の融合や課題設定などのより高度な価値創造能力を有する人材の育成・輩出が強く求められている。このような社会の要求に応えるためには、両大学院の電子物理に関する教育研究の機能を融合・深化することが必要不可欠である。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、電気電子系専攻を設置する。電子物性の探求と新しい電子材料の開拓を両輪とする電子物理系専攻では、特に、電子物性、電子材料の専門知識を元に所定の目標を実現するとともに新たな工学的価値を創出し、専門知識に加えて、実現するべき目標・創成するべき工学的価値を自ら定義し、それを達成する能力を備えた研究開発のリーダーとなる人材を養成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

電子物理工学はエレクトロニクスを支える幅広い学問領域であるが、電子物性と電子材料に関する学問に大別され、これらは電子物理工学の両輪となっている。その発展は、両者が関連し合うことによって実現されてきたが、今後の社会を支えるには、それぞれの深化とさらなる発展が必要不可欠である。本専攻では、こうした背景に基づき、電子物理工学の発展を支える両輪となる電子物性の高度な専門知識を有する人材と電子材料の高度な専門知識を有する人材を養成する。

博士後期課程では、上述の専門知識に加えて、実現するべき目標・創成するべき工学的価値を自ら定義し、それを達成する能力を備えた研究開発のリーダーとなる人材を養成する。



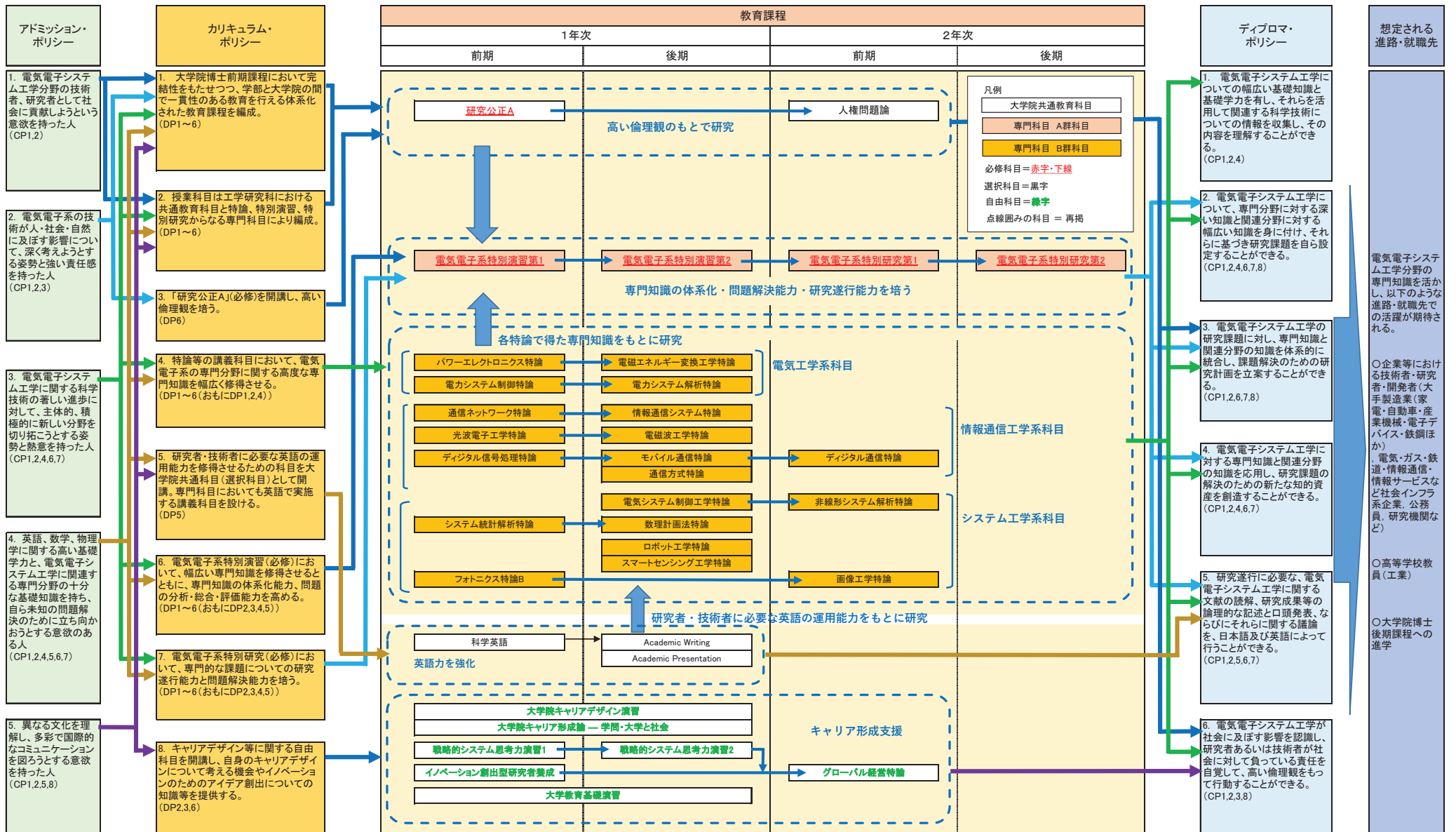
工学研究科 電気電子系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

社会はグローバル化し、高度にネットワーク化された情報化社会へと革新的に移行し続けている。このような社会構造の変化に柔軟に対応し、豊かな情報化社会を切り開くために電気電子システム工学分野の高度な専門知識を持つ人材が求められている。
このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、電気電子系専攻を設置する。
電気電子系専攻では、電力システム、電気電子システム、システム制御技術、情報通信技術、ネットワーク技術、電気情報システム、知能ロボティクス及び生産システム設計・管理技術に関連した広範な専門知識を持ち、自律的に課題を探索することのできる技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

- 電気電子システム工学についての幅広い基礎知識と基礎学力を有し、それらを活用して関連する科学技術についての情報を収集し、その内容を理解することができる人材。
- 電気電子システム工学について、専門分野に対する深い知識と関連分野に対する幅広い知識を身に付け、それらに基づき研究課題を自ら設定することができる人材。
- 電気電子システム工学の研究課題に対し、専門知識と関連分野の知識を体系的に統合し、課題解決のための研究計画を立案することができる人材。
- 電気電子システム工学に対する専門知識と関連分野の知識を応用し、研究課題の解決のための新たな知的資産を創造することができる人材。
- 研究遂行に必要な、電気電子システム工学に関する文献の読解、研究成果等の論理的な記述と口頭発表、ならびにそれらに関する議論を、日本語及び英語によって行うことができる人材。



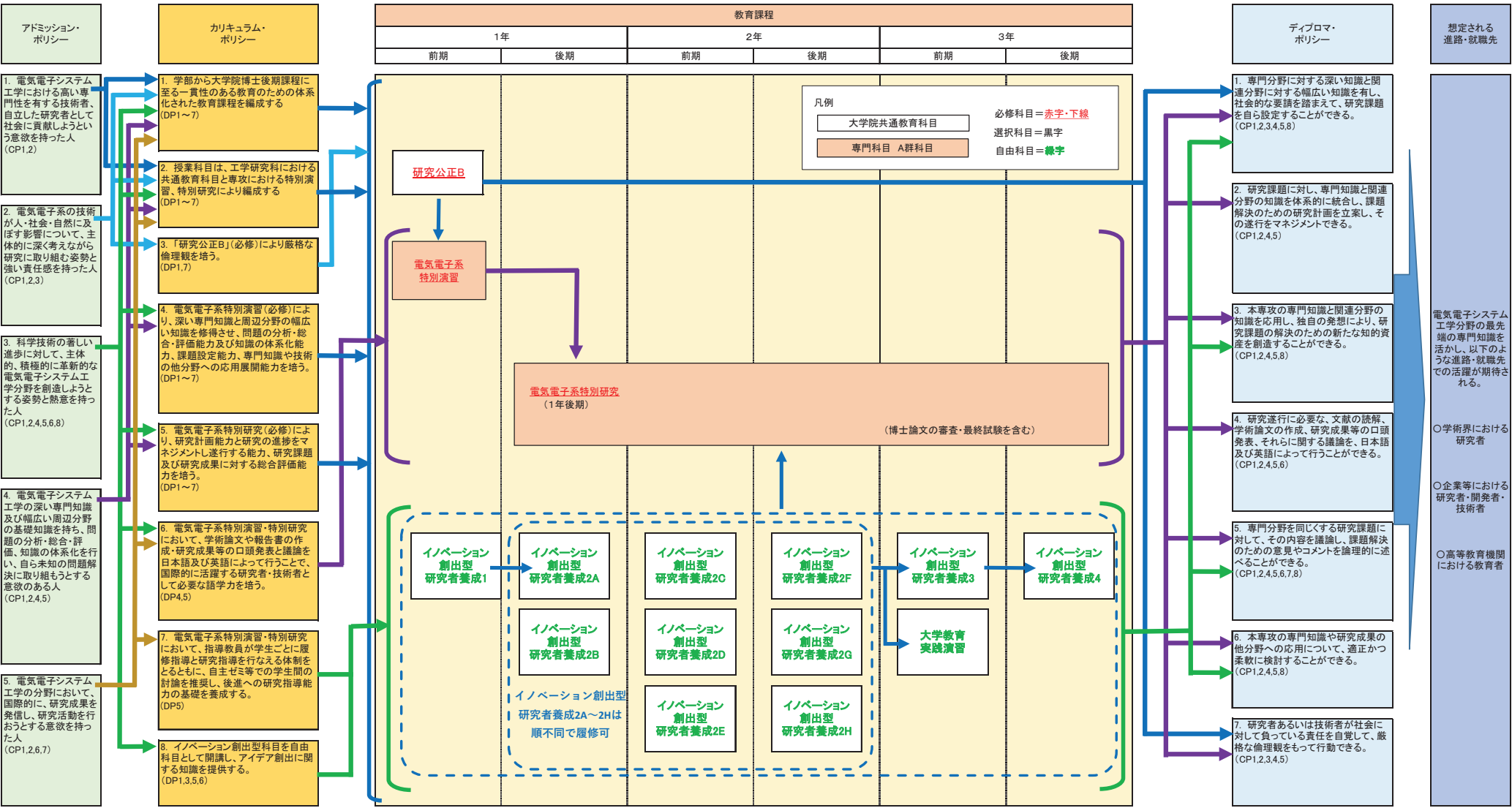
工学研究科 電気電子系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

社会はグローバル化し、高度にネットワーク化された情報化社会へと革新的に移行し続けている。このような社会構造の変化に柔軟に対応し、豊かな情報化社会を切り開くために電気電子システム工学分野の高度な専門知識を持つ人材が求められている。
このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、電気電子系専攻を設置する。
電気電子系専攻では、電力システム、電気電子システム、システム制御技術、情報通信技術、ネットワーク技術、電気情報システム、知能ロボティクス及び生産システム設計・管理技術に関連した広範な専門知識を持ち、自律的に課題を探索することのできる技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

- 電気電子システム工学について、専門分野に対する深い知識と関連分野に対する幅広い知識を有し、社会的な要請を踏まえた俯瞰的な視野に立って、研究課題を自ら設定することができる人材
- 電気電子システム工学の研究課題に対し、専門知識と関連分野の知識を体系的に統合し、課題解決のための研究計画を立案し、その遂行をマネジメントできる人材
- 電気電子システム工学に対する専門知識と関連分野の知識を応用し、独自の発想により、研究課題の解決のための新たな知的資産を創造することができる人材
- 研究遂行に必要な、電気電子システム工学に関する文献の読解、研究成果等を論理的に記述した学術論文の作成、研究成果等の口頭発表、ならびにそれらに関する議論を、日本語及び英語によって行うことができる人材
- 自身と専門分野を同じくする研究課題に対して、その内容を議論し、課題解決のための意見やコメントを論理的に述べるることができる人材
- 電気電子システム工学に関する専門知識や研究成果の他分野への応用について、適正かつ柔軟に検討することができる人材
- 電気電子システム工学が社会に及ぼす影響を認識し、研究者あるいは技術者が社会に対して負っている責任を自覚して、厳格な倫理観をもって行動することができる人材



工学研究科 物質化学生命系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（応用化学分野）

【設置の趣旨・必要性】

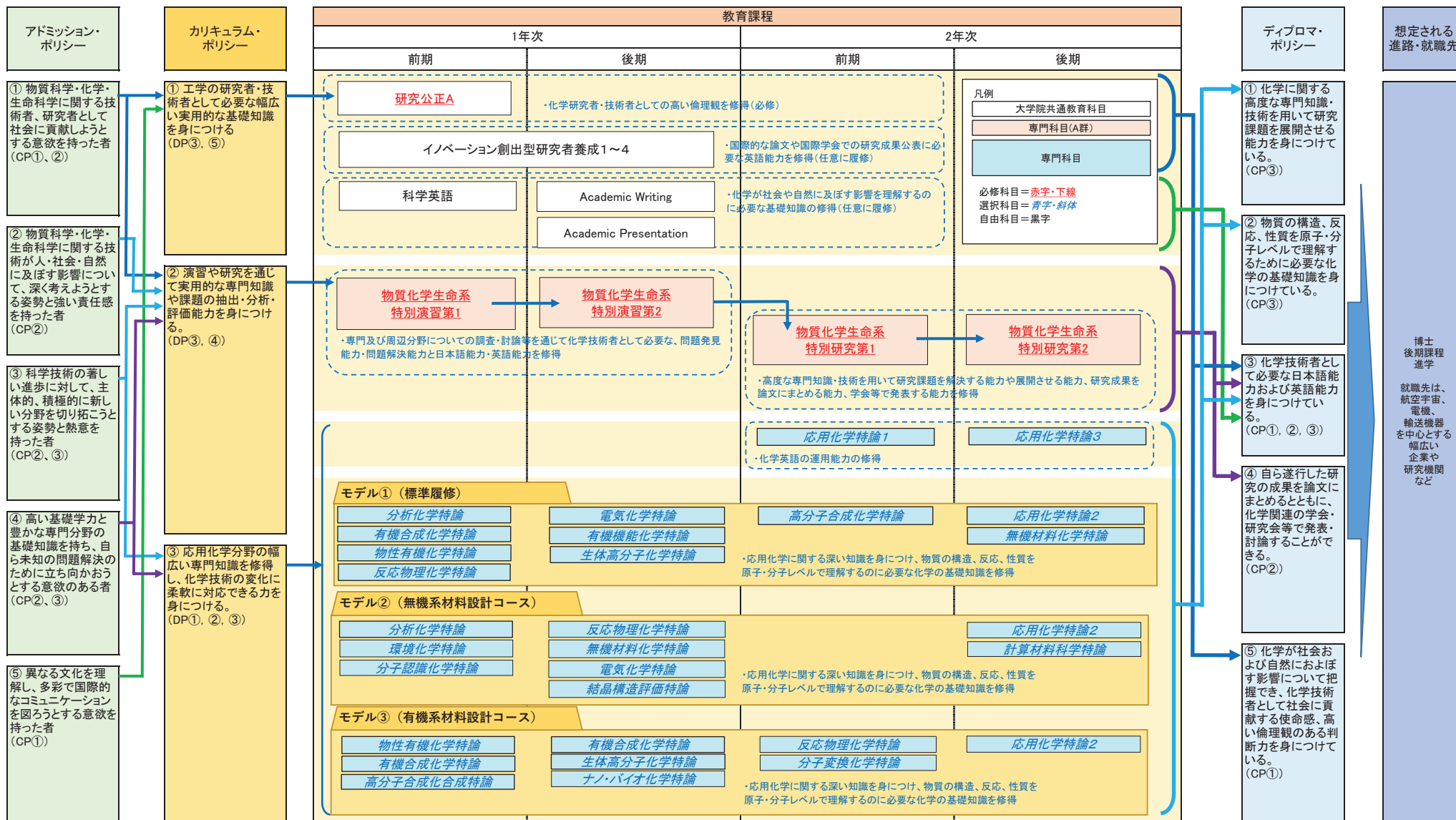
物質科学を基礎とする科学技術は我々の社会を支える基盤であり、サステナブルな社会の実現を加速するには、物理学、化学や生命科学に基づく新物質創製・新機能創出を強力に推進し、その成果を社会に還元する必要がある。また、理学、化学や生命科学などの基礎的な科学に精通し、物質科学の発展から新しい物質・材料を創出し、人類の持続的な発展に資する機能性の創出に貢献できる人材の育成・輩出が求められている。さらに近年は、新しい物質や新しい機能を付与した物質や製品の工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築を目指した先導的な研究を推進する優れた高度専門職業人・研究者の育成が必要となっている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、物質化学生命系専攻を設置する。さらに、応用化学分野では、基礎から応用に至るまで化学の幅広い知識と確かな技術、人類の平和と繁栄の観点から科学技術を俯瞰できるグローバルな視野、そして豊かな人間性と深遠な倫理観を併せ持つ活力のある化学技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

○ 新物質の創製や新機能の創出やそれに関する製品の工業化を目指す先端的かつ総合的な工学分野を開拓し、未来を担う人材を育成する

○ 基礎から応用に至るまで化学の学理を総合的に理解し、化学物質の分析、合成、および物性評価に関する幅広い知識と確かな技術を身につけるとともに、豊かな人間性と深遠な倫理観を併せもつ、知力と活力に満ちた化学技術者を養成する。



工学研究科 物質化学生命系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（化学工学分野）

【設置の趣旨・必要性】

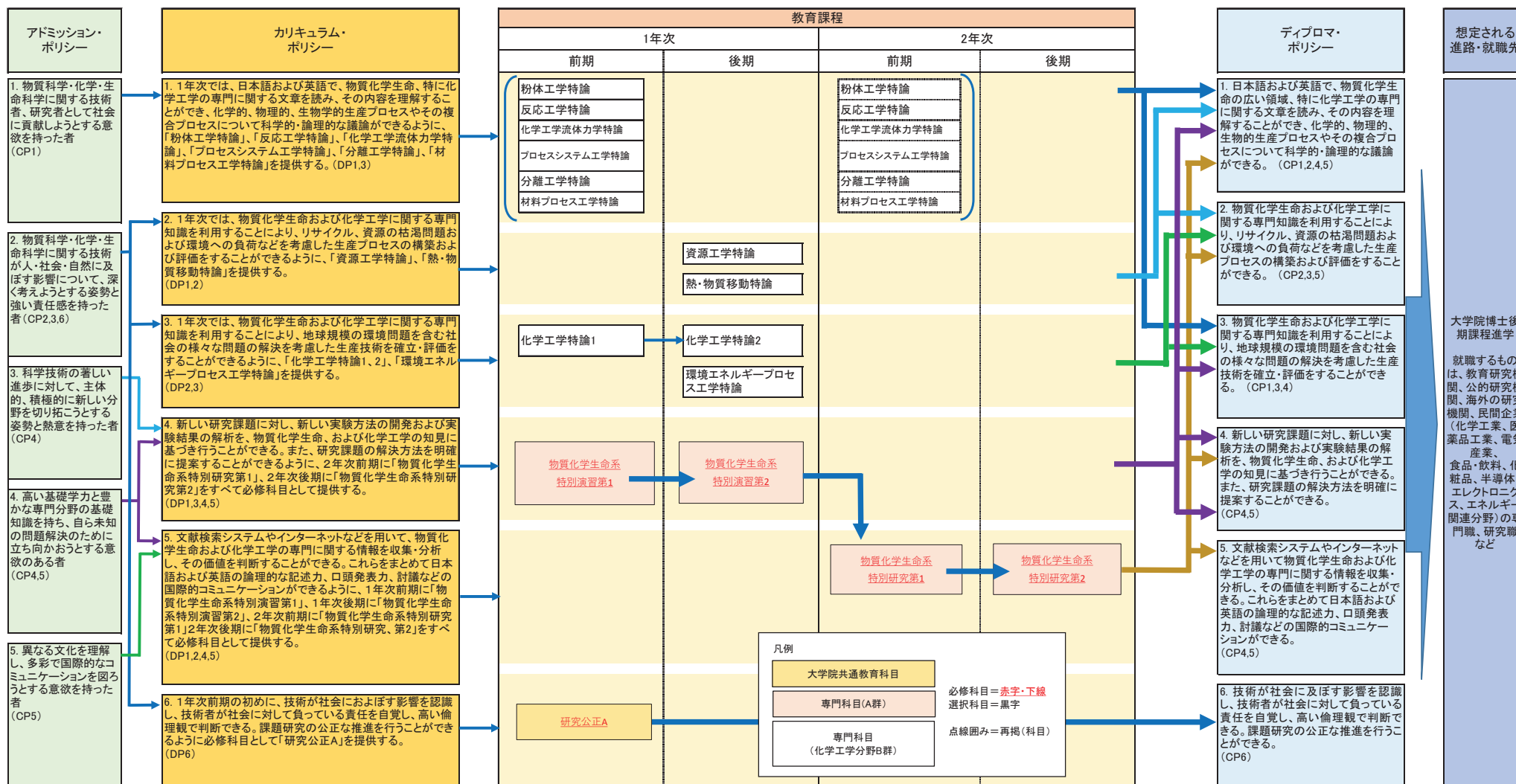
物質科学を基礎とする科学技術は我々の社会を支える基盤であり、サステナブルな社会の実現を加速するには、物理学、化学や生命科学に基づく新物質創製・新機能開発を強力に推進し、その成果を社会に還元する必要がある。また、理、学、化、学や生命科学などの基礎的な科学に精通し、物質科学の発展から新しい物質・材料を創出し、人類の永続的な発展に資する高度な化学的・生物学的な能力を有する人材の育成・輩出が求められている。さらに近年は、新しい物質や新しい機能を付与した物質や製品の工業生産のための新技術、新製品の創出、さらには資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築を目指した先導的な研究を推進する優れた高度専門職業人・研究者の育成が必要となる。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、物質化学生命系専攻を設置する。

さらに、化学工学分野では、資源循環を総合的に含む化学プロセスの構築を基本理念とした化学工学についての幅広い専門知識を習得し、それらを統合して循環型社会の要請に応え得る応用力を備え、また、広い視野と倫理観を持ち、国際的にも活躍できる化学技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

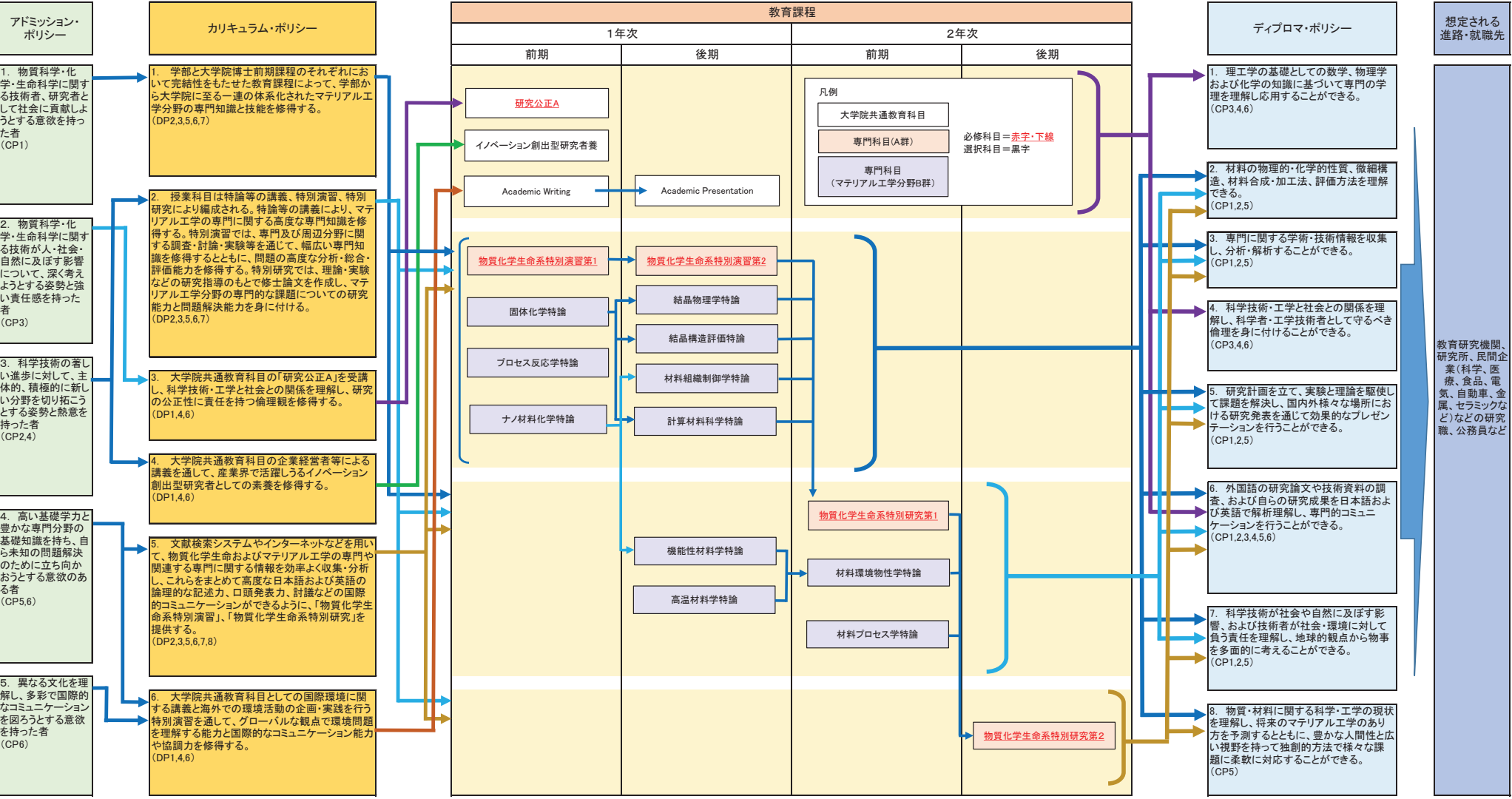
化学工学は、原料から化学工業製品を生産する各種プロセスの開発、設計および操作に関連する諸問題を対象として、種々のプロセスに共通な基礎理論とその応用を取り扱う学問として発達してきた。近年、各種プロセスの多様化、高度化および精密化が進む中で、化学工学の果たすべき役割が変わりつつあり、従来の大型志向からマイクロ化、また化学プロセスだけでなく生物や物理等にもわたる広領域化、理論の高度化、精密化など、様々な展開が図られている。また、人類社会の持続的発展のためには、地球環境に配慮しつつ、限りある資源を有効かつ循環的に利用すること不可欠となる。化学工学分野では、このような状況下においては、従来の単位操作を中心とした化学工学の教育と研究を、一段と基礎を重視し、幅広く深い教育分野・領域を包含する、高度な教育・研究体制を整備する。そのもとで、化学工学を中心とした高度な専門知識、専門技能と、論理性、創造性と、豊かな人間性、倫理観を持ち、地域から地球規模までの化学工学における重要な課題を、材料からシステム、環境、エネルギーまで、原子・分子レベルのナノ・マイクロスケールから社会の macroscale まで多角的に認識・考察して、人にも環境にも優しい循環型社会を可能にする各種生産プロセスや環境保全プロセスの構築に貢献できる優れた技術者・研究者を育成することと、広い視野と倫理観を持ち、国際的に活躍できる人材の育成を目指す。



工学研究科 物質化学生命系専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ(マテリアル工学分野)

【設置の趣旨・必要性】
物質科学を基礎とする科学技術は我々の社会を支える基盤であり、サステナブルな社会の実現を加速するには、物理学、化学や生命科学に基づく新物質創製・新機能創出を強力に推進し、その成果を社会に還元する必要がある。また、理学、化学や生命科学などの基礎的な科学に精通し、物質科学の発展から新しい物質・材料を創出し、人類の持続的な発展に資する機能性の創出に貢献できる人材の育成・輩出が求められている。さらに近年は、新しい物質や新しい機能を付与した物質や製品の工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築を目指した先導的な研究を推進する優れた高度専門職業人・研究者の育成が必要となっている。
このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、物質化学生命系専攻を設置する。
さらに、マテリアル工学分野では、日々の暮らしを守り豊かにする材料の性能を探索し、新材料を電子・原子・分子のレベルで設計し、創造する技術を担うことを目的とするとともに、これらを担う人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】
マテリアル工学分野では、材料の科学と工学の基礎概念と学理を深く理解し、科学的基礎に基づいたものづくりに必要な材料設計理論、素材の合成技術、組織観察技術、物性や構造の評価解析技術を高度に身につけた、社会の高度化を担う国際性豊かな創造力溢れる人材を育成する。



工学研究科 物質化学生命系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ（化学バイオ工学分野）

【設置の趣旨・必要性】

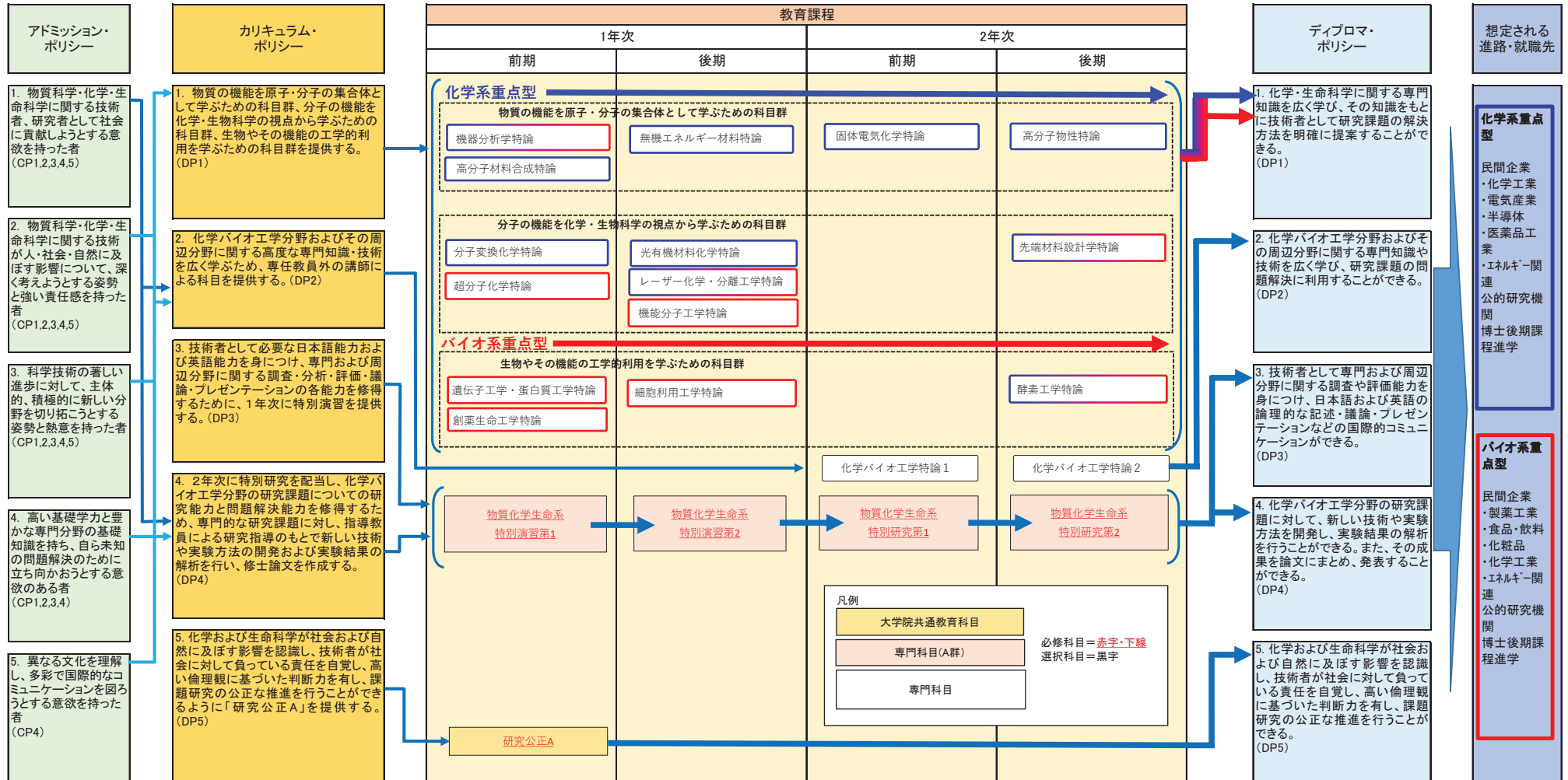
物質科学を基礎とする科学技術は我々の社会を支える基盤であり、サステナブルな社会の実現を加速するには、物理学、化学や生命科学に基づく新物質創製・新機能創出を強力に推進し、その成果を社会に還元する必要がある。また、理学、化学や生命科学などの基礎的な科学に精通し、物質科学の発展から新しい物質・材料を創出し、人類の持続的な発展に資する機能性の創出に貢献できる人材の育成・輩出が求められている。さらに近年は、新しい物質や新しい機能を付与した物質や製品の工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築を目指した先導的な研究を推進する優れた高度専門職業人・研究者の育成が必要となっている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、物質化学生命系専攻を設置する。

さらに、化学バイオ工学分野では、従来の化学技術に加え、20 世紀後半に急速に発達してきたバイオテクノロジーを基に環境調和型の「ものづくり」に挑戦し、「ものづくり」を通じて持続的な発展と地球環境保全が両立した豊かで安全な社会の構築に貢献する人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

化学バイオ工学分野では、化学の原理や方法に基づいた原子や分子の世界から生活に欠かせない物質や材料を創り出す領域と複雑な生体分子や細胞機能に基づいた先端バイオ技術を創造する領域が融合し、化学・食品・医療・材料・環境・エネルギーなどの分野で研究を通して高度な技術を身につけ、化学とバイオ工学の双方の立場から総合的に洞察し、自ら適切に判断できる高度な専門技術者・研究者を養成する。



工学研究科 物質化学生命系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ（応用化学分野）

【設置の趣旨・必要性】

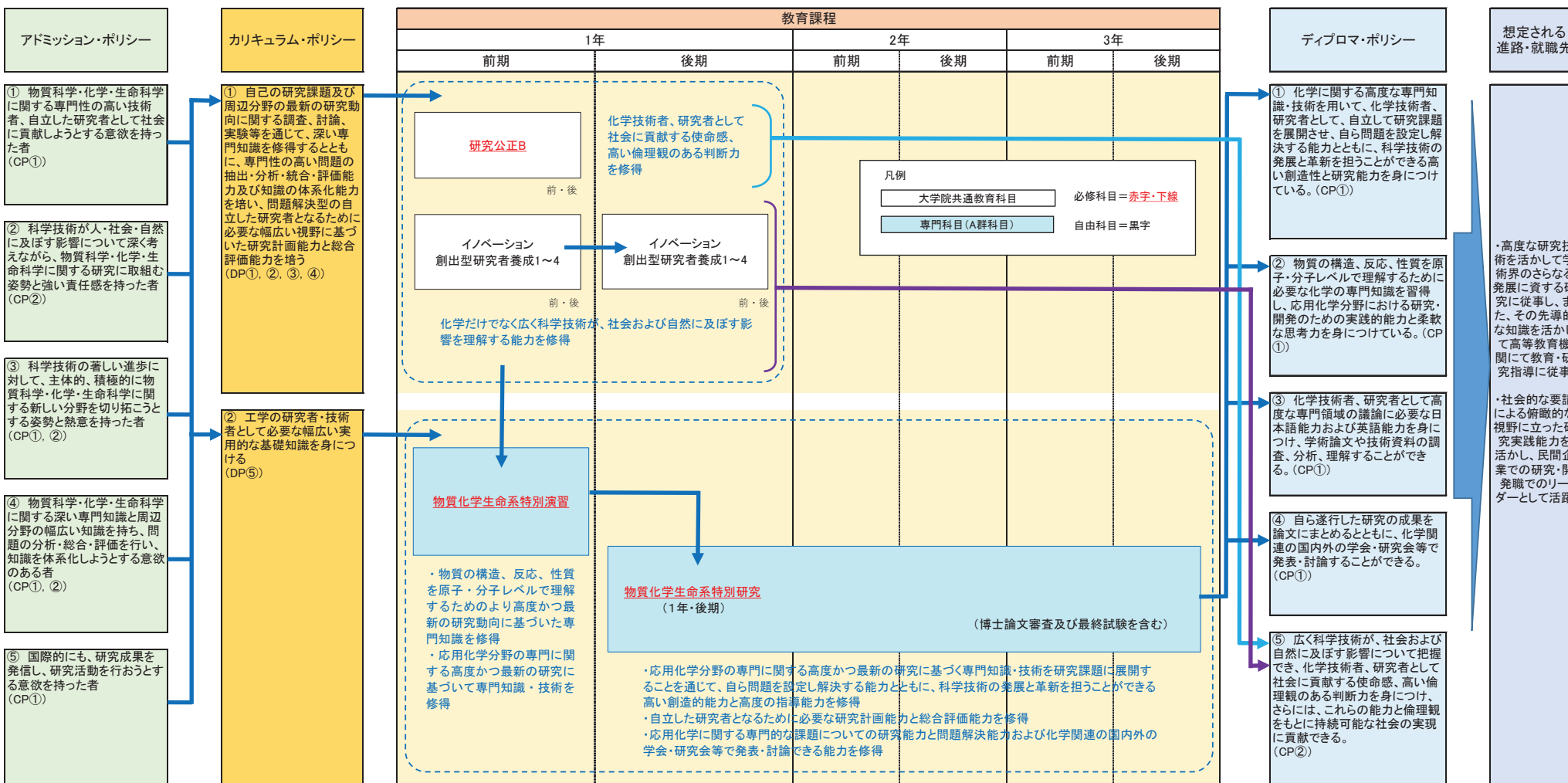
物質科学を基礎とする科学技術は我々の社会を支える基盤であり、サステナブルな社会の実現を加速するには、物理学、化学や生命科学に基づく新物質創製・新機能創出を強力に推進し、その成果を社会に還元する必要がある。また、理学、化学や生命科学などの基礎的な科学に精通し、物質科学の発展から新しい物質・材料を創出し、人類の持続的な発展に資する機能性の創出に貢献できる人材の育成・輩出が求められている。さらに近年は、新しい物質や新しい機能を付与した物質や製品の工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築を目指した先導的な研究を推進する優れた高度専門職業人・研究者の育成が必要となっている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、物質化学生命系専攻を設置する。さらに、応用化学分野では、基礎から応用に至るまで化学の幅広い知識と確かな技術、人類の平和と繁栄の観点から科学技術を俯瞰できるグローバルな視野、そして豊かな人間性と深遠な倫理観を併せ持つ活力のある化学技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

○ 新物質の創製や新機能の創出やそれらに関する製品の工業化を目指す先端的かつ総合的な工学分野を開拓し、未来を担う人材を育成する

○ 基礎から応用に至るまで化学の学理を総合的に理解し、化学物質の分析、合成、および物性評価に関する幅広い知識と確かな技術を身につけるとともに、豊かな人間性と深遠な倫理観を併せ持つ、知力と活力に満ちた化学技術者を養成する。



工学研究科 物質化学生命系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ（化学工学分野）

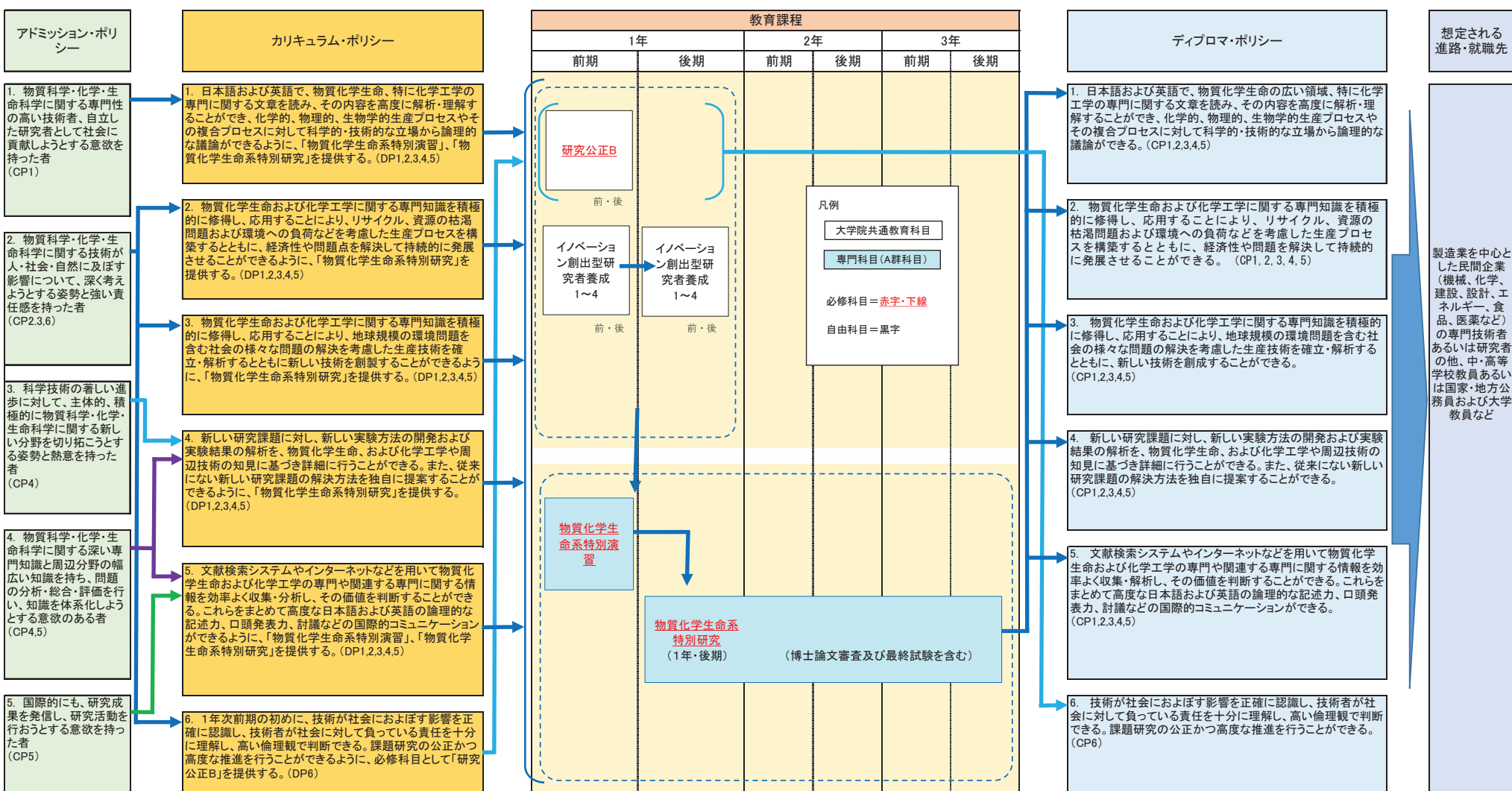
【設置の趣旨・必要性】

物質科学を基礎とする科学技術は我々の社会を支える基盤であり、サステナブルな社会の実現を加速するには、物理学、化学や生命科学に基づく新物質創製・新機能創出を強力に推進し、その成果を社会に還元する必要がある。また、理学、化学や生命科学などの基礎的な科学に精通し、物質科学の発展から新しい物質・材料を創出し、人類の持続的な発展に資する機能性の創出に貢献できる人材の育成・輩出が求められている。さらに近年は、新しい物質や新しい機能を付与した物質や製品の工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築を目指した先進的な研究を推進する優れた高度専門職業人・研究者の育成が必要となっている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、物質化学生命系専攻を設置する。さらに、化学工学分野では、資源循環を総合的に含む化学プロセスの構築を基本理念とした化学工学についての幅広い専門知識を習得し、それらを統合して循環型社会の要請に応え得る応用力を備え、また、広い視野と倫理観を持ち、国際的にも活躍できる化学技術者・研究者を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

化学工学は、原料から化学工業製品を生産する各種プロセスの開発、設計および操作に関連する諸問題を対象として、種々のプロセスに共通な基礎理論とその応用とを取り扱う学問として発達してきた。近年、各種プロセスの多様化、高度化および精密化が進む中で、化学工学の果たすべき役割が変わりつつあり、従来の大型志向からマイクロ化、また化学だけでなく生物や物理等にわたる広領域化、理論の高度化、精密化など、様々な展開が図られている。また、人類社会の持続的発展のためには、地球環境に配慮しつつ、限りある資源を有効かつ循環的に利用することが不可欠となる。化学工学分野では、このような状況下においては、従来の単位操作を中心とした化学工学の教育と研究を、一段と基礎を重視し、幅広く奥深い教育分野、領域を包含する、高度な教育・研究体制を整備する。そのもとで、化学工学を中心とした高度な専門知識、専門技能と、論理性、創造性と、豊かな人間性、倫理観を持ち、地域から地球規模までの化学工学における重要な課題を、材料からシステム、環境、エネルギーまで、原子・分子レベルのナノ・マイクロスケールから社会の macroscale まで多角的に認識・考察して、人にも環境にも優しい循環型社会を可能にする各種生産プロセスや環境保全プロセスの構築に貢献できる優れた技術者・研究者を育成すること、広い視野と倫理観を持ち、国際的に活躍できる人材の育成を目指す。



工学研究科 物質化学生命系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ（マテリアル工学分野）

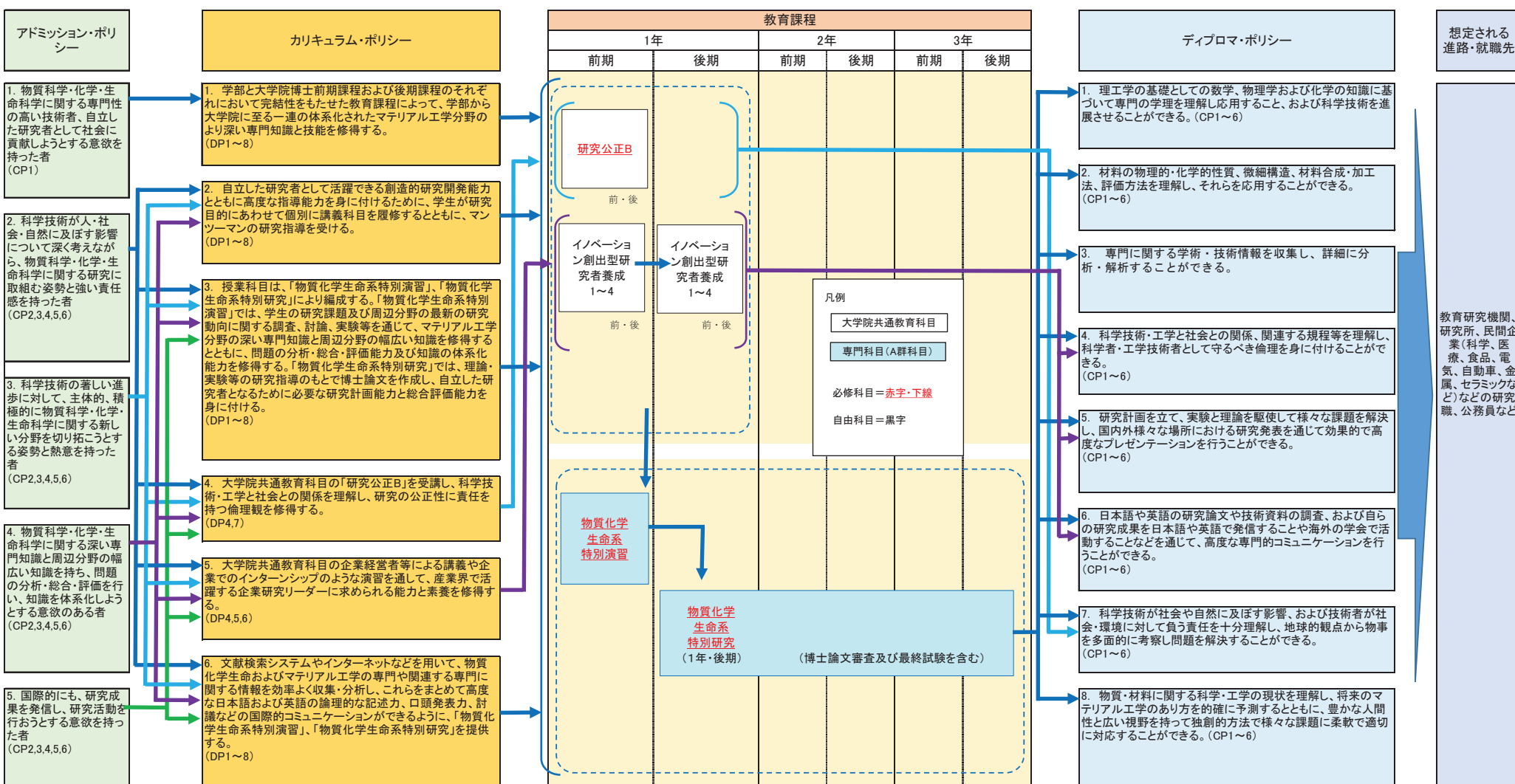
【設置の趣旨・必要性】

物質科学を基礎とする科学技術は我々の社会を支える基盤であり、サステナブルな社会の実現を加速するには、物理学、化学や生命科学に基づく新物質創製・新機能創出を強力に推進し、その成果を社会に還元する必要がある。また、理学、化学や生命科学などの基礎的な科学に精通し、物質科学の発展から新しい物質・材料を創出し、人類の持続的な発展に資する機能性の創出に貢献できる人材の育成・輩出が求められている。さらに近年は、新しい物質や新しい機能を付与した物質や製品の工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築を目指した先導的な研究を推進する優れた高度専門職業人・研究者の育成が必要となっている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、物質化学生命系専攻を設置する。さらに、マテリアル工学分野では、日々の暮らしを守り豊かにする材料の性能を探索し、新材料を電子・原子・分子のレベルで設計し、創造する技術を担うことを目的とするとともに、これらを担う人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

マテリアル工学分野では、材料の科学と工学の基礎概念と学理を深く理解し、科学的基礎に基づいたものづくりに必要な材料設計理論、素材の合成技術、組織観察技術、物性や構造の評価解析技術を高度に身につけた、社会の高度化を担う国際性豊かな創造力溢れる人材を育成する。



工学研究科 物質化学生命系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ（化学バイオ工学分野）

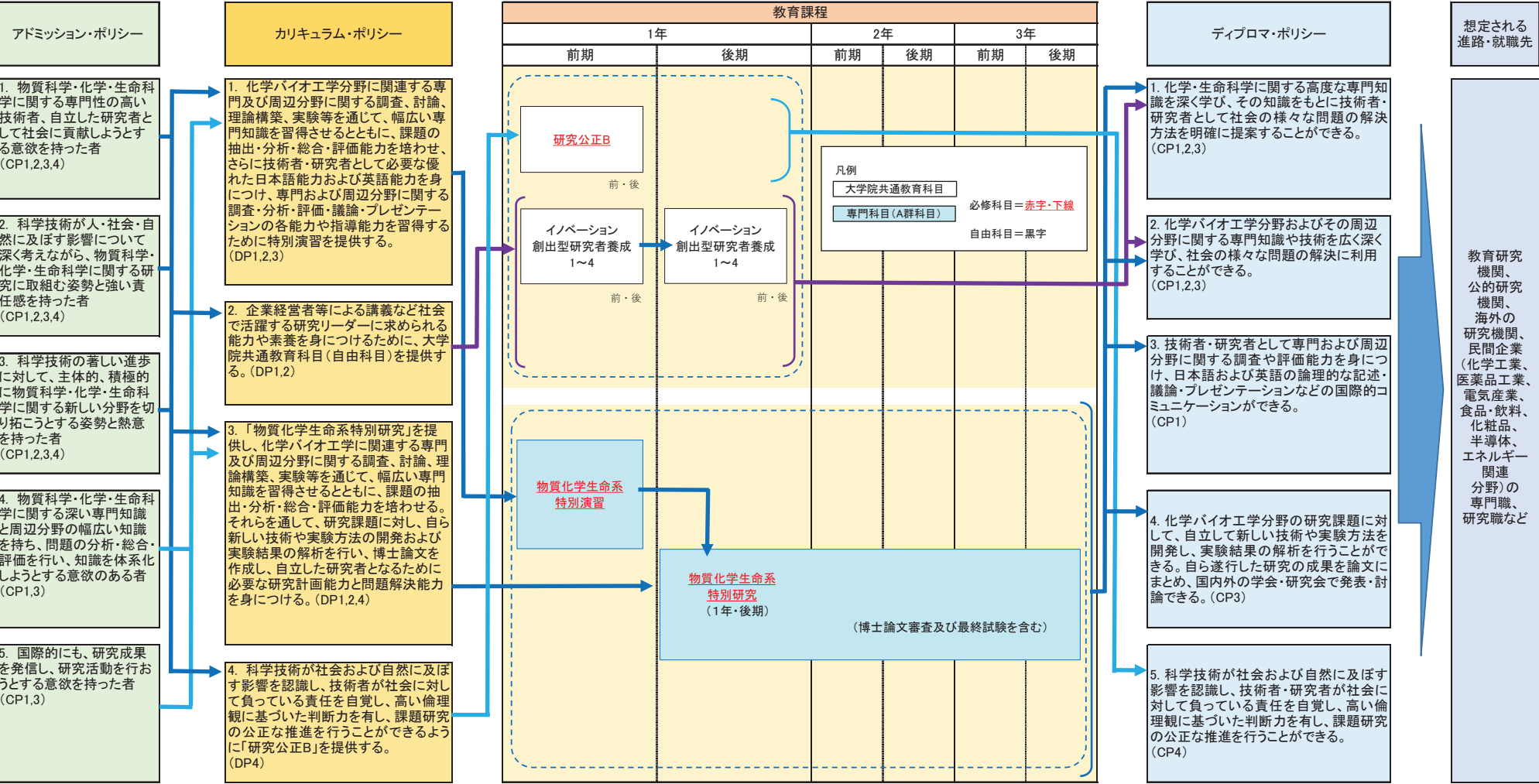
【設置の趣旨・必要性】

物質科学を基礎とする科学技術は我々の社会を支える基盤であり、サステナブルな社会の実現を加速するには、物理学、化学や生命科学に基づく新物質創製・新機能創出を強力に推進し、その成果を社会に還元する必要がある。また、理学、化学や生命科学などの基礎的な科学に精通し、物質科学の発展から新しい物質・材料を創出し、人類の持続的な発展に資する機能性の創出に貢献できる人材の育成・輩出が求められている。さらに近年は、新しい物質や新しい機能を付与した物質や製品の工業生産のための新技術、新概念の創出、さらに資源循環を総合的に含む生産プロセスの構築を目指した先導的な研究を推進する優れた高度専門職業人・研究者の育成が必要となっている。

このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、物質化学生命系専攻を設置する。さらに、化学バイオ工学分野では、従来の化学技術に加え、20 世紀後半に急速に発達してきたバイオテクノロジーを基に環境調和型の「ものづくり」に挑戦し、「ものづくり」を通じて持続的な発展と地球環境保全が両立した豊かで安全な社会の構築に貢献する人材を育成し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

化学バイオ工学分野では、化学の原理や方法に基づいた原子や分子の世界から生活に欠かせない物質や材料を創り出す領域と複雑な生体分子や細胞機能に基づいた先端バイオ技術を創造する領域が融合し、化学・食品・医療・材料・環境・エネルギーなどの分野で研究を通して高度な技術を身につけ、化学とバイオ工学の双方の立場から総合的に洞察し、自ら適切に判断できる高度な専門技術者・研究者を養成する。



工学研究科 量子放射線系専攻（博士前期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

近年、放射線利用は非破壊検査などの工業分野、がん治療などの医療分野、品種改良等の農業分野等広く利用されている。また、原子力発電所の将来などに関して、わが国においても今後も継続的に高度な原子力や放射線の安全取扱いの技術を継承していかなければならないが、全国的に見ても放射線を専門に取り扱う大学院は極めて少ない現状である。

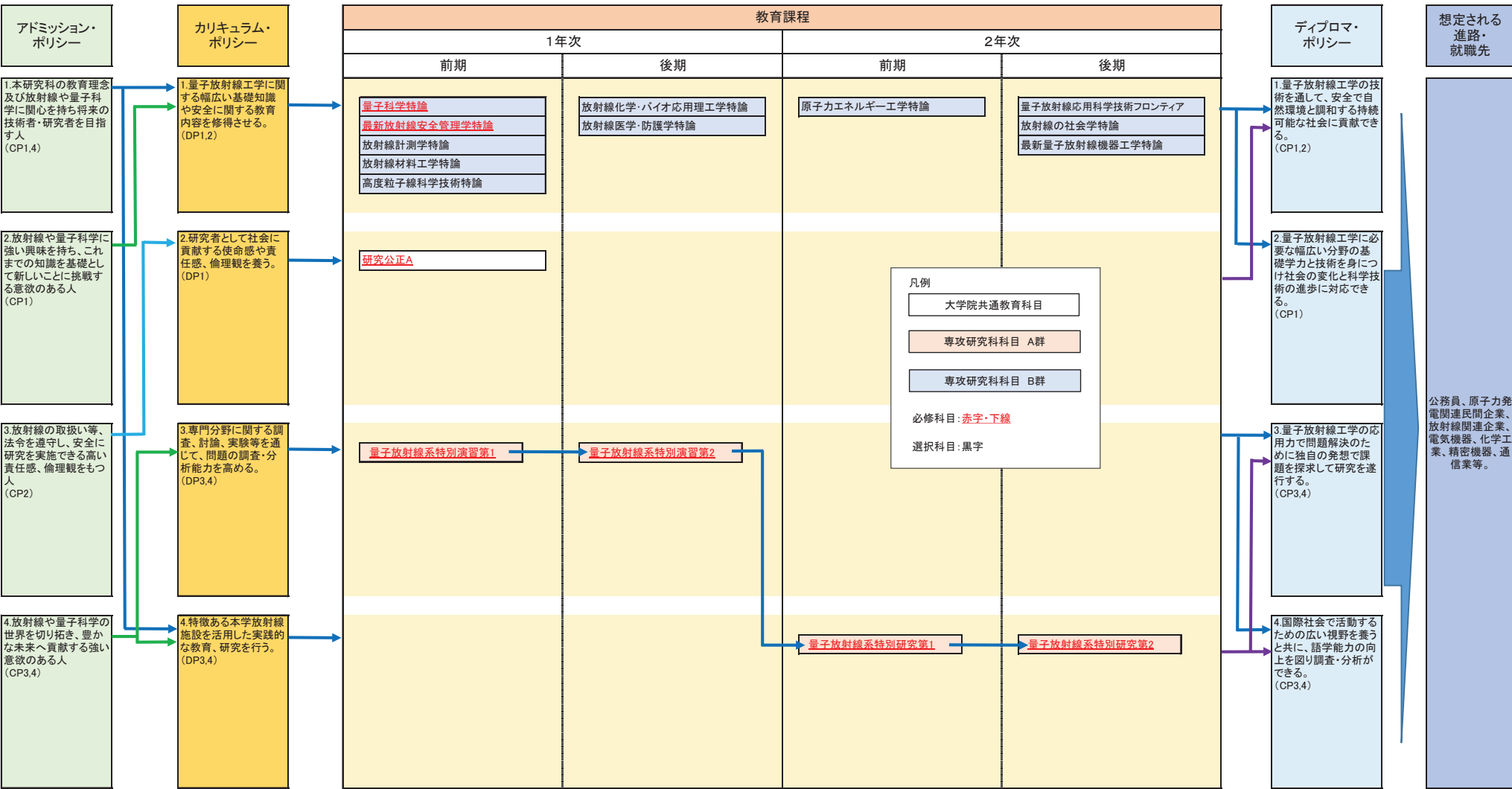
このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、量子放射線系専攻を設置する。量子放射線系専攻専攻は、次世代の放射線や量子ビームに関連した基礎ならびに応用研究に加え安全な取扱いのための教育を行い専門教育者、技術者の育成を目指し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

○ 量子ビーム、放射線の広い応用分野を視野に、環境調和型科学技術である特徴も活かして持続可能な社会の発展と安全を基本とする文化の創造に貢献する人。

○ 量子放射線の性質や特性について幅広い基礎学力を修得し、安全で有効に社会へ活用できる正しい知識と適切な技術力を有する人。

○ 量子放射線の高度な知識を深め、幅広い視野をもって主体的に研究を遂行する能力と知的資産を創造する能力を有する人。



工学研究科 量子放射線系専攻（博士後期課程）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

近年、放射線利用は非破壊検査などの工業分野、がん治療などの医療分野、品種改良等の農業分野等広く利用されている。また、原子力発電所の将来などに関して、わが国においても今後も継続的により高度な原子力や放射線の安全取扱いの技術を継承していかなければならないが、全国的に見ても放射線を専門に取り扱う大学院は極めて少ない現状である。

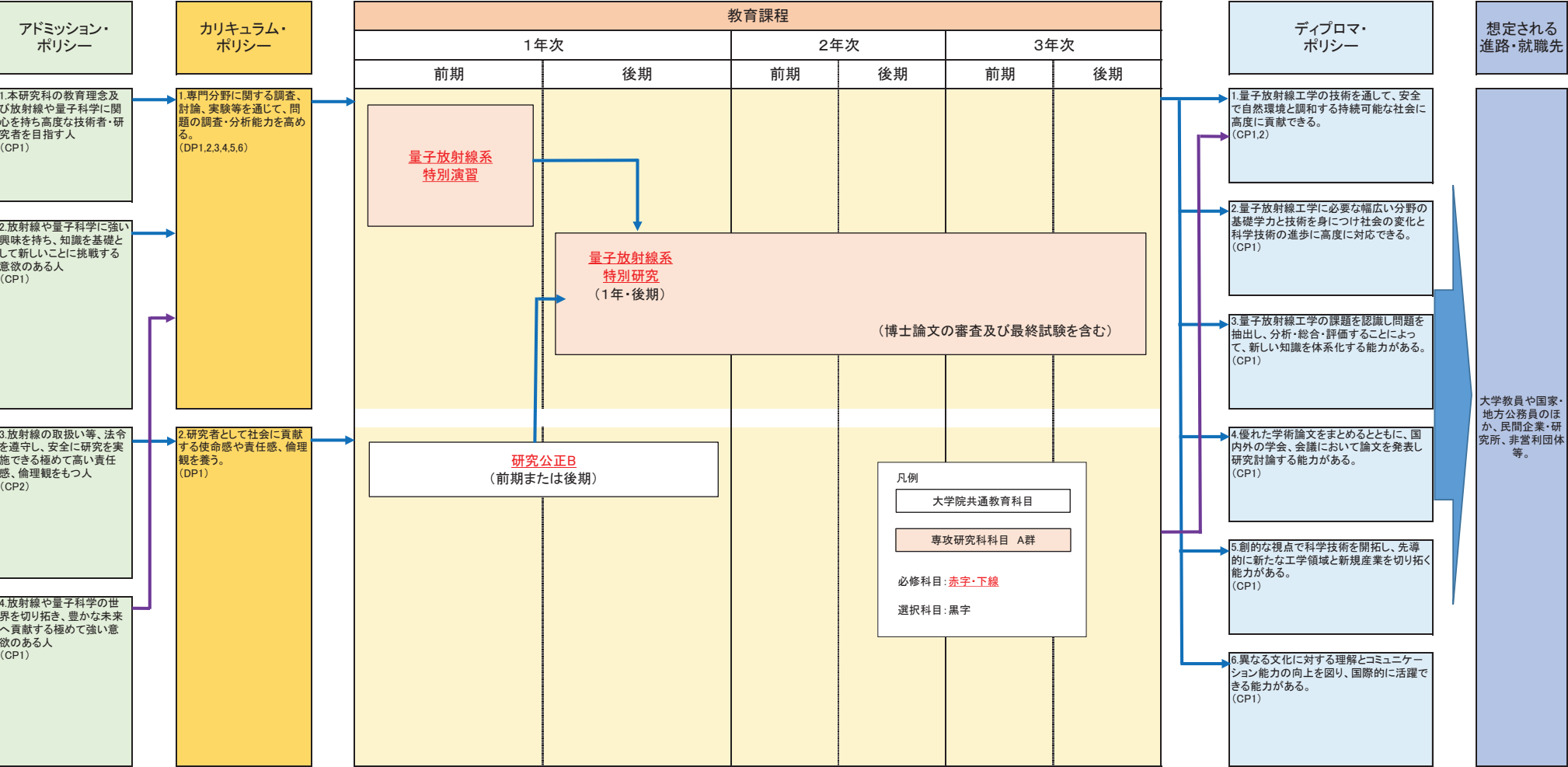
このため、大阪公立大学大学院 工学研究科では、これまでの教育研究組織の資源と実績を承継し、量子放射線系専攻を設置する。量子放射線系専攻専攻は、次世代の放射線や量子ビームに関連した基礎ならびに応用研究に加え安全な取扱いのための教育を行い専門教育者、技術者の育成を目指し、社会に貢献する。

【養成する人材像】

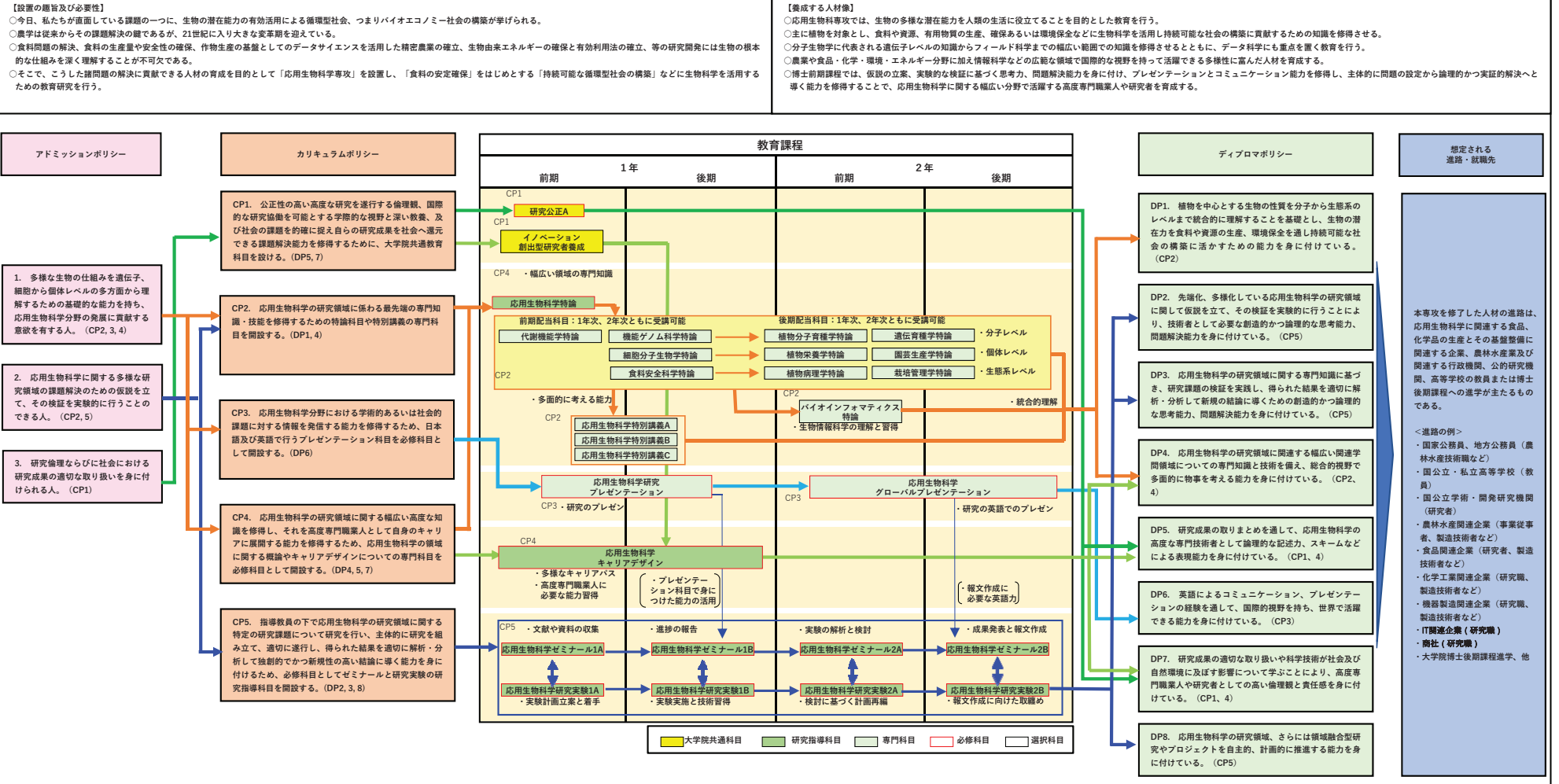
○ 量子ビーム、放射線の広い応用分野を視野に、環境調和型科学技術である特徴も活かして持続可能な社会の発展と安全を基本とする文化の創造に貢献する人。

○ 量子放射線の性質や特性について幅広い基礎学力を修得し、安全で有効に社会へ活用できる正しい知識と適切な技術力を有する人。

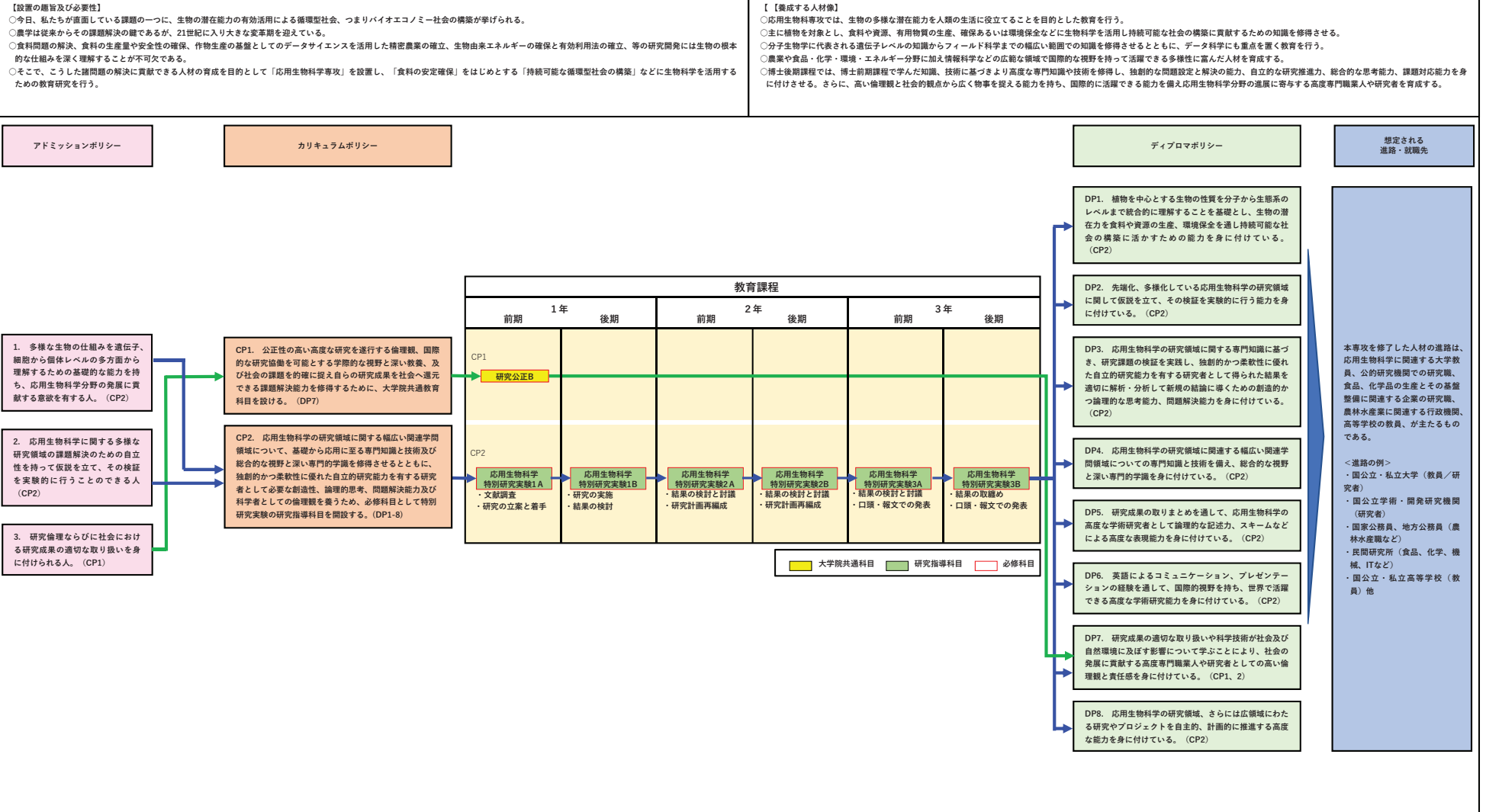
○ 量子放射線の高度な知識を深め、幅広い視野をもって主体的に研究を遂行する能力と知的資産を創造する能力を有する人。



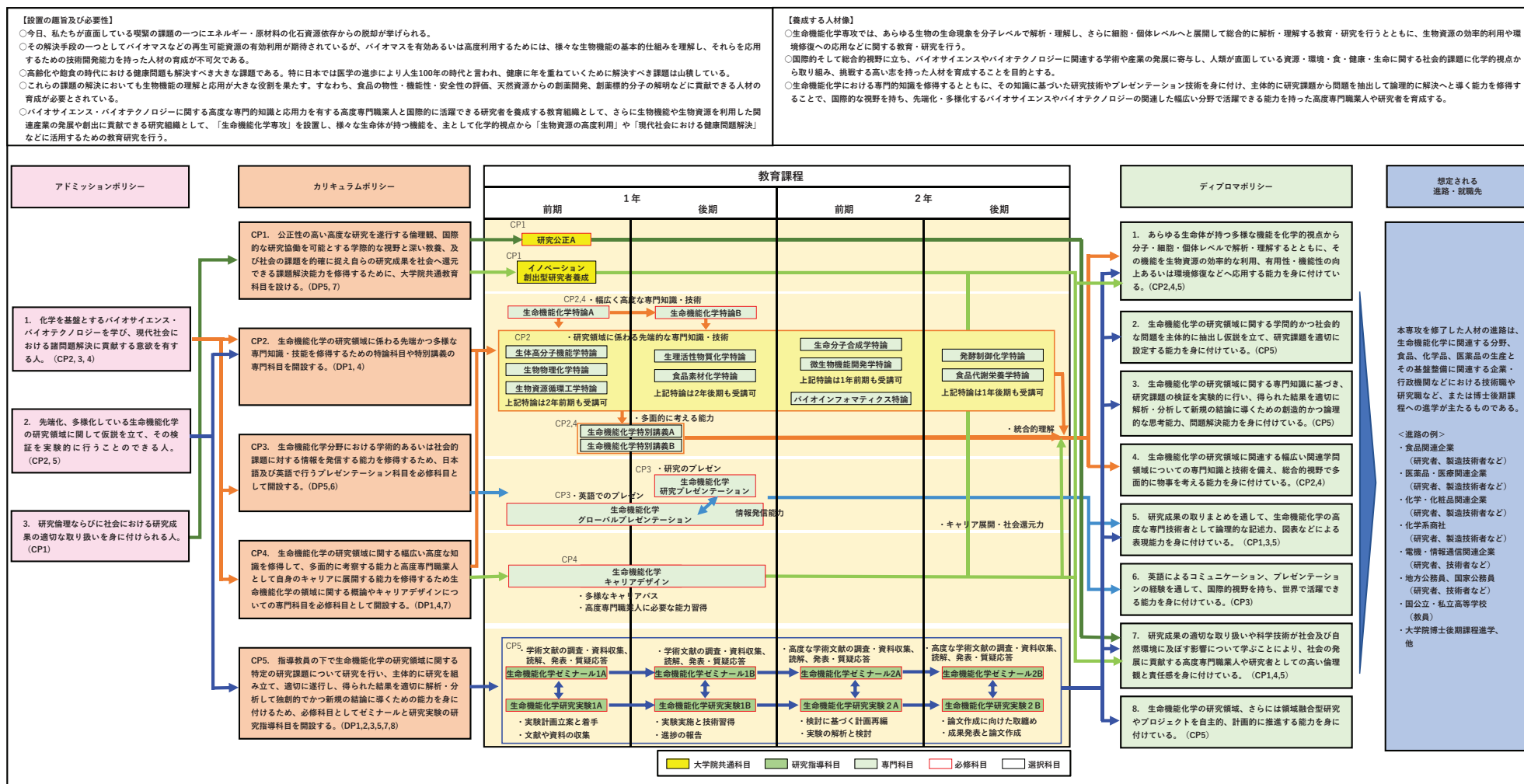
農学研究科 応用生物科学専攻 博士前期課程 カリキュラムマップ



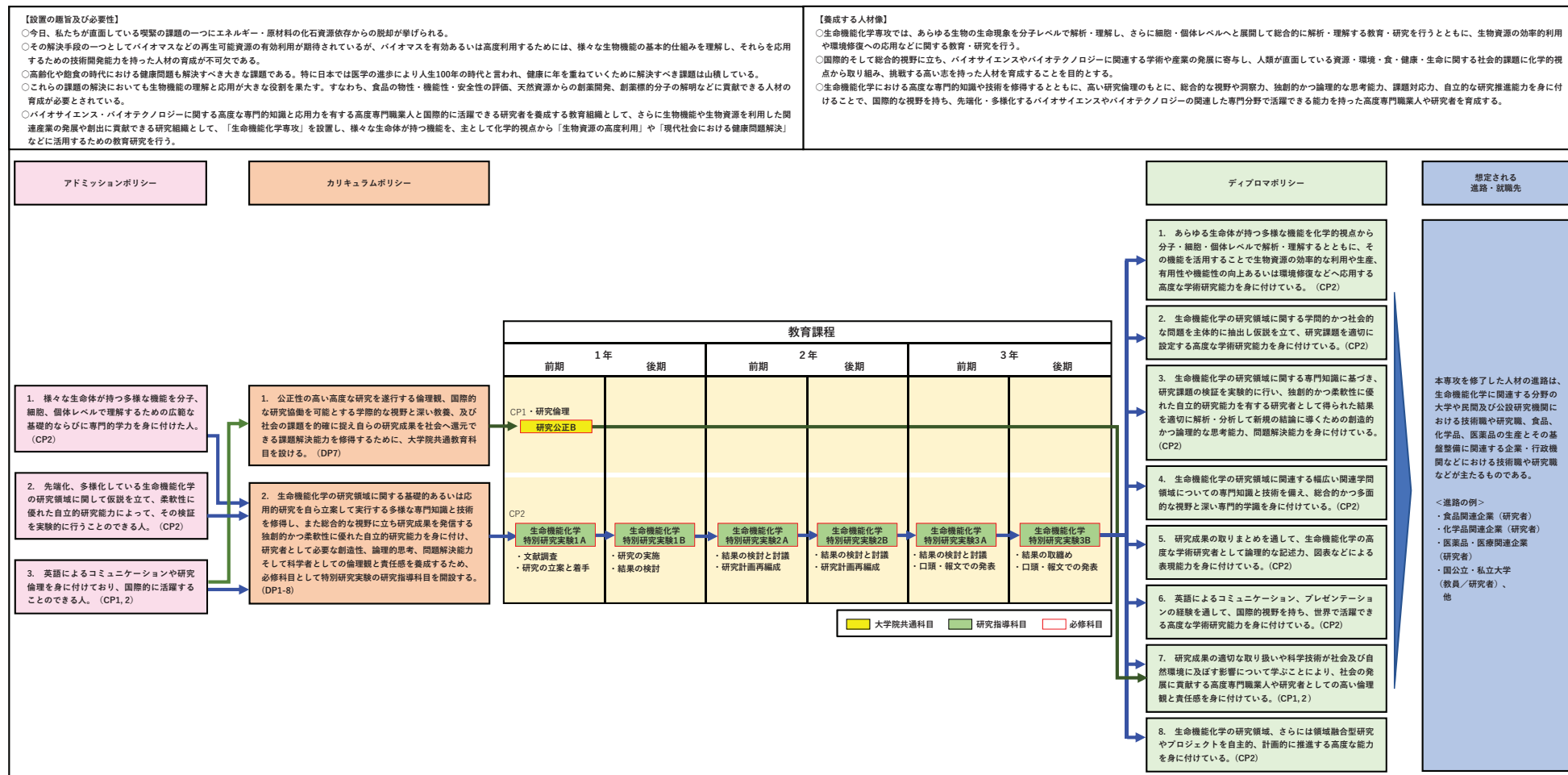
農学研究科 応用生物科学専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ



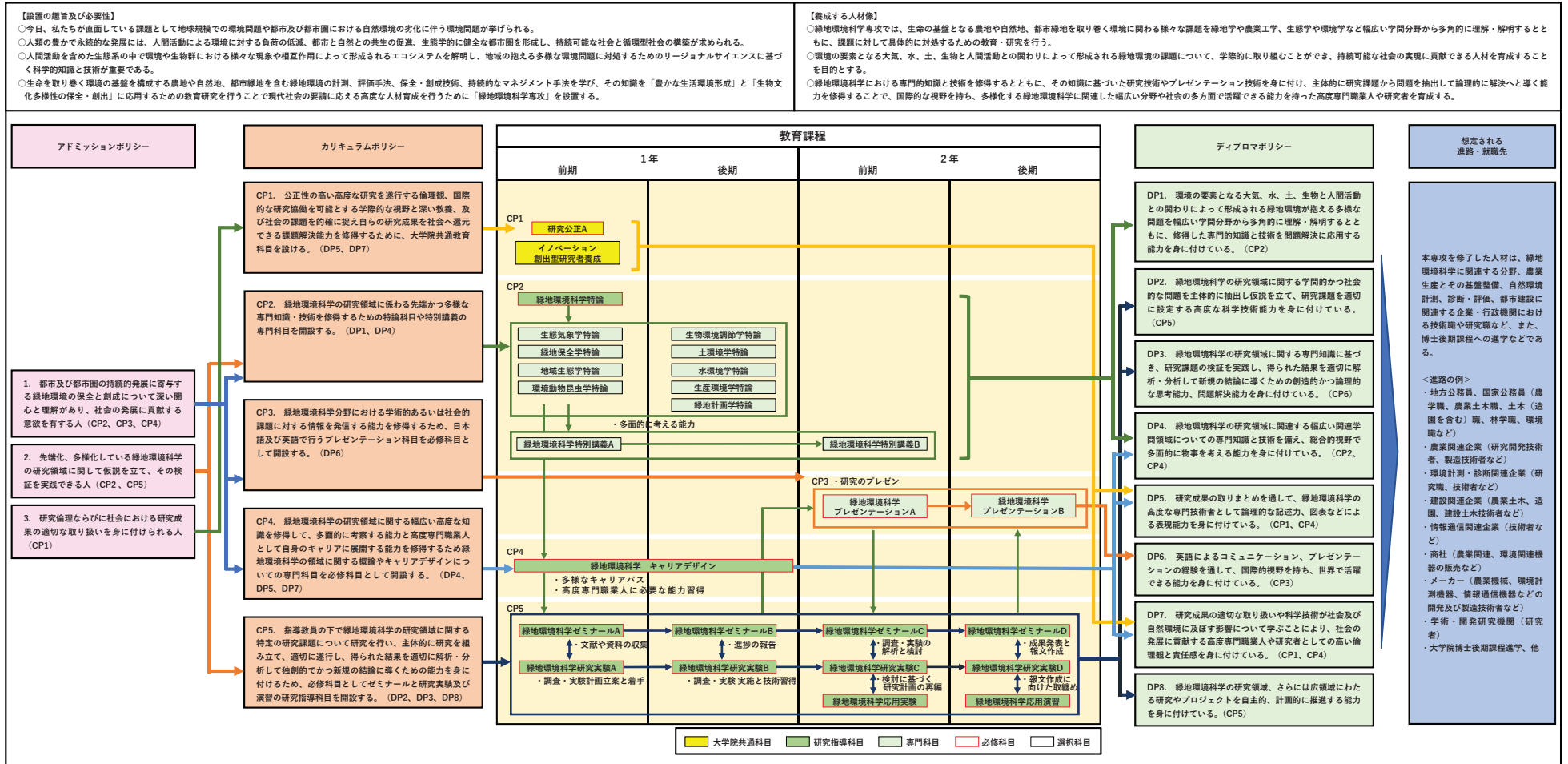
農学研究科 生命機能化学専攻 博士前期課程 カリキュラムマップ



農学研究科 生命機能化学専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ



農学研究科 緑地環境科専攻 博士前期課程 カリキュラムマップ



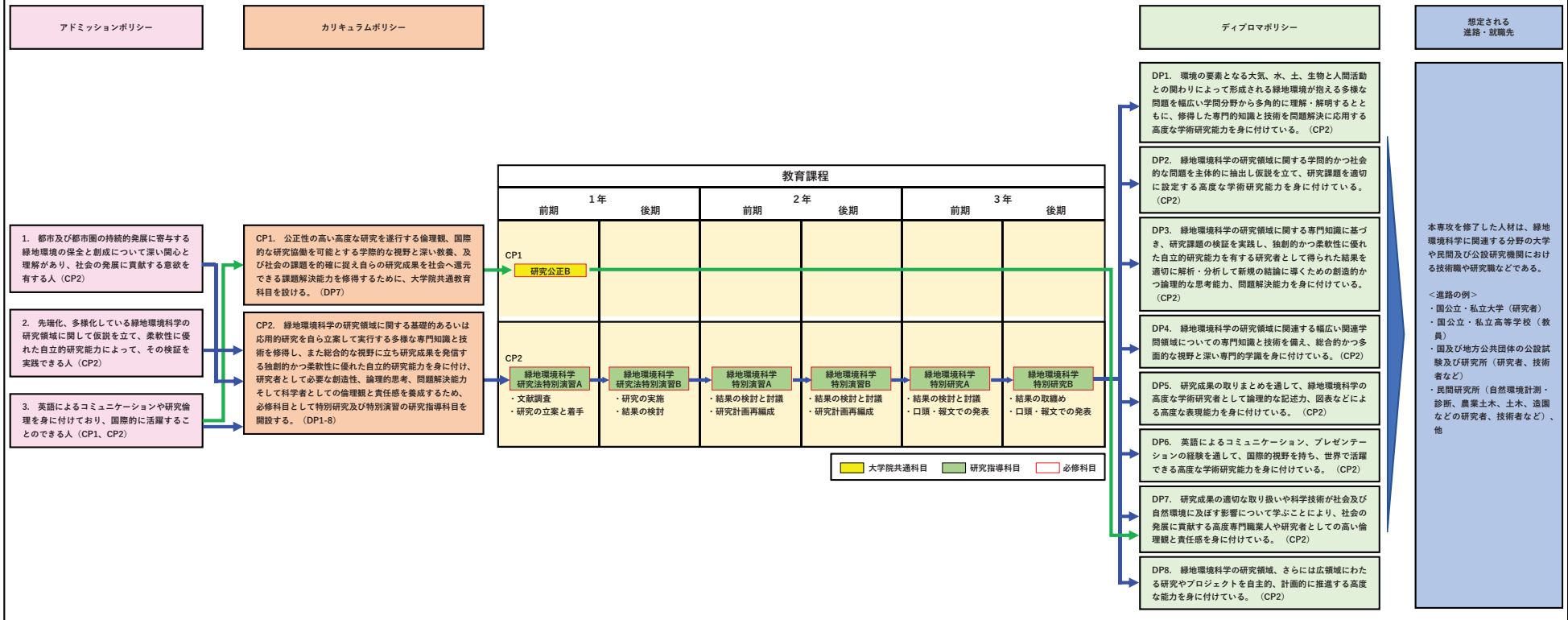
農学研究科 緑地環境科専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ

【設置の趣旨及び必要性】

- 今日、私たちが直面している課題として地球規模での環境問題や都市及び都市圏における自然環境の変化に伴う環境問題が挙げられる。
- 人類の豊かで持続的な発展には、人間活動による環境に対する負荷の低減、都市と自然との共生の促進、生態学的に健全な都市圏を形成し、持続可能な社会と循環型社会の構築が求められる。
- 人間活動を含めた生態系の中で環境や生物群における様々な現象や相互作用によって形成されるエコシステムを解明し、地域の抱える多様な環境問題に対処するためのリージョナルサイエンスに基づく科学的知識と技術が重要である。
- 生命を取り巻く環境の基盤を構成する農地や自然地、都市緑地を含む緑地環境の計測、評価手法、保全・創成技術、持続的なマネジメント手法を学び、その知識を「豊かな生活環境形成」と「生物文化多様性の保全・創出」に応用するための教育研究を行うことで現代社会の要請に応える高度な人材育成を行うために「緑地環境科学専攻」を設置する。

【養成する人材像】

- 緑地環境科学専攻では、生命の基盤となる農地や自然地、都市緑地を取り巻く環境に関わる様々な課題を緑地学や農業工学、生態学や環境学など幅広い学問分野から多角的に理解・説明するとともに、課題に対して具体的に対処するための教育・研究を行う。
- 環境の要素となる大気、水、土、生物と人間活動との関わりによって形成される緑地環境の課題について、学際的に取り組むことができ、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的とする。
- 緑地環境科学における高度な専門的知識や技術を修得するとともに、高い研究倫理のもとに、総合的な視野や洞察力、独創的かつ論理的な思考能力、課題対応力、自立的な研究推進能力を身に付けることで、国際的な視野を持ち、多様化する緑地環境科学に関連した専門分野で活躍できる能力を持った高度専門職業人や研究者を育成する。



獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程（動物構造機能学コース）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

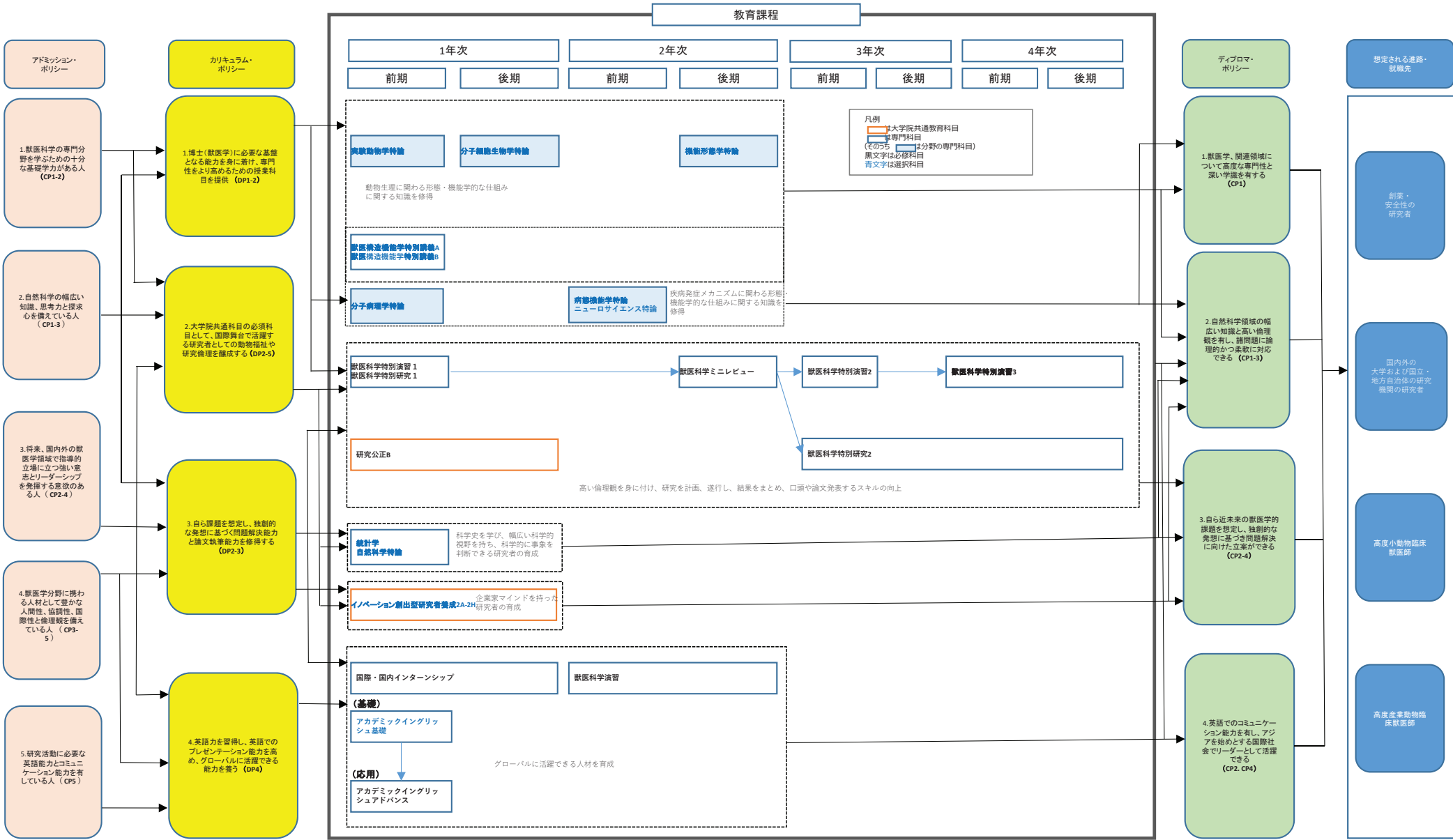
○様々なストレスにあふれる現代社会において、動物が伴侶動物として家族の一員となるに伴い、動物医療の高度化が求められている。

○国際交流の活性化に伴うヒトや動物の移動と物流の増大に起因する新興・再興感染症や人獣共通感染症の脅威、食用動物の多頭飼育に基づく動物由来感染症の増大、バイオテクノロジーを用いた畜産物の生産性の効率化や新薬の開発、またそれら食品・医薬品の安全性評価など地域社会の福祉や安全性にかかわる多様な問題が顕在化している。

○ヒト、動物及び環境の健康と健全は3者が相まって初めて成立するというOne Health の概念が提唱され、獣医学への期待は益々高まる中、獣医学領域を取り巻くこれら諸問題に取り組み、解決できる世界に通用する高度専門家・研究者・教育者の養成が社会から求められているため獣医学研究科を設置する。

【養成する人材像】

本研究科では、動物医療を中心とし、動物生命科学から食の安全や人獣共通感染症等、いわゆる公衆衛生分野まで包含する学際的な研究・教育を行い、社会的要請が増加している動物バイオメディカル関連、食の安全及び人獣共通感染症を含めた獣医公衆衛生及び動物衛生、病態動物の診断・治療・予防などの分野において、幅広い視野と深い洞察力、及び高い倫理観を持ち、独自の指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成することを目指す。特に、動物構造機能学コースでは、産業界やアカデミアで求められる高度研究者を養成することを目指している。



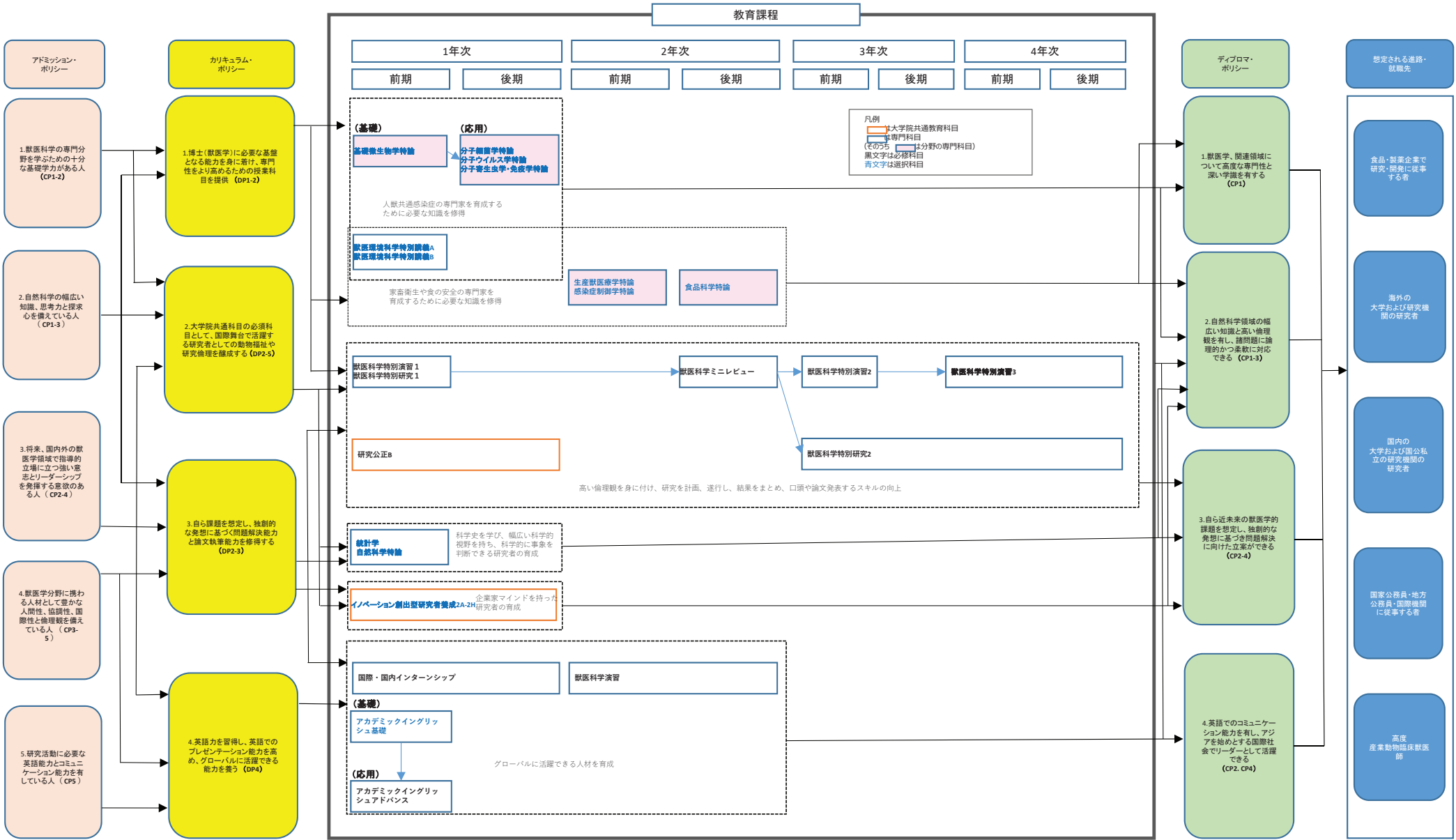
獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程（獣医環境科学コース）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

○様々なストレスにあふれる現代社会において、動物が伴侶動物として家族の一員となるに伴い、動物医療の高度化が求められている。
○国際交流の活性化に伴うヒトや動物の移動と物流の増大に起因する新興・再興感染症や人獣共通感染症の脅威、食用動物の多頭飼育に基づく動物由来感染症の増大、バイオテクノロジーを用いた畜産物の生産性の効率化や新薬の開発、またそれら食品・医薬品の安全性評価など地域社会の福祉や安全性にかかわる多様な問題が顕在化している。
○ヒト、動物及び環境の健康と健全は3者が相まって初めて成立するというOne Healthの概念が提唱され、獣医学への期待は益々高まる中、獣医学領域を取り巻くこれら諸問題に取り組み、解決できる世界に通用する高度専門家・研究者・教育者の養成が社会から求められているため獣医学研究科を設置する。

【養成する人材像】

本研究科では、動物医療を中心とし、動物生命科学から食の安全や人獣共通感染症等、いわゆる公衆衛生分野まで包含する学際的な研究・教育を行い、社会的要請が増加している動物バイオメディカル関連、食の安全及び人獣共通感染症を含めた獣医公衆衛生及び動物衛生、病態動物の診断・治療・予防などの分野において、幅広い視野と深い洞察力、及び高い倫理観を持ち、独自の指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成することを目指す。特に、獣医環境科学コースでは、全ての授業を英語で学び、単位が取得できるインターナショナルコースとして開講し、人獣共通感染症、家畜衛生や食の安全の分野で活躍できる高度研究者、あるいは高度専門的職業人としての能力を持つ人材を養成することを目指している。



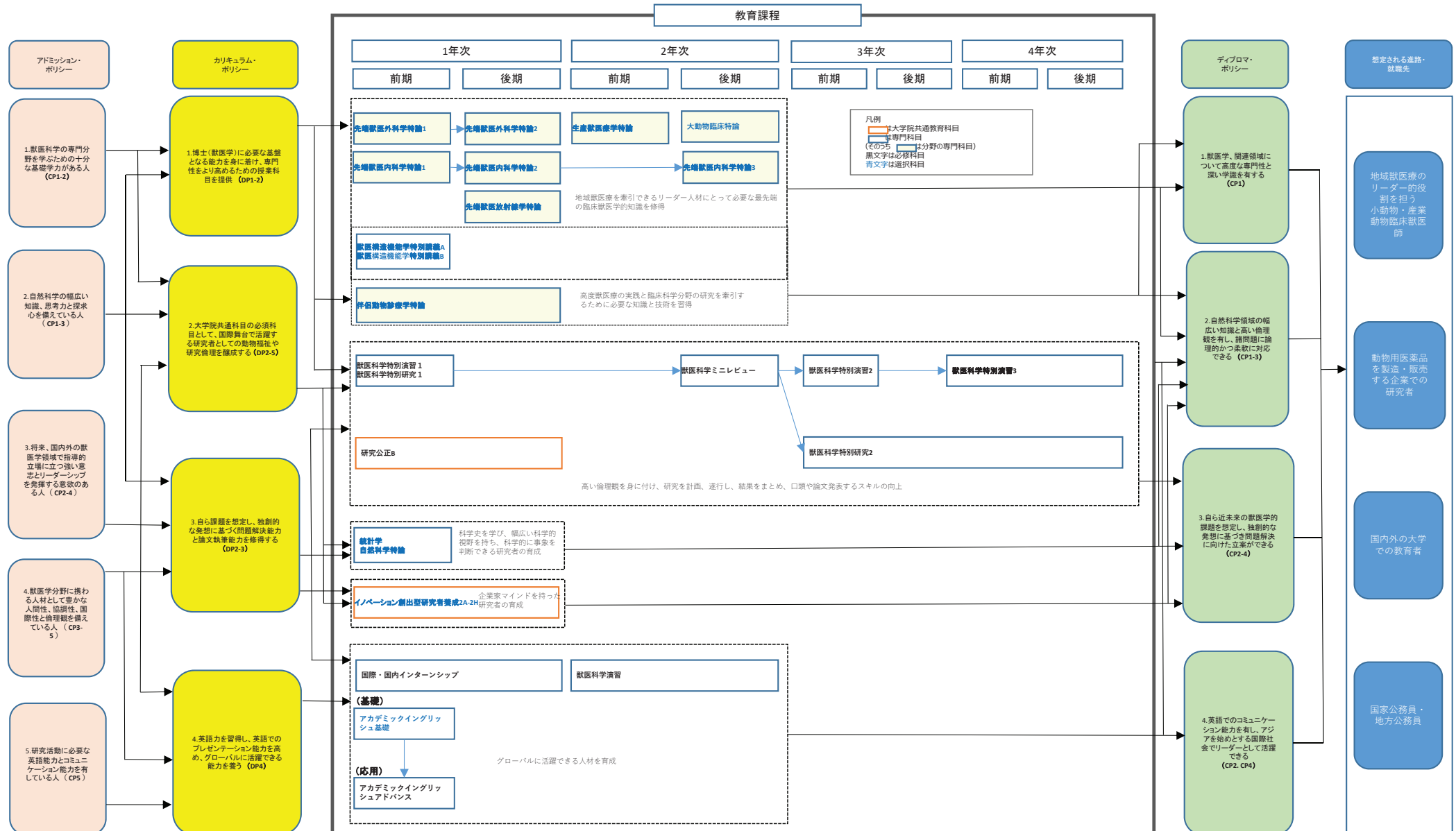
獣医学研究科 獣医学専攻 博士課程（獣医臨床科学コース）カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

○様々なストレスにあふれる現代社会において、動物が伴侶動物として家族の一員となるに伴い、動物医療の高度化が求められている。
○国際交流の活性化に伴うヒトや動物の移動と物流の増大に起因する新興・再興感染症や人獣共通感染症の脅威、食用動物の多頭飼育に基づく動物由来感染症の増大、バイオテクノロジーを用いた畜産物の生産性の効率化や新薬の開発、またそれら食品・医薬品の安全性評価など地域社会の福祉や安全性にかかわる多様な問題が顕在化している。
○ヒト、動物及び環境の健康と健全は3者が相まって初めて成立するというOne Health の概念が提唱され、獣医学への期待は益々高まる中、獣医学領域を取り巻くこれら諸問題に取り組み、解決できる世界に通用する高度専門家・研究者・教育者の養成が社会から求められているため獣医学研究科を設置する。

【養成する人材像】

本研究科では、動物医療を中心とし、動物生命科学から食の安全や人獣共通感染症等、いわゆる公衆衛生分野まで包含する学際的な研究・教育を行い、社会的要請が増加している動物バイomedical関連、食の安全及び人獣共通感染症を含めた獣医公衆衛生及び動物衛生、病態動物の診断・治療・予防などの分野において、幅広い視野と深い洞察力、及び高い倫理観を持ち、独自の指導能力を発揮できる国際的な専門家を育成することを目指す。特に、獣医臨床科学コースでは、愛玩動物に対するエビデンスに基づく獣医療に精通した高度専門的職業人を養成することを目指している。

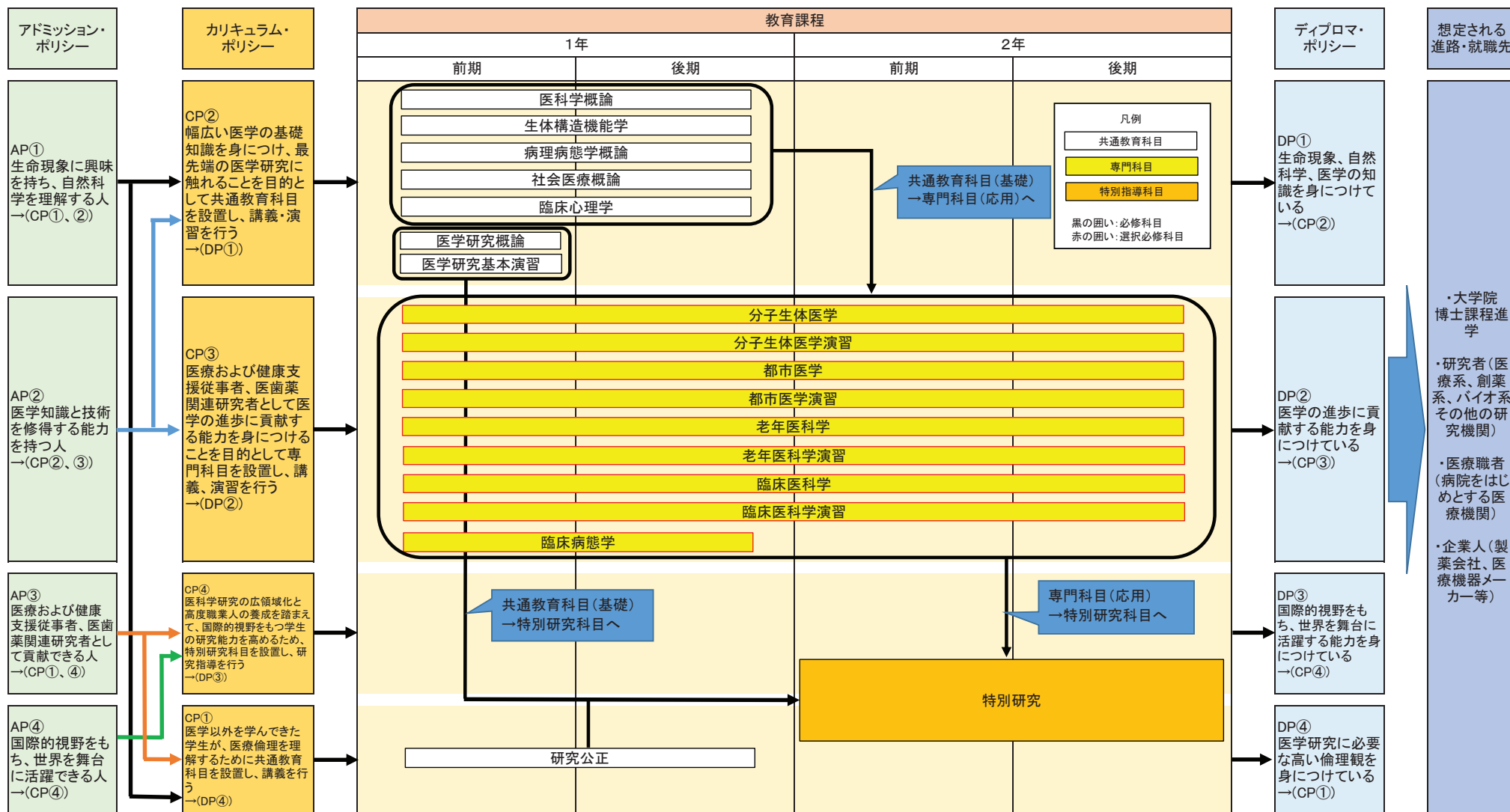


【設置の趣旨・必要性】

- ・府民の安心の基盤を支えるのは、質の高い医療・保健・福祉サービスの充実であり、これを担う人材の育成にある。
- ・地域社会的、学問的、国際的な要望に応えるべく、21世紀の医学医療の発展に貢献する人材を育成するためのレベルの高い教育を行うことにより、府民中心の医療を推進していくための人材を養成する。
- ・学術研究の学際化と高度化を進め、高度に総合化された専門的知識を持つ医師および独創性に富む医学研究者の育成を目指すと同時に、社会で活躍する医学研究者、病院勤務医、医薬関連研究所・企業人の育成を図る。
- ・こうした人材は主に大阪府内の医療機関、研究施設、医療系企業へと進出し、府内全域の医療水準を大きく引き上げる役割を担うこととなる。

【養成する人材像】

- ・高度な最先端の医学知識や技術を修得し、生命現象、自然科学、医学の知識を身に付け、医学研究に必要な高い倫理観を有し、国際的視野を持って医療職者、研究者、企業人として医学の進歩に貢献し得る「智・仁・勇」を兼ね備えた人材を養成することを目的とする。
- 「智」: 医学に対する旺盛な向学心を持つこと
- 「仁」: 人への尊厳を有すること
- 「勇」: 医療を実践するための決断の勇気を持つこと

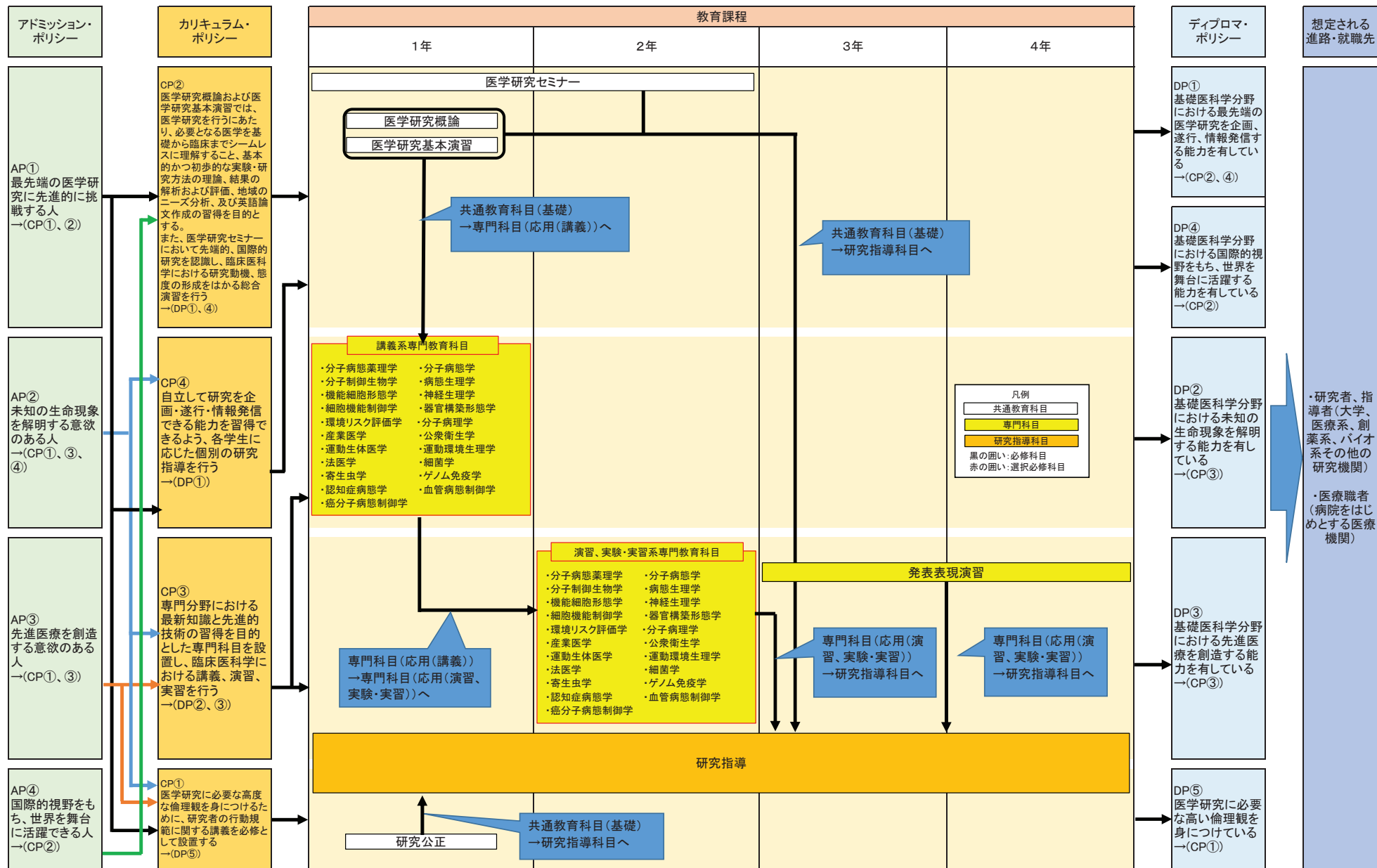


【設置の趣旨・必要性】

- ・府民の安心の基盤を支えるのは、質の高い医療・保健・福祉サービスの充実であり、これを担う人材の育成にある。
- ・地域社会的、学問的、国際的な要望に応えるべく、21世紀の医学医療の発展に貢献する人材を育成するためのレベルの高い教育を行うことにより、府民中心の医療を推進していくための人材を養成する。
- ・学術研究の学際化と高度化を進め、高度に総合化された専門的知識を持つ医師および独創性に富む医学研究者の育成を目指すとともに、社会で活躍する医学研究者、病院勤務医、医薬関連研究所・企業人の育成を図る。
- ・こうした人材は主に大阪府内の医療機関、研究施設、医療系企業へと進出し、府内全域の医療水準を大きく引き上げる役割を担うこととなる。

【養成する人材像】

- 地域社会的、学問的、国際的な要望に応え、都市医学、老年医学やゲノム医療などの医学・医療分野に十分に対応するため、「智・仁・勇」を兼ね備え、高度な最先端の医学知識や技術を修得し、高度に総合化された専門的知識を持つ医師、最先端研究を先導的に推進し独創性に富み世界的に活躍する医学研究者、大学・研究機関における基礎医学研究をリードする指導者となり得る人材を養成することを目的とする。
- 「智」：医学に対する旺盛な向学心を持つこと
 「仁」：人への尊厳を有すること
 「勇」：医療を実践するための決断の勇気を持つこと

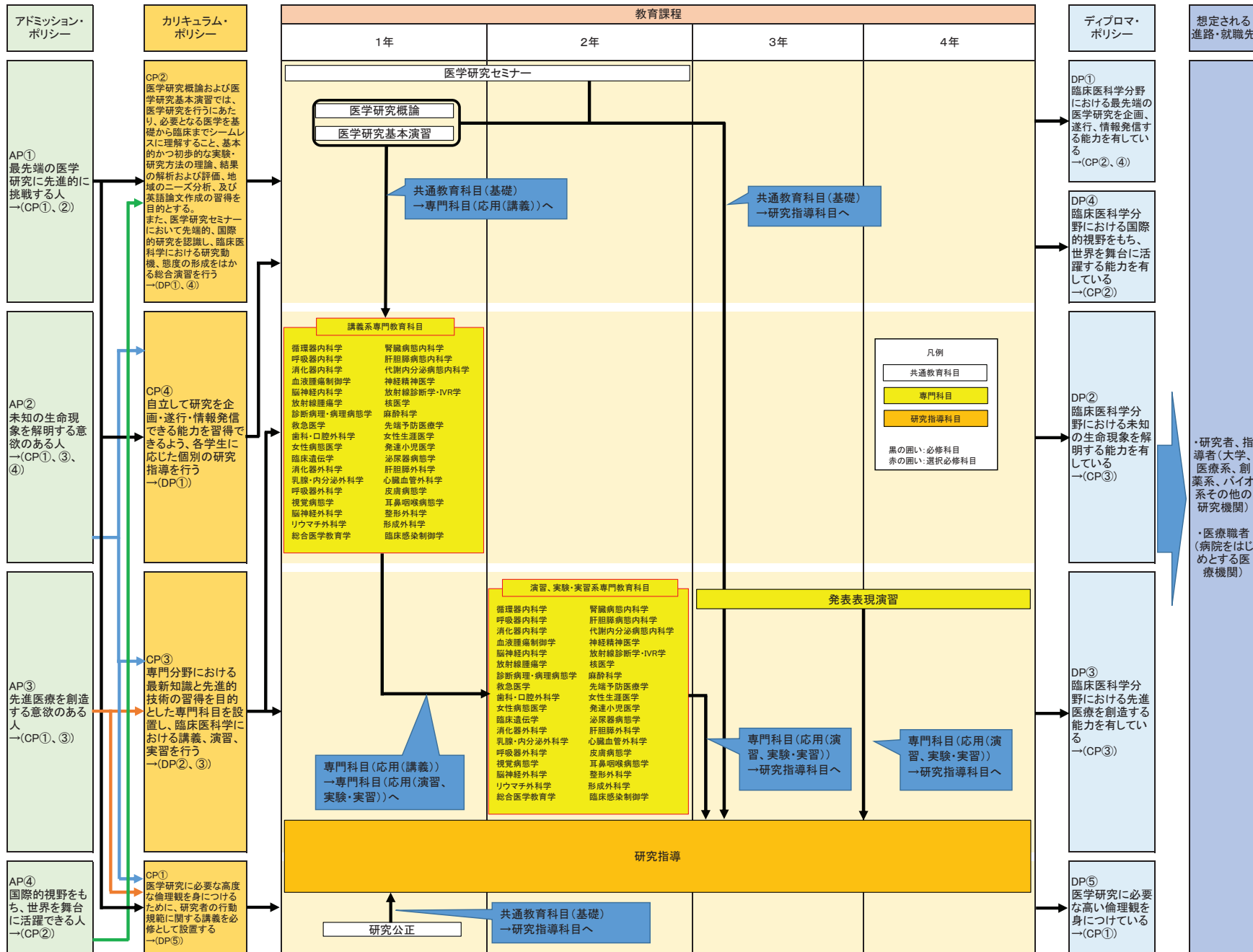


【設置の趣旨・必要性】

- ・府民の安心の基盤を支えるのは、質の高い医療・保健・福祉サービスの充実であり、これを担う人材の育成にある。
- ・地域社会的、学問的、国際的な要望に応えるべく、21世紀の医学医療の発展に貢献する人材を育成するためのレベルの高い教育を行うことにより、府民中心の医療を推進していくための人材を養成する。
- ・学術研究の学際化と高度化を進め、高度に総合化された専門的知識を持つ医師および独創性に富む医学研究者の育成を目指すと同時に、社会で活躍する医学研究者、病院勤務医、医療関連研究所・企業人の育成を図る。
- ・こうした人材は主に大阪府内の医療機関、研究施設、医療系企業へと進出し、府内全域の医療水準を大きく引き上げる役割を担うこととなる。

【養成する人材像】

- 地域社会的、学問的、国際的な要望に応え、都市医学、老年医学やゲノム医療などの医学・医療分野に十分に対応するため、「智・仁・勇」を兼ね備え、高度な最先端の医学知識や技術を修得し、高度に総合化された専門的知識を持つ医師、最先端研究を先導的に推進し独創性に富み世界的に活躍する医学研究者、大学・研究機関における臨床医学研究をリードする指導者となり得る人材を養成することを目的とする。
- 「智」：医学に対する旺盛な向学心を持つこと
- 「仁」：人への尊敬を有すること
- 「勇」：医療を実践するための決断の勇気を持つこと



リハビリテーション学 研究科 リハビリテーション学専攻 博士前期課程 カリキュラムマップ

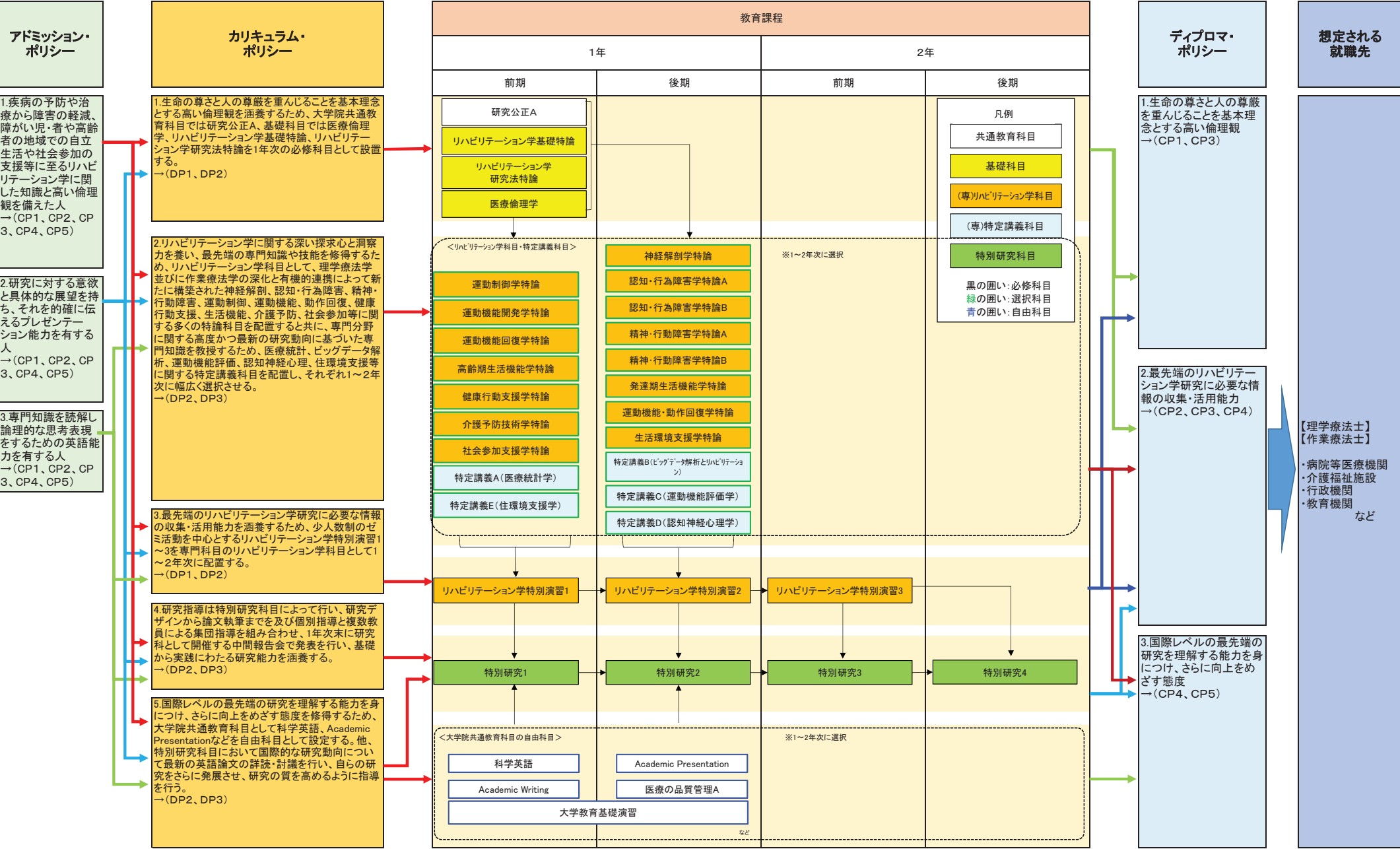
【設置の趣旨・必要性】

○治療、回復、障害の進行抑制といった従来のリハビリテーション医療の概念の垣根を超え、地域での自立や社会参加を支援する、より生活に密着した新しいリハビリテーションの考え方に基づいた、健康維持・増進、疾病や障害の予防から治療、回復、社会復帰・参加に至る新しいリハビリテーション学の確立と、この学問的な裏付けに立脚した高度な専門能力を有する人材の養成が求められている。

○人々の健康と生活の質の向上に貢献するため、生命の尊厳と人の尊厳を重んじることを理念とし、予防から治療、回復、社会復帰・参加に至る総合的なリハビリテーションに関する深い探求心と洞察力を備え、相互の信頼と協働の重要性を理解し、責任ある判断、行動のできる豊かな人間性並びに専門性を有する資質の高い研究者の育成が必要である

【養成する人材像】

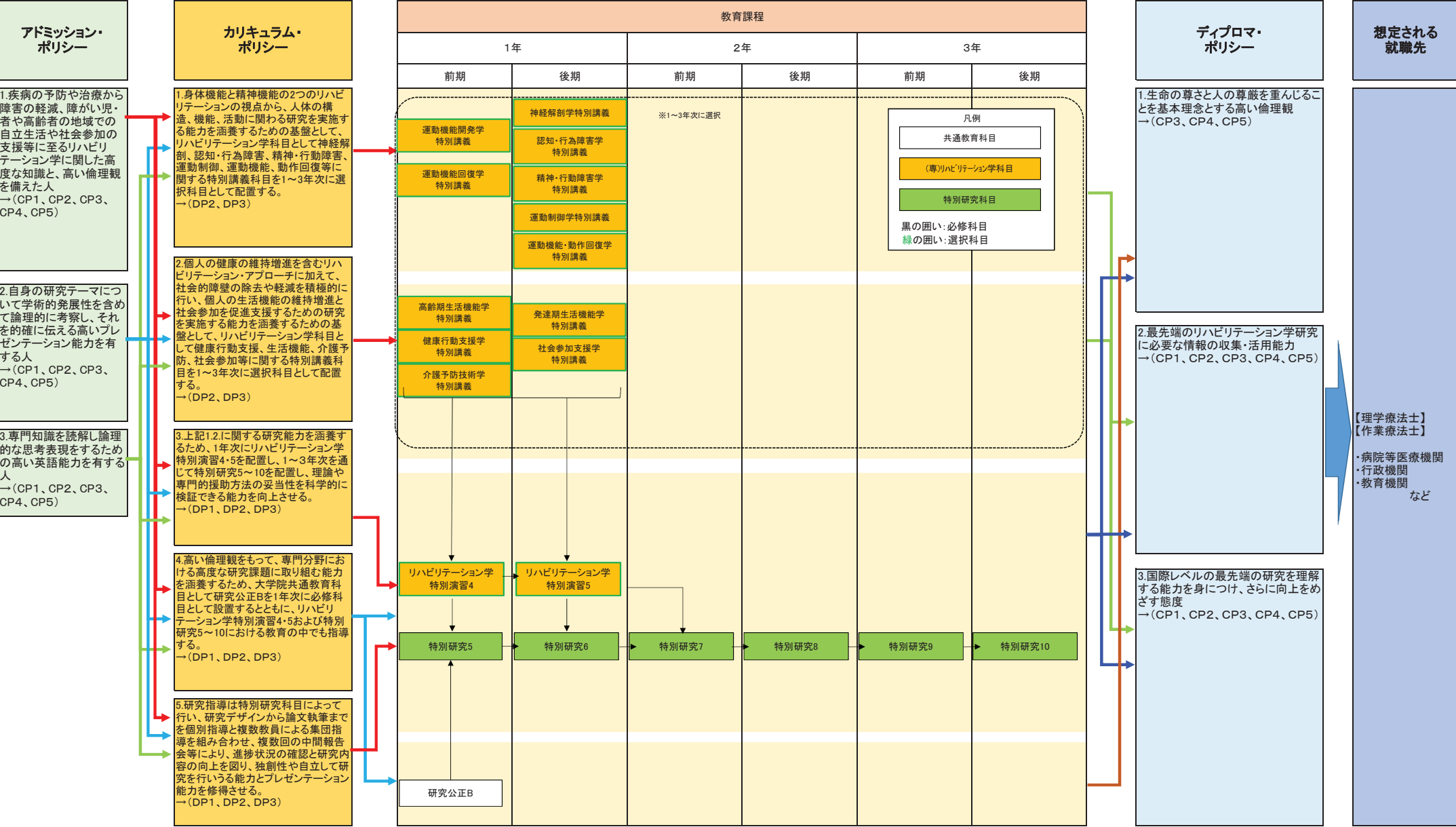
総合的なリハビリテーションに関する深い探求心と洞察力を備え、相互の信頼と協働の重要性を理解し、責任ある判断、行動のできる豊かな人間性並びに専門性を有する人材を育成する。



リハビリテーション学 研究科 リハビリテーション学専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】
○治療、回復、障害の進行抑制といった従来のリハビリテーション医療の概念の垣根を超え、地域での自立や社会参加を支援する、より生活に密接した新しいリハビリテーションの考え方に基いた、健康維持・増進、疾病や障害の予防から治療、回復、社会復帰・参加に至る新しいリハビリテーション学の確立と、この学問的な裏付けに立脚した高度な専門能力を有する人材の養成が求められている。
○人々の健康と生活の質の向上に貢献するため、生命の尊厳と人の尊厳を重んじることを理念とし、予防から治療、回復、社会復帰・参加に至る総合的なリハビリテーションに関する深い探求心と洞察力を備え、相互の信頼と協働の重要性を理解し、責任ある判断、行動のできる豊かな人間性並びに専門性を有する資質の高い研究者の育成が必要である。

【養成する人材像】
リハビリテーション学領域における高度な知識や技術を持ち、総合的な視野や深い洞察力、独創性や自立して研究を行いうる能力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性と深い教養を備えた人材を育成する。



看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程(修士論文コース:実践看護科学領域) カリキュラムマップ

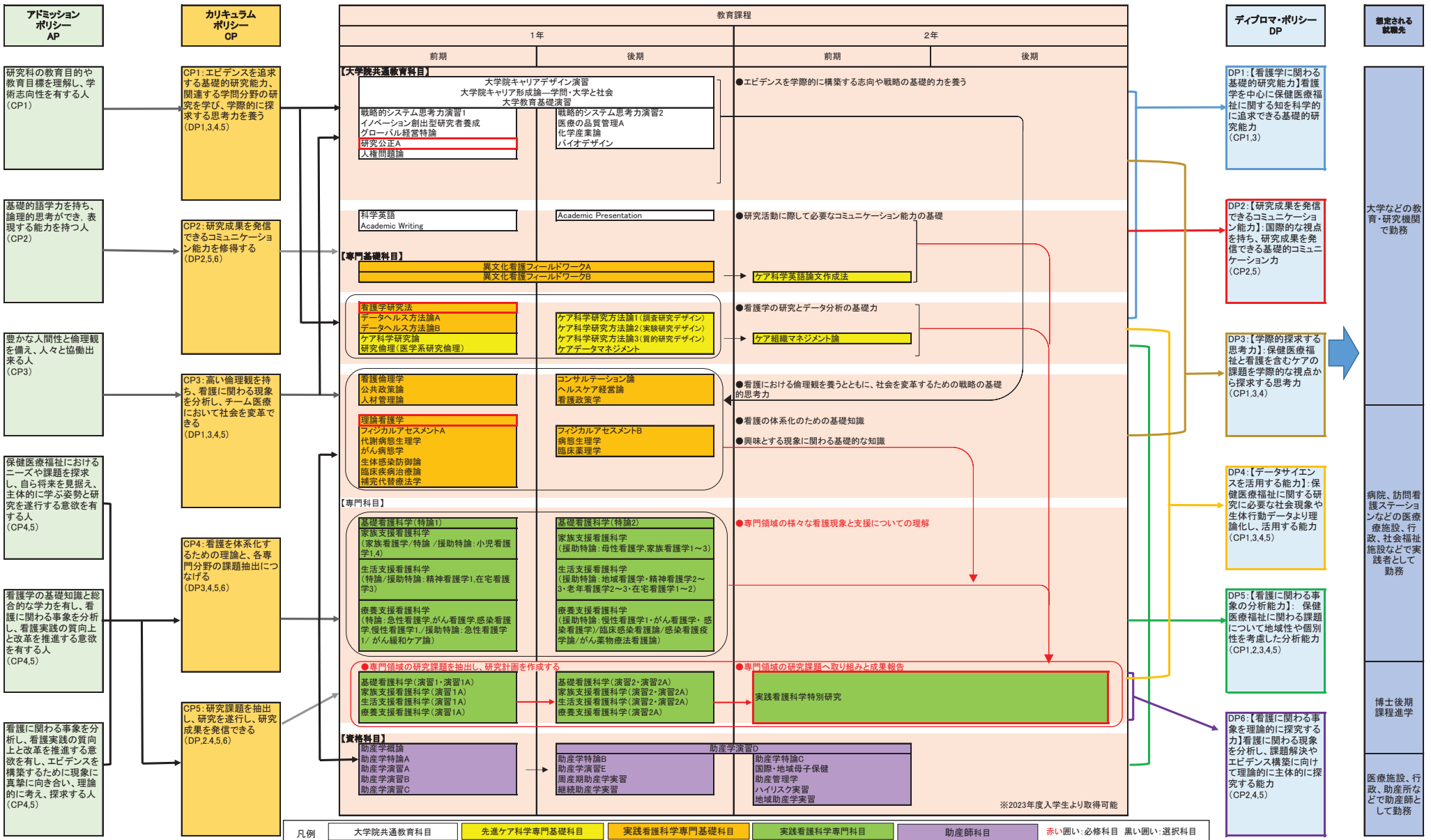
【設置の趣旨・必要性】

- 1)複雑化・多様化する健康ニーズへの対応や将来的な課題解決に向けてエビデンスを構築し、実装化できる創造性豊かな看護職の育成
- 2)看護学の実践と研究を融合した知の体系化を図り、イノベーションを創出できる研究拠点の構築
- 3)国内での主要な医療機関や研究施設が集結する大阪の地において関連機関と連携しローカルおよびグローバルに 大阪の保健医療福祉の向上への貢献
- 4)これまでの2大学の人材養成の実績を活かしながら、教育力と研究力を統合し、水準の高い看護実践と多様な研究分野を併せ持つ研究科として、看護学と看護実践へ貢献する
- 5)保健師・助産師における大学院教育の場として機能する

【養成する人材像】

博士前期課程では、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成する。具体的には、高度な実践力と看護実践を革新し、けん引できる人材を育成するとともに、研究活動においては、科学的に知を追求するための基礎的研究能力、データサイエンスを活用する能力、学際的に探究する思考力、地域性や個性性を考慮した分析能力、エビデンスを発信できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

修士論文コースでは研究的な取り組みを志向し、看護師の資格取得の有無に関わらず主に学際的に探究する思考力を有する人材を育成する先進ケア科学領域と、看護師の資格取得者を対象に主に看護に関わる事象を分析し、理論的に探究できる能力を有する人材を育成する実践看護科学領域を配置する。さらに実践看護科学領域実践看護コースでは、専門看護師として看護の質を向上させる高度看護実践者である専門看護師、臨床や地域の現場で組織等をマネジメントする視点から看護の質を向上させる実践看護管理者、臨床や教育機関での教育の視点から看護の質向上を図る看護教育者を志向する人材を育成する。



看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程(実践看護研究コース:実践看護科学領域) カリキュラムマップ

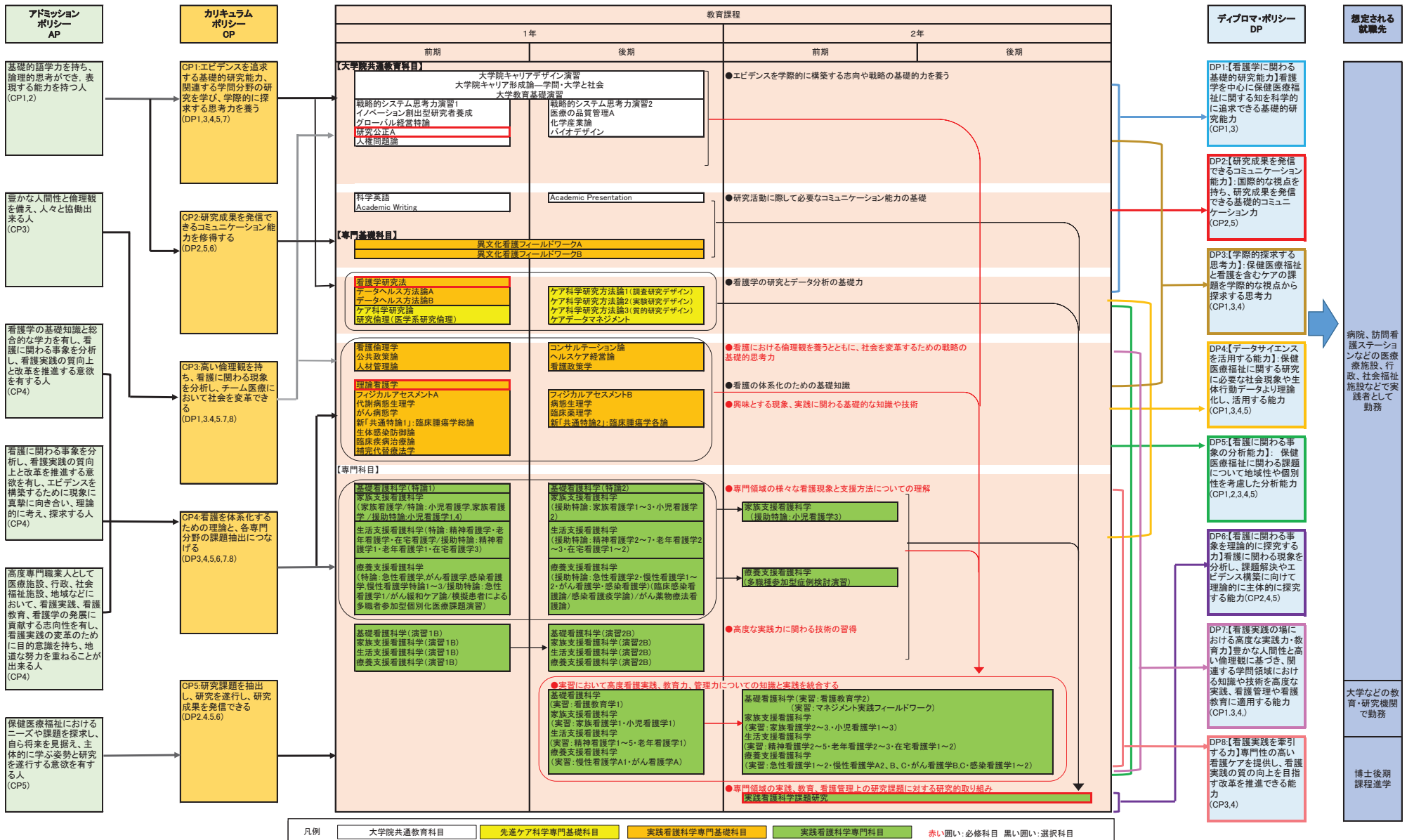
【設置の趣旨・必要性】

- 1)複雑化・多様化する健康ニーズへの対応や将来的な課題解決に向けてエビデンスを構築し、実装化できる創造性豊かな看護職の育成
- 2)看護学の実践と研究を融合した知の体系化を図り、イノベーションを創出できる研究拠点の構築
- 3)国内での主要な医療機関や研究施設が集結する大阪の地において関連機関と連携しローカルおよびグローバルに大阪の保健医療福祉の向上への貢献
- 4)これまでの2大学の人材養成の実績を活かしながら、教育力と研究力を統合し、水準の高い看護実践と多様な研究分野を併せ持つ研究科として、看護学と看護実践へ貢献する
- 5)保健師・助産師における大学院教育の場として機能する

【養成する人材像】

博士前期課程では、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成する。具体的には、高度な実践力と看護実践を革新し、けん引できる人材を育成するとともに、研究活動においては、科学的に知を追求するための基礎的研究能力、データサイエンスを活用する能力、学際的に探究する思考力、地域性や個別性を考慮した分析能力、エビデンスを発信できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

修士論文コースでは研究的な取り組みを志向し、看護師の資格取得の有無に関わらず主に学際的に探究する思考力と有する人材を育成する先進ケア科学領域と、看護師の資格取得者を対象に主に看護に関わる事象を分析し、理論的に探究できる能力を有する人材を育成する実践看護科学領域を配置する。さらに実践看護科学領域実践看護研究コースでは、専門看護師として看護の質を向上させる高度看護実践者である専門看護師、臨床や地域の現場で組織等をマネジメントする視点から看護の質を向上させる実践看護管理者、臨床や教育機関での教育の視点から看護の質向上を図る看護教育者を志向する人材を育成する。



看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程(修士論文コース・先進ケア科学領域) カリキュラムマップ

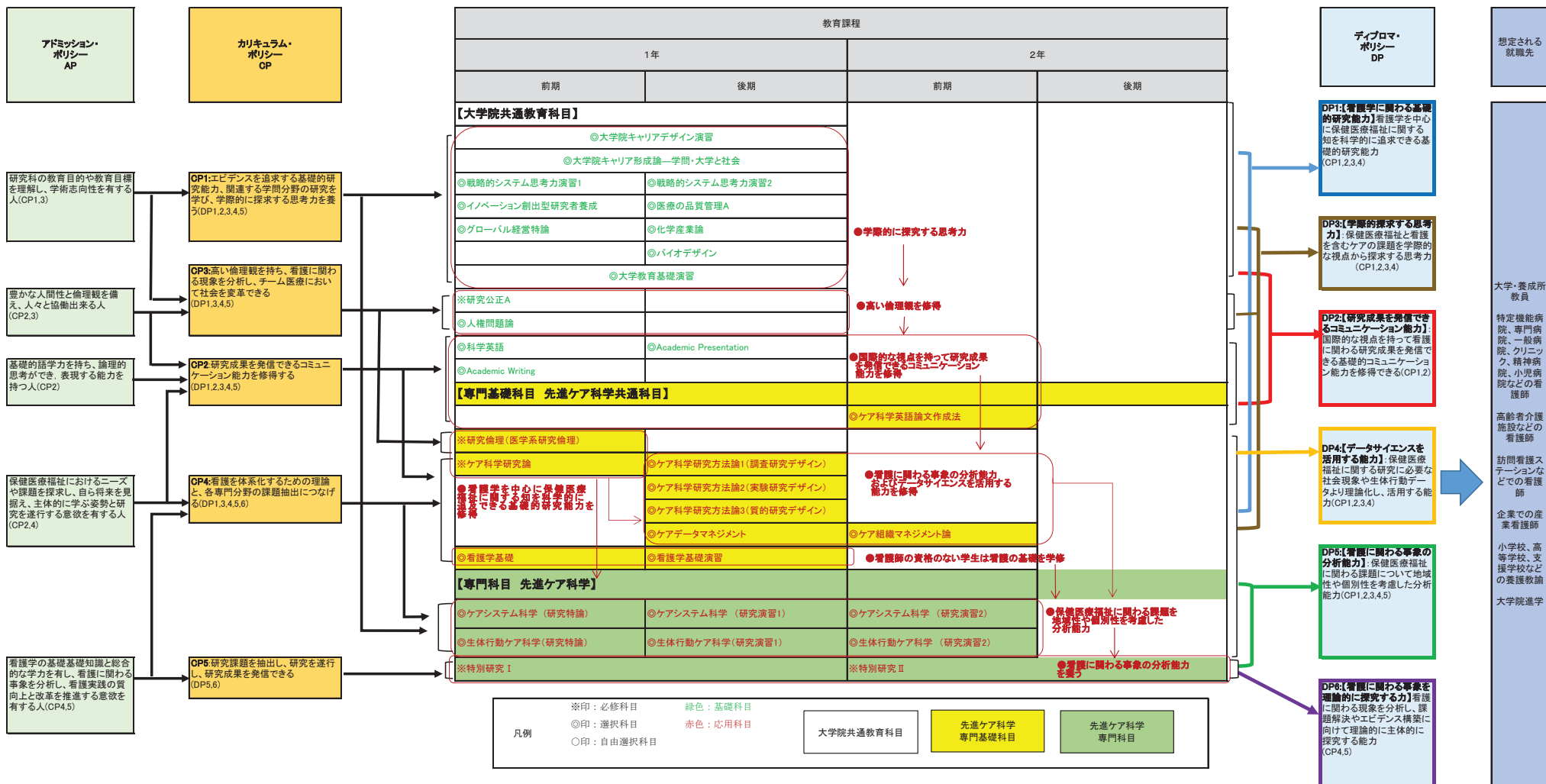
【設置の趣旨・必要性】

- 1)複雑化・多様化する健康ニーズへの対応や将来的な課題解決に向けてエビデンスを構築し、実装化できる創造性豊かな看護職の育成
- 2)看護学の実践と研究を融合した知の体系化を図り、イノベーションを創出できる研究拠点の構築
- 3)国内での主要な医療機関や研究施設が集結する大阪の地において関連機関と連携しローカルおよびグローバルに 大阪の保健医療福祉の向上への貢献
- 4)これまでの2大学の人材養成の実績を活かしながら、教育力と研究力を統合し、水準の高い看護実践と多様な研究分野を併せ持つ研究科として、看護学と看護実践へ貢献する
- 5)保健師・助産師における大学院教育の場として機能する

【養成する人材像】

博士前期課程では、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会及び国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成する。具体的には、高度な実践力と看護実践を革新し、けん引できる人材を育成するとともに、研究活動においては、科学的に知を追求するための基礎的研究能力、データサイエンスを活用する能力、学際的に探究する思考力、地域性や個性を考慮した分析能力、エビデンスを発信できるコミュニケーション能力を有する人材を育成する。

修士論文コースでは研究的な取り組みを志向し、看護師の資格取得の有無に関わらず主に学際的に探究する思考力を有する人材を育成する先進ケア科学領域と、看護師の資格取得者を対象に主に看護に関わる事象を分析し、理論的に探究できる能力を有する人材を育成する実践看護科学領域を配置する。さらに実践看護科学領域実践看護研究コースは、専門看護師として看護の質を向上させる高度看護実践者である専門看護師、臨床や地域の現場で組織等をマネジメントする視点から看護の質を向上させる実践看護管理者、臨床や教育機関での教育の視点から看護の質向上を図る看護教育者を志向する人材を育成する。



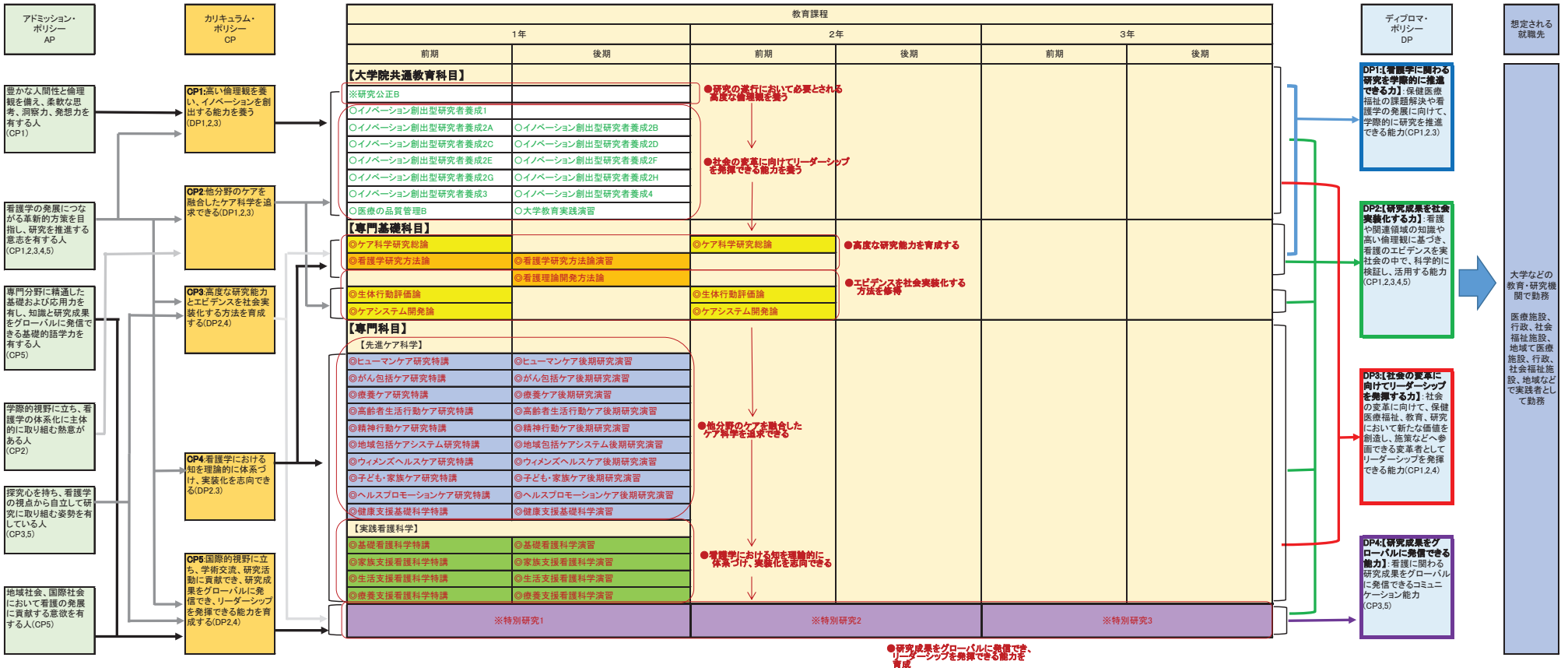
看護学研究科看護学専攻 博士後期課程カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】

1)複雑化・多様化する健康ニーズへの対応や将来的な課題解決に向けてエビデンスを構築し、実装化できる創造性豊かな看護職の育成
2)看護学の実践研究を融合した知の体系化を図り、イノベーションを創出できる研究拠点の構築
3)国内での主要な医療機関や研究施設が集結する大阪の地において関連機関と連携しローカルおよびグローバルに 大阪の保健医療福祉の向上への貢献
4)これまでの2大学の人材養成の実績を活かしながら、教育力と研究力を統合し、水準の高い看護実践と多様な研究分野を併せ持つ研究科として、看護学と看護実践へ貢献する

【養成する人材像】

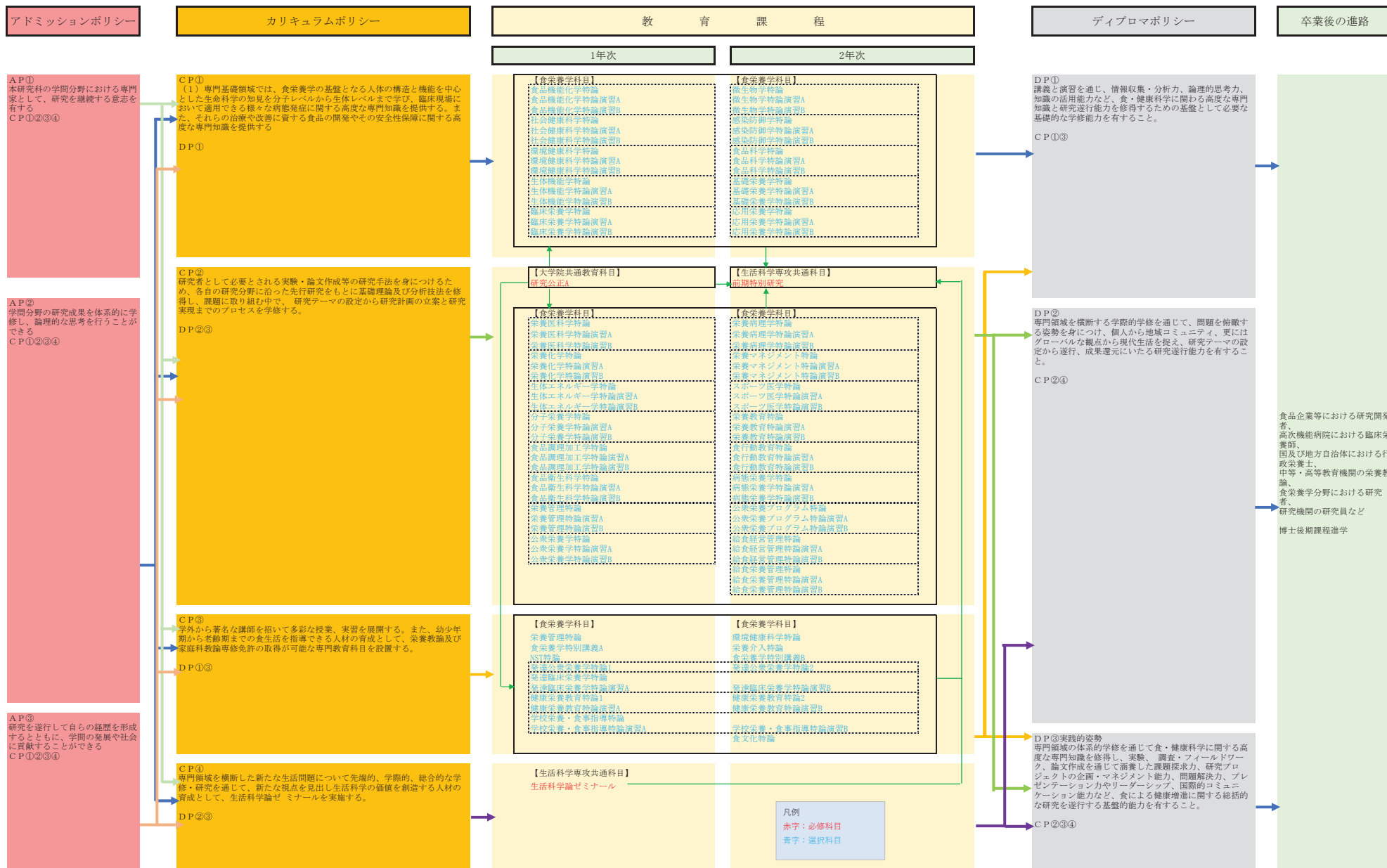
博士後期課程では、社会実装化することを視野に入れ、看護に関わる知を学際的に創出し、グローバルに発信できる能力を有する人材を育成する。
具体的には、保健医療福祉の課題解決や看護学の発展に向けて、学際的に研究を推進できる能力、看護や関連領域の知識や高い倫理観に基づき、看護のエビデンスを実社会の中で、科学的に検証し、活用する能力を有し、社会の改革に向けて、保健医療福祉、教育において新たな価値を創造し、施策などへ参画できる変革者としてのリーダーシップを発揮し、研究成果をグローバルに発信できる能力を有する人材を育成する。

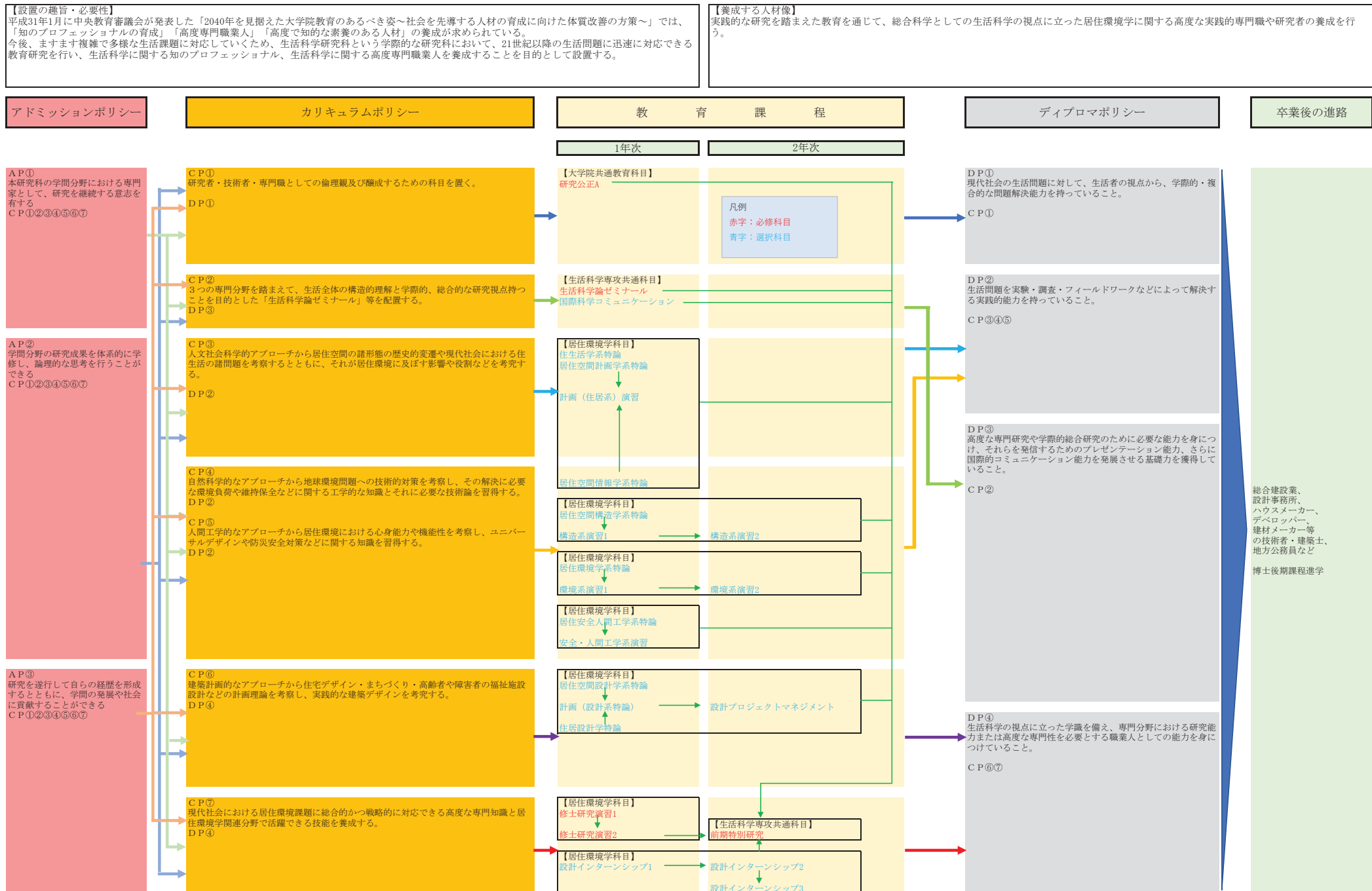


※印: 必修科目	□印: 基礎教育科目	緑色: 基礎科目
◎印: 選択科目	・印: 自由科目	赤色: 応用科目
○印: 自由選択科目		
凡例	大学院共通教育科目	共通専門科目
	先進ケア科学	先進ケア科学
	実践看護科学	実践看護科学

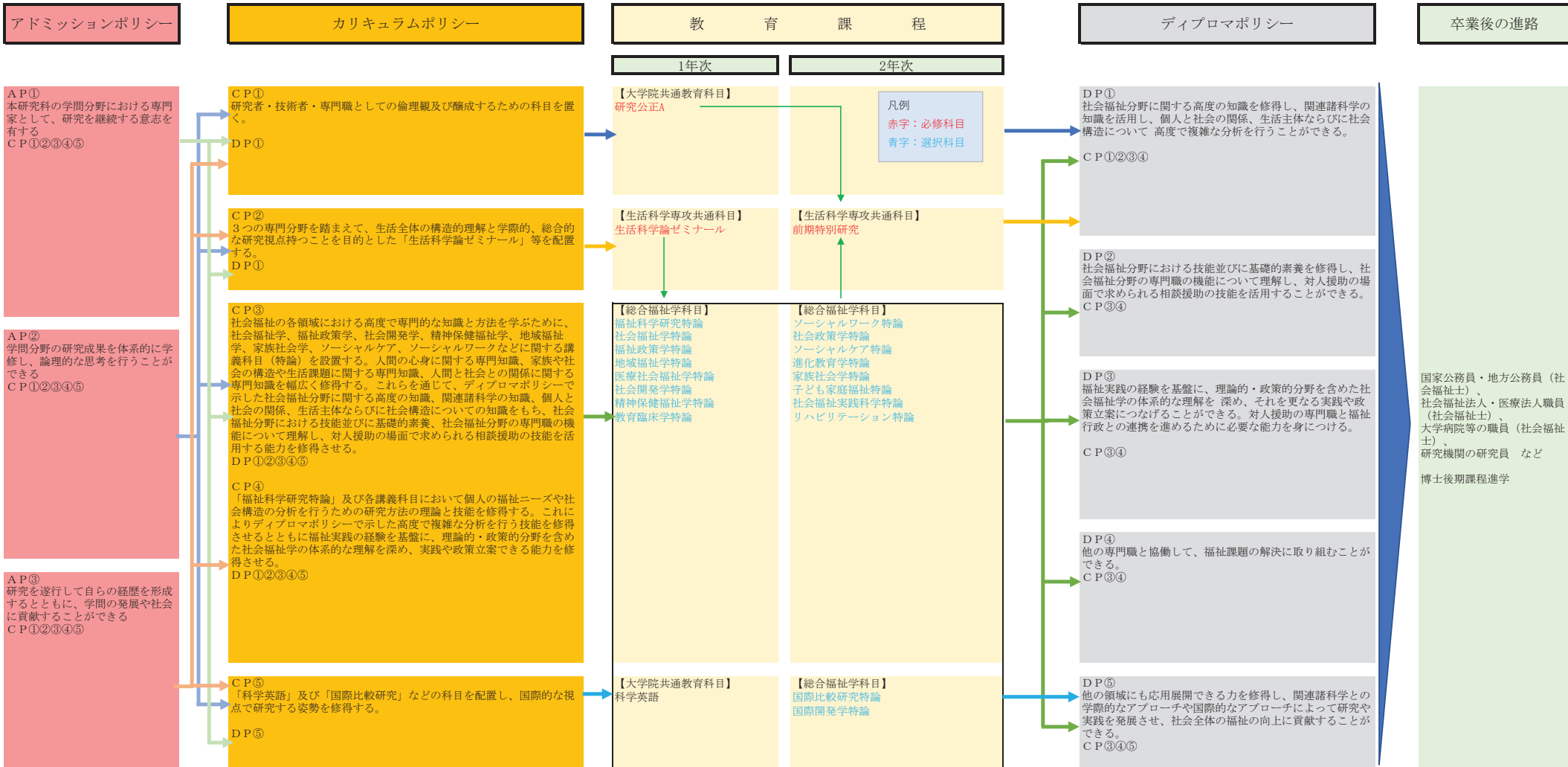
【設置の趣旨・必要性】
平成31年1月に中央教育審議会が発表した「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」では、「知のプロフェッショナルの育成」「高度専門職業人」「高度で知的な素養のある人材」の養成が求められている。
今後、ますます複雑で多様な生活課題に対応していくため、生活科学研究科という学際的な研究科において、21世紀以降の生活問題に迅速に対応できる教育研究を行い、生活科学に関する知のプロフェッショナル、生活科学に関する高度専門職業人を養成することを目的として設置する。

【養成する人材像】
食・栄養と健康に関わる生活上の諸課題を自立して解決できる高度な専門知識と研究遂行能力を有し、食・健康科学の様々な分野で活躍できる指導的人材を養成する。

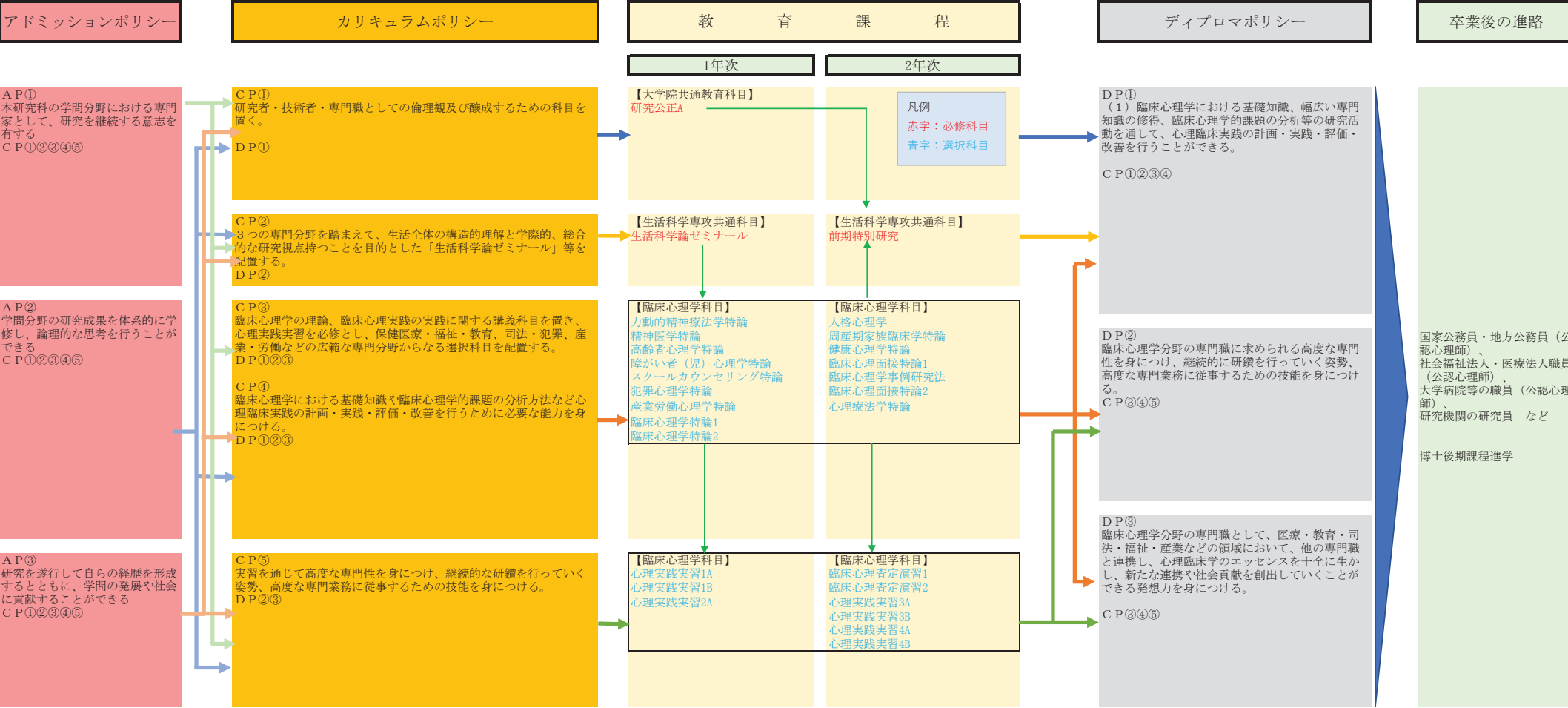




【設置の趣旨・必要性】 平成31年1月に中央教育審議会が発表した「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」では、「知のプロフェッショナルの育成」「高度専門職業人」「高度で知的な素養のある人材」の養成が求められている。今後、ますます複雑で多様な生活課題に対応していくため、生活科学研究科という学際的な研究科において、21世紀以降の生活問題に迅速に対応できる教育研究を行い、生活科学に関する知のプロフェッショナル、生活科学に関する高度専門職業人を養成することを目的として設置する。	【養成する人材像】 生活全体を視野に入れ、関連諸科学の知識と技術を用いて援助を行う専門職、地域社会の資源の開発、調整、分配を行う行政の福祉関連部門スペシャリスト、先駆的な社会福祉事業を開発・展開する社会的企業に携わる人材、さらに、高度な技術を有する研究者
---	---



【設置の趣旨・必要性】 平成31年1月に中央教育審議会が発表した「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」では、「知のプロフェッショナルの育成」「高度専門職業人」「高度で知的な素養のある人材」の養成が求められている。今後、ますます複雑で多様な生活課題に対応していくため、生活科学研究科という学際的な研究科において、21世紀以降の生活問題に迅速に対応できる教育研究を行い、生活科学に関する知のプロフェッショナル、生活科学に関する高度専門職業人を養成することを目的として設置する。	【養成する人材像】 生活全体を視野に入れ、関連諸科学の知識と技術を用いて援助を行う専門職、地域社会の資源の開発、調整、分配を行う行政の福祉関連部門スペシャリスト、先駆的な社会福祉事業を開発・展開する社会的企業に携わる人材、さらに、高度な技術を有する研究者
---	---



【設置の趣旨・必要性】 平成31年1月に中央教育審議会が発表した「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材の育成に向けた体質改善の方策～」では、「知のプロフェッショナルの育成」「高度専門職業人」「高度で知的な素養のある人材」の養成が求められている。 今後、ますます複雑で多様な生活課題に対応していくため、生活科学研究科という学際的な研究科において、21世紀以降の生活課題に迅速に対応できる教育研究を行い、生活科学に関する知のプロフェッショナル、生活科学に関する高度専門職業人を養成することを目的に設置する。	【養成する人材像】 人の健康や生活の質を多面的に捉え、健康保持・増進、疾病・介護・虐待予防・快適な居住環境の保持などにより、あらゆる世の豊かな地域生活の促進についての方策を考え、また、社会が直面する様々な生活課題を実践的に解決していく能力を有し、自立して研究活動を行うことができる能力を身につけ、理論と実践の両面から生活科学研究の最先端を担う研究者及び高度専門職業人を養成する。 食栄養学コース：社会が直面する新たな生活問題の解明という現代社会の要請に対応し、食栄養学研究の最先端を担う研究者を養成する。 居住環境学コース：社会の変化とともに要求される新たなニーズや持続可能な社会の実現のために、生活者の視点にたつとともに、社会に発信できるプレゼンテーション能力、国際的コミュニケーション能力を有し、地域やコミュニティにおける問題解決能力を有する専門知識や高度な技術、実践的能力を有し、高度な専門研究や学際的総合研究のための能力を有し、研究者として自立して研究活動を行う能力と学識を有する者を養成する。 総合福祉科学コース：国内外の第一線で活躍できる社会福祉関連分野の研究者を養成する。 臨床心理学コース：自立的に研究活動を行い、高度な専門業務に従事するために必要となる感性と知性を身につけ、高度な研究や実践に携わることのできる学識をもつ研究者及び高度専門職業人を養成する。
---	---

